

東京の産業教育

創立70周年記念特別号

特集 東京都産業教育 この10年の歩み、そして提言

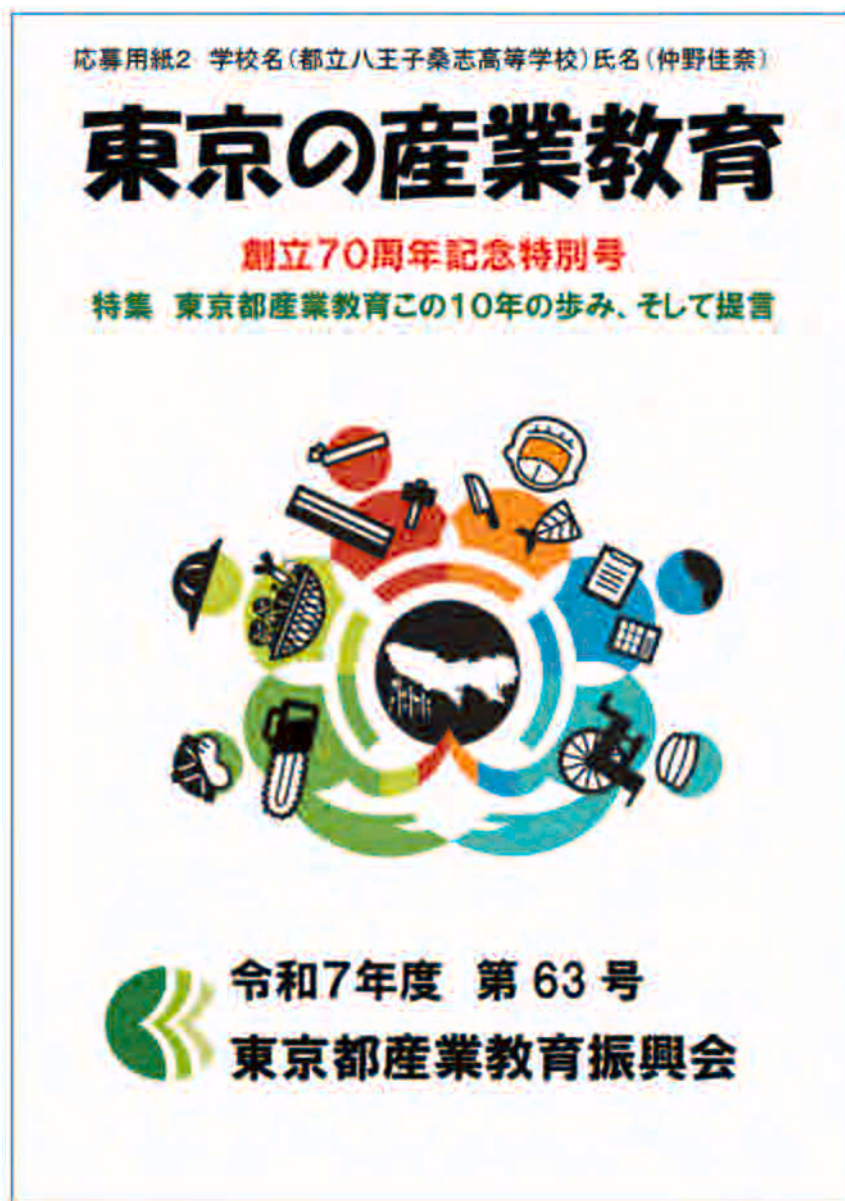


令和7年度 第63号

東京都産業教育振興会

令和7年度会誌「東京の産業教育」の表紙イラスト・デザインコンクール 入選作品

<最優秀賞>



東京都立八王子桑志高等学校 産業科2年 仲野 佳奈 さん

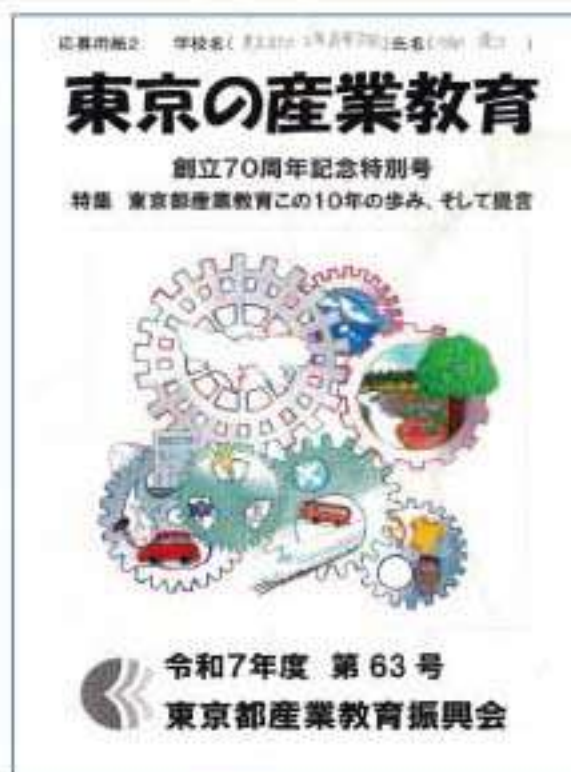
作品の説明

左から第1次産業、第2次産業、第3次産業を緑、赤、青系統に分けて、それぞれを象徴とする道具などを描きました。また、中央の東京を囲んで1つの円になっていることで、この3つがつながり協力し合うことで、東京全体を支えているということを表現しました。配色も親しみやすくプラスなイメージを抱きやすいカラフルでポップな色合いにしました。

<優秀賞>



東京都立工芸高等学校
グラフィックアーツ科3年
榎田 杏紗 さん



東京都立工芸高等学校
アートクラフト科1年
林田 愛乃 さん



東京都立王子総合高等学校
総合学科1年
服部 咲陽 さん



東京都立産業技術高等専門学校
A | スマート工学コース5年
古川 愛椋 さん

東京の産業教育 第63号 目次

□絵 令和7年度会誌「東京の産業教育」の表紙イラスト・デザインコンクール 入選作品
巻頭のことば 創立70周年を迎えて 東京都産業教育振興会会長 西澤宏繁・・・1

特集Ⅰ 東京都産業教育 この10年の歩み、そして提言

- 1 都立高校における産業教育の推進
～ Tokyo IBL Project Scope による新たな学びの構築～
東京都教育庁指導部主任指導主事（産業教育担当） 河野敏弘・・・2
- 2 農業教育 10年の歩みと今後の提言 東京都立農業高等学校長 並川直人・・・4
- 3 工科高校この10年間の歩み、そして提言
東京都立葛西工科高等学校長 鈴木邦夫・・・6
- 4 東京都の商業教育 商業高校のこれまでの歩み、そして提言
東京都立千早高等学校長 大林誠・・・8
- 5 家庭科教育 10年の歩み、そして提言 東京都立瑞穂農芸高等学校長 大畑哲也・・・10
- 6 都立高校「総合学科」この10年の歩み 東京都立王子総合高等学校長 阿久津恵理子・・・12
- 7 福祉科生徒の成長と今後の課題 東京都立府中東高等学校長 高柳勝彦・・・14
- 8 東京都の水産教育 ～この10年の歩みと提言～
東京都立大島海洋国際高等学校長 浅野恵治・・・16
- 9 工業教育のDNAを未来へ ー東京私立工業高校10年の歩みー
岩倉高等学校長 森田勉・・・18
- 10 東京の私立商業高校10年の歩み 安部学院高等学校長 安部元彦・・・20
- 11 高等学校看護教育 この10年 大学編入学・新カリキュラム・COVID-19
愛国高等学校・愛国高等学校衛生看護専攻科校長 織田奈美・・・22
- 12 中学校技術・家庭科教育 この10年の歩み、そして展望・提言
東村山市立東村山第七中学校長 阿久津健一・・・24
- 13 「学生ファースト」を理念とする専修学校の振興と発展に向けて
学校法人電子学園 日本電子専門学校理事長 多忠貴・・・26
- 14 未来を創るー学びの再構築と専攻科学士課程の充実・法人のプレゼンス向上
ー JABEE 受審に向けた組織改編と2大学1高専連携ー
東京都立産業技術高等専門学校長 吉澤昌純・・・28
- 15 都立中高一貫教育校における探究学習の取組について
東京都立両国高等学校・附属中学校長 鳥屋尾史郎・・・30
- 16 東京都産業教育振興会 この10年の歩み 事務局・・・32

特集Ⅱ 創立70周年記念座談会「専門高校の現状と、これから目指すこと」

事務局・・・38

情報スクエア

- 1 会誌「東京の産業教育」の表紙イラスト・デザインコンクール 事務局・・・53

| | | | |
|----|--|---------|----|
| 2 | 第 24 回全国中学生創造ものづくり教育フェア 全日本中学校技術・家庭科研究会フェア事務局長 世田谷区立砧南中学校長 | 奥 平 雄 二 | 54 |
| 3 | 第 22 回創造ものづくりフェア in TOKYO 東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長 東村山市立東村山第七中学校長 | 阿久津 健 一 | 56 |
| 4 | 第 35 回全国産業教育フェア福島大会 さんフェア福島 2025 | 事 務 局 | 58 |
| 5 | 第 67 回全国産業教育振興大会 (福島大会) | 事 務 局 | 60 |
| 6 | 第 4 回葛飾区産業教育懇談会報告 | 事 務 局 | 63 |
| 7 | 第 1 回西多摩地域産業教育懇談会報告 | 事 務 局 | 65 |
| 8 | 第 2 回大田区産業教育懇談会報告 | 事 務 局 | 67 |
| 9 | 令和 7 年度「教員海外産業教育事情研修」報告—スペイン (バルセロナ) における産学連携— 岩倉高等学校教頭 | 志 賀 保 美 | 69 |
| 10 | 令和 6 年度キャリア教育優良学校 文部科学大臣表彰を受賞して 東京都立葛飾商業高等学校長 | 岩 崎 豊 | 71 |
| 11 | 令和 7 年度全国高等学校長協会家庭部会関東地区家庭学科・コース (系) 設置高等学校長 連絡協議会<東京大会>報告 東京都立南多摩中等教育学校長 | 富 川 麗 子 | 73 |

報 告

| | | | |
|---|--|--|-----|
| 1 | 令和 7 年度東京都産業教育振興会創立 70 周年記念総会・講演会報告 | | 75 |
| 2 | 創立 70 周年記念講演会・講演要旨 演題 「AI によって産業はどう変わるか そのために教育はどう変わるべきか」 講師 京都橘大学教授 松 原 仁 氏 | | 83 |
| 3 | 令和 7 年度 東京都産業教育振興会後援事業 | | 98 |
| 4 | 令和 7 年度 東京都産業教育振興会教育功労者表彰 | | 99 |
| 5 | 令和 7 年度 産学懇談会 (第 1 回) | | 101 |
| 6 | 令和 7 年度 産学懇談会 (第 2 回) | | 103 |
| 7 | 令和 7 年度 産学懇談会 (第 3 回) | | 105 |
| 8 | 令和 7 年度 第 36 回東京都産業教育振興会作文コンクール | | |
| | (1) 入選者一覧 | | 107 |
| | (2) 最優秀作文 | | 109 |
| | (3) 応募校一覧 | | 112 |
| | (4) 応募校数・応募者数・入選者数の推移 | | 113 |
| | (5) 作文のテーマ別応募者数一覧 | | 114 |

本会の概要

| | | | |
|---|------------------------------------|--|-----|
| 1 | 令和 7 年度 事業経過報告 (令和 8 年 2 月 20 日現在) | | 115 |
| 2 | 令和 6 年度 決算 | | 118 |
| 3 | 令和 7 年度 予算 | | 119 |
| 4 | 令和 7 年度 東京都産業教育振興会役員 | | 120 |
| 5 | 令和 7 年度 東京都産業教育振興会各委員会委員 | | 121 |
| 6 | 会員一覧 | | 122 |
| 7 | 東京都産業教育振興会会則 | | 130 |
| 8 | 入会案内・編集後記 | | 132 |
| | 広告目次 | | 133 |

巻頭のことば

創立 70 周年を迎えて

東京都産業教育振興会

会長 西澤 宏繁



会員の皆様におかれましては、日頃から本会の活動に御理解・御協力を賜り、誠にありがとうございます。御陰様で、本会は令和 7 年度に創立 70 周年を迎えました。これもひとえに、会員の皆様による御指導・御支援の賜物と深く感謝申し上げます。

産業教育は、明治 16 年に文部省が農業通則を定めたことに始まり、それを起点として数えて産業教育は昭和 29 年に 70 周年を迎えました。この年、東京都においては、東京都知事を中心に東京商工会議所会頭をはじめ、経済団体、産業団体、教育界が一体となり、産業教育 70 周年の記念式典や記念行事を盛大に実施しました。記念式典後、恒久的・組織的な振興事業を進めるために「東京都産業教育振興会」を設立することを決定し、翌 30 年 5 月 26 日の設立総会で東京都産業教育振興会が正式に発足しました。

本会は、設立以来、産業界・教育界の架け橋となって、微力ながらも産業教育の振興に努めてまいりました。具体的には、①産業教育に関して顕著な功労のあった教職員に対する表彰、②産業教育に関する研究活動を対象とした助成金交付、③産業教育を学ぶ生徒・学生を対象とした作文コンクール及び表彰、④産業教育において優良な成績を収めた生徒・学生に対する表彰、⑤永年にわたり産業教育の支援に携わった企業に対する表彰、⑥産業教育の普及向上に寄与する事業に対する後援、⑦産業教育に関する広報活動などです。また、この 10 年間では、新たに地域別産業教育懇談会を西多摩地域、葛飾区、大田区の 3 地域において開催したり、学校別産学懇談会を年 3 回開催したりして、産業界と教育界の連携の強化に取り組んでまいりました。さらに、会報「東京の産業と教育」電子版の発行や、ホームページのリニューアルにより東京都産業教育振興会の広報に努めてまいりました。

しかしながら、近年、産業教育を取り巻く状況が劇的に変化しています。産業構造の変化やグローバル化、デジタル化の進展などに伴い、産業界が求める人材は多様化し、求められる知識・技術も高度化しています。また、少子高齢化が進行し、産業を支える技術の継承や人材の確保・育成は大きな課題となっています。

一方、東京都においては、普通科志向が強く、専門高校の志望倍率は低迷しております。専門高校には、各地域や産業界との連携を一層深め、地域を支える最先端の職業人材の育成を担っていく教育機関として、これまで以上に大きな期待が寄せられていることから、専門高校はより一層の魅力化が求められています。

このような状況に対して、本会は、産業教育を学ぶ生徒・学生を応援する都内有数の団体として、今後も、産業界、教育界及び関係諸機関との連携を一層深め、新たな時代に産業界を牽引できる人材の育成に努めてまいりたいと思います。

昭和 26 年に制定された産業教育振興法は「産業教育はわが国の産業経済の発展及び国民生活の向上の基礎である」と謳っており、産業教育は産業立国日本を支える有為な職業人を育成するという重要な役割を有しています。

創立 70 周年という節目の年を迎えた今、引き続き会員の皆様のお力添えを賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

特集 I 東京都産業教育 この10年の歩み、そして提言



都立高校における産業教育の推進

～ Tokyo IBL Project Scope による新たな学びの構築～

東京都教育庁指導部主任指導主事（産業教育担当） 河野 敏弘

1 はじめに

東京都の産業教育は、地域産業の人材育成を担う重要な教育領域であり、特に都立専門高校は、産業界と教育界を結ぶ架け橋として、実践的な学びを提供し続けてきた。

この10年間は、AIやIoTの進展、DX（デジタルトランスフォーメーション）の加速、グローバル化、更にはコロナ禍による学習環境の変化など、教育界においても大きな転換期であった。

今年度は、東京都産業教育振興会が創立70周年を迎える節目である。本稿では、直近の10年間の取組を振り返り、その成果と課題を整理し、今後の展望を考えていきたい。

2 平成28年度から令和7年度までの取組

(1) 産業構造の変化と教育ニーズ

産業構造の変化は教育界にも大きな影響を及ぼしており、都立高校では新時代に対応した教育の再構築が進められている。特に専門高校では、産業界の要請を反映したカリキュラム改革が推進されている。

工業に関する学科では、従来の機械・電気技術に加え、AIプログラミングやIoT機器制御などの新分野が導入された。これにより、生徒はセンサーやネットワークを活用したスマートシステムの設計・運用を学び、次世代の製造業や情報産業に必要な知識と技術を身に付けている。

商業に関する学科では、デジタルマーケティングやデータ分析に重点を置いた授業が展開され、SNSを活用した広告戦略やECサイト運営など、

実践的なスキル習得の機会が増えている。さらに、グローバル化に対応し、英語教育の強化や海外研修プログラムの拡充、国際ビジネス科目の設置、外国語によるプレゼンテーションや交渉スキルの育成など、世界で活躍できる人材の育成にも力を入れている。

(2) 専門高校の特色ある取組

工業に関する学科では、ロボット技術やAI制御の実習を強化し、全国技能五輪への参加や企業との共同研究も推進している。生徒は、産業用ロボットのプログラミングや自律型ロボットの開発に取り組み、実社会で求められる高度な技術力を磨いている。

商業に関する学科では、簿記・会計の基礎に加え、デジタルマーケティングやECサイト運営の実習も導入している。例えば、オンライン模擬店舗を開設し、商品登録から販売促進、顧客対応までを実践する授業が行われており、理論だけでなく実務に直結するスキルを身に付けている。

農業に関する学科では、スマート農業技術の導入が進み、ドローンによる農地管理や環境保全型農業の研究が行われている。生徒は、センサーを用いた土壌データの収集やAIによる作物生育予測など、最先端の農業技術を学び、持続可能な食料生産に貢献する力を養っている。

(3) 産学連携の強化

産業界との連携は、この10年で飛躍的に進展した。インターンシップ制度は長期型へと拡充され、企業と学校が共同でカリキュラムを設計する事例も見られる。これにより、生徒は単なる職場

体験に留まらず、実際の業務に深く関わり、課題解決能力やコミュニケーション能力を高めている。

さらに、地域企業との共同プロジェクトでは、製品開発やサービス改善に高校生が参加し、実社会での課題解決能力を養っている。例えば、地元企業と連携して新商品のパッケージデザインを考案したり、観光業のデジタル化を支援するプロジェクトに参画したりするなど、地域活性化にも貢献する活動が広がっている。

(4) ICT 活用と学習環境整備

各学校において、一人1台端末を利用したオンライン授業やハイブリッド型授業が定着している。特にコロナ禍では、遠隔授業のノウハウが急速に蓄積され、現在では企業とのオンライン連携や海外とのバーチャル交流も可能になっている。これにより、地理的な制約を超えた学びの機会が広がり、国際的な視野をもつ人材の育成が進んでいる。

(5) Tokyo IBL Project Scope の推進

東京都は、令和7年3月、「東京都教育施策大綱」を策定し、東京型教育モデルとして、子供の意欲を引き出す「学び」、社会全体の力を生かした「学び」、ICTの活用による「学び」の三つの「学び」を掲げている。

また、デジタルとリアルの最適な組み合わせにより、一人一人の子供の状況に応じたきめ細かな教育の充実を図る「新たな教育のスタイル」を展開し、東京都の目指す「誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って自ら伸び、育つ

教育」の実現を目指しているところである。

また、東京都教育委員会は、これまで実施してきた探究的な学びに関するプログラムと令和7年度から実施する新規事業を統合し、「Tokyo IBL Project Scope」(TIPS)として、全ての都立高校等を対象に、探究学習を推進している。

Type 4は、各学校が独自に進めている取組を支援する事業であるが、専門高校の新たな学びによる授業改善サポート事業により、各専門高校において、外部機関と連携して最新の知識や技術を学ぶ機会の充実を図る取組を実施できるよう支援している。これらの学習を通して、生徒たちが、興味・関心や能力・特性に応じて、主体的に学び、自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越え、人生を切り拓いていく力を身に付けることを目指している。

3 おわりに

都立高校は、「Tokyo IBL Project Scope」を推進し、生徒一人一人の探究心を最大限に引き出し、学びの質を高めていく。企業、商工会、自治体、大学等との連携を一層深め、社会の最前線で活躍するプロフェッショナルと共に、課題解決に果敢に挑戦し、自らの可能性を切り拓いていく。

また、グローバルな視野を養うため、国際交流やICT活用にも積極的に取り組み、世界を舞台に活躍できる人材の育成を目指している。

これからも、都立高校は、地域産業の発展と持続可能な社会の実現に貢献し、東京の未来を担うリーダーの育成を力強く推進していく。



Tokyo IBL Project Scope (TIPS) の概要



農業教育 10 年の歩みと今後の提言

東京都立農業高等学校長 並川 直人

1 はじめに

東京都の農業系高等学校（以下、農業系高校）は東京 23 区内に 3 校《園芸高校（世田谷区）、農芸高校（杉並区）、農産高校（葛飾区）》、多摩地区に 2 校《農業高校（府中市）、瑞穂農芸高校（西多摩郡瑞穂町）》、島しょ地域に 3 校（大島高校、三宅高校、八丈高校）の計 8 校で農業に関する学科が設置されている。また、都内の 5 校は夜間定時制の農業科を併置している。

10 年前の平成 27 年度（本会 60 周年）から学校数の減はない。

平成 27 年度の農業科生徒数は全日制 1,909 人（都内 1,889 人、島しょ 20 人）、定時制 445 人に対し、令和 7 年度は全日制 1,852 人（都内 1,826 人、島しょ 26 人）、定時制 153 人で定時制生徒の減少幅が大きい。

2 アグリマイスター顕彰制度への対応

東京都公立高等学校長協会農業部会では、「アクティブ・アグリスクールプラン」を策定し、第一次から第三次プランによる実行プログラムを実践した。平成 27 年度に東京都教育委員会は全ての専門高校において「専門高校技能スタンダード」を決定した。この頃、教育再生実行会議では高大接続や職業的資格などを活用し、生徒の学習成果を多面的に評価する仕組みを充実するよう求めた。当時、農業系高校にはその仕組みがなかった。提言を受けて、平成 27 年 4 月、全国農業高等学校長協会が「アグリマイスター顕彰制度」を創設し、東京都の農業系高校も制度利用を開始し

た。アグリマイスター・シルバー、ゴールド、プラチナの 3 つの称号があり、毎年、多くの生徒が申請し、認定を得ている。プラチナに認定された生徒の中には優秀生徒表彰を受けた生徒もいる。

3 学校農業クラブ活動

学校農業クラブ活動は、学習指導要領に位置付けられた、生徒の自主的・主体的な活動のための教科内活動である。東京都の農業系高校におけるプロジェクト研究は年々盛んになり、関東大会の 3 つの分野に毎年出場し、優秀賞を得ている。農業クラブ全国大会では、令和元年度に開催された南東北大会において、大島高校の生徒が意見発表会で最優秀賞並びに文部科学大臣賞を、令和 7 年度の西関東大会で農芸高校の生徒が農業鑑定競技会で最優秀賞（分野「食品」）を受賞した。

4 東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた GAP の取組

令和 2（2020）年の東京オリンピック・パラリンピックの食材調達基準として、GAP（Good Agricultural Practice；農業生産工程管理）による栽培等が求められた。農業系高校では東京都 GAP の認証を受けた野菜を選手村の食材として提供した。その後、東京都 GAP 認証に加え、JGAP 認証へ移行する取組となった。各校では GAP の理念に基づく「GAP する」活動を重視し、道具類の整理整頓やリスク管理、労働災害防止などについて実習場面において生徒が習得できるように取り組んでいる。

また、東京大会はコロナ禍で1年遅れの開催となったが、開催期間中、園芸系学科の生徒が栽培した5色の花壇材料で制作した花壇を日比谷公園にて植栽・展示した。

5 民間企業等と連携した実践的な経営学習

教育庁指導部の事業「民間企業と連携した専門学科高校の実践的な探究活動」として令和3年度から開始した。JR有楽町駅前の東京交通会館での「交通会館マルシェ」に出店し、生徒は地元とは違う雰囲気の中で実践的な販売学習を行っている。当初は2校でスタートしたが、令和7年度には5校の活動に発展している。

また、毎年11月に東京駅のデパートで開催されている「全国農業高校収穫祭」にも出店するなど、農業系高校生の学びを広く都民等にPRするとともに経営感覚の醸成にも寄与している。

6 地域資源の活用に着目した商品開発

農業系高校は、学校の所在する自治体をはじめ、近隣の自治体や企業等と連携した商品開発に取り組んでいる。この10年間は「農業の六次産業化」が一つのキーワードであった。学校で栽培や生産している商品を地域のイベント等で販売するだけでなく、企業や福祉施設と連携した商品開発やブランディングやラベリングまでを学ぶ、一貫した学習が充実した。

教育庁指導部の事業を活用して、外部人材による支援を受けながら、商品開発をし、園芸高校では都立高校として初の商標登録を行う製品の開発までに至った事例もある。

7 先端技術教育推進のためのスマート農業の導入と展開

平成30年告示、令和4年度から学年進行で実施された学習指導要領において、農業科目の内容改善の方向のひとつに「農業の技術革新と高度化等に対応した学習の充実」が掲げられている。生

徒のICT利活用機会の拡大とともに、農業科の各科目においては、効率的に利用する技術、ICTやAIなどの先端技術を活用する内容に取り組む必要がある。

東京の農業系高校は都市型農業教育であり、大型機械の自動運転やドローン導入よりもデータを活用した「勘と経験からデータ駆動型のスマート農業」への転換が重要である。

園芸高校では、令和元年に経済産業省「未来の教室」実証事業への参加を契機として、スマート・アグリスクール構想を作成した。

令和2年・3年度は東京都教育委員会より「先端技術活用実証研究校」の指定を受け、令和4年・5年度は、「TOKYO デジタルリーディングハイスクール・先端技術推進校・センシング機器の活用」として気象センサー等のセンシング機器の整備と授業における実践を重ねた。

令和6年度からは、農産高校、瑞穂農芸高校でも先端技術を活用した実践が始まった。令和8年度からは農芸高校、農業高校での実践に向けた環境準備が進められている。

8 まとめと今後の提言

農業系高校の強みは、地域との結び付きが深く、地域課題や社会課題の解決に向けて、協働する中で、生徒が変容する機会が多いことである。自然、環境、健康、持続可能性と言った今日的課題や、生徒が栽培や製造した生産品を販売実習という形で経験し、コミュニケーション能力を磨く機会も多い。

この10年の農業教育の「不易と流行」は、基礎・基本を大事にしつつ、新しい取組や実践も多く展開されてきた。農業教育がもつ多様な力を充実させ、AI時代に対応した、実践力をもった農業デジタル人材を育成し、進路実現を図り、農業系高校の価値を高められるよう、総合力をさらに高めていく。



工科高校この10年間の歩み、そして提言

東京都立葛西工科高等学校長 鈴木 邦夫

1 はじめに

この10年、東京の高校教育、とりわけ工業科領域は、急激な技術革新と社会の価値観の転換に直面した。AI、IoT、データ活用が当たり前となり、SDGsを基軸にした持続可能性の追求が教育現場にも求められた。東京都教育委員会は2022年、「Society5.0を支える工業高校の実現に向けた戦略プロジェクト（Next Kogyo START Project）」を策定し、都立工業高校の将来像と施策の全体像を示した。狙いは、ものづくりの基盤的技能に加え、IT・データスキル、英語力、課題解決力などの“複合スキル”を備えた人材の育成である。この方針は、文部科学省が示す都立高校改革の流れとも整合しており、専門教育の魅力化・高度化、産学・高大連携の加速が骨太の方向性として位置づけられている。

2 「工業」から「工科」へ

この10年の改革の一つが、2023年4月の校名変更である。都立の「工業高等学校」を「工科高等学校」へ改称し、従来の「工業」イメージにとどまらず、工学全般とデジタル分野を横断する学びへと舵を切ったことを明確化した。都立工科高校のコンセプトを「ものづくり技能×デジタルスキル×グローバルスキル＝新ものづくり人材」と定義し、Python講座やITパスポート支援、英検対策などの具体施策を示した。名称変更は単なる看板替えではなく、教育内容・方法・外部連携を含む総合的アップデートの宣言であり意思の表れでもある。

3 学科のアップデート

2024年度には、都立工科高校各校で学科再編を行った。象徴的なのが、都立杉並工科高校の「IT・環境科」、都立北豊島工科高校の「都市防災技術科」の新設である。環境分野と情報技術を横断して学ぶ、都市防災の課題解決に技術で挑む等いずれも東京という超都市が抱えるアクチュアルな課題に対し、工科ならではの視点で応える狙いが明確である。さらに、都立科学技術高校の「創造理数科」も始動し、理数の素養と情報活用能力を高いレベルで併せ持つ人材育成にフォーカスしている。また、都立蔵前工科高校では2023年度入学生から機械科にロボティクスコースを新たに開設した。このコースでは一人1台の教育用ロボットから都内の工科高校で唯一ある産業用ロボット3台、人協働ロボット2台を活用して、ロボットの機構・プログラム制御について学ぶことができる。

4 資格取得支援

資格取得アシスト制度がはじまり、工科領域で有用な資格の取得を広く後押しする仕組みが構築された。受検料等費用を補助できるだけでなく必要な教材や工具等補助できる範囲も広がり、積極的に資格取得に取り組む生徒にとって頼もしい制度となった。

5 デュアルシステムの拡大

デュアルシステムは短期間のインターンシップを超える長期就業訓練を通じ、職場でのOJTを伴う深い学びを提供する制度として定着し

た。2004年に開校した都立六郷工科高校に続き、2018年に都立葛西工科高校、都立多摩工科高校など学科改編で新設された。地元企業を中心に就業実践を行い、卒業後の就職や進学に直結する力を育てており、多くの企業が積極的に生徒の受け入れをしていただいている。

6 語学・ITの横断強化

これからのものづくり人材に不可欠な英語運用能力とITリテラシーを育てる講座が整備された。東京都教育委員会は英検対策やライティング講座、Python等のプログラミング講座、ITパスポート取得支援を掲げ、技能教育とデジタル・語学の三位一体を打ち出した。また、海外派遣研修の機会拡充も行われ、フィンランドやカナダ、UAEなどへの派遣が実施された。また、コロナ禍で中断していた海外修学旅行も再開し、複数の工科高校でも台湾等現地高校生との交流を通じてグローバル人材育成を進めている。グローバルな現場で最先端の技術・産業を体験し、世界水準の課題意識やコミュニケーション力を涵養する取り組みは、学びの質を段違いに高めた。

7 ドリーム・フェスタと広報・連携

都立工科高校の魅力発信イベント「ドリーム・フェスタ」は2023年から開催され、この10年の“変化の見える化”という点で象徴的である。2025年7月、新宿住友ビル 三角広場で開催され、22校が参加、約5,000人が来場した。ステージでは、都立工科高校生のPRタイム、副知事とベンチャーCEOによる特別対談が行われ、フロアでは強化外骨格「SKELETONICS」体験、ドローン操縦、3Dプリンター製作など多彩な先端技術体験が提供された。都立工科高校の“今”がダイナミックかつ親しみやすい形で伝わる一日となった。また、このイベントは都の戦略プロジェクトの一環として、都立工科高校の社会的認知と選択価値の向上を目的に実施されている。外部メデ

ィアも多数取り上げ、都立工科高校の学びが“好き”を原動力に個性を伸ばす場であることが強調されている。

8 就職と進学の“二刀流”

都立工科高校の進路は、高度化・多様化している。就職では、ものづくり企業やインフラ、IT関連などで“現場力+データ力”を評価する採用が増加し、産業界での人材不足を解消するためバブル期を上回る求人数を記録している。進学では、理工系大学・専門学校での学び直しや高度化が一般的となり、都の統計・改革資料においても工業科からの就職比率の高さと同時に、進学比率の伸びが確認され、都立工科高校のキャリアパスが「就職一本」から「就職・進学の二刀流」へ広がっている実態が示されている。

9 総括

この10年を振り返ると、都立工科高校は名称・学科・教育手法・連携のすべてを同時進行でアップデートしてきた。PBLと探究活動は、「答えのない問い」に立ち向かう姿勢を涵養し、資格取得やデュアルシステムの取り組みでは「職能の裏付け」を与え、英語とITは「世界とデータに開く鍵」となった。

ドリーム・フェスタをはじめとした大型イベントや海外派遣研修は、学びを社会に開き、仲間を広げる場となっている。

次の10年は、生成AIやロボティクス、クリーンテック、サステナブルな都市インフラといった分野で、“手に職”の定義自体が進化するものと思われる。都立工科高校の使命は、技術を通して暮らしを支え、豊かにするという原点を忘れず、創造的な活動の楽しさを生徒一人ひとりが実感できる環境を保ち続けることである。若い技術者たちが、都市課題の解決者として、そして新しい価値の創出者として羽ばたいていくことを期待する。



東京都の商業教育

商業高校のこれまでの歩み、そして提言

東京都立千早高等学校長 大林 誠

1 はじめに

これまで商業高校では生涯にわたって役立つ資格取得を目標に掲げ、生徒の実情に合わせた特色ある教育課程を編成してきた。資格取得は、合格という形で学習の成果を実感できるため、生徒にとっても意欲的に取り組みやすいものであった。しかし、一方で資格取得が授業の目的となってしまう、実際の実務では習得した能力を十分に発揮できないという課題も指摘された。こうした課題を抱える中で商業高校は変革期を迎えることになった。

2 都立高校改革推進計画（第二期）

東京都教育委員会は、平成24年2月に平成24年度から令和3年度までの10年間にわたる二度目の都立高校改革推進計画を策定するとともに、当初4年間に取組むべき計画をまとめた第一次実施計画を発表した。その中には商業高校をはじめとする専門高校における専門教育の見直し・充実の方向性が盛り込まれた。この実施計画を受けて商業高校の改革案について商業教育検討委員会を新たに発足させて具体策を検討することとした。

3 商業教育検討委員会による検討

商業教育検討委員会では、これまでの商業教育の果たしてきた役割を評価するとともに、ビジネスを取り巻く環境が大きく変化する中で、簿記や情報などの知識・技術の習得だけでなく、「ビジネスを考え、動かし、変えていくことができる力」を身に付けることが必要であると提言した。検討委員会がまとめた目指すべき方向性は以下のとおりである。

(1) これからの商業高校で育てたい生徒像

<ビジネスを考え、動かし、変えていくことができる生徒>

① ビジネスの諸活動の現状や変化などの在り方について理解できる生徒

② ビジネスに必要な情報を収集し、活用できる生徒

③ 様々なデータから企業の経営活動や財務活動等の状況が分析できる生徒

④ 新たなビジネスを提案し、その内容を情報発信できる生徒

<高校での学習・生活全般を通してビジネスに必要なその他の力を身に付けた生徒>

① コミュニケーション力、協調性、主体性を身に付けた生徒

② 思考力、判断力、表現力、実践力を身に付けた生徒

③ 社会人基礎力（規範意識・倫理観、人間性、チャレンジ精神など）を身に付けた生徒

④ 身に付けた知識等を活用し、新たな価値を創造できる生徒

(2) これからの商業高校の姿

① 様々な授業の場面で企業等と連携し、生徒がビジネスの諸活動に必要な知識や技術を主体的、かつ、意欲的に学習することができる学校

② 調査・研究、成果発表会などの機会を充実し、ビジネスの諸活動で積極的に活躍できるための能力を高め、地域の経済を支える中核的人材を育成する学校

(3) これからの商業教育の方向性

① 地域の資源を活用した商品開発や地域産業の振興方策を調査・研究するなど、企業等と連携し

た授業を通して、ビジネスの諸活動を实地に学ぶ機会を拡充

- ②商業高校がこれまで大切にしてきた資格取得等による知識と技術の習得に加え、調査・研究の機会を系統的・計画的に設け、創造的な能力と実践的な態度を育成
- ③これらの取組を継続的に実施するための成果発表会の実施や顕彰制度の創設、連携企業等との連絡調整を行うためのコンソーシアムの構築や教員研修の充実

4 商業高校改革の内容

平成28年2月に公表された都立高校改革推進計画新実施計画では、商業教育検討委員会報告を踏まえて、平成30年度までに「ビジネス科」への改編を行うべく準備を進めることとした。

(1) 補助教材の開発と学校設定科目の設置

「ビジネスを考え、動かし、変えることができる生徒」を育成するには、1年次から3年次まで一貫して、ビジネスの諸活動を实地に学ぶ機会が必要である。そこで1年次の「ビジネス基礎」において、新たに補助教材「東京のビジネス」を作成し、東京や地域のビジネスをはじめ、身近な企業等についての調査・研究を行うとともに、2年次では新たに学校設定科目「ビジネスアイデア」を設置し、新たなビジネスの提案等に関する実践的な学習を行うこととした。

(2) 生徒の学習意欲の喚起

生徒の創造的な能力と実践的な態度を育成するため、「ビジネスアイデア」にかかわる発表大会である「商業高校生ビジネスアイデア発表大会」を実施するとともに、ビジネス科で学んだことやビジネス科で取り組んだことを「ビジネス GP (Good Practice)」として顕彰することとした。

(3) 教員研修等の充実

生徒の創造的な能力と実践的な態度を育成するための授業を推進するためには指導する教員一人一人の意識改革が不可欠である。そのため、指導法の研究など教員研修の充実を図った。さらに、企業等との連携では新規開拓が教員の負担になら

ないように教育委員会内に「商業教育コンソーシアム東京」を設置して、企業等と学校のマッチングを支援することとした。

5 今後の商業教育への提言

かつては20校以上あった都立商業高校もこの30年で総合学科等に再編され、現在では3分の1まで減少している。商業高校を取り巻く環境は厳しくなっているが、世の中に産業があり、仕事がある限り職業人を育成するための教育は必須である。問題はその時代に期待される価値 (Value) を商業高校が提供できているかということである。生徒たちは情報技術とネットワークを駆使した情報化社会の中に生きている。私たち商業科教員はデジタル化・オンライン化、DXの進展する社会に対応した教育課程を編成するとともに、ITやAIなどの成長産業で生徒が活躍するために必要な知識・技能が学べるような価値 (Value) ある商業教育を展開していかなければならない。また、今後の商業教育を展望したとき、専門高校だけでは対応できない高度な技術の習得については専門学校や大学と連携した授業や、高・専または高・大の接続を意識した教育課程についても考えていく必要がある。

6 おわりに

この10年を振り返るとき、令和2年から4年にかけて猛威を振るった新型コロナウイルス感染症の対応にも触れておく必要がある。今回の商業高校改革では企業等との連携の下、実際のビジネスを生徒たちが体験することが一つの肝であった。しかし、人と人との接触が制限されるコロナ禍での教育活動は苦難の連続であった。そのような中でも各学校は創意工夫してオンライン授業等により教育活動を継続した。今後も未曾有の自然災害等が生じるかもしれないが、今回の経験を生かして教育活動の一層の充実に努めていくことを期待したい。



家庭科教育 10 年の歩み、そして提言

東京都立瑞穂農芸高等学校長 大畑 哲也

1 はじめに

都立高校の家庭科に関する学科設置校は、7校（島しょ地区の3校を含む）、コース（系）設置校は7校である。

都立瑞穂農芸高等学校は、創立76年目となる農業と家庭科の専門高校である。家庭科は昭和38年に家政科としてスタートし、平成15年に生活デザイン科に学科改変し現在に至っています。生活デザイン科は、1学科2クラスを設置し、1学年で家庭科全般を学習したのちに、2学年より類型を設けている。共通専門科目の他、食物・調理類型、服飾デザイン類型、保育・看護類型の3分野で2年次4単位、3年次5単位をそれぞれの類型科目を選択し、専門性を深めている。本校の特徴は、全員が家庭科全般を学習した上で、類型によって専門性を高めるカリキュラムとなっているため、ミスマッチを防ぎながら専門性を高めることができるというメリットが大きい。

2 この10年の歩み

(1) 東京都立赤羽北桜高等学校が令和3年4月に開校した。家庭学科と福祉学科の二つの学科を設置した専門高校である。

家庭学科には、幼児教育・保育系や栄養・健康系の上級学校への進学を目指す保育・栄養科、卒業と同時に調理師の資格の取れる調理科を設置している。

福祉学科には、介護福祉士国家試験受験資格を得ることができる介護福祉科を設置している。

(2) 新学習指導要領が平成30年3月に告示され、令和4年度入学生より段階的に移行し令和6年度に移行が完了した。

<家庭の目標>

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ①生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- ②生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- ③職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

上記のように目標が示され、変更点は以下のとおりである。

ア 新設した科目

・「総合調理実習」

食分野を担う職業人としての意識を高め、食生活関連産業の発展に寄与する人材を育成するため、従前の科目「調理」から「大量調理」及び「食事環境とサービス」に関する内容を移行するとともに、フードビジネスの視点を加えるなど、より専門性の高い内容構成とした。食分野の基礎的・基本的な知識と技術を、実践的・体験的な大量調理や食事提供等に関する学習を通して、調理に関して総合的に習得するための科目として位置付けている。この科目は、主として調理師養成を目的とする学科等において履修させる科目である。

イ 整理統合した科目

・「保育基礎」「保育実践」

職業人としての意識をより一層高めることができるよう、従前の「子どもの発達と保育」と「子ども文化」の内容を整理統合し再構成した。「保育基礎」は、子供の発達過程や生活の特徴を保育に関連付けて体系的に学ぶことにより、子供の姿全体を捉えられるよう改善を図った。また、子供の遊びや表現活動に関する内容を充実し、子供と触れ合う具体的な方法を学ぶことで、より実践的な活動ができるよう改善を図った。

「保育実践」は、「保育基礎」の学習を踏まえ、保育の重要性をさらに深く理解し、子供の発達を促す技術を身に付けることで、地域の保育や子育て支援に寄与できるよう改善を図った。遊びや表現活動に関する内容を取り扱い、子供と触れ合う具体的な方法を学ぶことで、より実践的な活動ができるよう改善を図った。

ウ 名称を変更した科目

・「住生活デザイン」

住生活の充実・向上の観点から、インテリアデコレーションを含むインテリアデザイン実習、福祉住環境の観点から、住空間のバリアフリー化、リフォーム計画実習などの内容を充実し、科目名称を従前の「リビングデザイン」から住生活デザインに変更した。

(3) 新型コロナウイルス感染症の流行

令和2年3月より、新型コロナウイルス感染症が全国的な流行が始まり、臨時休校など様々な課題が教育現場においても発生した。

その中で、オンライン授業やICT機器の活用が急速に導入され、環境が整えられていきました。生徒の個人端末の導入や学校へのICT端末の導入やWi-Fi等、教育環境が整備され、新たな教育方法が模索されました。実習科目においても、普通科目と同様に工夫が求められ、実践された。ICT機器の活用及び生徒の個人端末の活用がより一層求められている。

3 新しい時代にむけての展望・提言

(1) 募集状況の改善について

現在、専門高校の応募状況は芳しくない状況が続いている。今後の中学生の減少に伴う応募状況の厳しさが続いていく。また、専門教育の魅力を発信し、中学生に選ばれる家庭科の専門教育を充実していかなければならない。専門学科を設置している4校それぞれが、特徴を活かした教育活動を推進し広く中学生及びその保護者に理解してもらうことが重要になっていく。

＜瑞穂農芸高等学校の応募状況（3カ年）＞

| | 推薦選抜 | 学力一次 |
|-------|------|------|
| 令和5年度 | 2.24 | 1.02 |
| 令和6年度 | 1.48 | 0.67 |
| 令和7年度 | 2.33 | 0.96 |

瑞穂農芸高等学校では、生活デザイン科は2クラス70名を募集している。直近の3年間の状況としては、苦戦しており本校の教育活動をより一層PRしていく必要があり、ホームページや地域活動をとおして広報活動を推進していく必要がある。専門高校を中学生やその保護者に、どのように理解してもらうかが大きな課題となっている。

他校でも、応募状況の課題を抱えているため、家庭科の専門高校が協力しながら広報活動を推進していくことが重要である。

(2) 今後の家庭科教育について

各校、各学科がそれぞれに特色を明確にして、魅力を広く発信しながら、広く都民に理解してもらう必要があり、専門高校としての存在意義を示していく必要がある。

高大連携や地域連携、特別専門講師の活用等を現在も実施しているところではあるが、その内容を充実していく必要があり、家庭科教育の重要性や魅力を発信していくことが重要である。



都立高校「総合学科」この10年の歩み

東京都立王子総合高等学校長 阿久津 恵理子

1 総合学科の位置づけと東京都の文脈

総合学科は、普通科・専門学科の二者択一に収まりきらない生徒の多様な進路希望や学びの個性に対応するために設計された学科である。単位制を基盤に、選択科目の幅を広げ、職業領域や探究領域、国際・情報・芸術などの分野横断的な学びを編成できる点が最大の特徴である。東京都は早期から総合学科の導入に積極的で、都市部ならではの産業・文化資源を活かした「実社会接続型」のカリキュラム、外部機関と連携するプロジェクト型学習（PBL）、国際交流やフィールドワーク、英語・情報の強化などを、全日制10校は学校ごとの特色として磨いてきた。

この10年は、学習指導要領改訂による「総合的な探究の時間」への転換、ICTの急速な普及、大学入試改革や進路選択の多様化、そして新型コロナウイルスに伴う学びのオンライン化など、総合学科の理念と親和性の高い環境変化が連続的に起きた時期でもある。これらの変化は、全日制都立総合学科が掲げてきた「多様性・選択・実践・社会接続」を一層具体化する追い風となった。

2 カリキュラムと学習観の転換：探究の中核化

2015年頃までの総合学科では、選択科目の豊富さや系列（分野）の提示によって、普通科よりも早い段階からキャリア教育を重視した履修計画を立てられる点が強みであった。現行学習指導要領によって「総合的な探究の時間」が始まり、問いの設定・情報の収集分析・仮説検証・考察と振り返りを通じて、探究的な学びを社会につなげる探究プロセスが一層明確化された。総合学科にとっては、従来から行っていたPBLや課題研究を、学校全体のカリキュラムに織り込み、1年次「産業社会と人間」、2年次「探究」、3年次「課題

研究」という系統的設計が加速化した。

3 ICT環境整備とデジタル化による新たな産物

2020年以降のGIGAスクール構想や都独自のICT整備により、一人1台端末、クラウド型学習基盤、オンライン会議ツールが急速に普及した。総合学科は選択科目の多さから時間割・履修管理が複雑になりがちだが、デジタル化によって履修希望の集計や、課題提出・フィードバック、ポートフォリオ管理が効率化された。

新型コロナウイルスに伴う休校・分散登校期には、オンライン探究（遠隔での授業、データ分析、オンライン発表）が定着。情報科の拡充、プログラミングやデータ活用、メディア表現など、デジタルスキルが「学びの手段」から「学びの対象」にもなり、探究の質を底上げした。コロナ禍からの解放とともに、海外研修旅行や海外修学旅行を視野に入れた姉妹校交流もスタートしている。今後、総合学科の新たな魅力として、全日制10校が一団となって取り組む新しいスタイルの海外研修旅行計画も進んでいる。

4 「語れる実績」の蓄積

この10年、大学入試では思考・判断・表現を重視する方向が強まり、推薦型・総合型選抜の比重が上がった。総合学科は、探究成果や課外プロジェクト、プレゼンテーション能力、協働体験などをポートフォリオとして提示しやすく、「語れる実績」を蓄積しやすい構造を持つ。特にキャリア教育を重視したキャリアデザイン科目の充実を図るとともに、商業、情報、工業科目による、検定指導や資格取得、各種コンクール出場、探究成果の対外発表など、個の進路に即した指導の「きめ細かさ」が向上したことが、この10年の顕著な変化である。

5 学校ごとの「強み」の深化

東京都の全日制都立総合学科は、学校が持つ地域資源・施設・教員専門性を背景に、特色ある分野を磨いてきた。特に、国際・観光・まちづくり・起業・クリエイティブ産業、ボランティア・福祉・地域連携、文化芸術、環境・エネルギーなどのテーマが継続的に取り組まれている。英語実用能力や第二言語、異文化理解を重視する学校では、海外姉妹校とのオンライン交流や生徒・教員の海外派遣、などが進んだ。芸術・デザイン系に強い学校では、地域の商店街や企業とのコラボによる広報企画、商品デザイン、イベント制作が学びの成果として可視化され、地域活性化に貢献している。

【都立総合学科 10 校の一覧】

| 学校名・開校年・地区・キャッチフレーズ・キーワード | |
|---------------------------|--|
| 1 | 晴海総合高等学校 平成 8 年 中央区 「青い海 潮風の中 自分探しの旅に出よう！」 6つの系列、フランス研修旅行、異国間交流 |
| 2 | つばさ総合高等学校 平成 14 年 品川区 「夢実現への通過点 つばさ」 充実した施設、つばさスキル、NPO 連携 |
| 3 | 杉並総合高等学校 平成 16 年 杉並区 「志を世界に繋ごう」 ユネスコスクール、姉妹校 4 校、国際交流 |
| 4 | 若葉総合高等学校 平成 17 年 稲城市 「原石を宝石に 君の個性に輝きを」 多様な選択科目、未来創造系列、 |
| 5 | 青梅総合高等学校 平成 18 年 青梅市 「自分でつくる、自分の未来」 広大な敷地、食と農の授業、海外修学旅行 |
| 6 | 葛飾総合高等学校 平成 19 年 葛飾区 「葛総から世界へ そして未来へ」 葛総力、海外姉妹校 4 校、海外修学旅行 |
| 7 | 東久留米総合高等学校 平成 19 年 東久留米市 「25歳の自分創り～ここで私をデザインする～」 4大希望者多い、文武両道、夢の実現 |
| 8 | 世田谷総合高等学校 平成 20 年 世田谷区 「宝のカギが見つかる場所」 美術・ものづくり、社会人活用、NPO 連携 |
| 9 | 町田総合高等学校 平成 22 年 町田市 「体感しないと見えない世界がある！ 机上の空論を脱出せよ！！」 地域探究推進校、町田市・NPO・企業連携 |
| 10 | 王子総合高等学校 平成 23 年 北区 「Design Your Dream」 王総ブランド・海外修学旅行・NPO 連携 |

6 外部連携による組織力と探究力の強化

総合学科は、この 10 年で、校内のカリキュラム委員会や探究推進部の設置、外部人材（大学教員、研究者、企業人、NPO）のコーディネート体制の整備が進んだ。特に、東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課による「総合学科高校における NPO 等と連携した社会人基礎力向上事業」では、2023 年度から全日制都立総合学科高校 2 校と一般社団法人との連携がスタートし、キャリア教育のカリキュラム作りや教員都の伴走、背生徒の社会人基礎力育成をサポートが実現できている。本事業は、やがては全日制都立総合高等学校 10 校に拡大する計画である。

7 この 10 年間の成果

(1) 学びの質と可視化：探究の定着により、生徒は課題設定力・情報収集分析力・表現力を伸ばし、外部に伝えうる成果物（論文、レポート、ポスター、動画、提案書）を残すようになった。ポートフォリオや実績の蓄積は、進学・就職の説得力を増し、面接・プレゼンの場で優位に働く。

(2) 社会接続の深化：海外・大学・企業・NPO との連携が進み、「学校の外で学ぶ」機会が一般化。国際交流や地域課題解決プロジェクトを通じて、学びが社会的文脈を持つようになり、グローバルな視点でのキャリア意識の早期形成につながった。

(3) ICT 活用の標準化：一人 1 台端末とクラウド活用により、学びの記録・共同編集・遠隔交流が標準化され、時間・空間・海外の制約を超えて学びや活動が継続可能になった。

8 まとめ

この 10 年、東京都の総合学科高校は、探究の中核化・ICT の急速な一般化・社会接続の深化・進路の多様化という潮流の中で、学びの質と出口の説得力の双方を高めてきた。一方で、選択の豊富さがもたらす過密化・評価の妥当性・人材育成・機会保障など、制度運用上の課題はなお残る。次の 10 年は、都市課題を軸にした STEAM 探究、国際・データ活用の常態化、個別最適化と学外資源の編成によって、総合学科の理念である「多様性にかかれた学び」をいっそう確かなものにしていくことが期待される。



福祉科生徒の成長と今後の課題

東京都立府中東高等学校長 高柳 勝彦
(東京都立野津田高等学校 前校長)

1 はじめに

東京都立野津田高等学校は昭和50年に「未見の我の発見」を教育目標の一つに掲げ、全日制普通科高校として開校し、今年度創立50周年を迎えた。平成8年に看護福祉コース1クラスを設置し、平成18年に現在の福祉科へと学科改編を行っている。本校は、令和3年に都立赤羽北桜高等学校が介護福祉科1クラスを設置するまでは、東京都で唯一、介護福祉士の国家試験受験資格を取得できる養成校であった。現在では、都内で2校が介護福祉士の養成校として厚生労働大臣より指定を受け、東京都教育ビジョンにある超高齢化社会に対応する介護人材の確保・育成の課題に取り組んでいる。

2 福祉科の教育目標と心の教育

本校福祉科の教育目標は「①人間の幸せについて考え、自他ともに優しく思いやりのある生徒を育てる。②対人援助に興味・関心をもち、将来、福祉等に関する職に就くことを強く希望する生徒を育てる。③ボランティア活動含め、教育活動全般に主体的、積極的に取り組むことのできる生徒を育てる」の3点を掲げている。

福祉科で学ぶ生徒の成長ぶりが伺えた場面をご紹介します。第3学年の研修旅行において、大阪のあいりん地区のフィールドワークを行った。生徒は、生活者の生々しい実態と緊張感のある人間模様を目の当たりにした。車いすを押しながら公道を移動する介助者が、車道に車いすを放り出した。生徒は、車いすに乗っていた老人の困窮に気づき、老人に近づきそうになったが、すぐに教員が生徒を止めた。生徒は、止めた理由を考え、この地区の抱える歴史や現状と課題、「共生」という言葉の重みを実感していた。

私は、ほとんどの生徒が老人を助けようと動き出した姿勢を見たとき、生徒の成長に感嘆した。福祉は、専門的な知識と技術を学習するだけでは足りない。一つの出来事や問題を「他人事」とせず「自分事」として考え、行動する。この一連の流れをいとも簡単にやってのける生徒は「心の教育」も身につけていると実感した。

3 卒業生の進路状況 (2015～2024)

10年間の進路傾向は、大学：専門学校：就職が1：2：3である。就職は、ほぼ介護職に就き、進学は、福祉や医療系が圧倒的に多い。3年間の専門学科での学びを通して、具体的に進路を考え、自身が希望する進路実現ができています。

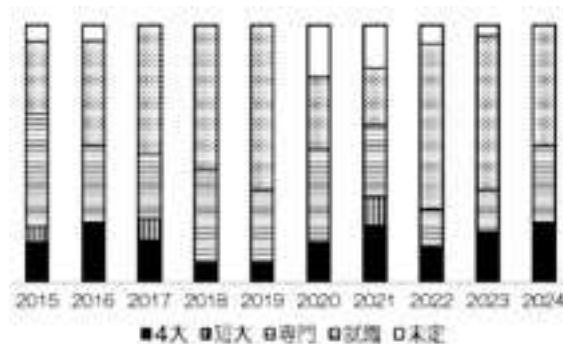


図1 10年間の福祉科生徒の進路状況

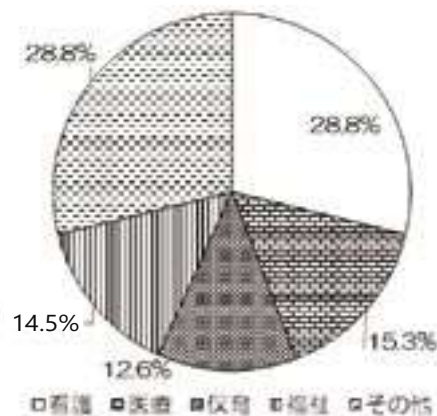


図2 10年間の福祉科生徒の進学傾向

4 国家試験合格者数

令和6年度75,387人が介護福祉士を受験し、合格率は78.3%であった。本校生徒の合格率は、過去を遡っても全国平均を大きく上回っている。これは、実際に福祉施設での実習と専門知識の学びが結び付き、実体験として知識を積み上げてきた成果だといえる。また、放課後に開かれる国家試験の対策講座を日々参加してきた生徒の努力の結果である。

表1 10年間の介護福祉士の合格率

| 受験年度 | 受験資格 取得者数 | 合格者数 | 合格率 |
|--------|--------------|------|--------|
| 平成27年度 | 31 | 24 | 77.4% |
| 平成28年度 | 34 | 30 | 88.2% |
| 平成29年度 | 24 | 21 | 87.5% |
| 平成30年度 | 25 | 24 | 96.0% |
| 令和元年度 | 25 | 22 | 88.0% |
| 令和2年度 | 25 | 21 | 84.0% |
| 令和3年度 | 18 | 17 | 94.4% |
| 令和4年度 | 14 | 14 | 100.0% |
| 令和5年度 | 25 | 25 | 100.0% |
| 令和6年度 | 17 | 17 | 100.0% |
| 合計 | 238 | 215 | 90.3% |

5 地域からの期待

少子高齢化社会へと急速に社会が変化する中、介護や支援が必要な人は増加している。また介護は「家族から地域へ」と意識も変化し、介護業界は慢性的な人手不足に陥っている。本校では、町田市を中心に、多摩市、府中市、日野市、稲城市等の多くの福祉関連施設の産業教育への理解と協力が得られ、現在114か所の福祉施設等の協力により、1年生に障害者施設と複合型サービスの2か所、2・3年生は特別養護老人ホームと介護老人保健施設のどちらかで実習させていただいている。3年間で60日間の実習は、実践的で深い学びとなっている。

協力施設の方々から「生徒に教える」から「生徒に気づかされる」と話し、これからの福祉を担ってほしいという期待が、生徒への熱心な指導に繋がっている。この良い関係性もあってか、ここ数年、介護実習でお世話になった施設に就職する生徒が増えている。高校卒業後、即戦力として活躍する生徒への期待だけではない。生徒の利用者へ

の素直な対応の姿勢は、施設で働く職員への影響や外国人材のリーダーとしての資質、情報機器に慣れている生徒のAI機器・ロボット化への柔軟な対応にも期待を寄せていただいている。

6 これからの課題

介護福祉士は専門性と需要増により待遇面が改善され、就きたくなる魅力的な職業へと変化しつつある。また、介護福祉士養成のための助成金制度も充実してきている。産業界・行政・学校が地域と連携し、介護への理解者や担い手のすそ野を広げるためにも高校生が福祉を学ぶ意義は大きい。福祉科の学びは「誰もが幸福を感じながら生活するために」をまず考え、体験を通して専門知識と技術を実感として身につけていく。そして何より大事なものは「心の教育」である。同様に日々の高校生活を楽しみながら基礎学力も十分につけることも非常に重要である。養成校の生徒は、医療的ケアを加えた専門科目53単位の履修が義務付けられ、夏季休業や土日の休業日にも授業を行い、学業に追われ疲弊している。多様な高校生活が充実する教育課程の再検討が必要な時期に来ている。



図3 介護実習報告会



図4 車いす体験

都立野津田高等学校は、これまで築いてきた福祉関連施設の産業教育への理解と協力がなければ、生徒が職業人として成長することはできない。即戦力への期待も意識しつつ、高校・産業界・上級学校の三位一体の実務体験制度など、新たな教育制度の模索が急務である。必要に応じた学びの機会の制度化により介護職のすそ野を広げ、専門職向上による待遇改善にも繋がる。都立野津田高等学校の使命は介護福祉士養成校として、今後も地域に根付き、地域とともに成長する様々な取り組みを検討し、実現させることである。



東京都の水産教育 ～この10年の歩みと提言～

東京都立大島海洋国際高等学校長 浅野 恵治

1 はじめに

東京都の水産高校は、東京都立大島海洋国際高等学校のみに設置されている。このことは、本校の前身である東京都立大島南高等学校以来、東京都の水産教育の歴史は本校の歴史と重なっている。とりわけこの10年は変化の大きい時間であった。

2 この10年のキーワード

- ①実習船更新による教育力の飛躍：2020年就航の五代目大島丸が、長期航海・広域観測・安全訓練を支え、島の海洋教育をさらに前進させた。
- ②学科・類系の熟成：船舶運航・海洋生物・海洋産業・海洋探究の4類系が、資格・実践・探究をそれぞれの軸に専門性を深化させた。
- ③寄宿舍生活による人間力の涵養：宅習（日常的に行われる自学自習時間）や共同生活の規律が、学力の土台と社会性を支えた。
- ④コロナ禍を越えた回復と進化：制約下でもオンラインと段階的再開で学びを継続し、令和期に入って乗船・国際交流を本格復活させた。
- ⑤国際・地域のネットワーク：太平洋地域校との交流や地域海洋イベント、海洋スポーツの活躍により、学びが海と社会に広く接続した。

3 東京都における水産教育の現況

「海に学び、未来を拓く」を教育理念に掲げ、育成すべき海洋人材として異なる人材像を定義し、それぞれ必要とされる専門的な学習に取り組むことができるように4つの類系を置いて水産教育を推進している。

《船舶運航系》

①教育目標

5級海技士（航海）を中心とした専門科目を履修し、知識・技術の習得や課題意識を醸成し、主体的・協働的に課題解決能力を育成。

②特徴的な教育内容

令和4年度に5級海技士（航海）の養成施設

として登録し、航海計器室には操船シミュレーターが設置された。海上交通安全法適用海域等をシミュレーターで投影し、座学で学んだ航海計器や海上交通法規について実践的に学習している。2年次乗船実習（30日間）では、シミュレーターで学習した海域を実際に航行することで、より実務的な船舶運用実習を展開している。3年次の課題研究においては、下田、横浜など目的地を生徒自らが設定し、安全に航海を実施するための航海計画を生徒自らが計画して、検討・発表させている。

《海洋生物系》

①教育目標

海洋生物や資源増殖を中心とした専門科目を履修し、知識・技術の習得や課題意識を醸成し、主体的・協働的に課題解決できる力を育成。

②特徴的な教育内容

水族館や水産増養殖業等での戦力になれるよう海洋生物・海洋環境・資源増殖に関する知識と技術を学習している。また地域に貢献できる類系を目指して、東京都栽培漁業センターと連携し、トコブシの採卵から飼育管理、稚貝放流に取り組むとともに、大島周辺海域に生息する海洋生物の展示・飼育を通して魅力発信を行っている。令和5年度に改築した栽培棟においては、3t・2t・1.5t水槽を各1基、計3基設置し、養殖対象種として有用なニジマスやエゾアワビの飼育・管理技術について学習している。また、養殖現場等にて必要とされる操船技術や潜水技術については、二級小型船舶操縦士、潜水技術検定2級を取得させ、次世代の海洋人材の育成に努めている。

《海洋産業系》

①教育目標

海洋開発や海洋レジャー産業に関するスペシャリストとして、海洋関連産業で活躍できる知識と技術の取得や課題意識を醸成し、主体的・協働的に課題解決できる力を育成。

②特徴的な教育内容

海洋関連産業の現場で必要とされる潜水技術や小型船舶の操縦、救助技術等について系統的に学習している。潜水技術においては、潜水技術検定2級及び1級取得を目指し学習している。なお本校は港湾潜水技師3級の指定校に認定されている。小型船舶の操船技術については、2年次に2級小型船舶操縦士免許取得及び特殊小型船舶操縦士免許取得を、3年次では1級小型船舶操縦士取得を目指す。マリネジャー関係で必須とされる救助技術については、2年次ではプールでの救助技術を、3年次には海でのレスキューボードを使用した救助技術を学び、最終的には機動力に優れた特殊小型船舶にスレッドを取り付けた救助方法等についても学習している。

《海洋探究系》

①教育目標

海洋環境、海洋政策、海洋生物を中心に専門科目を学習することで興味・関心を深め、水産・海洋に関する課題意識を醸成し、主体的・協働的に課題発見・課題解決を図り、探究していく力を育成。

②特徴的な教育内容

水産・海洋関連への進学を意識した学習活動を展開している。2年次から「課題研究」に取組み、生徒一人ひとりが興味のあるテーマで実験や調査等を実施し、論文としてまとめている。また、その成果を校内はもとより学会などの外部においても発表している。2年次の「海洋政策」では専門家による講義を通して、水産・海洋の新しい取り組み等について理解するとともに、3年次には国が取り組んでいる水産・海洋関連の施策についてグループワーク等を交えて議論を深め、幅広い分野の知識の習得を目指し、将来水産・海洋に関する課題に積極的に取り組む海洋人材の育成に努めている。

4 国際化・部活動の活躍

直近のトピックスとして、国際交流の強化と地域・部活動の活躍が挙げられる。2025年にはパラオ高校との姉妹校締結が完了し、太平洋島嶼国との教育交流が新たな段階に入った。このことは海洋という共通基盤で結ばれた地域が、資源管理・環境保全・海洋文化の継承に向けて学び合う重要な起点を意味する。

部活動でも、セーリング部やカッター（端艇）部、

釣り部など海に直結する部が躍進し、2024年におけるカッター部の全国制覇、セーリング部による全国大会等への出場、潜水部の文部科学大臣杯等の栄誉が続いた。これらの経験は、海技・気象読解・チームワーク・安全管理など、教室では学びきれない海に関わる技能を磨く機会となった。

寄宿舎（ドミトリー）を基盤にした生活・学習においても、島嶼の地域社会との交流や、学期ごとの一斉帰省・一斉帰舎、寄宿舎特有の行事を通して、共同生活の規律・自律・協働の精神を育み続けている。

5 これからの10年に向けて

気候変動、資源管理、海洋プラスチック、ブルーエコノミー等、海をめぐる課題は複層化し、海洋教育の役割はますます重要になっている。水産庁「水産白書」でも、資源の持続可能な利用、漁業の高付加価値化、地域連携の強化などが継続的な政策テーマとして示されており、学校教育においても課題探究と実践の往復が求められる。

本校にとって、実習船と島のフィールドは最大の資産である。航海・観測・飼育・産業連携・スポーツ・国際交流を編み合わせ、海に学び、海で試し、海へ返す学びの循環をさらに強固にしていきたい。そのうえで、次の10年に向けての重点は、安全・環境・データの三位一体化（航海安全の高度化、環境配慮の徹底、データ活用の標準化）、探究の深化と発信（課題設定・検証・成果の社会発信までを一貫設計）、国際・地域協働の常態化（太平洋地域校・大学・企業との連携を恒常的な運用）である。2025年に芽が出た国際連携を、共同研究・航海・交流授業へと拡張し、東京の水産系高校が世界の海洋教育と肩を並べる姿を描いている。

本校の教育力は、島の自然・寄宿舎の生活・実習船の機能・部活動の躍動・地域と世界のつながり等、その総体に支えられている。海とともにある学びは、ときに厳しく、常に豊かである。ここで育った若者たちは、海を知り、海を敬い、未来を拓く人材として、それぞれの進路で活躍を続けていこう。今後も、東京都における水産系専門教育のフラグシップとして、海と社会の持続可能な未来に貢献していきたい。



工業教育の DNA を未来へ — 東京私立工業高校 10 年の歩み —

岩倉高等学校長 森田 勉
(東京私立工業校長会 会長)

1 はじめに

東京都産業教育振興会が創立 70 周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げますとともに、日頃より東京私立工業校長会（以下東私工）の活動を応援していただき厚く御礼申し上げます。誠に有り難うございます。

東私工にとってこの 10 年を振り返るならば、それは「厳しい 10 年間」でした。

昭和 25 年（1950 年）の設立以来 75 年の歴史を刻み、会員校は一時 30 校を超えましたが、20 年前は 9 校、10 年前は 6 校、そして令和 7 年度 4 月現在では 4 校*¹となりました。この間 2 校*²が工業科を廃科し、退会しました。全国的にも専門高校の再編や普通科志向の強まりが顕著であり、産業教育を取り巻く環境は一層厳しくなっています。

本稿では現存 4 校の取り組みと厳しい状況、退会校の様子を紹介し、最後に提言を述べます。

* 1：岩倉高等学校、大森学園高等学校、
昭和鉄道高等学校、東京実業高等学校

* 2：昭和第一学園高等学校、
日本工業大学駒場高等学校

2 東私工 4 校の現状

大森学園高校と東京実業高校は純粋な工業科を維持しています。大森学園高校は工業科 80 名、東京実業高校は 45 名（機械科 15 名、電気科 30 名）の定員です。両校が存続できている一因は、大田区蒲田という地場産業との結びつきの強さです。ただし普通科設置以降は普通科の募集が上回っています。

大森学園高校は 2015 年に工業科をコース制へ移

行し、3D プリンタを導入するなど ICT 教育を拡充、2024 年には DX ハイスクール認定を受けました。Society5.0 時代に対応する教育を展開し、「デジタルものづくり」を意識した実践が広がっています。

東京実業高校は機械・電気・ゲーム IT・普通科に分け、生徒の適性や志向に合わせた教育を実施。基礎学力の定着と自己の強み発見を重視し、職業観やキャリア形成につながる学びを提供しています。特にゲーム IT 分野は時代のニーズに即しており、情報処理技術者資格取得やプログラミングコンテスト参加など、生徒の成果が着実に現れています。

昭和鉄道高校と岩倉高校は鉄道・運輸分野の特色を持ち、純粋な工業科とは異なります。昭和鉄道高校は鉄道科に特化しつつ、ホテルや銀行、バス会社など幅広い業種で活躍できる教育を実践。座学に加え、インターンシップや工場見学で主体性を養い、「人と関わる力」を磨いています。

岩倉高校は 1897 年創立、現在は運輸科 120 名と普通科 300 名を併設。「工業技術基礎」を 2 年次に設け、豆ジャッキ製作、機械製図・CAD、溶接・手仕上げ、ロボット制御の 4 実習で工業の“DNA”を継承しています。こうした学びは単なる技能習得にとどまらず、「ものづくりを通して課題解決に挑む力」や「仲間と協働する姿勢」を育むものです。近年は海外の高校や企業との交流も視野に入れ、グローバルな視点から産業教育の新たな可能性を探っています。

3 東私工を取り巻く厳しい要因

第一は大学進学志向の高まりです。かつての職

業教育は進学率向上をめざすことと乖離し、工業科維持は困難になりました。保護者や生徒の期待が「進学実績」に偏る現実は大きな壁です。

第二はDX・AI時代への対応です。設備の老朽化、生徒の学力水準との乖離など課題が多く、高度技術に対応できる教育体制構築は容易ではありません。教育内容の刷新と並行して、教職員のスキル更新も不可欠です。

第三は莫大な投資負担です。最新設備導入には授業料値上げが必要ですが、安定的な生徒確保が見込めない以上、現実的に難しいのが実情です。自治体や企業との協力をどう得るかが今後の鍵となります。

第四は専門教員不足です。工業免許取得者は減少し、人材確保は極めて困難です。採用が難しいだけでなく、若手教員の養成にも時間がかかるため、長期的課題といえます。

このように状況は厳しさを増していますが、各校は知恵を絞り、新しい教育モデルを模索しています。「普通科に工業の要素を取り入れる」「探究活動にものづくりを生かす」といった挑戦は、逆境の中から生まれた創意工夫であり、時代に即した形で工業教育の意義を再定義しているとも言えます。

4 退会した2校の取り組み

日工大駒場高校は2021年に工業科募集を停止しました。併設中学校の不振が大きな要因で、大学進学重視に舵を切らざるを得ませんでした。現在は中学校で週2時間「技術」、高校普通科の文理未来コースでも週2時間の「ものづくり」を設け、ものづくり体験を継続。規模は縮小しても「工業教育のDNA」を意識的に継承しています。生徒の中にはこの授業をきっかけに工学系大学を志す者もあり、小さくとも確かな芽を育てています。

昭和第一学園高校は2022年に工学科募集を停止し、普通科に「文理」「探究」コースを設置しました。「探究」では7分野を設定し、インターンシップや社会人講話など体験的学習を行い、その中に工業

系デザインを取り入れています。工業教育のエッセンスを、形を変えて残しているのです。こうした柔軟な再編は、専門性を完全に手放さず、多様な進路に対応する現実的選択でした。

5 おわりに

「ものづくり」の楽しさと社会への貢献を考えると、産業教育の灯を絶やさぬ努力が求められます。私立工業高校の専門課程は減少しましたが、「つくる楽しさ」「工夫する喜び」の体験は普通科教育にも活かされるべきものです。そのエッセンス＝“DNA”を継承することは不可欠です。

これからの10年に求められるのは、工業教育を単なる技術伝承にとどめず、社会を創造する力として再構築する視点です。AIやロボットが普及する時代だからこそ、人間にしかできない発想力・協働力を育む「ものづくり教育」は、その価値を増していくでしょう。今後は産業界や大学とのさらなる連携、海外との教育交流、地域社会との協働など、多方面に開かれた取り組みが不可欠です。工業教育を「閉じた専門分野」から「未来を切り拓く学び」へと発展させていくことが、私たちに課せられた使命と考えています。

今後も各校は特色を発揮しつつ、独自の建学の精神と志をもって生徒に向き合う教育を展開していきます。

東京都産業教育振興会におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



小中学生向け「ロボットプログラミング教室」
(9月20日 岩倉高校文化祭より)



東京の私立商業高校 10年の歩み

安部学院高等学校長 安部 元彦
(東京私立商業校長会 会長)

1 はじめに

現在、東京には商業学科を設置する私立高校は愛国高等学校、京華商業高等学校、中央学院大学中央高等学校、安部学院高等学校の4校が存在します。これらの学校は、かつて「簿記・珠算・ビジネスマナー」を中心に、即戦力となる人材育成を目的としていました。しかし、過去10年で社会構造や教育制度が大きく変化し、商業高校は新たな役割を模索する時代に入っています。

2 東京の私立商業高校の現状

東京私立商業校長会の会員校は、10年前は6校でしたが、京北学園白山高等学校、村田女子高等学校が商業科を廃科して退会し、令和7年度4月現在では愛国高等学校、京華商業高等学校、中央学院大学中央高等学校、安部学院高等学校の4校となりました。全国的にも専門高校の再編や普通科志向の強まりが顕著であり、私立商業高校を取り巻く環境は一層厳しくなっています。

以下に、各私立商業高校の概要を記します。

(1) 愛国高等学校 (江戸川区)

<設置学科> 普通科、商業科、家政科、衛生看護科

<商業科>

- ・コース：会計コース・情報処理コース
- ・特徴：簿記や情報処理などビジネスに役立つ

知識を習得

<概要>

愛国高等学校は女子教育を基盤に、普通科をはじめ家政科・衛生看護科・商業科を設置し、専門教育を充実させてきました。過去10年では、看護師資格取得や保育分野への進学支援を強化し、

ICT教育やキャリア教育を導入。専門性を生かす為に進学率が向上し、部活動ではソフトボール部が全国大会で上位入賞するなど、スポーツ面でも成果を挙げています。

(2) 京華商業高等学校 (文京区)

<設置学科> 商業科

<商業科>

- ・この学科の中で、2年次から大学進学コース、情報処理コース、ビジネスコースの3つの専門コースに分かれます。
- ・1年次は共通カリキュラムで基礎学習を行い、2年次から進路に応じたコース選択が可能です。

<概要>

1901年創立の歴史ある商業高校で、首都圏唯一の私立共学商業高校として特色を強化しています。過去10年は「情報処理」「ビジネス」「大学進学」など多様なコースを整備し、ICT教育や英語教育を充実させました。マーチングバンド部の全国大会出場など文化活動も活発で、大学進学希望者の増加が顕著です。

(3) 中央学院大学中央高等学校 (江東区)

<設置学科> 普通科、商業科

<商業科>

- ・簿記や情報処理などの資格取得を積極的にサポートし、商業の専門知識や技術を学びます。
- ・就職や専門学校進学、大学の商学部・経済学部への進学にも強い学科です。

<概要>

大学附属校として、進学を視野に入れた商業教育を展開しています。簿記・情報処理・マーケティングなど専門科目に加え、大学連携によるキャリ

ア教育を強化。系列大学への進学率は安定して高く、資格取得も積極的に推進しています。

(4) 安部学院高等学校（北区）

＜設置学科＞商業科

＜商業科＞

- ・東京都内で唯一の女子商業高校です。
- ・1年次は共通カリキュラムで商業の基礎を学び、2年次から簿記・パソコン・電卓・ビジネスマナー等の授業を科目選択制で履修します。
- ・授業内容は資格試験に直結しており、簿記・情報処理・電卓・ビジネスマナーなどの検定取得を積極的にサポートしています。

＜概要＞

商業教育を基礎に「簿記・情報・電卓・ビジネス・進学」を重視したカリキュラムを展開しています。簿記・情報処理・英語・小論文対策を強化し、大学進学向上を実践しています。今年度（2025年度）からは、石巻専修大学との高大連携活動を始め、商業教育の枠を超えた総合教育を目指しています。

3 過去 10 年間の変化と改革

過去 10 年間、東京の私立商業高校は大きな転換期を迎えてきました。少子化や大学進学志向の高まりにより、従来の「資格取得と就職重視」という商業高校の役割は見直され、進学対応や実践的ビジネス教育へのシフトが進んでいます。

(1) 生徒数減少と学科再編

2010 年代後半から続く少子化の影響で、商業科の入学者は減少傾向にありました。これに対応するため、多くの私立校では普通科との併設やコース制導入を進め、商業教育単独ではなく「情報ビジネス」「国際コミュニケーション」などの専門コースを設置しました。例えば、愛国高校や京華商業高校では、商業科を基盤にしながら ICT 教育や語学教育を強化し、進学にも対応できるカリキュラムを整備しています。

(2) ICT 化と学びの高度化

この 10 年で最も顕著な変化は ICT 教育の充実

です。東京都教育委員会は「TOKYO スマート・スクール・プロジェクト」を推進し、GIGA スクール構想に基づき生徒一人一台端末を整備。さらに、デジタル教科書や LMS（学習管理システム）を導入し、個別最適化学習と協働的学びを実現する「新たな教育のスタイル」を展開しました。商業高校でもクラウド会計、データ分析、マーケティング実習など、デジタルスキルを重視するカリキュラムが増加しています。私立商業高校でもクラウド会計ソフトやデータ分析ツールを活用した授業、オンライン教材の導入が進み、従来の簿記・珠算中心から「情報処理・マーケティング・デジタルビジネス」へと学習内容が広がりました。

(3) 地域・企業との連携強化

近年は、地域商店街や企業と連携した商品開発やマーケティング実習が増加しました。生徒が実際に企画・販売を体験することで、単なる資格取得にとどまらない「実践力」や「課題解決力」を養成する狙いがあります。こうした活動は、商業高校の魅力向上と地域活性化の両面で評価されています。

(4) 進学対応とキャリア教育

かつて商業高校は「就職に強い」ことが特徴でしたが、現在は大学・専門学校進学率が上昇しています。そのため、私立校では英語教育や小論文指導、資格取得と進学準備を両立させるカリキュラムを整備しています。

4 おわりに

東京都の私立商業高校は、過去 10 年で「資格取得・就職」中心から「進学・キャリア形成」へと大きく変化しました。ICT 教育、グローバル対応、産業界との連携など、社会の変化に即応する柔軟性が求められています。

今後も「資格取得」「ICT 教育」「探究学習」を柱に社会で即戦力となる人材育成を目指します。



高等学校看護教育 この10年 大学編入学・新カリキュラム・COVID-19

愛国高等学校・愛国高等学校衛生看護専攻科

校長 織田 奈美

1 高等学校における看護教育

高等学校における看護教育は1964年に中学校卒業を入学要件とする准看護師養成施設として始まり、現在看護に関する学科を設置する高等学校の教育課程は【5年一貫教育】【准看護師教育】【看護専攻科教育】【看護進学教育】【技能連携高校】となりました。

令和7年度は北海道から九州・奄美まで全国99の看護高校が連携して研鑽を重ねています。

2 学校概要

愛国高等学校は学校法人愛国学園を経営母体とし、校訓を「親切正直」と定めて1938年に創立された女子校です。江戸川区・小岩に位置し、衛生看護科とともに普通科・商業科・家政科（調理師養成施設指定）を設置しています。

本校の看護教育は1966年の衛生看護科開設に始まり、1980年に看護師2年課程の衛生看護専攻科を設置、高校卒業時に准看護師資格を取得し専攻科に進学して【20歳で看護師】を目指します。また、都内唯一の看護高校として東京の産業教育充実の責任を感じつつ、社会に貢献する人材の育成に努めています。

3 2016年 専攻科修了生の大学編入学

2015年6月、全国看護高等学校長協会の長年の念願であった大学編入学に関する「専攻科生の大学への編入法案」が成立して編入制度が創設され、関係省令によって2016年4月から専攻科修了生に大学編入学の途が開かれました。この制度の導入により本校卒業生も保健師資格取得のため医科大学看護学部3年に編入し、学内でも数少ない看護師資格を持ち豊富な臨地実習を経験した優秀な学生として活躍しています。

4 2022年度・2023年度 新カリキュラム適用

厚生労働省医政局看護課の「看護基礎教育検討会」の報告書を受け、少子高齢化が一層進む中で【地域医療構想の実現】【地域包括ケアシステム構築の推進】【AIなどへの対応】等を踏まえてカリ

キュラムが改定されました。

准看護師課程では2022年度入学生から新カリキュラムが適用され、養成所における教育の標準化を図るため新たに「准看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」が策定され、2023年度入学生から新カリキュラムとなった看護師2年課程では地域医療に関わる「地域・在宅看護論」も重要視されました。2月の看護師国家試験に合格した専攻科生は、大学病院や地域基幹病院への就職だけでなく、大学編入学・助産師学校進学・国立大学養護教諭特別別科に進学するなど、その進路は多岐に亘っています。

5 2020年 新型コロナウイルス感染症対応

高等学校看護教育の10年を語る上で特筆すべきは新型コロナウイルス感染症COVID-19への対応です。

2020年1月に国内でも感染が確認された未知のウイルスは世界中を席卷し、変異を重ね人々を苦しめました。東京は特に感染拡大が心配されましたが、多くの制限の中でも慎重かつ臆することなく看護教育を継続しました。安全な学校運営のため公的機関からの指示を守り、学校医はじめ公衆衛生・感染症関係の医師講師と綿密に相談をし、2023年5月に5類感染症に変更されるまで一度も学級閉鎖に至りませんでした。

看護科の実技の授業ではフェイスシールド着用はじめ病院を模した対策で万全を期しました。10月からの臨地実習は見学のみ为数日間でしたが、緊迫した病棟の様子に生徒も引率職員も身が引き締まりました。

病院などが実習生受け入れ停止となった期間は、文部科学省・厚生労働省のガイドラインに従い校内演習で代替しました。人体・フジシカルアセスメントや老人介護など多種多様のモデルや多職種連携ハイブリッドシミュレーターを用いて実習再開に備えました。パイパーペイシエント（紙上患者：学習用に病状を設定した架空の患者）を演ずる教員から情報を収集して検討するという模擬実習や、生徒同士のロールプレイング演習なども

行いました。専攻科では大学病院の教育担当者と生徒とでオンラインでのケースカンファレンスや実習反省会を行うこともありました。

感染が落ち着き各施設で臨地実習を行う際は、安心安全のために1日4回検温し無症状の肺炎の有無の確認のため酸素飽和度の測定を行うこともありました。施設によっては看護対象者のマスク着用が難しいこともあり、何度かPCR検査を実施しました。

6 江戸川区・医師会・保健所からの支援と連携

新型コロナウイルス感染症への対応をする中で、地元の江戸川区・江戸川区医師会・江戸川区健康サポートセンターには多大なご支援をいただきました。

*校内の看護実習室で早期のワクチン接種

2021年は社会的に新型コロナワクチン接種の普及が急がれていましたが、ワクチン確保は困難な状況でした。そのような中、江戸川区と江戸川区医師会のご支援で「医療従事者に準じる者」として学校医と医師講師が出動下さり、早期に看護科の生徒・教職員に2回のワクチン接種を実施することができました。これにより実習受け入れ可能となった施設もありました。

*江戸川区の要請を受けて感染症対策に協力

2022年1月、感染が急拡大して多くの罹患者が自宅療養を余儀なくされた際、江戸川区長から【愛国高等学校衛生看護専攻科に在籍する看護学生の専門性を活かした業務の一部への協力要請】がありました。准看護師有資格者の責務と考へて直ちに班編成をし、要請翌日の2月1日から専攻科1年生を、2月13日の看護師国家試験終了後には2年生を江戸川区健康サポートセンターのサテライトに派遣し、保健師のご指導の下で電話により自宅で療養なさる方への保健・予防・衛生・医療安全などを支援する業務を行いました。

生徒たちは「臨地実習ができなかったコロナ世代」ではなく「コロナの中で多くを学んだ頼れる世代」「看護学生としてコロナと戦った世代」として、厳しい状況下でも病める方に寄り添い不安な心を照らす燈火となるための貴重な経験をさせていただきました。



7 第59回を迎えた「戴帽式」

本校では筆記試験・実技試験に合格した高校2年生を対象に11月に「戴帽式」を挙げており今年で59回を数えました。式はナースキャップを戴く「戴帽の儀」とキャンドルサービスの「点火の儀」で構成されます。純白のナースキャップは純潔・博愛・高貴を象徴し、蝋燭の灯は近代看護の創始者フローレンス・ナイチンゲールの看護の精神を継承するものです。その功績に敬意を表して制定された「ナイチンゲール誓詞」を全員で唱和し看護の途を歩むと誓うことで看護学生として認められ、ようやく臨地実習が許可されます。

各病院ではキャップが廃止されて久しく巡視で実際の火を用いることもありませんが、幼い頃からの夢を実現しようと15歳から看護の途を歩んでいる高校生やそれを応援し続けているご家庭の方にとって、戴帽式は単なるセレモニーではありません。軽いはずのキャップに託された責任の重さ。揺らぐと消えてしまう繊細なキャンドルの火。使わないものは不要。LEDなら安定の明るさ。それでも、涙を浮かべあるいは満面の笑みでキャップを戴く戴帽生。命のように大切に灯火を護り慎重に歩みを進める戴帽生。この瞬間こそ将来看護職者とし立ち返るべき原点だと思ひます。



8 結びに

看護の臨地実習は患者さんやご家族のご理解ご協力が不可欠です。ご高齢でご逝去なされた本校職員のご母堂様は、看護学生が作成した療養生活のための手作りのパンフレットを大切になさっていたそうです。

「母はお世話をしてもらえばかりだと思ひていましたが、人生の終わりに人の役に立たんですね。私は母を誇りに思ひます。」

感謝とともにこの言葉を深く心に刻み、生徒ともども精進してまいります。

今後も高等学校看護教育へのご指導ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



中学校技術・家庭科教育

この 10 年の歩み、そして展望・提言

東村山市立東村山第七中学校長 阿久津 健一

1 はじめに

東京都産業教育振興会 70 周年、誠におめでとうございます。

平成 27 年に 60 周年を迎え、さらに 10 年の時が流れ、その速さに驚くばかりです。諸先輩、関係者の皆様の築かれてきた歴史の厚さ、重みに敬意と感謝を申し上げたい所存です。

中学校技術・家庭科は、社会の変化に対応しながら、生徒一人一人が「生きて働く知識・技能」を獲得し、豊かな生活を創造する力を育む教科として発展してきました。この 10 年間、急速な情報化・グローバル化、そして環境・エネルギー問題の顕在化により、子どもたちの生活を取り巻く環境は大きく変化しました。それに伴い、技術・家庭科に求められる学びの内容も、単なる技能の習得から、持続可能な社会を構築するための思考力・判断力・実践力へと拡張しています。どのような時代においても「生きる力」をはぐくみ、よりよい社会を築くことのできる人材の育成は不易であり、産業教育がその役割を担っていると自信をもって言えることです。

2 この 10 年の歩み（多様化する教育と産業の接点）

2010 年代後半から現代にいたるまでの 10 年間は、ICT 技術の進展、AI の急速な普及、そしてグローバル化の拡大など、産業構造が劇的に変化した時代でした。中学校技術・家庭科の学習指導要領改訂では、プログラミングをはじめとする情報技術や環境に配慮した消費など、現代的な課題への対応が協調されました。東京都では、これに先んじて ICT を活用した教材研究や、生徒の創意工夫を

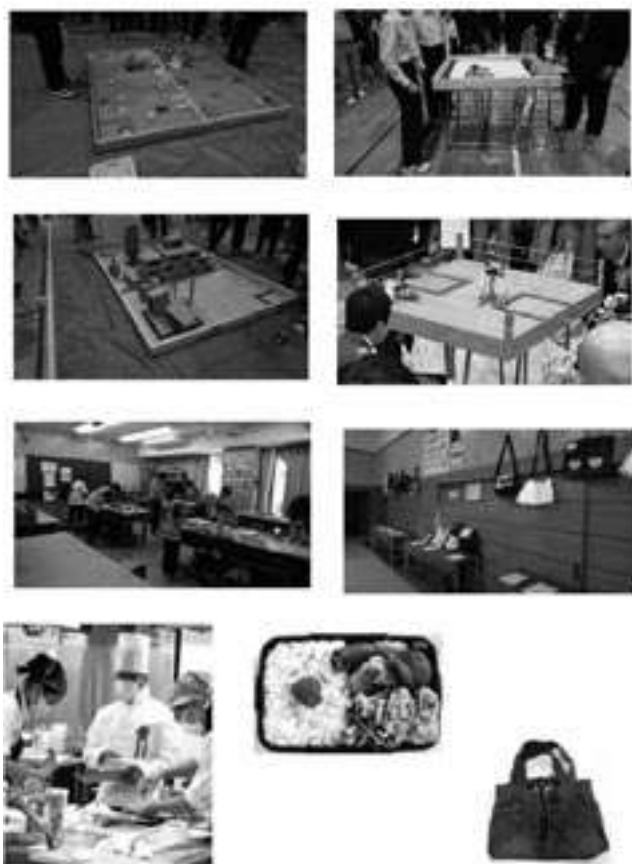
伸ばす「ものづくり教育」に重点を置いた研修が展開されています。

また、技術分野では、材料加工・電気・機械・情報・生物育成などの基礎を体系的に学ぶ中で、「設計から製作、評価までを一貫して考える力」を育てる授業が拡大しました。特に、プログラミング学習やセンサー制御などを用いた「スマートものづくり」への取組は産業構造の変化を意識した教育ないよとしても注目されています。さらに、環境問題を踏まえた省エネルギー教材、再生可能エネルギーの実験教材の開発も進み、環境と技術を総合的に捉える視点が育まれています。

家庭分野では、持続可能な生活を意識した学習の重視が進みました。食生活・衣生活・住生活・消費生活の基礎を学びながら、エコライフや防災、地域の伝統の継承等、生活の中での実践的な取組につなげる学習、家庭生活から広がり、地域・社会に参画する意識の形成など、多様な学びが行われました。特に近年のコロナ禍においては、健康管理・衛生・生活設計の重要性が再確認され、生活科学を基にした新たな教材開発が進みました。また、オンライン学習や映像教材の導入により、家庭科の学びも ICT を活用した授業へと変化しています。

研究や研修において、学校間・官民間の連携が一層強まり、授業改善に実践交流も活発化しています。「創造ものづくり教育フェア」や研究発表会では、「創造アイデアロボットコンテスト」、「木工チャレンジコンテスト」、「豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール」、「あなたのためのお弁当コンクール」、作品展示・発表を通じて学習成果が社会に広く紹介され、学校教育と産業社会との結

びつきが深まりました。これらの活動は、技術・家庭科が「生活と産業をつなぐ教育」として位置付けられていることを示しています。



3 新しい時代にむけての展望・提言

社会は今、生成 AI や IoT、再生可能エネルギー、サーキュラーエコノミーの発展などにより、人と技術・産業との関係が大きく変わりつつあります。こうした変化の中で、技術・家庭科教育には次のような展望と課題があると考えます。

第一に、「実生活と科学技術をつなぐ総合的な学び」の深化です。単なる操作や制作ではなく、社会の課題を発見し、技術と家庭の両面から解決策を構想する力を育てることが求められています。そのためには、学校でのものづくりを、地域産業・地場技術・地球環境問題と関連付けて考える授業設計が必要です。

第二に、「探求的・協働的な学び」の推進です。ICT や AI を活用したデザイン思考、データ分析、3D モデリングなどを取り入れ、生徒同士が協働して課題を解決する学習活動を拡充したいものです。

これにより、生徒は自らの学びを社会と結び付け、将来の職業観の形成に発展することができます。

第三に、「持続可能で包括的な社会に貢献する生活技術教育」の確立です。家庭科では、ジェンダー平等、消費の倫理、食と環境の持続可能性などを通じて、より広い社会的視点を育みたいのです。技術分野と連携することで、資源環境や省エネルギーの具体的実践も促進できます。

最後に、教員の専門性向上が欠かせません。新しい教材・機器の登場や教育デジタル化に対応するため、研究部活動や研修体制を強化し、指導・評価法の共有を進めることが重要です。

4 おわりに（変わらぬ理念を胸に）

創立 70 周年を迎えた今、本会が歩んできた道を振り返るとき、そこには常に「人を育てる教育」の確かな軸がありました。時代が変わり、技術が進歩しても、その根底にあるのは「人を尊重し、社会を支える力を育てる」という理念です。教育と産業が手を取り合い、未来の東京を、そして日本の産業を支えていくために、私たちはこれからも挑戦し続けていく必要があります。

産業教育の価値は、単なる「専門技術の伝承」ではなく、「人を育てる営み」であるということ。技術の向上はもちろん大切ですが、それ以上に重要なのは、そこに誇りと責任をもち、人として成長する姿です。

社会がどれほど変化しても、産業教育が果たすべき使命は変わりません。

私たちは改めて、その歩みの中で培われてきた精神を胸に刻みます。

ものづくりはひとづくり

この言葉に込められた想いを、次の世代へ、そして未来へ確かな形でつなげていくことが、これからの産業教育の最大の使命です。

これからも東京都産業教育振興会の発展を願っております。



「学生ファースト」を理念とする専修学校の振興と発展に向けて

公益社団法人東京都専修学校各種学校協会会長

学校法人電子学園 日本電子専門学校 理事長 多 忠 貴

1 はじめに

昭和50年に行われた学校教育法の一部改正によって専修学校制度が制定されて以来、専修学校では常に社会や時代のニーズに応えるべく、一貫して実践的な職業教育を推進してきた。制度発足から半世紀という節目を迎えた現在、全国で2975校を数える専修学校において、62万人を超える学生・生徒が多様な職業分野におけるスペシャリストを目指して、知識や技能の修得に努めている。また、専修学校の中で大きなウエイトを占める専門課程（以下、専門学校）では、これまで1000万人を超える専門職人材を輩出し、産業界から高い評価をいただいている。

一方、現代社会に目を向ければ、生成AIやDX等、先端テクノロジーの進展による技術革新や産業構造の変化、国際競争の激化、止まる見込みのない少子高齢化などの影響によって、私達を取り巻く社会環境は大きな変革期を迎えている。

このような時代を迎えるにあたり、専修学校が果たすべき役割や、産業界から寄せられる期待は極めて大きいと言っても過言ではない。

2 専修学校における制度改革

こうした状況の下、近年においては、専修学校の課題とされる「教育の質保証」や「学校運営の健全化」等を目途とした様々な制度改革が進んできた。

その中でも特筆すべきは令和6年に成立した改正学校教育法であるが、これに端を発したのは、公益社団法人東京都専修学校各種学校協会が所管する専修学校振興構想懇談会 専門学校検討部会からの提言「職業教育体系の確立」である。この部会では、専門学校制度の今後の展開、専門学校教育の質保証・高度化・国際通用性、リカレント教育や留学生への対応等、多岐に渡るテーマについ

て議論・整理し、本提言を取り纏めた。

この提言が、文部科学省の「専修学校の質の保証・向上に関する調査研究協力者会議」に取り上げていただき、専修学校における教育の充実を目的とした「専門学校の制度改革案」として通常国会に上程され、審議・可決に至った。これによって改正学校教育法が成立し、令和8年4月から施行される。

この法改正では、「人生100年時代やデジタル社会の進展の中で、職業に結びつく実践的な知識・技能・技術や資格の修得に向けて、リスキリング・リカレント教育を含めた職業教育の重要性が高まっていること等を踏まえ、専修学校における教育の充実を図る」ことを趣旨とし、「大学等との制度的整合性を高めるための措置」「専門課程修了者の学修継続の機会確保や社会的評価の向上のための措置」「教育の質の保証を図るための措置」が講じられる。具体的には、単位制の導入や専攻科の設置、外部の識見を有する者による評価（第三者評価）受審の努力義務化等が挙げられており、高等教育機関における専門学校の位置付けがより明確化されることとなる。

この法改正以外に行われた主な制度改革について、以下に記しておく。

■修学支援新制度の開始（令和2年）

教育の機会均等及び少子化対策の観点から、公費による全国的な制度として、専門学校を含めた高等教育の修学支援新制度が開始され、一定の要件を満たした学生や大学等に対して、授業料等の減免や給付型奨学金の付与を適用している。本制度は、令和2年の開始以降、順次拡充され、令和7年度からは、高等教育費を理由として理想の数の子供を諦めることがない社会の実現に寄与すべく、多子世帯の学生等に対して所得制限を設けず、

大学等の授業料・入学金を国が定めた一定額まで減額・免除している。

■職業実践専門課程認定校への特別交付税措置の開始（令和4年）

職業実践専門課程は、専門学校の中で、企業等と密接に連携し、最新の実務知識・技術を習得できる実践的な職業教育を行っている学科を、文部科学大臣が認定する制度である。本課程では、企業等と連携したカリキュラムや実習の実施、最新の設備導入、教員の実務研修等によって、より実践的な職業教育を提供するために一定の費用が発生することを踏まえ、令和7年1月の時点で、38の都道府県が運営費補助を行っていることから、この促進に向けて、令和4年から国による特別交付税措置が講じられている。

■改正私立学校法の成立（令和5年）

我が国の公教育を支える私立学校が、社会の信頼を得て、一層発展していくため、社会の要請に応え得る実効性のあるガバナンス改革を推進するため、令和5年に改正私立学校法が成立した。具体的には、「執行と監視・監督の役割の明確化・分離」という考え方から、理事・理事会、監事及び評議員・評議員会の権限分配を整理し、私立学校の特性に応じた形で「建設的な協働と相互けん制」を確立することを目的として、令和7年4月から施行されており、学校運営の健全化の一翼を担っている。

■外国人留学生キャリア形成促進プログラムの制度化（令和5年）

就労のための在留資格である「技術・人文知識・国際業務」を決定する際、「教育機関での専攻科目」と「従事しようとする業務」との関連性の判断において、大学の卒業生については「柔軟化」が図られている一方、専門学校の卒業生については「相当程度の関連性」が求められていた。

こうした実態を踏まえ、外国人留学生に対して質の高い教育を行っているものとして文部科学大臣が認定した専門学校（＝外国人留学生キャリア形成促進プログラム認定校）の卒業生については、大学の卒業生と同等の柔軟運用が図られるとともに、高度専門士の称号が付与された者については、

新たに特定活動（告示第46号）の対象となることとなった。

■高等専修学校への特別交付税措置の開始（令和7年）

多様な個性・特性を持つ生徒を幅広く受け入れ、「学びのセーフティーネット」としての役割を果たしている高等専修学校において、令和7年4月より、特別の支援を要する生徒（発達障害のある生徒等）や不登校の生徒への支援のために、追加的に必要となる経費に対し、都道府県が行っている補助について特別交付税措置が開始され、高等専修学校に対する補助制度の創設・充実に向けた機運の醸成について期待が高まっている。

3 専修学校の振興と発展に向けて

こうした様々な制度改革が進む中において、専修学校では、それぞれの制度に対して適切に取り組み、「教育の質の更なる保証・向上」と「学校運営の健全化」に努めることが肝要であることは論を俟たない。

では、この「教育の質保証」や「学校運営の健全化」は誰のために行うのか？それは、専修学校で学ぶ学生・生徒のために行うべきものである。

専修学校には、毎年多様な学生・生徒が入学を果たしている。大学全入と言われて久しい今日において「とりあえず大学へ」という風潮に流されない高校新卒者。様々な環境を経て学び直しにチャレンジする社会人。自分らしい生き方・学び方を追求する高等専修学校への進学者。勇気と希望を胸に海を渡ってくる留学生。

このようなそれぞれの想いから、専修学校を選択し、自身の夢や希望を叶えようとする学生・生徒の期待に応え続けていくことが、専修学校に携わる者の共通の責務である。そして、その期待は、「質の高い実践的な教育」と「安心して学べる学習環境」に寄せられている。

事程左様に、「専修学校で学ぶ学生や生徒のために」という「学生ファースト」を当協会の理念として位置付け、「教育の質保証」や「学校運営の健全化」に努めることが第一義であり、これがひいては専修学校の振興と発展に繋がるものと確信し、一意専心で尽力を重ねていく。



未来を創るー学びの再構築と専攻科学士課程の充実 ・法人のプレゼンス向上

ー JABEE 受審に向けた組織改編と 2 大学 1 高専連携ー

東京都公立大学法人 理事

東京都立産業技術高等専門学校 校長 吉澤 昌純

1 背景：急速な技術革新と社会構造の激変

東京都が描く「2050 東京戦略」に貢献し、産業界の変革にも迅速に対応できる実践的技術者を育成するためには、急速な技術革新をどのように教育に取り入れていくかが大きな課題でした。途中、2020 年度から 2022 年度には新型コロナウイルス感染症の影響を強く受け、対応に追われましたが、学びの再構築を確実に進めてまいりました。

2 未来を創るー学びの再構築

(1) 両キャンパス共通

両キャンパス共通の取組として、スタートアップ教育支援プログラム「地動計画」を 2023 年度より開始しています。このプログラムは、高専生ならではのものづくりへの興味をもとに、スタートアップに必要な、自らの着眼点やひらめき、疑問を具体化していく経験を積む機会を提供するものです。現在、事業化を目指すアドバンストコースを追加開設し、進化を加速しております。

また、学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を育成することを目的とし、本校は 2024 年度に数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度【リテラシーレベル】に申請、認定されております。

(2) 品川キャンパス

東京都は、東京オリンピック・パラリンピックを控え、サイバー攻撃への対応を喫緊の課題と位置づけておりました。これをきっかけの一つとして、品川キャンパスでは 2016 年度に電子情報工学コース内に、20 名の選抜された学生を対象とした情報セキュリティ技術者育成プログラム (3-5 年)

を新設いたしました。2020 年度に電子情報工学コースを情報システム工学コースに改編したことにより、情報技術者育成の一層の充実を図っております。

生産システム工学コースについては、2020 年度に先端企業が実践するサイバー空間を拡大しフィジカル空間と連携する「デジタルものづくり」技術者育成を目的とした AI スマート工学コースに改編しました。

一方、機械システム工学コースでは、加工に関わる技術者の視点を実践的かつ工学的に教育する点が強みであり、現用機器に対する情報機器の活用を進めることが重要であることを再確認し、ゆくゆくは東京都の加工技術伝承の中核となるため、「デジタル技術を活用した機械工学実習教育の推進」を目指すことといたしました。そこで、東京都立産技大学院大学が本校と連携して獲得した文部科学省の「高度情報専門人材の確保に向けた機能強化」に係る予算等を活用し、総合工場での実習現場に IT 技術を導入し、「デジタル技術伝承」に繋がる総合工場の DX 化の取り組みを開始いたしました。これにより、例えば旋盤加工での様々な作業の定量化が可能となり、作業効率と加工精度に関する新たな知見が得られるようになりました。本取組は実習や検定でのデジタル教材に活用されるに留まらず、他大学との連携も開始しております。

電気電子工学コースについては、グリーンデジタル人材育成のためにカリキュラムの改編を行い、2025 年度に電気電子エネルギー工学コースを開設しました。現在、学生がコースに所属する 2 年進級時に向け、コースの教員が一丸となって新しい

教育提供の準備に注力しています。

(3) 荒川キャンパス

今後の航空需要を見据え、首都圏の空港の機能強化と国際化のために、航空整備技術を有し、かつ技術知識レベルの高度化にも対応できる人材の育成が急務となっておりました。そこで、荒川キャンパスでは2016年度に航空宇宙工学コースから選抜した8名(程度)を対象とした航空技術者育成プログラム(2-5年)を新設しました。

また、東京都が掲げる人生100年時代を実現するため、医学と工学分野の融合・複合を可能にする人材の育成を目指し、「医工連携教育・研究プロジェクト」として「未来工学教育プログラム」、「医工連携共同研究プログラム」、「医工連携ビジネスプログラム」の3プログラムを立ち上げました。未来工学教育プログラムは荒川キャンパス全4コース2年生を対象に12名程度が選抜されるプログラムであり、各コースの教育カリキュラムに加え、オブジェクト指向型プログラミングを基本に、IoT + AI技術の社会実装を学んでおります。更に技術革新や進化が早いIT分野において、より実践的な学びを提供することを目的とし、株式会社ビズリーチとの提携により、企業で活躍するプロフェッショナル人材を「副業先生」として教育現場に招くという試みを開始しております。これにより1年生の導入教育において、最新の知識や実務経験を活かした実践的な講座の提供が可能となっております。

3 本科・専攻科の全校運営体制の実現とJABEE受審

2011年度より日本技術者教育認定(JABEE)の受審を決定、品川キャンパスは国際的共通性を担保のため、機械・電気電子(Engineering)、情報(Science)の3プログラム、荒川キャンパスは各コースの特色から工学(融合複合)1プログラムでの受審となりました。

これに向け2014年度には専攻科が全校体制で運営するよう組織改編がなされました。また同年特例適用認定専攻科の申請を行い、2015年度に認定

を受けることができました。これによりユネスコの学位基準のランクが上がり、本校専攻科修士は国際的にも大学学士相当となっております。また、JABEEではチーム力の強化が求められており、専攻科でのエンジニアリング・デザイン(ED)教育により要求を満足するよう準備を開始しました。

2021年度にJABEEを受審、荒川キャンパスの創造システム工学プログラム、品川キャンパスの機械工学、電気電子工学、情報工学の計4プログラムがJABEE認定を受けることができました。なお、品川の3プログラムについては中間審査が必要となったため、2024年度に受審しております。

4 2大学1高専のプレゼンス創生

東京都公立大学法人は総合大学である東京都立大学、リスクリングに尽力する東京都立産業技術大学院大学、創造的・実践的技術を育成する東京都立産業技術高等専門学校との2大学1高専を有しています。それは世界で唯一の連携を創る可能性を秘めた組織であり、大きなプレゼンスになり得ると考えられます。2018年度より連携基金による共同研究を新たに専攻科Co-Labo.として立ち上げました。これは、専攻科学生が指導教員と連携して研究代表者となり、都立大学、産技大学院大学の修士・博士課程の学生から指導を受けながら国内外の国際会議に出張して発表するものです。

5 結び

高専の教育システムは、理論と実践力を併せ持ち、即戦力となる人材を育成するという特徴を持ち、海外でも「KOSEN」と呼称され高く評価されております。本校でも、本校教員OBが中心となり設立支援を行ったモンゴルコーセン技術カレッジをはじめ複数の海外教育機関と協定を締結し、国際協力という観点で教育の支援を継続しております。

これも東京都、東京都産業教育振興会はじめ、多くの皆様の御支援の賜物と感謝しております。



都立中高一貫教育校における探究学習の取組について

東京都立両国高等学校・附属中学校長 鳥屋尾 史郎

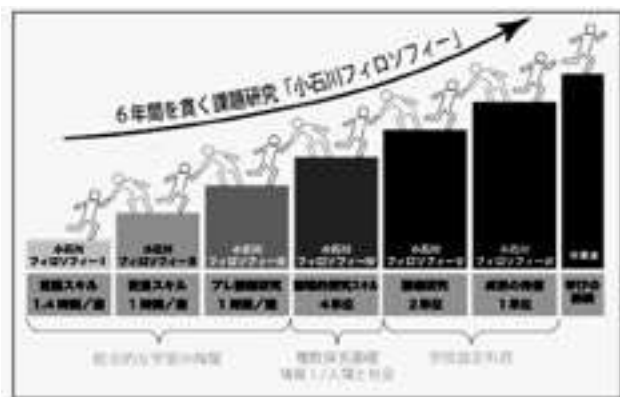
1 はじめに

都立中高一貫教育校では、各校ともこの10年間で探究学習を進展させてきた。私は桜修館中等教育学校校長、小石川中等教育学校校長、両国高等学校・附属中学校校長を歴任してきた経験から、10年を振り返るにあたって、都立中高一貫教育校の探究学習の具体的な取組について、2つの実践例を挙げて考えたい。

2 小石川と両国のそれぞれの探究学習

前任校の小石川中等教育学校の探究学習では、SSHに指定されていることと関連しながら、学校独自教科「小石川フィロソフィー」を生徒たちに取り組みさせている(図1)。生徒の発達段階に応じて、前期課程で言語スキル、数量スキルの向上を図り、前期課程3年生で初めて自分で決めた課題に取り組み、レポートを作成する。後期課程4年生では、情報スキルを習得し、後期課程5年生、6年生で研究課題を完成させる。

図1 「小石川フィロソフィー」



一方の現任校の両国高校・附属中学校では、中学1年生で地域学習、2年生でリサーチクエッションの立て方・探究の進め方、3年生で自分で決め

た課題について中学校卒論を書き発表を行う。高校進学後1年生と2年生ではグループに分かれて、自分たちの決めたテーマの探究学習を行い、発表を行う(図2)。

図2 両国高等学校・附属中学校探究学習



それぞれの学校のカリキュラムの違いはあるけれども、共通している点は、中学校(前期課程)の最初の2年間で探究を行うための基礎的なスキルを身に付けさせ、3年目で初めて自分が決めた課題による探究学習を行い、高校段階(後期課程)でよりレベルの高い探究学習を行って課題解決・まとめを行うという点であり、6年間をかけることで、高い成果を上げることができる。

3 小石川と両国のそれぞれの具体的な成果

生徒たちが選ぶ探究課題は多種多様にわたり、身近なものから大学や大学院で研究テーマとなるような高度な内容に至るまで様々である。両校の探究学習中から、近年高い評価を受けた実践例を一つずつ紹介する。

小石川の実践例として紹介したいのは、ロケット研究・製作についてである。この課題に取り組んでいるのは、物理研究会ロケット班の生徒たちで、前期課程1年生段階から部活動としてロケット研究を行ってきた。ロケット研究・製作の1年目は、モデルロケット大会に出場しても大きな成果を上げることができなかったが、研究を進めロケットの性能を上げることに成功し、研究4年目に至って高校生ロケット全国大会に出場して優勝するようになった。その結果、令和7年度にはパリで開催される高校生のロケット世界大会に出場し、自分たちが製作をしたロケットを飛ばす機会をもつに至った。世界大会ではアメリカ、イギリス、フランスに敗れてメダルの獲得はならなかったが、海外で高い評価を受けた（写真1）。

写真1 パリでのロケット世界大会表彰式



両国高校の実践例として紹介したいのは、古くなって着なくなった和服を吾妻型エコバックに再生し、カプセルトイ（ガチャガチャ）の機械に入れて「ソラマチ七夕まつり」に出店した取組である。この取組を実践したのは「総合的な探究の時間」で同じグループとなった4名の高校2年生である。この研究は高校1年次から進められ、1年次のうちに着物を提供してもらうために江東区や荒川区のリサイクルセンターからの協力を得ることができ、着物をエコバックに再生すること発案する過程で、人気のガチャガチャで販売するという発想が生まれた。2年次には、カプセルトイの機械を会社から提供してもらった協力を得たり、

エコバックの製作を府中刑務所に協力してもらったり、「ソラマチ七夕まつり」実行委員会から出店のスペースの提供を受けたりするなどにより、実際の出店を可能とした（写真2）。この取組はSAGE JAPANで優勝し、さらにSAGE世界大会に出場してSDGs賞を獲得した。

写真2 「ソラマチ七夕まつり」での様子



4 まとめ

以上の2校の実践例から都立中高一貫教育校では、探究学習によって生徒たちの力を伸ばし、高い成果を上げているということが出来る。

生徒たちは「こういうことやってみたい」「こんなことができるようになりたい」という発想があり、その発想を思いつきとして終わらせず、探究課題として、どうすれば実現できるのか、どんな知識や技能を自分たちは身に付けなければならないのかなどを、自分たちで考えることが探究学習の始まりとなっている。これらの取組の重要な点は、いきなり高い目標に取り組むのではなく、段階を追って必要な知識や技能を生徒に獲得させるカリキュラムと、教員から適切な支援や指導を行うことである。探究学習は適切に進めると、自然と横断的になっていき、教科の枠を超えた学習へと育っていく。また、より高度なレベルに進めるためには、専門的な知見をもった地域、公共団体、大学の研究室等との連携、AIなどの最新のテクノロジーを有効に活用することも重要となってくる。こうした従来の教科教育を超えた探究学習が、都立中高一貫教育校から各学校に広がっていき、東京の教育のさらなる発展につながっていくと確信している。

東京都産業教育振興会 この 10 年の歩み

事務局

1 はじめに

本会は昭和 30 年(1955 年) 5 月 26 日に設立され、70 年にわたり、関係者の協力により、東京の産業教育振興に微力を尽くしてきた。

ここでは、60 周年以降の平成 28 年度(2016 年度)から令和 7 年度(2025 年度)までの 10 年間について各事業等を中心に振り返る。

2 歴代会長

本会設立以来の歴代会長と在任期間を以下に示す。

第 1 代 (株)小松製作所社長 河合 良成
昭和 30～31 年(2 年)

第 2 代 三菱製鋼(株)会長 李家 幸
昭和 32～33 年(2 年)

第 3 代 大塚鉄鋼(株)社長 大塚 肇
昭和 34～37 年(4 年)

第 4 代 東京ガス(株)社長 本田 弘敏
昭和 38～46 年(9 年)

第 5 代 月島機械(株)社長 黒板 駿策
昭和 47～平成元年(17 年)

第 6 代 (株)ニチエン化工社長 郷 宗親
平成元～17 年(17 年)

第 7 代 (株)東京都民銀行代表取締役会長
西澤 宏繁
平成 18～令和 7 年(20 年)

平成 28 年度から令和 7 年度までの 10 年間は、平成 18 年度から引き続いて西澤宏繁会長が高邁な見識と、産業教育に深い愛情をもって本会を指導してくださった。

3 会員数

この 10 年間の会員数の変化を以下に示す。

会員数は産業界会員数及び学校会員数が増加傾向にある。

| 年度 | 産業界会員 | 学校会員 | 個人会員 | 合計 |
|-------|-------|------|------|-----|
| 平成 28 | 42 | 516 | 17 | 575 |
| 平成 29 | 48 | 537 | 14 | 599 |
| 平成 30 | 49 | 546 | 14 | 609 |
| 令和元 | 49 | 546 | 14 | 609 |
| 令和 2 | 47 | 550 | 14 | 611 |
| 令和 3 | 54 | 559 | 13 | 626 |
| 令和 4 | 54 | 559 | 13 | 626 |
| 令和 5 | 56 | 557 | 14 | 627 |
| 令和 6 | 54 | 560 | 15 | 629 |
| 令和 7 | 55 | 563 | 16 | 634 |

4 各事業

(1) 講演会

産業教育の啓発事業として、各分野で活躍・研究している方を講師に迎え、毎年 1 回、総会後に講演会を行った。

○平成 28 年度 (株)杉野ゴム化学工業所代表取締役社長 杉野行雄氏 「『江戸っ子 1 号』に賭けた夢」

○平成 29 年度 首都大学東京学長補佐 川上浩良氏 「イノベーションの先に立つ社会、教育」

○平成 30 年度 明和製紙原料株式会社代表取締役会長 小六信和氏 「情熱！古紙リサイクル授業—紙はゴミじゃない！」

○令和元年度 経済産業省教育産業室長 浅野大介氏 「Society5.0 時代の『未来の教室』」

○令和 2 年度 (公財)江川文庫理事 岡部幹彦氏

「興味と関心を原動力にみずから学ぶ力を育む一博物館で新たな学びを一」

○令和3年度 渋沢資料館館長 井上潤氏 「近代日本の創始者 渋沢栄一をさぐる」

○令和4年度 上智大学教授 奈須正裕氏 「令和の日本型学校教育の構築」

○令和5年度 放送大学・千葉大学名誉教授 宮本みち子氏 「コロナ禍を経て、若者はいま」

○令和6年度 (株)価値総合研究所代表取締役会長 栗原美津枝氏 「学校現場の課題と企業の貢献」

○令和7年度 京都橘大学教授 松原仁氏 「A Iによって産業はどう変わるか そのために教育はどう変わるべきか」

(2) 振興奨励事業

① 教育功労者表彰

ア 中学校技術・家庭科教育功労者表彰

地道に技術・家庭科教育に献身している教員に対し、これに報いるため、昭和57年度より技術・家庭科教育功労者選定基準を定め表彰している。平成28年度から令和7年度までに71名が表彰された。

イ 専修学校・短期大学産業教育功労者表彰

平成28年度から令和7年度までに12名が表彰された。

ウ 御下賜金記念産業教育功労者表彰

公益財団法人産業教育振興中央会の表彰規定により選定された本会関係功労者の表彰状伝達式を開き、表彰状の伝達と本会よりの記念品の贈呈を行っている。平成28年度から令和7年度までに214名が表彰された。

② 研究団体に関する助成

農、工、家庭、定通、総合学科の各専門教育関係研究会及び、中学校技術・家庭科研究会の6団体等に対し、その年度事業の資料作成費等研究活動の一部を申請に基づき助成した。

③ 産業教育に関する作文の募集

都内の本会会員である中学校、専門高校、専修学校の生徒・学生を対象に産業教育、技術・家庭科教育に関する作文を募集し、入賞者に賞状、副

賞を授与し、賞外者全員に記念品を贈呈した。また、入賞作品は作文集「明日に生きる」に掲載し、生徒の自覚と学習意欲の高揚に資している。平成28年度から令和7年度までの応募数と入選数は以下のとおりである。

| 校種 | 応募数 | 入選数 |
|------------|------|-----|
| 中学校・中等教育学校 | 1452 | 214 |
| 高等学校 | 1271 | 193 |
| 専修学校 | 115 | 22 |
| 計 | 2838 | 429 |

④ 優良卒業生の選奨

公益財団法人産業教育振興中央会で行っている選奨とともに、本会においても、会員の多数を占める中学校をはじめ、高校、高専、短大並びに専修学校の生徒・学生を対象に、優良卒業生に対して本会会長の表彰状をそれぞれの学校長を通して授与した。平成28年度から令和7年度までの授与数は以下のとおりである。

<東京都産業教育振興会>

| | |
|------------|-------|
| 中学校・中等教育学校 | 9108 |
| 高等学校 | 1975 |
| 専修学校 | 807 |
| 高専・短大 | 142 |
| 計 | 12032 |

<中央会>

| | |
|------|------|
| 高等学校 | 1067 |
| 高専 | 30 |
| 計 | 1100 |

⑤ 後援事業

産業教育の普及向上に寄与する事業を実施する団体等に対して、本会の後援名義の使用を承認した。平成28年度から令和7年度まで69団体69事業(延べ数)に後援名義の使用を承認した。

(3) 産学交流事業

① 産学懇談会

高等学校や専修学校を訪問し授業見学や懇談会を行っている。年2～3回開催し、その内容は会報や会誌に掲載して参考に供した。平成28年度から令和7年度までの開催は以下のとおりであ

る。

- 平成 28 年度 東京 YMCA 医療福祉専門学校、
都立王子総合高等学校
- 平成 29 年度 窪田理容美容専門学校、都立園
芸高等学校
- 平成 30 年度 二葉栄養専門学校、二葉ファッ
ションアカデミー、二葉製菓専
門学校、都立第五商業高等学校
- 令和元年度 東京テクニカルカレッジ、日本工
学院専門学校八王子キャンパス、
都立蔵前工業高等学校
- 令和 2 年度 中央工学校（オンライン）
- 令和 3 年度 都立八丈高等学校（オンライン）、
都立大島海洋国際高等学校（オン
ライン）、都立産業技術高等専門
学校（オンライン）
- 令和 4 年度 都立橋高等学校、都立府中工業高
等学校、読売理工医療福祉専門学
校
- 令和 5 年度 都立第一商業高等学校、都立農業
高等学校、ハリウッド美容専門学
校
- 令和 6 年度 都立赤羽北桜高等学校、都立大島
海洋国際高等学校（実習船「大島
丸」）、日本工学院専門学校蒲田
キャンパス
- 令和 7 年度 都立工芸高等学校、都立瑞穂農芸
高等学校、早稲田速記医療福祉専
門学校

② 産業教育懇談会

ア 西多摩地域産業教育懇談会

平成 30 年度にあきる野商工会と「西多摩で働く人材を育てる産学連携事業」協定書を締結し、都立高校 4 校とあきる野商工会管内の企業との産学連携事業を開始した。令和 2 年度から令和 4 年度までは新型コロナウイルス感染症の影響により活動を休止したが、令和 5 年度から

活動を再開した。平成 6 年度からは商工会関係をあきる野商工会、福生市商工会、羽村市商工会、瑞穂町商工会、日の出町商工会、青梅商工会議所に拡大し、都立高校を都立五日市高等学校、都立秋留台高等学校、都立多摩高等学校、都立羽村市高等学校、都立福生高等学校、都立瑞穂農芸高等学校、都立青梅総合高等学校、都立多摩工科高等学校に拡大した。令和 7 年度からは「西多摩地区産業教育懇談会」と改称した。

イ 葛飾区産業教育懇談会

令和 4 年度から東京商工会議所葛飾支部と連携して、葛飾区の産業人材を育成することを目指して、葛飾区の企業・専門高校・中学校及び葛飾区・葛飾区教育委員会・東京都教育委員会・東京商工会議所葛飾支部・東京都産業教育振興会が参加する「葛飾区産業教育懇談会」を開催した。

この会は葛飾区の産・学・官が一堂に会した産業人育成の取組である。その後、専修学校が参加し、令和 7 年度に第 4 回を開催した。

ウ 大田区産業教育懇談会

令和 7 年 3 月 13 日に東京都産業教育振興会主催で、「第 1 回大田区産業教育懇談会」を開催した。

この会は、大田区内の企業、小学校、中学校、高等学校、専門学校、大田区、大田区教育委員会、東京都教育委員会、一般社団法人大田工業連合会、一般社団法人大田 CP 2 1、東京都産業教育振興会が一堂に会し、情報交換を行うことにより、相互の理解を深め、義務教育から高等学校教育まで一貫した大田区独自のキャリア教育の構築を図り、将来の大田区及び大田区の産業を担う人材の育成に資することを目的としている。その後、東京商工会議所大田支部が参加し、令和 7 年 12 月 8 日に第 2 回を開催した。

③ 専門高校と東京商工会議所会員企業との交流会

令和5年度から東京商工会議所と連携して、「都内工業高校・商業高校の進路指導教員と会員企業との交流会」を年2回開催した。令和6年度からは「都立専門学科高校等の進路指導教員と東商会員企業との交流会」と改称した。

(4) 会誌、会報の発行

① 会誌「東京の産業教育」を年1回発行した。平成28年度から令和7年度までに第54号から第63号まで発行した。

会誌の特集テーマは以下のとおりである。

○平成28年度 特色ある産業教育を目指して
—各校・各学科の取り組み—

○平成29年度 特色ある産業教育を目指して
—各校・各学科の取り組み—

○平成30年度 新しい時代の産業を担う人材育成—各校・各学科の取組—

○令和元年度 新しい時代の産業を担う人材育成—各校・各学科の取組—

○令和2年度 「新しい日常」における産業教育の推進—各校・各学科の取組—

○令和3年度 「新しい日常」における産業教育の推進—各校・各学科の取組—

○令和4年度 主体的・対話的で深い学びを目指した産業教育の推進—各校・各学科の取組—

○令和5年度 主体的・対話的で深い学びを目指した産業教育の推進—各校・各学科の取組—

○令和6年度 産業界や地域と連携した産業教育の推進—各学校・学科の取組—

○令和7年度 東京の産業教育 この10年の歩み、そして提言

② 会報「東京の産業と教育」は年2～3回のペースで発行した。平成28年度から令和7年度までに第150号から第169号まで発行した。

③ 会報「東京の産業教育」電子版を平成28年度第1号から令和7年度第64号まで発行した。

(5) ホームページの開設・リニューアル

平成19年12月に本会のホームページを開設し、

令和5年6月1日にホームページをリニューアルした。その後、月1回更新して、本会の事業紹介、会員との情報連絡、産業界、教育界や関係教育行政等の情報を提供した。

(6) 永年功労者表彰

昭和63年に永年企業規定(10年間継続)を設け、毎年規定に達した企業に対し表彰状を贈っている。平成28年度から令和7年度までに企業13社を表彰した。

○平成28・29年度 該当なし

○平成30年度 浅地事務所、株式会社竹尾、株式会社日本化薬東京

○令和元年度 株式会社鈴木塗装工務店

○令和2年度 株式会社秋月電子通商、エス・イー・シーエレベーター株式会社、株式会社読売新聞社

○令和3年度 該当なし

○令和4年度 株式会社ツバサ・翼学院グループ、株式会社箸勝本店

○令和5年度 該当なし

○令和6年度 国光施設工業株式会社、東京商工会議所

○令和7年度 公益社団法人東京都専修学校各種学校協会、ベストワールド株式会社

(7) ロゴマークの作成

令和2年2月27日に当会のロゴマークを会員校の高校・高等専門学校・専修学校から募集した。14校から159作品の応募があり、東京都産業教育振興会ロゴマーク審査会において厳正に審査し、最優秀賞、優秀賞、学校賞を決定した。

令和2年2月19日に商標登録の出願をし、令和3年4月16日に商標登録された。

登録番号 6378367 号



商標登録証

(8) 報告書「東京の産業教育の変革に向けた提言」の発行

令和元年度の理事会や産学懇談会において、建設的な意見や教育現場の課題、産業界からの要望などが議論された。

そこで、会長の提案により、昨今の専門高校の倍率の低下傾向などへの懸念も踏まえ、産業教育の活性化に向けて、提言を策定し、公表することとした。

報告書は令和 2 年 6 月 30 日に 700 部発行し、全会員及び関係諸機関に配布した。

(9) 会則の改正

令和 4 年 6 月 28 日開催の総会にて、東京都産業教育振興会会則の一部改正を行った。

(旧会則) 第 7 条

2. 理事長は東京都教育委員会教育長の、常任理事は東京都教育庁都立学校教育部長及び東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長の職にある理事をもって充てる。

(新会則) 第 7 条

2. 理事長は東京都教育委員会教育長の、常任理事は東京都教育庁都立学校教育部長、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長及び東京都教育庁都立学校教育部ものづくり教育推進担当課長の職にある理事をもって充てる。

(10) 創立 70 周年事業

① 創立 70 周年記念総会

日時：令和 7 年 6 月 19 日（木）午後 1 時 30 分から 2 時 50 分まで

会場：全商会館

② 創立 70 周年記念講演会

日時：令和 7 年 6 月 19 日（木）午後 3 時から 4 時 30 分まで

会場：全商会館

講師：松原 仁 氏 京都橘大学教授

演題：「AI によって産業はどう変わるか そのために教育はどう変わるべきか」

③ 記念誌の発行

会誌「東京の産業教育」第 63 号を創立 70 周年記念特別号として、令和 8 年 3 月に発行した。

④ 座談会の開催

開催日時：令和 7 年 9 月 19 日（金）14 時から 16 時まで

開催場所：都庁第二本庁舎 15 階 15 A 会議室
趣旨：産業教育に関わる農業、工業、商業、家庭の各学科・学校における現状と課題、今後の展望についてお話しいただく。

座談会のテーマ：専門高校の現状とこれから
目指すこと

出席者

(農業) 並川直人都立農業高等学校長

(工業) 鈿持利治都立六郷工科高等学校長

(商業) 山田和人都立芝商業高等学校長

(家庭) 金澤正美都立赤羽北桜高等学校長

(司会) 河野敏弘教育庁指導部主任指導主事
(産業教育担当)

(東京都産業教育振興会) 西澤宏繁会長

小林治彦副会長

⑤ その他

ア 東京都産業教育振興会旗の作成

創立 70 周年記念総会に合わせ、東京都産業教育振興会の会旗を作成し、会場に掲揚した。



イ 会誌「東京の産業教育」の表紙デザインのリニューアル



最優秀作品

会員校の高等学校、高等専門学校、専修学校の生徒・学生から会誌「東京の産業教育」の表紙デザイン・イラストを募集した。

8 校から 36 作品の応募があり、厳正なる審査の結果、最優秀賞 1 作品、優秀賞 4 作品を選出した。

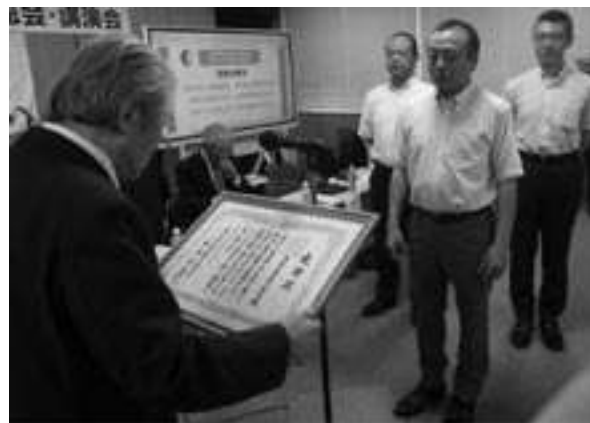
ウ 感謝状の贈呈

当会に入会后 50 年を経過した企業 6 社に創立

70 周年記念総会で感謝状を贈呈した。

○贈呈企業（アイウエオ順）

株式会社小薬印刷所、三和電気計器株式会社、実教出版株式会社、鉄道機器株式会社、東京ガス株式会社、東京書籍株式会社



感謝状贈呈

5 おわりに

この 10 年間のうち 3 年間は新型コロナウイルス感染症がまん延し、産業界や教育界は大きな影響を受けた。コロナ禍後は産業界も教育界も以前の状態に回復しつつあるが、グローバル化の急速な進展や産業構造の変化等に伴い、産業界が求める人材は多様化・高度化している。また、少子高齢化が進行する中で、東京都においても地域産業を支える技術の継承や専門的職業人の確保が懸案となっている。

東京都産業教育振興会は従来の活動に加え、新たに西多摩地域、葛飾区、大田区で産業教育懇談会を開催して産学連携を充実したり、報告書「東京の産業教育の変革に向けた提言」を発行して産業教育の方向性を示したり、ホームページのリニューアルや会報電子版の発行などを通じて広報活動の充実に取り組んだ。今後も、時代に即した産業教育は常に重要であるとの認識のもと、これからの振興会活動をさらに充実・発展させていく所存である。

特集Ⅱ 創立70周年記念座談会

「専門高校の現状と、これから目指すこと」



日時 令和7年9月13日(金) 14時-16時

場所 都庁第二本庁舎 15階 15A会議室

出席者 (敬称略)

西澤宏繁 会長 Fore Vision 株式会社取締役

小林治彦 副会長 東京商工会議所常務理事

並川直人 副会長・理事

都立農業高等学校長(農業)

釦持利治 理事

都立六郷工科高等学校統括校長(工業)

山田和人 理事

都立芝商業高等学校長(商業)

金澤正美 理事

都立赤羽北桜高等学校統括校長(家庭)

河野敏弘 理事

教育庁指導部主任指導主事(産業教育担当)

(司会)

河野 本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。「専門高校の現状と、これから目指すこと」というテーマで、東京都産業教育振興会創立70周年記念座談会を始めたと思います。

申し遅れましたが、私は本日司会を務めさせていただきます、東京都教育庁指導部主任指導主事(産業教育担当)の河野敏弘と申します。どうぞよろしくお願いたします。



本日は都立高校で、農業、工業、商業、家庭の専門教育に携わっておられる東京都産業教育振興会の理事の先生方と、東京都産業教育振興会の会長、副会長をなさっておられる産業界のお二人をお招きしております。

【趣旨説明】

河野 それでは西澤会長から本日の座談会の趣旨について、お話をお願いいたします。

西澤 70周年を迎えた東京都産業教育振興会ということで、これからどんなふうによりやっていかっていくかということを中心に議論していただきたい思いがあります。



振り返ってみると、最近のAIやDXの発達に伴ういろんな変化の問題、そういう大きな変化のもう一つ前の時代、終戦というのを挟んで、日本の産業教育はものすごく大きく変わったと思うんです。元々産業教育というのは明治維新、日本の近代化のプロセスの中で、遣欧派遣団とかいろんな先人たちが、ヨーロッパ、アメリカを訪問して、日本との格差に驚愕した。教育と産業の発展、経済の発展、あるいは文化の発展というのがいかに密接に絡んでいるかということをしみじみと実感したというのが、産業教育というものに対する目覚めの始まりなわけです。

最初は実業教育とか、実学とかいろんな言葉で言われていました。それがいろいろな変遷の中で、やがて戦後は産業教育という言葉になっていくのでありますけれども、その産業教育の精神はそれこそ明治の時から極めて強い形で発達していったというプロセスがあるわけです。いわゆる師範学校制度を始めとして、実業教育についても、いろんな専門学校等が急速に発達していったというのが日本の明治以降の歴史でありまして、世界でも冠たる実業教育の形ができていたんです。

それが、敗戦を契機に占領軍がやってきて、日本の民主化の中で、産業教育も激しい修正にあったということだと私は思っています。日本国民を民主化しなきゃいけないということの中で、産業教育も普通教育と同じような扱いを受けてしまうというプロセスを辿りました。そういうプロセスの中で産業教育という概念は殆ど顧みられない形での普通教育の中に流し込まれてしまったというプロセスがあったと思います。それを私は非常に大きな日本の産業教育の衰退期であったというふうに思います。そういうことでは日本の産業復興はならないということ、かなり早く気付いたということがあって、いろいろ復興の動きが急速に持ち上がり、特に当時の校長先生方の大先輩たちが鋭い目覚めをしていただいたようでありまして、産業教育の体制の立て直しという動きが全国的に起こりました。そういうことの中で最初に横断的な組織としてできたのは、我々東京都産業教育振興会もその一部を構成している産業教育振興連絡協議会です。都道府県ごとに産業教育の組織をしっかりと作っていくということで、各県ごとの産業教育の体制というのは急速にできていったのですけれども、東京都もそういう流れの中で、やや遅い番としてではありましたが、東京都産業教育振興会というものができたわけです。それがようやく70周年を今日迎えているということで、東京都はむしろ遅ればせでやっている。それはなぜかという、やっぱり、東京都というのは、中小企業、小規模企業の集積地域でもありまして、そういう世界にいる人たちがものすごく多い。いろんな利害が複雑に絡んでいる。大企業もある。そういうことの中で、産業教育という言葉が段々表に出にくいという事情があったんだと思います。

産業教育というコンセプトに対する国の理解が比較的弱いというのがどういうところに現れているかという、教育基本法の中に産業教育という言葉が出てこないということの中に現れている私は思っています。私はそこにもものすごく大きな問題意識を持っています。産業教育という意識が日本全体で足りないということだと私は思っています。良く解釈すると、産業教育なんて仰々しく言わなくても、全ての教育の中にそういう概念は

あるんだと言ってしまうとそれまでなのですが、そういうことでは足りない面があるということ、私は言いたいと思っております。

そういう意味で、産業教育の振興というのは、大きな戦後の日本の教育の歴史の流れの中で、敗戦を契機に大きな衰退期を迎えて、今それを皆さんの努力で徐々に復活してきて、かなりのレベルになってきている。東京都も特にいろんな工夫をして、東京の産業教育の世界というものをより良いものにしようということで、具体的な工夫を様々になさっていただいている。本当に東京都教育庁の皆様のご尽力振りは大したものだと私は思います。そういうことがあって、ようやく新しい70年を迎えているんです。

AIの発展という大きな流れ、DX化ということで、この新しい流れが教育の世界にも滔々と入ってきていて、どういうふうに教育をこれから持っていくかということがとても難しい時代に入ってきている。そういう中で現場のご苦勞を今日はお話いただきたいと、こういう趣旨でございますので、よろしくお願ひします。

【1 10年間の変化】

河野 どうもありがとうございました。それでは早速、項目1から進めさせていただきます。初めにこの10年間、平成28年度から令和7年度までを振り返りまして、各学科ではどのような変化があったか。この10年間につきまして、並川校長先生からお願ひいたします。

並川 会長の言葉の後ですから、ちょっと口火切りにくいものもありますけど。この10年間という意味では、都立農産高等学校で5年間、都立園芸高等学校で5年間、校長を務めさせていただきました。農業科には



追い風が吹いていたと思います。メディアや企業など、農業系高校を応援や支援してくださる方が増えました。連携の申し出も多くあり、地域や企業等との連携や協働も深まりました。テレビや新聞等の取材も多くありました。令和元年には、NHKの朝ドラ、「なつぞら」が放送されました。広瀬すずさんが演じる「なつ」は、北海道の十勝

農業高校畜産科卒業という設定で、全国の農業高校生が加盟する日本学校農業クラブ連盟のFFJの歌が大ブレイクし、一気に農業高校への注目が高まりました。これをきっかけに更に企業や産業界、自治体等から農業系高校への連携依頼が増えました。また、令和3年夏に東京都で開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の食材調達に向けて、都立の農業系高校8校全校がGAP、農業生産工程管理に基づく野菜の生産を確立することができました。東京都GAPやJGAP認証を取得し、第三者の客観的な評価により、学校で生産する野菜や果物の安全・安心を担保できるようになりました。

鈿持 この10年間で工業系の学校は非常に変化していると思っています。特に技術革新のスピードが速く、IoTとかAIとか、あとロボティクスとかDXといった分野が教育現場



に少し浸透してきました。カリキュラムの内容も、従来のオーソドックスな機械などの学習に加えて、情報系が大きな比重を占めてきたと思います。例えば、CADとか3Dプリンター、こういうのを活用した設計とか試作が授業の中の一環として行われてきたと思います。また、協働ロボットなども導入がされてきて、ものづくりのスタイルがデジタルにシフトしてきたというのを実感しています。またSDGsという話も出てきていますので、環境や再生エネルギーといった学習もだんだんと増えて、産業界のニーズに即した人材育成が進んできたと思います。またその一方で、少子化とか、進学重視ってところから、工科高校への進学が減ってきているということで、学科改編も進んできたと思います。

山田 東京都内の商業教育は、この10年間で大きな転換点を迎えました。平成28年に策定された都立高校改革推進計画では、商業科の名称がビジネス科へと変更され、従来重視されていた資格取得に加えて、社会



で主体的に活躍できる力を育む教育へと、実践的な学びへと方針転換が図られました。

学校現場では、企業や商店街との連携による実地活動や、地域と協働するビジネス体験が重視されるようになり、生徒は社会の変化に対応しながら、オンライン学習など新しい学習方法を積極的に取り入れ、主体的な学びの姿勢が育まれています。今後も、現場での体験と変化に対応する力を両立させる教育活動を継続していきたいと考えています。

また、ビジネスコミュニケーション科を含む都立商業高校9校では、実地に学ぶビジネス教育の充実を目指し、体系的かつ計画的な教育課程が編成されています。具体的には、1年次で東京都独自の教材を使ってビジネスの基礎を学び、2年次では「ビジネスアイデア」の科目を通じて、企業人や実業家から直接指導を受けながらビジネス創造の手法を習得します。最終学年では、「課題研究」や「総合実践」といった科目で実地のビジネスを探究的に学ぶなど、東京都独自の商業教育カリキュラムが構築されてきました。このように、過去10年間は商業教育にとって大きな変革期となりました。

金澤 先ほど商業高校の山田校長先生のお話にもありましたが、家庭学科につきましては、ちょっと本校のことになってしま



いますが、平成28年2月の都立高校改革推進計画の新規設置計画におきまして、新たに家庭・福祉高校を設置することで、設置計画がスタートしました。その中で令和3年に本校都立赤羽北桜高等学校が、家庭学科、福祉学科の併置校ということで、新たに立ち上がっているところです。家庭学科につきましては、都立高校においては、忍岡高校、瑞穂農芸高校、農業高校、それから島しょの学校、大島、三宅、八丈に農業科との併合科という形で設置がございません。数としても少ないですけれども、全国的にも家庭学科、専門学科が減少する中で東京都で新たな学校が立ち上がったというのは、当時の実施計画の発表のところでは、様々衝撃といえますか、

他府県の先生方からも質問を受けるようなそんなこともありました。そんな中で家庭学科は、当然ながら生活産業のスペシャリストの育成という形になっております。例えば調理科、食物科設置校の中では、調理師養成施設を教育課程に組み込んでおります。平成27年4月1日に調理師法施行令それから調理師法施行規則の改正がありまして、現在取り組んでおります現行学習指導要領におきましても、専門教科「家庭」の中で調理師養成に関わる科目の編成が大きくありました。新たに「総合調理実習」という科目が新設されました。その中で、調理師を養成する高等学校におきましては、教員の確保、また施設設備の確保というところで、高校で学びたい生徒の学びを保障するに当たって、様々な教員配置等も重視しながら、それぞれの学校で改善を図りながら取り組んでいる実態が、ちょうどこの10年の中ではあり、現在は新たな体制で取り組んでいるところかと思えます。東京都の家庭学科の関わる家庭科教育では、平成30年に、全国高等学校家庭クラブ研究発表大会東京大会が開催されました。専門学科高校だけではなく、幅広く家庭科を学んでいる生徒、また教員が、東京に一同に会し、全国大会を催したということも、この10年間の中では、大変大きな意義があったことと思っております。

河野 ありがとうございます。続きまして、産業界からお伺いいたします。小林副会長、お願いいたします。

小林 この10年を振り返りますと、とても大きな変化が産業界に起こったように思います。企業の大多数を占める中小企業にとっては非常に厳しい10年間でした。コロナ



の影響はもとより、国内では少子高齢化が進展する中で、中小企業にとっての最大の経営課題は人手不足です。人材確保や生産性向上に向けて、多くの企業はデジタル化や働き方改革、多様な人材の活躍推進に力を入れています。また海外に目を転じますと、地政学リスクの高まりや、環境問題への対応も必要となっています。足元では、物価高騰や米国のトランプ関税の動向等により消費マ

インドは低迷しており、国内経済の先行き不透明感が高まっています。物価の上昇に見合う価格転嫁が進まない一方で、人材確保のために、企業業績の改善が見られない中でも賃上げを行ういわゆる「防衛的な賃上げ」に迫られ、中小企業の収益状況は二極化しています。中小企業は、このように大きな課題に直面しておりますが、このような時代にあつてこそ、東商の創設者である渋沢栄一が唱えた道徳経済合一という考え方（企業の目的が利潤の追求にあるとしても、その根底には道徳が必要であり、国ないしは人類全体の繁栄に対して責任を持たなければならないという意味）は、今なお現代的価値が高いと私も思っています。次代を担う若い方々にこそ、こういった思想を受け継いでいただきたいと強く期待しています。

【2 コロナ禍の影響】

河野 ありがとうございます。それでは続きまして、コロナ禍の影響というところで進めさせていただきます。令和元年度末から5年5月頃まででしょうか。新型コロナウイルス感染症の蔓延により、学校教育は大きな影響を受けました。各学科というところで、お話をお伺いいたします。各学科は、どうだったでしょうか。

釘持 工業科は、非常にコロナの影響を受けたと思っています。特に工業系の高校は、実習で非常に大きく影響を受けたと思っています。実際に機械を使って作業をするなど、体験的な学習がコロナによって制限されてしまったことがあります。なかなかリモート授業では、実技の技能を教えることが難しい等があったので、生徒にとっての技能習得に影響があったと思っています。また、インターンシップや企業見学を実施していましたが、なかなかコロナの影響で参加できないということがあったので、職業観を養う体験もなかなか厳しかったと思っています。その一方でオンライン授業が非常に進んだことで、座学的な部分では、非常にデジタル教材というのが蓄積されたというのが、成果でもあったと思います。また課題研究発表会とかも学校の中でやっていて、なかなか外部の方に見ていただくことはなかったですけど、オンラインに伴い、例えば保護者とか、企業の方、大学の方にも見てもらう機会ができたところでは、非常に良いこともあったと思います。

山田 新型コロナウイルス感染症は、商業教育にも大きな影響を及ぼしました。平成30年にビジネス科へと改編され、実践的なビジネスを学ぶことに重点を置いてきましたが、特に対面で行う販売実習などの活動は、感染拡大防止の観点から実施が困難となり、実際に多くの教育活動を中止せざるを得ませんでした。

一方で、社会全体を見ると外食産業が大きな打撃を受ける一方、ドラッグストアやスーパーマーケットなど、家庭の消費に直結する流通業界では、人手不足が深刻化し、売り上げが伸びるという現象も見られました。こうした業界の動向や現実を報道などを通じて教材として活用し、マーケティングやマネジメントの授業で取り上げることで、コロナ前後の流通の変化を実地に学ぶ良い機会ともなりました。

しかしながら、やはり商業やビジネスの本質は対面でのやり取りにあり、現場での体験が重視されるため、活動が大きく制限されたことは否定できません。

金澤 これまで他の学科の校長先生のお話にもあったように、家庭学科におきましても実験・実習等が、必須の学習内容として整えなければいけないというところです。ちょうど新型コロナウイルス感染症のところでは、学校運営に関するガイドラインに基づいて各学校がいかに感染症対策を取りながら学びの保証をしていくのかということで、教職員一同一丸になって、創意工夫を重ねて取り組んできました。特に家庭学科においては調理実習、被服実習、当然調理科、食物科等ですと販売実習ですとか培ってきたものを対外的にもどう取り組んでいけるのか、また、授業時数の確保というところも、当然ながら考えなければいけませんので、そういった中では柔軟にできることを、例えば文部科学省等が発していることもきちんと受け止めて、しっかりと学校長としても先生方と連携を図って、教育課程の管理をしなければいけないところだったと思います。調理実習においては、1台で使う生徒の人数の制限があり、一人一台、確か二人までですとか、器具の使い回しをしない、持ち手を消毒したり、対面での試食ではなく横並びだったり、距離を取るなど、様々相談を受けながら、ここまでだったらということ、決断する

場面も多々ありました。1つ1つ個装したものを生徒に渡して、その子だけしか触らないような工夫などがありましたし、少子高齢化の中で子供を育てるという学びも家庭科はありますので、そういった実習ができなくなっていくなど、実体験が伴えないというところで、どう子供の成長や発達を理解させていくのか、指導の工夫というところも考えなければいけなかったかと思います。高齢者体験実習も含め、高齢者の施設訪問等も一番大きく制限があった時期でもあり、いかに理解を深めさせながら将来の職業につなげる段階で、実体験を伴った教育活動を提供できるかが非常に苦しかったときだったと思っています。

並川 私は当時、都立園芸高等学校の校長を務めていました。園芸高校には動物科があり、動物を飼育していますので、令和2年2月に出された全国一斉の休校の要請の影響は特に大きかったです。多くの職員は自宅勤務を併用していましたが、動物の飼育のために関係する職員は出勤し続けました。犬の毎日の散歩も必要なので、午後3時には普通科の教員にも協力を得て、動物舎棟に集まり散歩をしてもらうことも続けました。各科では生徒の登校が可能になったときを見越して野菜や草花の種を蒔き、生徒がいない中で苗を準備し、いつでも授業ができるようにしていました。食品系の学科では、食品製造の実習が不可欠です。東京都の全体方針では実施ができませんでしたが、営業許可施設を利用して食品を製造するため、従前より食品衛生に十分配慮して実習を行いました。コロナ禍でもHACCP（危害分析・重要管理点）の理念に基づき実習を継続しました。農業科では生製品の販売を販売実習と位置付け、学校近隣やイベント等に参加していましたが中止が相次ぎ、これらの実施が困難となり、生徒が学習機会を失ってしまいました。学校行事については、1年は体育祭、文化祭ともに中止としましたが、以降は2年間中止とすると、実行委員会の組織運営や生徒間の伝承が難しくなるため、感染症対策を万全にして実施をいたしました。また生徒の学習時間を確保するため、園芸高校では早い段階から50分授業を再開しました。

【3 コロナ後の変化（新しい日常）】

河野 ありがとうございます。それでは続きまし

てコロナ後の変化というところで、コロナ禍が過ぎ新しい日常が訪れたというところでございます。コロナ後はコロナ前に比べてどのように変化したのか。これにつきまして、各学科はどうだったでしょうか。

山田 コロナ後の商業教育についてですが、日常的な面から見ますと、例えば「ビジネスコミュニケーション」の授業では、ビジネスマナーとして挨拶や名刺交換、説明の仕方などを教えています。コロナ後に特に変化があった点としては、就職活動や面接の指導内容にも影響が出ており、例えばマスクの扱い方が新たな指導項目となりました。以前は「服装とともにマスクは外して面接に臨むべき」とされていましたが、現在では生徒自身の判断に委ねるようになっていきます。面接時にマスクを着用するかどうかは本人の安心感や状況によって決めてよいとし、学校から一律に「外しなさい」「そのままよい」といった指示はしていません。ただし、マナーの本質は「相手に不快感を与えないこと」であると教えており、マスクや服装の取り扱いについてもコロナ前とは大きく変化したと感じています。

また、コミュニケーション面でも大きな変化がありました。東京都教育委員会全体で電子化が進み、Teams 導入をはじめ、電話やオンライン、メール、チャットによるやりとりが充実しました。これにより意思疎通が非常に便利になったと感じています。

さらに、ビジネスの現場では現金決済に代わり電子決済が加速度的に普及しており、商業教育でも取引や帳簿記入など従来手書きで学んでいた内容をデジタル化し、教育内容も時代に合わせて変えていく必要性を強く感じています。

金澤 そうですね。実験・実習等のやり方というのでしょうか。コロナのときには必ず感染症対策の徹底が第一優先でしたので、できることが絞られてくると、子供たちが体験する内容だったり、実習の提供もなかなか厳しいということになっていました。家庭科につきましては、小学校、中学校、高校と系統立てて学べる教科・科目です。小学校、中学校における「技術・家庭」においても、そういった実体験もやはり小・中学校のところでたくさん学びきれていない中、子供たちが入学し

てきますので、実技の力不足、家庭での体験不足、グループワークの活動等にも、なかなかコミュニケーションが思うようにとれなかったり、さまざま教育の原点に立ち戻りながら指導することが必須になってきたかなと思っております。ですので、コロナ後というところでは、やはり教員の教え方、指導の仕方というところを、発達段階だけに限らず、それぞれどのような体験を踏まえてきたのかという子供の背景を汲み取りながら、実際に受け入れた子供たちの状況を見て、取り組んでいかなければいけないところです。実験・実習の機会をできる限り増やししながら、実技の力を高めていくというところに工夫がおかれていたかと思えます。当然ながら学校の行事を楽しめなかった時期もありますので、学校全体で見れば、クラスの活動、学年の活動、部活動等において、企画立案の力だったり、実行力だったりというところでは、本当に学校ならではの集団で立ち入るところに子供たちが向き合いながら、教員の支援体制も工夫を図らざるを得なかったのではないかと捉えております。

並川 徐々に日常を取り戻してきましたけれど、ソーシャル・ディスタンスの徹底やマスクの着用による表情の読み取りづらさは、授業や実習場面におけるグループ学習などなかなかうまくいかなかった気がします。地域のイベント開催の回復は、直ぐに進まず、販売実習の機会は戻りませんでしたので、学校内での実習や新たに開拓する等して、生徒の学習機会を増やしていきました。令和3年には、教育庁指導部の事業として、民間企業と連携した実践的な探究活動として、有楽町交通会館マルシェへの参加機会を得ました。まだコロナ対策を講じながらではありましたが、お客様との対話を通じて、生徒の喜びを強く感じました。当初は、2校でスタートし、令和7年度は、5校が参加するまでになっています。他方、コロナテックと呼ばれるICTの利活用も前倒して政策が一気に進みました。リモート授業やPCの活用場面が、専門教育でも増えるきっかけとなりました。スマート農業の実践が、都立園芸高等学校で始まり、農業分野における農業デジタル人材の育成にも繋がる状況になりました。

釘持 感染対策を講じながら、対面授業が再開さ

れた一方で、オンラインの利点も活かしながら、ハイブリッドの授業が定着したと思います。実習においては、これまで学んだ実技的な内容プラス、復習として動画を見ながら学習をするという取り組みや、オンラインの会議ツールといわれるものを使うことが増加したと感じています。生徒間での一人一台パソコンが導入されたことで、オンラインでの会議などができるようになったのが、大きなことだと思います。また、衛生管理や安全意識が高まり、工場や実習室での換気や抹消毒の基本的なルールを徹底するような習慣が生まれたというものもありました。こうした新しい日常の中で、生徒たちが自ら自分でどうやったらいいのか、考え方を学ぶ力や、変化に柔軟に対応するような力もついたと思います。いろいろな行事の中でも、そういうところで自分たちの考えが出せるようになったことは、大きなところだと思っています。

【4 各学科の問題点や課題】

河野 ありがとうございます。続きまして、各学科の問題点や課題について、お伺いいたします。現在、各学科で困っていること、直面している問題、課題はどのようなものがありますでしょうか。

金澤 たくさんありましたけれども、率直に申しまして、家庭学科でやはり調理科、食物科、都立高校では農業高校と本校ということで、調理師養成施設を設置しております。当然ながら、調理師養成の教育課程を行うにあたっては、家庭科の免許だけでは、その学びを保証することはできません。そういうことを考えますと、教員要件を満たすやはり家庭科教員の確保というところは、最大の課題になってくるかと思っています。また今回の現行学習指導要領が令和4年度から年次進行で、当然完成年度で進んでいます。調理師法が改正されました当時より専門性が高い学びに変わってきております。家庭科の中でも、少子高齢化を含めまして、食育の推進、調理科においてもより専門性の高い調理師を養成する、それから消費・金融教育、生活産業に関わる学びの深みを教えられる教員の確保ということを考えますと、いかに今ベテランと言われている先生方におきましても、現在求められているニーズに応じた学びを指導者として確保していくためには、教員研修の充実ということも、家庭学科においては、課題の

一つとして捉えさせていただきたいと思っています。どれくらいやはり教員に研修機会を確保できるのか、研修センターもオンデマンドですとか、オンラインを活用した研修等の充実を図っていただいておりますけれども、家庭学科につきましても、やはり現場の学びを先生方に見ていただくということであれば、実際に保育園、幼稚園等の子供たちの様子、保育士や幼稚園教諭の先生方の対応の仕方等、それに子供たちともに先生自らも学ぶ必要性があるのかなというところも思っているところです。最後になりますが、家庭学科におきましては、特に本校も継続しているところではあります。入学したいという学校にさせるためには、入学志願者の倍率の低下というところも、一つ大きな課題として抱えております。

並川 困っている点でいえば、施設の老朽化です。特に実習棟や温室等は、劣化が進んでいます。各学科における先端技術教育の重要性が求められている中で、喫緊の課題といえます。全てを新しい施設に変えるのは容易ではありませんので、計画的な整備を期待したいところです。入学してくる生徒の多くは、所属する学科での学びに対して、前向きに取り組んでいます。漠然とした興味から入り、いかに農業教育の奥深さや面白さを教員が伝えていけるかが重要です。進学希望の生徒が増えており、学校によっては9割が進学、平均的に見ても7割が進学を希望し、実現しています。生徒の基盤学力を育成し、大学等に進学した後も学び続けることのできる生徒を育てる必要があります。それを支える農業科教員を目指す学生が、減少傾向にあります。持続可能な農業教育の担い手に不安があります。農業系高校を卒業し、農業系高校の教員を目指す学生を輩出していくとともに、普通科出身の農学部等で教職免許取得を目指す学生にも農業系高校の魅力を伝えていく必要があります。

釘持 工業系でいうと、今、農業の並川校長先生が言われたように、やっぱり工業も施設の老朽化が進んでいると思っています。あと教員の専門性の維持も必要なのかなと思っています。東京都の改革で「Next Kogyo START Project」といって、工業高校の改革を行ったことで、ある一部の学校に、最新の設備が入っていますけれども、そ

れ以外の学校については、まだまだ機器等が古いので、更新が必要かなと思っています。また、急速に技術が発展していますので、若手教員は新しい機械に違和感なく触れていますが、ベテラン教員も先端機器を積極的に触れることが必要だと思っています。あとは、入学生の割合が依然として低迷していることです。進路の多様化により、進学希望者、就職希望者、それぞれに対応する支援体制の強化が求められていると考えます。

これらの課題を解決するには、産業界との連携や、教育の柔軟なアップデートが必要だと考えています。

山田 商業教育は、常に時代の変化に応じて現代的な内容を教えていく必要がある分野です。現在直面している課題は、社会や法律の進展により、これまで昭和の時代から続けてきた帳簿組織や商品の所有権の取り扱い、領収書や伝票などの紙媒体を使った教育が、デジタル化の波の中で大きく変わってきている点にあります。近年ではPDFファイルなど電子データが法的にも認められ、商法にも正式に組み込まれるようになりました。こうした変化の中で、実践的なビジネス教育をどのように展開していくかが求められています。

また、長年使われてきた教育施設や、総合実践などの科目においても、これまでのように帳簿組織を体系的に学ぶ際には、パソコンだけでなく手書きによる体験も有効だと考えています。しかし、実際の企業社会では紙ベースの業務はほとんど姿を消しており、手書きの経験がそのまま社会で通用するわけではありません。そのため、教育内容を現代社会に即したものと更新していく必要があります。

さらに、教育用のプログラムや情報処理の仕組みも、電子化に対応したものと見直していかなければならないという課題もあります。最近では、手形や約束手形、小切手なども、法律上は変わらなくても、銀行協会などの方針により紙媒体での流通が廃止される動きが進んでいます。商業高校としても、こうした時代の流れに沿った教育を提供するため、教員同士で集まり、どのように教えていくべきかを研究し続けています。時代に適応した教育の確保が、今後の大きな課題となっています。

【5 各学科の魅力】

河野 ありがとうございます。それでは続きまして、各学科の魅力について、お伺いいたします。ただいま課題であるとか困っていることについてお伺いしたところでございますが、その何倍も、何十倍も各学科には魅力があるということにつきまして、各校長先生方からお話をお伺いいたします。少し長くなっても構いませんので、大丈夫です。

並川 都立の農業系高校は、大きく4つの学科群に分けています。園芸系、食品系、環境系と畜産・動物系です。共通する魅力は、多彩な実践を通して学びを得ることができること。専門的な知識、技術が身に付くこと。自分で作ったものを販売、発表できること。地域との繋がりが強いこと。将来の選択肢が広いこと。命や自然の大切さを実感できることなどでしょう。各科における学習の範囲も広がっています。例えば旧来的なイメージの強い園芸系では、フラワーアレンジメント、バイオテクノロジーの授業や、地域の特産品の課題解決のためのプロジェクトなどに取り組んでいます。現在重視されている探究型学習も、農業科では70年以上前からプロジェクト学習として定着しており、農業各分野での課題に気付く力を農業高校生は持っています。さらに学習成果を発表、アウトプットする学校農業クラブの大会やコンテストなど、多くの機会があります。そして農業の学習を通じて、地域を学ぶことができます。本校では3つの自治体と連携協定を締結し、国指定天然記念物の馬場大門のけやき並木や、名勝小金井桜の保護更新プロジェクトなどに取り組んでいます。サステナビリティ、持続可能性や自然との共生など、自分で答えを探ることができるテーマが多いことなどが農業科の魅力だと思います。何より、農業系高校で学ぶ生徒は生き生きと農業学習に取り組んでいることが評価されています。

釘持 工業系の高校の魅力というのはなんと言っても、ものづくりの楽しさかなと思っています。それが実感できるのが工科高校だと思います。実習を通して自分の手で形のあるものを作り上げるという達成感というのは、工業系の学校での一番の魅力だと思います。さらに資格取得やコンテストなどの参加も、生徒自身が目に見える成果が出ますので、そういうところも良いところだと思います。

ています。また仲間と協力して物を作っていくことも多いですので、そういう作り上げる経験というのは、社会に出てのチームワークにも直結していくと思いますので、こうした実践的な学びは、工業高校ならではの強みであり、生徒たちの自己肯定感を高めるものになっています。卒業後の進路についても、就職とか進学など幅広い進路を高校に入ってから見つけられるというところが、非常に良いところかなと思いますし、また、社会で即戦力となる人材を育成できるというのが非常に強みかなと思っています。最近、工科高校の魅力発信として、ドリームフェスタというイベントを新宿の三角広場で実施していますが、とても生徒は生き生きと参加しています。ぜひ見ていただくと本当に魅力が分かっていただけると思っています。

山田 商業学科の魅力は、何といてもビジネスについて体系的に学べる点にあります。かつて「読み書きそろばん」という表現がリテラシーの象徴として使われてきましたが、時代の変化とともにそろばんは日常的に使われなくなり、その代わりにコンピューターなど新たなツールが主流となりました。しかし、読み書きの力に加え、現代ではビジネス教育が重視されており、商業学科ではこれらを実践的に身に付けることができます。どの職業を目指す場合でも、簿記やマーケティング、マネジメントといった基礎知識やスキルは不可欠であり、高校生の誰もが学ぶべき内容であると考えられます。

商業科は近年、ビジネス科を設置し、単なる資格取得にとどまらず、社会で主体的に活躍できる力を伸ばす教育へとシフトしています。たとえば1年次にはビジネスの基礎や東京都のビジネスを学び、地域社会や地元の産業についても深く理解を深めます。2年次には「ビジネスアイデア」といった特色ある科目を学び、企業や実業家から直接アドバイスを受けながら、創造的な手法を身に付けます。最終学年では「課題研究」や「総合実践」など、実際のビジネスに接する機会が豊富に用意されており、探究心を育めます。

また、コロナ禍をきっかけにオンライン学習やリモートでの活動が一気に広まり、商業教育も現場体験から社会の変化を読み取る力を養う方向へ

と進化しています。デジタル技術や電子決済など新しいビジネススキルが必要とされ、帳簿や伝票の手書き指導からデジタルトランスフォーメーション（DX）への対応、生成AIやプログラミング、システム開発など時代に即した教育内容がどんどん拡充されています。商業高校は企業や商店街、地域と連携した実践的な活動やビジネス体験を重視し、生徒が社会の変化に即応できる力や主体的に行動する力を育成しています。

今後も社会や産業界の変化に柔軟に対応し、実践的かつ時代に合ったビジネス教育を提供し続けることにより、地域や社会に貢献できる人材を育てていきます。これが商業高校の大きな役割であり、最大の魅力と言えるでしょう。

金澤 家庭学科の魅力ということになりますが、家庭学科につきましては、衣食住はもちろんのこと、家族や家庭、親の役割や子育て支援、高齢者の理解、また消費生活と環境、地域社会など、幅広く生活している中で自分の好きを見つけて、それを極めていきたいという学びを保證できることが魅力かと捉えております。全国高等学校長協会家庭部会でも、専門教育に関する様々な調査をしております。専門学科「家庭」で学んでいる生徒の中には、学んでよかったと感じているところに、「資格を取得すること」もそうなんですけれども、「専門性が高く高度な知識や技術が身に付いた」とか、「家で調理をするなど学校で学んだことを生活に活かせる」ということも挙げております。学んだことが実生活にも還元され、またそれを極めて職業につなげていくということでは、生活そのものが子供たちにとって、幅広い職業にもつながっていくところになるかと捉えています。人が誕生してから高齢期に至るまでという、そういった学びをする中で、先ほど農業高校の並川校長先生もおっしゃっていましたが、家庭学科につきましても共通教科「家庭」を学んでいる生徒も、学校家庭クラブ活動等を通して日常生活から課題を見つけ、それを改善し、よりよい生活、よりよい地域社会を築いていく、そういったところでも自分だけの考えではなく、友達、家族、先生方等々他の人の考えや価値観に触れて共感したり、自分との違いに気付いたり、新たなアイデアを見出したりということで、これからの生活をどうやって

自分がよりよくしていくのか、それをまた職業として、職業人としてどう活かしていくことができるのかというところが一番の魅力になるかと思っています。

【6 専門高校の役割】

河野 ありがとうございます。それでは続きまして、専門高校の役割というところにまいります。これからの時代、専門高校の役割、校長先生方どのようにお考えであるかということについてお伺いをいたします。

劔持 専門高校は、産業界と教育界をつなぐ架け橋として、地域産業の活性化にも貢献していると思っています。単なる技能習得だけでなく、職業観や社会人の基礎力、いわゆるヒューマンスキルと言われている「学び続ける力」、「チームで働く力」、「考える力」という力を育む場として、今後ますます重要な役割を担っていく必要があると思っています。

高校段階で専門性を学ぶことは、将来のキャリア形成に早くから方向性を見出せる利点もあるのかなと思っています。産業界の課題を教育現場に反映して、生徒一人一人の可能性を引き出して社会に貢献できる人材を育てることが、専門高校の使命なのかなと思っています。

山田 地域経済の持続的発展を支える中核的人材の育成は、現代の商業高等学校に対する重要な要請であると認識しております。とりわけ卒業生には、アントレプレナーシップの醸成をはじめ、地域経済におけるビジネス創出・活性化に資する高度な能力が求められております。そのため、企業・商店街・地域社会との連携による実践型教育を通じて、社会の変化を即応的に捉え、主体的に行動できる力の習得が不可欠です。また、商業高校から大学進学を選択する生徒も増加傾向にありますが、専門高校において涵養される実践的資質や、大学卒業後に企業が期待するスキルとしては、デジタル技術、電子決済、DX（デジタルトランスフォーメーション）、生成AI、プログラミング、システム開発等、現代ビジネスに対応した能力の修得が挙げられます。体系的かつ計画的なカリキュラムの下、生徒が段階的かつ実務的にビジネス教育を受け、創造性および主体性の一層の向上を目指してまいります。今後も、社会および産業構造

の変容に柔軟に適応し、地域・社会に貢献し得る人材育成に尽力していく所存です。

金澤 少し繰り返しの発言もあるかもしれませんが、家庭学科ということで衣食住、保育、家庭看護や介護など生活産業、それからヒューマンサービスに関わるところでのスペシャリストの育成というところが、家庭学科につきましては一つ大きな役割になってくるというふうに捉えております。先ほども家庭学科においては、好きなことを学んで極めていきたいという生徒がいるという話をさせていただきましたが、そういった専門学科高校、特に家庭学科で学ぶ中で、「協調性や仲間との連帯感が高まった」、「作業の順序や時間配分とか段取りが身に付いた」、「『努力すればできる』経験を重ね、自己肯定感が高まった」、「将来の目標や就きたい仕事が見つかった」、「積極性が高まった」等々、先ほどの全国高等学校長協会家庭部会のアンケートの中で学んでよかったこととして回答しています。家庭学科で学ぶことによって、これから社会人として、高校卒業を活かしながら、社会を担っていく、人間としても幅広く生き方ですとか、人との付き合い方というのを学んでいるところが、一つ家庭学科で学ぶことの役割の中にあるというふうに捉えております。また、生活文化の伝承という視点で考えれば、学校家庭クラブ等の活動を通して、例えば地元の地域の食材を活かして商品開発を行う等、農業高校、それから商業高校等でもやっているところを、生活の視点で家庭学科の生徒が商品化に取り組むなど、生活に密着した視点、地域貢献といった形での人材育成にも役立っているのではないかと捉えております。

並川 産業界が求める人材像を的確に把握しつつ、Society5.0の時代と呼ばれる現代は将来の予測が不透明な時代になっています。このような時代だからこそ、課題を発見し、解決し、新たな価値を創造できる人材を育てることだと考えています。また、農業に関する学習では他者との協働が多くあります。コミュニケーション能力の育成は、引き続き重視します。

農業は裾野が広い分野です。職業人として、農業関連産業で活躍する人材を輩出していくこと、先ほど述べたように地域社会との連携や貢献とし

て、地域資源を活用した特産品開発や地元企業とのコラボレーションなどを通じて、地域の活性化に貢献すること、生き物を育てる体験を通じて思いやりや忍耐力、責任感を養うなど、人間性・社会性の育成、グループ活動や地域交流を通じて、豊かな人間性を育むことなどを果たしていくことだと考えます。さらにスマート農業、環境教育への対応として、IoTやデータサイエンスを活用したスマート農業技術の導入、GAPやHACCPなどの安全衛生管理の教育のように、時代に合った農業教育を充実させることも重要です。そして、進学志向の高まりに応えることや実践的な資格取得に力を入れることも求められていると思います。

【7 これからの専門教育】

河野 ありがとうございます。続きまして、これからの専門教育ということでお話をお伺いします。各学科では、これからどのような教育をしていきたいというふうにお考えであるかをお伺いいたします。

山田 今後の社会および産業構造の変化に適応しつつ、実践的かつ時代に即した教育を提供することは、専門高校、特に商業高校のビジネス科における重要な使命であると認識しております。商業高校は従来より、社会ならびに産業界の変容に対応できる即戦力人材を育成してまいりましたが、今後はさらに専門性の深化が求められます。例えば、会計分野や流通分野における知識・技能の体系的な習得や、税理士・公認会計士等の国家資格取得を志向した進路選択も増加傾向にあります。それゆえ、専門的知見の涵養と資格取得を支援する教育体制の整備は、商業高校に課せられた主要な責務と言えるでしょう。とりわけ、高校段階において基礎から応用まで一貫した会計教育を実施することは、将来的な会計専門職の人材育成という観点からも、極めて意義深いものと考えております。

金澤 人の生活を支える生活産業における人材育成を図っていくという形になってまいります。本当に今の時代DXが様々進んでいく中で、知識のことも技術のことも全てこれまでと違った学べる環境に子供たちが置かれている形になります。それでも家庭学科については、人の生活を支える生活産業のスペシャリストを育成するという形に

なります。どうしても人との関わりですから、DXでは補えないところをやっていく必要性があると捉えております。ですので、人とのコミュニケーション、チームワーク、チームプレー、そういったところも積極的に身に付けていく、そのような教育をしていきたいと思っています。また、当然ながら生活の中では他者の存在ということも考えていかなければなりません。やはり自分よりも相手のことを考える、そういったところでホスピタリティ等の気持ちを持った、子供たちの育成ということにも注視していきたいと思っています。更には人との関わりということでは、職業人として考えた場合、礼節だったり身だしなみ、挨拶、周りと調和しながら社会の一員として学んでいく、そういったことを実際に学びを終えたところで力が発揮できるよう、人材育成に向けた教育をしていきたいと思っています。

並川 私はここ6年ほど学校説明会などの機会に、農業教育の不易と流行という話をさせていただいています。不易は、各学科で必要とされる基本的な知識や技術です。流行の部分で言えば、私は「新しい農業のカタチ」と言っています。かたちは片仮名のカタチです。

私は今4つのキーワードを大切にしています。1. SDGs、2. STEAM、3. データサイエンス、4. エシカルです。SDGsは言わずと知れたことですが、農業系高校は多くの項目と密接に関係しています。STEAMは文理融合とか、教科等横断です。学科間連携や普通教科と農業科の協働が進むことを期待しています。データサイエンスは、スマート農業導入によるセンシング機器等から得られるデータを読み取り、栽培管理や収穫予測に活用するなど、勘と経験の農業からデータに基づく精密農業への転換です。AI時代に必要な基礎力です。農業科が強みとする社会課題や地域課題の解決のために働かせる想像力の基礎にもなります。エシカルは、エシカル消費やエシカルファッション、エシカルなライフスタイルなどです。これらのキーワードを大事にしながら教育を進めたいと考えております。

釘持 これからの工業系の専門高校でいうと、ものづくりとデジタルを掛け合わせたことが必要なのだと思っています。特にAIとか、IoTとかロボッ

ト、3D技術といった新しい領域を積極的に取り入れていくということと、これまでの技術を継承していくことも大切だと思いますので、その中でしっかり両方を学んでいくことが大切のかなと思っています。また、環境問題や持続可能性に対応した技術者を育てることも欠かせないと思っています。そして、生徒が自ら課題を発見し、解決する力、いわゆる探究的な学習も更に進めていく必要があると思っています。そのためには地域の企業や大学と連携を強化していくことも、これから必要なのかなと思っています。また、技術的な部分についても学校だけでは技術が進歩しないので、企業と大学とも連携しながら教員が教わっていくことも必要だと思っています。

【8 中学校に期待すること】

河野 ありがとうございます。続きまして、中学校等に期待すること。中学生、その保護者、中学校の先生方に期待することについて伺いをいたします。

金澤 先ほど家庭学科については、特に本校の場合は顕著というお話もしましたが、入学者の定員を満たすことができずにあります。広報活動等、学校見学会、学校説明会等、来校していただく方にいろいろお話を聞いていただき、家庭学科の魅力等を伝えているところです。特に中学校の先生方には、都内で4校家庭学科高校がありますし、島しょの場合には併合科という形でありますけれども、各校で学べる内容等が異なっております。それぞれの学校のよさ、それから学びの保証というものをしっかりと中学生に対して情報を得ながら、実際にその生徒が何を学びたいのかということと丁寧寄り添って聴いていただき、その子に合う学校について情報提供をしていただきたいなと思っています。分からないことがあれば、どんどん本校の場合には中学校の先生からご質問を受けられるような、そんな学校の体制も作っていきたくと思っています。しかしながら、調理科・食物科等につきましては、教育課程の時間数を確保する観点で、本校の場合、土曜日の授業だったり長期休業中に授業やインターシップの活動もあったりするなど、ハードな学びの場面もたくさんあります。そういったところで好きだけでも、そのハードさに耐えられるだろうかということも、

中学生に実態を伝えていただきながら、実際に中学生に学校に来ていただいて、どんな学びができるのかということを見て、中学生が本当にここで学びたいといったところに一緒に関わっていただけると大変助かるなと思っています。また、中学生の保護者の方にもお子様の適性、「好き」ということを応援していただきたいです。学び続けていき、将来的には経済的自立ができるというところで家庭学科の学びもあります。子供たちの好きな学びがどこにあるのか、一緒に学校見学会や説明会等、参加いただいて、保護者の目線でも分からないことを質問していただきながら、学校教育の内容の理解を深めていただき、お子様の適性、やりたい気持ち、それを応援していただけるように寄り添っていただければというふうに思っています。

並川 農業科で学ぶ生徒は全国の高校生のうち僅か2.3%です。普通科が74%です。ということは、中学校の先生や保護者の皆さんは圧倒的に普通科のご出身ということになります。

まずは、東京に都立の農業系高校が8校あるということを知っていただくことです。そして、各学校に設置されている学科や特色を知っていただくことにより、きっと新しい発見が得られることを学校説明会等に参加していただければというふうに思っています。Z世代の若い人は環境に対する関心が高いという調査結果があります。農林水産省が策定したみどりの食料システム戦略では、脱炭素化や環境負荷・軽減の推進、イノベーションによる持続的生産体制の構築、持続可能な加工、流通システムの確立、環境に優しい持続可能な商品の拡大や食育の推進が柱となっています。大きな課題ではありますが、やりがいのある分野です。農業高校に進学して、4年制大学に進学する道筋もできています。ぜひ高校段階から、地球規模の課題に取り組める農業系高校への進学も、選択肢の1つとしてほしいと願っています。

釘持 私の学校は六郷工科ということで、大田区にあります。大田区というと昔ながらの工業地帯ということで、大田区の小学校では「おおた未来づくり」という大田区だけの科目を5年生に設置し、大田区の産業を学ぶ授業があります。中学校でも、できるだけものづくりの楽しさや、技

術の面白さを伝える機会をぜひ増やしてほしいと思っています。ものづくりや科学など、好奇心を伸ばしていく学習を進めていただくと嬉しく思います。技術の授業や、自由研究などの学習を通して、自分の手で工夫してものを作るなど、そういう体験をぜひ増やしてほしいと思います。それが専門高校、工科高校へ繋がるのかなと思っています。そして専門高校の一番大きい魅力はやはり進路の多様性かなと思っています。今、進学が当たり前と思われ普通科傾向にありますが、専門高校というのは進学もできるし、就職もできる色々な道筋があります。3年間かけてキャリア教育をやっていくところを、ぜひ保護者に見ていただき、専門高校の魅力を知っていただければと思っています。

山田 中学生の皆さん、保護者の皆さんには将来の進路選択の1つとして専門高校、商業高校で学ぶことの意義や魅力について、そういった内容に触れる機会を増やしていただきたい。私たちも増やしていきたいというふうに思っております。専門高校では知識や技能を身に付けるだけではなく、自ら課題を発見し、主体的に学ぶ力や実社会で役立つ実践的な能力を養うことができます。特にプロジェクト学習や、地域企業と連携した実習を通して、コミュニケーション力や協調性、課題解決力など幅広いスキルを身に付けられる点などが専門高校には大きな強みがあります。そういったことで親御さん世代では専門高校出身者が減少傾向にある。もう既にそういう局面に入っておりますので、保護者の方々にも専門高校について、私どもも情報発信を積極的に行いながらも、そういったことに触れる機会を作っていただきたいということを期待したいと思っております。必ずそういった意味ではそういう専門教育の魅力というものを理解していただけるものと信じております。こうした取り組みを通じて、多様な進路選択ができる専門高校を選ぶということ。特に商業高校においても大学進学を目指す生徒が増えており、現実に商業で学んだ専門性を深めるために進学を選んでいる生徒も増えている状況があります。そんな環境をぜひとも活かすためにも、専門高校について理解を深めていただけるような機会を増やしていただきたいと思っております。

【9 専門高校に望むこと】

河野 ありがとうございます。ここまで各校長先生からさまざまなお話を伺ってまいりました。小林副会長から御感想や、これからの専門高校に望むことについてお話をお願いいたします。

小林 本日はいろいろとお話を聞かせていただきまして、誠にありがとうございました。大変参考になりました。人材確保が難しい中小企業にとりまして、専門高校への期待は非常に高まっています。皆様のお話をお聞きして、いくつか共通項があるのではないかと考えています。

1点目は、教育界においても教育を担う人材不足が深刻化しているということ、2点目は、少子化の進展に伴い生徒数が減少しているということ、3点目は、今の時代に合った新たな人材育成のあり方の検討が必要であるということ、そして最後に4点目として、デジタル化への対応が必要であるということだと思えます。

産業界は専門高校に、職場において即戦力となる技術や能力を身に付けられるようなカリキュラムを期待しています。また、生徒の皆さんに、SNSのような非対面ツールだけではなく、人と人が直接コミュニケーションを取ることの大切さを学んでいただけるようなカリキュラムを是非組んでいただきたいと思えます。

産業界と教育界の連携という点では、単に労働力としての人材をやりとりするだけでなく、これからの日本の社会をより豊かにしていくことができる人材を共に育てていくという視点が重要ではないかと考えています。専門学校で学ぶ生徒さんのキャリア形成におきましても、インターンシップや職場体験、社会人講師の派遣はもちろんです。企業と学校が密に連携することで、地域貢献などさらに有意義な取り組みも可能になるのではないかと期待しております。本日の座談会を通じまして、これからも産業界と教育界が協力して、連携を深めていくことが何よりも重要だと改めて認識したところです。今後とも東京商工会議所は東京都産業教育振興会の活動に協力して参ります。どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

河野 ありがとうございます。それでは西澤会長から、本日の御感想やこれからの専門高校に望む

こと等についてお話しいただければと思います。よろしく願います。

西澤 小林さんが、うまくまとめてくれたように思います。大企業も含めて、東京都の多くの中小企業小規模企業が東京商工会議所を構成しています。小林さんのお話は、それらの問題、意識専門高校に対する期待をまとめていただいています。今日は校長先生方からずいぶん丁寧にしっかり考えていただいたままとったご発言を短時間の間にやっていただきました。本当にありがとうございました。日ごろのいろいろと悩んでおられることや、ご苦勞がにじみ出ており、短いお言葉の裏に、もっともっといろいろな内容があることが、それなりに推測されました。心から敬意を表します。今やはり来る生徒さんの数が減っていますけれど、生徒さんの考え方や希望の内容は非常に多様化してきているんじゃないかと思います。いろいろな考え方を持った若者たち、いろいろな将来像を描いている若者たちが来ているんだろうなと思うので、そういう人たちに対応できる心の広さというものを持った教育をしていくということも大事なんだろうと思います。つまり、多様な若者たちに、専門高校は大学進学にも有用だし、専門高校卒として就職をする選択にも良い、と思えるようにすることが大切なのでありましょう。若者たちの進路選択が偏差値中心で指導されるのではなく、志や希望、あるいは好みなど、そしてその性格や気質などを踏まえた、本人の意志を尊重する形で進学していく風潮がもっと強くなることが望ましいのではないかと思います。

そのための具体的な方法の1つは、親御さんたちの専門高校に対する理解、評価を高くすることが重要です。そのための効果的な方法は、社会一般に通用する「資格」が専門高校在学中にしっかり取れる仕組みを作ることが有効なのではないかと思います。もちろん「資格取得制度」は既に各学科ごとに存在しますが、もっと効果的にすることが可能なのではないかと思います。意欲のある若者が、或る分野の技能では、能力を発揮して、立派な資格を取ることも可能なことが起こり得ると思います。少子化の中で入学の入り口を狭くするのではなく、本人の希望・志によって努力を求め、資格取得と言う形で、学習の果実を身に付け、

卒業すると言う形にするのが望ましいと思います。専門高校から大学への進学ルートについても、専門高校で学んでいた専門課程の知見が入学試験の大きな足がかりになるような進学ルートがあっても、当然良いわけで、大学及びその科目によっては専門高校からの優先的進学ルートが多く作られても良いのではないかと思います。つまり、就職することを前提に進学しても、途中で進学希望になった場合にも充分対応できる仕組みができていくことが望ましいと思います。

今日、世は人手不足に呻吟中であり、当分の傾向は続かざるを得ないでしょう。そういった社会の背景を踏まえたカリキュラムを工夫し、専門高校から実業界で歓迎される人材をどんどん送り出す。もちろん資格に伴った待遇の改善もきちりで行われると、こういう形が少しずつ実現するということが日本国の基盤強化、発展の礎となります。

東京都は日本の中小企業、小規模企業の産業集積地でありますから、こういうことを率先して実践していただく場所としてふさわしいのではないかと思います。東京都産業教育振興会はそんなようなことにお役に立つように、すこしでも進歩を作り出すことに貢献したいという思いがあります。

【10 その他の意見】

河野 ありがとうございました。ただいま西澤会長、小林副会長から、産業界からのお話をいただきました。校長先生方からその他御意見、御質問、最後の発言の機会というところでございます。御挨拶も含めて一言ずついただければと思います。

金澤 今回は、家庭学科のことですが、本校は福祉学科もあるので、どうしても言葉の選択がちょっと整理しきれないまま本日を迎えてしまいました。本当にいつもここにいらっしゃるそれぞれの学科の校長先生方と家庭学科って、私が勝手に密接につながっているなと思っています。生活を基盤とする家庭科の中の学びで、例えば商業科の商品化ルートですとか、農業科の生産物をいただいて加工する家庭学科の学びとかですね。そんな形でありますので、こうしてまた校長先生方、それから小林副会長、西澤会長のお話を聴いて、またさらに教育現場をしっかりと固めていきたいと思っています。本日はありがとうございました。

山田 本日は貴重な機会をありがとうございました。10年を振り返るってということで、本当に大きく変わったなというのが実感でございます。そうですね。ただしコロナ禍を経て未来が開けている部分も多々あると実感しました。商業高校や専門高校に中学生にとっての魅力やこれからすべきことが少なからずあると実感いたしました。本当に貴重な機会になりました。ありがとうございました。

鈕持 ありがとうございました。保護者のニーズが進学重視から普通科傾向にあります。進路の選択肢が豊富であること、更には夢があることをアピールし、更なる工科高校の魅力を伝えていければと考えています。引き続き御協力いただけたらありがたく思っています。本日は、ありがとうございました。

並川 都立農業高校は農業科と家庭学科の併置校なんですね。私は今日、金澤校長先生のお話を伺いながら、すごく実感をもって感じる場所もございました。普段は2つ大学科があるものですから、悩みも2倍、一方で喜びも2倍ということだと思っております。特に家庭学科もです。今日は特に本校で言えば食物科のお話が多かったと思いますが、一方で都立高校唯一の服飾科というのもございまして、家庭科の中のカテゴリには入っているけど、食物科とは似て非なるものという、そのまた難しさもあって、そういう中で時に教育庁よりよっぽど私の方が家庭学科の将来を考えているんじゃないかって思うことも日々ございまして、今日はちょっと農業科の代表って来ましたが、今年食物科の生徒に1つ取り組んでもらっているのが、模擬株式会社という形で、農高祭って呼んでいる文化祭での食堂の運営をやってみないかって提案しました。先生方も前向きに捉えてもらっていますけど、ただ単に調理師養成の免許を取得するだけでなく、いわゆる経営感覚をもった調理師を養成したいという私の思いがあって、去年からずっと見ていて感じたところでもありますけど、そういった家庭学科にも非常に思いを馳せながらやらせていただいております。農業も家庭科もすごく大事な専門教育とっておりますので、これからも生徒が入学して本当に良かったという思いの中で、進路を実現してい

く。そういった時代の中に逆にそれを好機と捉えて、教育を進めていければなというふうに思っておりますので、今日は会長、副会長のお話も含めて各専門学科の校長先生方のお話を伺えて、また元気も出ましたし、これから一層専門教育の魅力を伝えていきたいなというふうに思った時間でございます。ありがとうございました。

河野 長時間にわたりまして、貴重な御意見ありがとうございました。東京都産業教育振興会の創立70周年を機に産業教育の目的や進め方、大切にすべき価値観など、今一度再確認できた機会ではなかったかと思っております。本日のお話を受けまして、行政の方も頑張っていかなければならないと改めて思った次第でございます。本日は誠にありがとうございました。

以上をもちまして、終了いたします。ありがとうございました。



会誌「東京の産業教育」の表紙イラスト・デザインコンクール

事務局

東京都産業教育振興会では、毎年年度末に会誌「東京の産業教育」を編集して、会員校・会員企業に配布し会の活動を広く周知しております。

このたび、東京都産業教育振興会は創立70周年を迎えることから、会誌「東京の産業教育」の表紙イラスト・デザインをリニューアルすることとし、「表紙イラスト・デザインコンクール」を実施しました。

1 募集対象 会員高等学校、会員高等専門学校、会員専修学校の生徒・学生

2 募集期間 令和7年7月10日(木)～10月31日(金)

3 応募状況 (応募順)

(1) 応募校数 8校

(2) 応募数 36作品

| | |
|----------------|-------|
| 東京都立王子総合高等学校 | 10 作品 |
| 東京都立六郷工科高等学校 | 2 作品 |
| 東京都立蔵前工科高等学校 | 1 作品 |
| 東京都立工芸高等学校 | 9 作品 |
| 東京都立産業技術高等専門学校 | 1 作品 |
| 東京都立農業高等学校 | 1 作品 |
| 東京都立八王子桑志高等学校 | 3 作品 |
| 東京都立葛飾商業高等学校 | 9 作品 |

4 選考結果 (敬称略)

最優秀賞 東京都立八王子桑志高等学校
産業科2年 仲野 佳奈

優秀賞 東京都立工芸高等学校
グラフィックアート科3年 槌田 杏紗

優秀賞 東京都立工芸高等学校
アートクラフト科1年 林田 愛乃

優秀賞 東京都立王子総合高等学校
総合学科1年 服部 咲陽

優秀賞 東京都立産業技術高等専門学校
AIスマート工学コース5年 古川 愛椋

5 表彰他

(1) 入選者には、12月19日(金)に開催した表彰式において賞状及び賞品を贈呈しました。

(2) 選外者には、後日、参加賞を贈呈しました。

(3) 入選作品は、会誌「東京の産業教育」第63号に掲載しました。(口絵ページ)



最優秀賞

作品の説明

左から第1次産業、第2次産業、第3次産業を緑、赤、青系統に分けて、それぞれを象徴とする道具などを描きました。また、中央の東京を囲んで1つの円になっていることで、この3つがつながり協力し合うことで、東京全体を支えているということを表現しました。配色も親しみやすくプラスなイメージを抱きやすいカラフルでポップな色合いにしました。



第24回全国中学生創造ものづくり教育フェア

全日本中学校技術・家庭科研究会 フェア事務局長

世田谷区立砧南中学校長 奥平 雄二

- 1 **主催** 全日本中学校技術・家庭科研究会
共催 文部科学省 他
- 2 **後援** 厚生労働省 林野庁 特許庁 他
- 3 **日時** 令和7年1月25日(土)
1月31日(金)・2月1日(土)
- 4 **場所** 東京都立六郷工科高等学校 他
- 5 **対象者** 全国の中学生、技術・家庭科担当教諭、ものづくり教育に係る関係者

6 内容

- (1) 生徒作品コンクール
- (2) 木工チャレンジコンテスト
- (3) 「豊かな生活を創るアイデアバック」コンクール
- (4) 「あなたのためのおべんとう」コンクール
- (5) 創造アイデアロボットコンテスト
- (6) プログラミングコンテスト

7 開催に向けて

この大会の「開催の趣旨」は3点あります。

- ①中学生が知識や道具を駆使していろいろな条件のもとに最適解を見つけ進んで生活を工夫し創造することを学んだ技術・家庭科の実践発表の場とする。
- ②未来への飛躍を実現する人材を養成するために、多様な体験と切磋琢磨の機会を増大し、学習意欲やものづくりへの製作意欲の向上を図る。
- ③優れた能力と多様な個性を伸ばす技術・家庭科の学習内容を広く国民に知らせるとともに、全国の技術・家庭科教員の指導力向上を目指す研修の場とする。

上記の「開催の趣旨」を踏まえて、全国各地で行われる厳しい予選大会を勝ち抜いた競技者が、東京で行われる全国大会に歩みを進め、そこに

集った競技者たちが多様な体験と切磋琢磨する機会をもつことで、未来への飛躍を実現する人材の養成を目指す大会です。

令和6年度の大会では、オンラインを中心とした開催方法と対面式開催の2通りの競技

方法を採用しました。例年、感染症流行時期と大会開催期間は重なりますが、無事に開催することができました。

偏に都立六郷工科高等学校 鈕持利治統括校長先生をはじめとして関係者皆様のご尽力のお陰です。誠にありがとうございました。

8 開催結果

【生徒作品コンクール部門】

教科の授業中に創造製作した作品を「I部門」、技術・家庭科で学習した知識や技術を生かして製作した創造作品を「II部門」としてコンクールを行いました。

【木工チャレンジコンテスト部門】

ブロック大会より推薦、全国一次審査により選出された16名の選手が、与えられた所定の材料を使用し、課題に従って4時間以内に作品を製作し、作品のプレゼンテーションを2分以内で行う形式でオンラインにてコンテストを行いました。

【「豊かな生活を創るアイデアバック」コンクール部門】

全国4ブロックから選抜された9名の選手が事前に製作したアイデアバックのプレゼンテーションを行う形式で、オンラインにてコンクールを行



いました。

【「あなたのためのおべんとう」コンクール部門】

全国から選ばれた17チームが、100分間の一人



または二人の調理で「魚を使った調理」を献立の中心とするお弁当作りを行い、レポートを作成し、その内容を

60秒のプレゼンテーションをする形式で、女子栄養大学にて競技を行いました。

【創造アイデアロボットコンテスト部門】

基礎部門は、「Lets collect, carry, and load！」

と銘打って、競技時間90秒で自陣コートにまかれたアイテム25個をコート3か所のスポットに積み込む競技を行いました。



計測制御部門では、「Mission is 整地！ by プログラムカー」と銘打って、コート上にまかれたアイテム25個をゴールエリアの決められた場所に入れる数を競う形式で行いました。

応用・発展部門では、「メッセージタワー2」と銘打って、ロボットを使ってコート中央の資材置き場にあるアイテムを自陣エリアの建設予定地エリアに積み上げる競技で行いました。



【プログラミングコンテスト部門】

平成29年告示の学習指導要領に示された「ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツによる問題の解決」に資する競技部門として、今回で3回目となりました。全日本中学校技術・家庭科研究会と毎日パソコン入力コンクール事務局が共同開発した、授業で使用できるプログラミングの学習教材「チャットボットの制作」を用いた競技を行いました。予選大会を経た上位通過者14

名が湘南工科大学での全国大会に挑みました。全国大会の競技内容は、「生活や社会の問題を解決するチャットボットを設計・制作しよう」を課題として、90分間で実際にチャットボットを制作する難易度の高い競技です。制作後には、問題解決への取り組みとしてどのようなチャットボットを制作したのか、4分間のプレゼンテーションがあり、それぞれの競技者がアピールをしました。



9 成果と課題

今大会も「オンライン (ZOOM)」も活用した部門がある大会としました。【生徒作品コンクール部門】では、4年ぶりに生徒作品を都立六郷工科高等学校に集めて、審査委員だけでなく、【創造アイデアロボットコンテスト部門】の競技のために来場した生徒・保護者が作品を直接見たり触れたりすることができる開催方法で行いました。直接、作品を見ることが出来た来場者からは感嘆の声があがりました。



そして、第25回全国中学生創造ものづくり教育フェアは、令和8年1月25日(日)・30日(金)・31日(土)に、東京都立六郷工科高等学校を主会場にして行います。引き続き、中学校技術・家庭科の振興に努めていく大会として開催してまいりますので、関係者の皆様のご支援・ご協力・ご参加をどうぞよろしくお願いいたします。





第 22 回創造ものづくりフェア in TOKYO

東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長

東村山市立東村山第七中学校長 阿久津 健一

創造ものづくりフェア in TOKYO は、東京都内の中学生が、技術・家庭科の学習で身につけた、ものづくりの技や知識を競い合い、互いの創造性を伸ばす場として開催している。

1 主催 東京都中学校技術・家庭科研究会

共催 学校法人香川学園 女子栄養大学
公益財団法人東京都学校給食会

2 後援 東京都教育委員会
東京都産業教育振興会
東京都中学校長会

3 日時 令和 7 年 1 月 8 日 (土)

4 場所 板橋区立加賀中学校
学校法人香川学園 女子栄養大学

5 対象者 東京都内中学校に通学する中学生

6 内容

(1) 全国中学生創造アイデアロボットコンテスト
東京地区予選 (基礎部門・計測制御部門・
応用発展部門)

(2) 「木工チャレンジコンテスト」東京予選

(3) 「豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール」
東京地区予選

(4) 「あなたのためのおべんとうコンクール」
東京地区予選

(5) 生徒作品コンクール東京地区予選

(6) 東京都中学校ロボットコンテスト (二足歩
行ロボット格闘部門)

7 開催へ向けて

創造ものづくりフェア in TOKYO も今回で 22 回を数えることとなった。令和 7 年で第 25 回を数える全国創造ものづくり教育フェアの東京都大

会 (兼全国大会予選) として行われている。大会では自分の作品に自信をもって紹介するとともに、生徒が互いに楽しみ合い、喜び讃え合い、学び合いといった生の経験を味わうことができる。会場校の校長先生をはじめ、ご来賓の方や運営、指導・引率に当たってくださった先生方のご理解ご協力とご支援があり今年も実施にできた。

なお大会運営は、東京都中学校技術・家庭科研究会事業部を中心に年度当初に総務部からの働きかけもあって加賀中学校会場 40 名、女子栄養大会会場 19 名もの運営に協力していただいた教職員の方々によって進められた。

8 開催結果

会場は、ここ数年連続して女子栄養大学と板橋区立加賀中学校をお借りして開催。加賀中はロボコン対戦会場と木工コンテスト会場、生徒作品展示場がとても近くて利便性が良い。一昨年から保護者等の見学も可能となり多くの方々にも見に来ていただき盛大になった。

< 関東甲信越大会に向けての予選大会 >

○ 「創造アイデアロボットコンテスト」

基礎部門：「Let's Collect, Carry, and load」というタイトルで制限時間 90 秒内にコートに転がした支援物資アイテム 25 個と障害物アイテム 5 個を移動させ、回避しながら支援物資のみを集めて運んで積み込む競技である。



支援物資アイテムはカラーボール、障害物アイテムはソフトスポンジを活用した。38 チームの

生徒が参加した。

計測制御部門：「Mission is “整地！” by プログラムカー」というタイトルで高度経済成長期に建設された橋梁、道路、トンネル、下水道など公共のインフラ



は現在老朽化が進み対応が迫られている。

さまざまな理由で荒れた土地にロボットで整地することを目的に制限時間 90 秒でコートに撒かれたアイテム（ペットボトルキャップ）25 個をゴールエリアの決められたスポットに入れる競技するもので、今年度も対戦形式ではなく数回の試技による競技とし 18 チームが参加した。

応用発展部門：教科で学んだ知識や技能を最大限に発揮して製作される部門で、タイトルは「メッセージタワー 2」である。こちらも計測制御部門と同じで



過去の公共インフラの現在老朽化について、基礎、計測・制御部門で整えられた土地にロボットでタワーを建設することを目的とする。またタワーの最上段にメッセージアイテムを乗せ被災者や現場で頑張る人々にメッセージを送り元気を届けるというもので、3 チームが接戦を繰り広げた。

○「木工チャレンジコンテスト」には示された設計図により、決められた大工道具や木工機械を正しく



使用し、寸法通り正確に作品をつくるため 8 名が参加

した。

○「生徒作品コンクール」は、各地区選抜の授業内・授業外部門の技術



分野 43 品と家庭分野 39 品で、合計 82 の作品が会場である柔剣道場を華やかに飾った。



○「あなたのためのおべんとうコンクール」



17 チームが応募し、事前のレポート審査を経て 9 チームが競技審査に進んだ。それぞれが家族や先生等を対象にした魚を主菜にしたおべんとう

を準備と調理を合わせて 100 分以内でつくり、完成後にプレゼンテーションを行った。



○「豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール東京地区予選」では、アイデアあふれる 23 作品の参加があった。



<東京都ロボットコンテスト>

○東京都独自に実施している対戦型ロボコンで、



毎年、参加チーム数も非常に多い。昨年は期日を別に設けて実施したが、今回からは例年通りに戻し午前中に実施し 121

チームが参加した。毎年、受験を間近に控えた 3 年生も出場し、つかの間の楽しみと休息となっていた。

9 成果と課題

創造ものづくりフェア in TOKYO は生徒の緊張感や活気などその場に足を運んでこそその臨場感や興奮がある。各部門、参加校が毎年限定されることなく、各地区での呼びかけや研修参加をお願いしたい。

開催会場の板橋区立加賀中学校、女子栄養大学、東京都学校給食会にご協力を仰ぎ、ご来賓の皆様にも応援に駆けつけていただいた。さらには、東京都教育委員会、東京都産業教育振興会、東京都中学校長会からも表彰状をいただき感謝申し上げる次第である。

第35回全国産業教育フェア福島大会 さんフェア福島2025

事務局

第35回全国産業教育フェア福島大会(さんフェア福島2025)は、令和7年10月25日(土)・26日(日)に開催されました。本会からは会長、事務局長、事務局員、都立新宿山吹高等学校、都立園芸高等学校、日本工学院専門学校が参加しました。

1 期日 令和7年10月25日(土)・26日(日)

2 会場

【郡山市】ビッグパレットふくしま、郡山総合体育館、郡山女子大学

【伊達市】聖光学院高等学校



ビッグパレットふくしま

3 開催内容

(1) 総合開会式・総合閉会式

ア 総合開会式

開会式典、オープニングアトラクション



イ 総合閉会式

閉会式典、メモリアルアトラクション

(2) 作品展示



東京都立新宿山吹高等学校(情報科)

(3) 体験・実演コーナー



(4) 展示販売

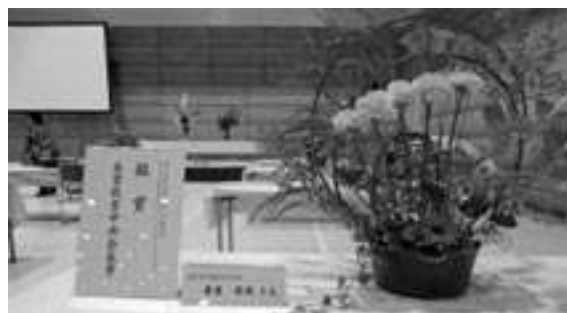


(5) 作品・研究発表





(6) 意見・体験発表



銀賞 産業教育中央会長賞
都立園芸高等学校 妻屋 安連 さん



(7) 文部科学省事業発表会



都立園芸高等学校 橋本 栞 さん



(8) 参加・交流イベント

イ 第33回全国高等学校ロボット競技大会



(9) ファッションショー



(10) 特別支援部コーナー

(11) 企業・大学・専門学校等の展示

(12) 競技大会等

ア 第24回全国高校生フラワーアレンジメントコンテスト

ウ 全国高校生観光ビジネスアイデアコンクール

エ 全国高校生クッキングコンテスト

オ 第12回全国高校生介護技術コンテスト

(13) 総合閉会式

第67回全国産業教育振興大会 (福島大会)

事務局

令和7年10月25日(土)15:30～17:00、第67回全国産業教育振興大会(福島大会)が郡山ビューホテルアネックス3階麓山で開催されました。

この振興大会は、「全国産業教育フェア」にあわせて毎年開催されるもので、全国の産業教育振興会等から、教育界、産業界の関係者が参加しました。本会からは西澤宏繁会長、安藤紗季理事・事務局長、花野耕一事務局員、一ノ瀬淳都立園芸高等学校長、守屋文俊都立中野工科高等学校長、小川孝都立大田桜台高等学校長が参加しました。

また、振興大会では、教育界と産業界の強い関係の下、専門高校等の一層の充実・発展を期することとし、「大会決議」(次ページ参照)を採択しました。決議文は、文部科学省はじめ関係する省庁や、各経済団体、高等教育関係団体、全国都道府県教育委員会連合会等に「決議」として提出されます。

次第 (敬称略)

1 開会のことば

全国産業教育振興会連絡協議会常務理事
(公益財団法人産業教育振興中央会専務理事)
岩井 宏



2 国歌斉唱

3 挨拶

全国産業教育振興会連絡協議会副会長
(公益財団法人産業教育振興中央会理事長)
杉江 和男

福島県産業教育振興会副会長
(福島県商工会議所連合会会長)
渡邊 博美

4 来賓挨拶

文部科学省大臣官房審議官
(初等中等教育局担当) 今井 裕一
福島県教育委員会教育長
(福島県産業教育振興会副会長) 鈴木 竜次

5 来賓及び出席者紹介

6 講演

演題:「ふくしまから実現するイノベーション!
～先端産業からの学び～」
講師:公益財団法人福島県イノベーション・
コースト構想推進機構
福島オフィス交流促進部 副部長
飯田 喜之

7 大会決議文協議・採択

全国産業教育振興会連絡協議会理事長
(東京都産業教育振興会会長) 西澤 宏繁



福島県産業教育振興会常任理事
(決議文起草委員長・
福島県立福島明成高等学校長) 鈴木 憲治

8 次期開催県挨拶

佐賀県産業教育振興会会長
(佐賀県中小企業団体中央会会長)
福岡 桂

9 閉会のことば

福島県産業教育振興会理事長
(ふくしまNPOネットワークセンター理事)
佐藤 正雄

【決議】

農業・工業・商業・水産・家庭・看護・情報・福祉の専門学科及び総合学科を設置する高等学校（以下「専門高校等」）は、実践的・体験的な学習活動を通じて、産業や地域社会の発展を支える人材を育成してきた。近年では探究的な学びや地域・企業や大学との連携を通して、社会課題の解決にも主体的に取り組んでいる。

一方で、生成 AI・ロボティクス・DX・GX などの技術革新の急速な進展や、経済安全保障・地域創生への社会的要請の高まり、さらに少子高齢化や人口減少による労働力不足など、我が国は大きな構造変化と課題に直面している。このような時代だからこそ、実践的な知識・技術・技能を身に付けた人材の育成は喫緊の課題であり、その中核を担う専門高校等の充実・発展が強く求められる。

「全国産業教育振興会連絡協議会」では産業界と教育界の強い連携の下、専門高校等の一層の充実・発展に全力を尽くし、次の事項の実現に向けて取り組むことを決議する。同時に、国及び地方公共団体等におかれては、我が国の持続可能な成長・発展に欠かせない専門高校等の充実・発展に格段のご理解とご支援をお願いする。

【国に対して】

- 一. 専門教育の全国的水準を確保するため、老朽化施設（畜産実習施設等）の改修、高性能な ICT 機器の整備、実験・実習棟等の冷房設備、実習船の整備費に対する国庫補助及び地方財政措置の拡充など、教育施設・設備の計画的整備を推進する支援策を講じるとともに、私立専門高校への国庫補助の充実を図ること
- 一. 実践的・体験的な学習活動の充実のため、専門教科教員及び実習助手の定数改善及び 35 人学級の実現に向けた施策等を実施すること
- 一. 産業教育手当の対象拡大及び増額などの処遇改善、長時間労働是正等の施策を講じること
- 一. 大学における専門教科教員の養成課程の拡充、全国的な採用試験や人材バンクの検討、社会人講師活用の促進、免許法認定講習の充実など、教員養成・採用・研修に関する制度整備の施策を推進すること
- 一. 地域産業を支える人材育成、伝統技術・技能を学べる先進的な取り組み等への補助等の支援並びに就職に関する産業界への周知を含めた積極的な働きかけを行うこと
- 一. 国公立大学における「専門学科・総合学科卒業生選抜」の導入促進のための施策の推進、専門科目の大学入学共通テストでの活用のための施策の推進及び大学等進学後の奨学金や授業料減免制度の拡充を図ること
- 一. 高等学校専攻科の充実のため、専攻科生徒への修学支援や称号付与の検討を進めること
- 一. 専門学科の高価な教科用図書、通学等に関する経費軽減のための施策を推進すること
- 一. 全国産業教育フェアの広報・財政支援の継続と小・中学校関係者への啓発を推進すること
- 一. 学校と企業をつなぐコーディネーターの配置の支援ための施策の推進とインターンシップ等体験活動の財政的支援を拡充すること

【都道府県等（設置者）に対して】

- 一. 老朽化施設・設備・専門教科の学習に必要な高性能な ICT 機器等の計画的更新の実施、少人数での先端技術実習が可能な環境整備やオンライン履修可能なデジタル配信設備の整備を推進すること
- 一. 教職員定数の弾力的運用や学習指導員の配置を進めるとともに、生物管理担当教職員や臨時船員の配置等に努めること
- 一. 学校における働き方改革の推進、長時間労働の是正、教職員処遇改善に取り組むこと
- 一. 公立大学法人等への要請による専門教科教員養成課程の整備、特別免許状の活用による社会人教員の積極的登用を進めること
- 一. 地域産業と連携した教育課程の研究・開発やカリキュラム開発を支援すること
- 一. 地元企業との連携強化により雇用機会を創出するとともに、女子生徒の職業選択を後押しする取り組みを推進すること
- 一. 生徒・保護者への経済的支援として、教材費・実習活動に要する経費等の軽減策を講じること
- 一. 中学校における技術・家庭科専任教員及び「地域コーディネーター・インターンシップコーディネーター」を配置し、より実践的、体験的学習を深め、専門教科への理解促進を図るとともに、体系的なキャリア教育の充実を図ること

【産業界に対して】

- 一. 地域人材育成のため行政との緊密な連携、協力をする事
- 一. 高卒採用枠及び募集職種の拡大、資格・検定・研究発表活動の成果を評価した採用、女子生徒の採用の促進に取り組むこと

【大学等に対して】

- 一. 専門教科教員の養成課程を拡充すること
- 一. 国公立大学における「専門学科・総合学科卒業生選抜」の導入、専門教科科目を活用できる大学入試の実施及び資格・検定・研究活動等の成果を評価した入学者選抜を実施すること
- 一. 高等学校専攻科修了生の編入学受入や学修成果の単位認定を拡充すること

以上決議する。

令和 7 年 10 月 25 日

第 67 回全国産業教育振興大会（福島大会）

第4回葛飾区産業教育懇談会報告

事務局



1 日時

令和7年5月12日(月)
 15時00分-17時30分 懇談会
 17時30分-17時45分 名刺交換会
 17時45分-18時30分 懇親会・交流会

2 会場

テクノプラザかつしか2階 大ホール他

3 趣旨

葛飾区内の企業、専門高校・総合学科高校・中学校、専修学校、葛飾区、教育委員会(東京都・葛飾区)、東京商工会議所葛飾支部、東京都産業教育振興会が一堂に会し、情報交換を行うことにより、相互の理解を深め、葛飾区や葛飾区の産業を担う人材の育成に貢献する。

4 主催

東京商工会議所葛飾支部

5 共催

東京都産業教育振興会

6 参加者

(企業) 21名
 ・東京商工会議所葛飾支部所属企業 19社 21名
 (学校) 23名
 ・葛飾区内の専門高校 3校 8名
 ・葛飾区内の中学校 10校 14名
 ・葛飾区内の専修学校 1校 1名
 (行政) 8名
 ・葛飾区役所 3名
 ・葛飾区教育委員会 2名

・東京都教育委員会 3名
 (団体) 13名
 ・東京商工会議所葛飾支部 4名
 ・東京都産業教育振興会 4名
 ・東京商工会議所本部 4名
 ・公益財団法人産業教育振興中央会 1名

(計) 65名

7 時程

(1) 15時00分～15時40分 全体会Ⅰ

・開会挨拶
 東京商工会議所葛飾支部会長 浅川弘人
 東京都産業教育振興会会長 西澤宏繁
 ・趣旨説明
 東京商工会議所葛飾支部工業分科会会長 杉野行雄

・発表

①「専門高校における民間OB等活用事業等の取組」

東京都立葛飾商業高等学校校長 岩崎 豊
 東京都立農産高等学校校長 平柳伸幸

②「東京商工会議所葛飾支部での教育支援活動について」

東京商工会議所葛飾支部情報・サービス分科会評議員、青年部副幹事長 大塚耕一

(2) 15時50分～16時40分 分科会

・3分科会に分かれて情報交換、意見交換

・分科会の構成

企業6～7、高等学校2～4、中学校4～6、葛飾区・葛飾区教育委員会1、東京商工会議所葛飾支部1～2、東京都産業教育振興会1

・分科会の内容

参加者自己紹介 所属・役職・氏名

・分科会のテーマ

①「専門高校における民間OB等活用事業の取組について」

②「区内中学校における職場体験事業について」

(3) 16時50分～17時30分 全体会Ⅱ

・各分科会の発表(各分科会より企業側1名、学校側1名が発表)計6名

- ・来賓挨拶
葛飾区長 青木克徳
公益財団法人産業教育振興中央会専務理事
岩井 宏

- ・感想
葛飾区教育委員会学校教育担当部長 山梨智弘
東京都教育庁指導部主任指導主事 河野敏弘
(産業教育担当)

- ・閉会挨拶
東京商工会議所葛飾支部副会長 金子昌男

(4) 17時30分～17時45分 名刺交換会

(5) 17時45分～18時30分 懇親会・交流会(有志)

8 その他

アンケートの実施：懇談会終了後回収 44部
回収率 44/65 67.7%

9 アンケート結果

「2. 本日の産業教育懇談会はいかがでしたか。」

- | | |
|-------------|-------------|
| A とても良かった | 28名 (63.6%) |
| B 良かった | 14名 (31.8%) |
| C 普通 | 2名 (4.6%) |
| D あまりよくなかった | 0名 (0%) |

10 まとめ

(1) アンケートから (一部抜粋)

①感想

- ・今回が4回目、1回目から大分話は進んでいて、実現できたもの、まとまり切れないもの等、一つ一つやっていけたらと思う(企業)。
- ・区内の事業所の熱い想いがよくわかる。その想いを知ることで、生徒を一人でも多く区内の中小企業等に就職させたい気持ちが高まった(中学校)。
- ・葛飾の産官学の取組みが具体的なカタチとなって表れつつあり、とても素晴らしい(企業)。
- ・葛飾の子どもたちのことを多様な立場、視点から語り合い、考えられる大変有意義な場であったと思う(中学校)。
- ・学校側の意見から産業界としての在り方や社会人としての責任を強く感じた(企業)。
- ・他の区では、このような企画がない中、葛飾区

はこのような素晴らしい企画があり、本当に良いと思う。今後は他の地域にも派生すれば良いと思う(高校)。

- ・生徒の勤労観を深めていくために職場体験はとてもよい機会となる。今後、働くこととお話を聞くことを組み合わせて実施していきたいと考えているところで、この懇談会はとても有意義なものとなった。学校側と企業側とが意見を交わすことが生徒のキャリア教育の充実につながるものという考えがより明確となり、このような場をもてることに喜びを感じた(中学校)。

②来年度の時期・内容・方法等について

- ・時期は適切、現状のままでよい。6月以降は総会等あるので難しい(企業)。
- ・夏前に実施し、その後のキャリア教育への活用につなげたい(中学校)。
- ・分科会・グループワークの時間がもう少しあっても良かった(企業・学校とも多数)。
- ・分科会を少人数(4～8人)で題材を決めて必ず意見を言える環境が良いと思う(企業)。
- ・分科会の振り分け、テーマを事前に設定し、さらに内容を深めていくとよい(中学校)。
- ・座席が似たような分野で固まっていた気がする。席順ミックスすべきかもしれない(企業)。

③ご意見・ご要望・ご提案

- ・企業を知るために葛飾地元企業を認知するための方法を考えて欲しい(企業)。
- ・工業高校を取り入れてほしい。区外で難しいか?(企業)
- ・商工会議所から職場体験リストをいただき、とても助かっている(中学校)。
- ・懇談会に参加している企業とは情報交換、意見の募集をしてほしい(企業)。

(2) 東京都産業教育振興会事務局

- ・マンネリ化しないように分科会のテーマを工夫する必要がある。
- ・分科会の人数を少なくし、全員が発言できるようにする。
- ・前年度の成果を発表したのはよかった。

第1回西多摩地域産業教育懇談会報告

事務局

1 はじめに

東京都産業教育振興会と西多摩地域の商工会・商工会議所（あきる野商工会、福生市商工会、羽村市商工会、瑞穂町商工会、日の出町商工会、青梅市商工会議所）は、令和6年度から都立高校8校（都立五日市高等学校、都立秋留台高等学校、都立多摩工科高等学校、都立多摩高等学校、都立福生高等学校、都立羽村高等学校、都立瑞穂農芸高等学校、都立青梅総合高等学校）と「西多摩で働く人材を育てる産学連携事業」を実施してきました。令和7年度からは「西多摩地域産業教育懇談会」と名称を変更し開催しました。



| | |
|-----------------------------------|-------|
| 都立福生高等学校副校長 | 村田 聖士 |
| 都立瑞穂農芸高等学校校長 | 大畑 哲也 |
| 都立青梅総合高等学校校長 | 川口 元三 |
| あきる野商工会会長 | 松村 博文 |
| あきる野商工会事務局長 | 横田 誠 |
| 福生市商工会会長 | 山下 真一 |
| 福生市商工会事務局長 | 山崎 秀樹 |
| 羽村市商工会会長 | 島田哲一郎 |
| 羽村市商工会事務局長 | 清水 晋 |
| 瑞穂町商工会副会長 | 久松 元大 |
| 瑞穂町商工会事務局長 | 海和 将也 |
| 日の出町商工会事務局長 | 田中 剛 |
| 青梅市商工会議所地域振興課長 | 細川 卓也 |
| 教育庁都立学校教育部高等学校教育課 課長代理（計画総括担当） | 安藤 紗季 |

（東京都産業教育振興会事務局長）

(2) 挨拶

○はじめに、西澤宏繁
東京都産業教育振興
会会長から御挨拶を
いただきました。



西澤宏繁会長

○続いて、山下真一福
生市商工会会長、松
村博文あきる野商工会会長、島田哲一郎羽村市
商工会会長、久松元大瑞穂町商工会副会長から
御挨拶をいただきました。



山下真一会長



松村博文会長

2 懇談会の目的と内容

(1) 懇談会の目的

西多摩地域を愛し、西多摩地域で働き、西多摩地域を活性化させていく人材の育成を目的とする。

(2) 懇談会の内容

年1回開催し、情報交換及び協議を行う。

3 第1回西多摩地域産業教育懇談会

令和7年8月21日（木）に第1回西多摩地域産業教育懇談会を福生市商工会扶桑会館で開催しました。

(1) 出席者（敬称略）

| | |
|---------------|-------|
| 都立五日市高等学校校長 | 松崎真理子 |
| 都立秋留台高等学校統括校長 | 中村 勝徳 |
| 都立多摩高等学校校長 | 上村 礼子 |
| 都立多摩工科高等学校校長 | 坂田 安永 |
| 都立羽村高等学校校長 | 神谷 画歩 |



島田哲一郎会長



久松元大副会長

(3) 自己紹介

(4) 報告

「西多摩地域産業教育懇談会のあゆみ」

- ・この事業は平成30年度から「西多摩で働く人材を育てる産学連携事業」としてスタートした。
- ・年々参加団体を拡大してきた。
- ・令和7年度から「西多摩地域産業教育懇談会」と名称を変更した。

(5) 情報交換

各学校、各商工会、青梅商工会議所から、事前提出の実施報告書を基に、産学連携の取組状況を報告していただきました。

- 都立五日市高等学校は、あきる野市、日の出町、桜原村の自治体や大学・専門学校、五日市周辺企業との連携を行っている。また、特色ある教育活動として登山やトレイルランニングなどのアウトドアコース、秋川漁業共同組合と連携した五高フェスなど地域に寄り添った教育活動をおこなっている。
- 都立秋留台高等学校は、会社見学などの教員研修や2年生の職場体験、探究の時間での企業研究を行っている。
- 都立多摩高等学校は、3年生対象の地元企業による合同企業説明会を実施している。
- 都立多摩工科高等学校は、昭島市青年会議所と連携した「くじら祭」ボランティア活動、福生市と連携した福生市民文化祭への参加、福生市商工会と連携したフレンドシップコンサートへの協力など積極的に地域活動に参加している。また、西多摩地域で唯一のデュアルシステム科についての教育活動についても報告された。
- 都立羽村高等学校は、2年生全員がインターシップに参加、1年生と地元企業の交流プログラム（CORSE EXPO）を実施している。



- 都立福生高等学校は、地域に寄り添った活動や都立高校フェスティバルに参加している。
- 都立瑞穂農芸高等学校は、都内食品会社から出る食品製造副産物を畜産科学科で豚の飼料として利用して自家配合飼料を作成し豚肉を生産、園芸科学科では米ぬかを畑で肥料として使用し、野菜を生産、これらの生産した豚肉や野菜をそれぞれの会社に販売し、レストランでの利用や加工品の製造などを行うことで廃棄物の削減と生産物の利用の循環システムを構築したこと、町内や近隣の農家にて生徒のインターシップを行った。
- 都立青梅総合高等学校は、2年次に「総合的な探求の時間」で経済同友会「学校と経営者の交流活動」による職業人講話を実施、1年次に「産業社会と人間」地域探求学習として「青梅のためにできること」の中で青梅市の企業で働く方による講演会などを実施している。
- 福生商工会は、福生高校や多摩工科高校との連携、羽村市商工会は、羽村高校との連携、瑞穂町商工会は、小中学生への職場体験活動や多摩工科高校との連携、日の出町商工会は、地域との連携、青梅商工会議所は、青梅総合高校や多摩高校との連携などを行っている。
- 続いて、協議に入り、「西多摩地域産業教育懇談会」の今後の進め方について話し合われました。今後は、葛飾区、大田区、西多摩地域での産業教育懇談会の連携が密になるように情報発信を積極的に行っていくことが確認されました。
- 協議終了後、安藤課長代理から以下のような謝辞が述べられました。（一部省略）「本日の懇談会では、西多摩地域の教育機関と産業界が連携し、地域に根差した人材育成の取り組みについて活発な意見交換が行われました。特に、都立高校の先生方と商工会・商工会議所の皆様との連携強化は、若者の地元定着と地域活性化に大きく貢献するものと確信しております。今後も、皆様の知見と経験を活かしながら、産業教育のさらなる発展に向けて取り組んでまいります。」
- 会場を提供していただきました福生市商工会の皆様には大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。

第2回大田区産業教育懇談会報告

事務局

1 はじめに

東京都産業教育振興会は大田区、大田区教育委員会、東京都教育委員会、一般社団法人大田工業連合会、一般社団法人大田CP21、東京商工会議所大田支部の協力を得て、第2回大田区産業教育懇談会を開催しました。



2 日時

令和7年12月8日(月) 14:45 - 16:45

3 会場

大田区立池上会館2階集会室

4 目的

大田区内の企業・小学校・中学校・高等学校・専門学校、大田区役所、大田区教育委員会、東京都教育委員会、一般社団法人大田工業連合会、一般社団法人大田CP21、東京商工会議所大田支部、東京都産業教育振興会等が一堂に会し、情報交換を行うことにより、相互の理解を深め、義務教育から高等学校教育まで一貫した大田区独自のキャリア教育の構築を図り、将来の大田区及び大田区の産業を担う人材の育成に資する。

5 主催

東京都産業教育振興会

6 協力

大田区役所、大田区教育委員会、東京都教育委員会、一般社団法人大田工業連合会、一般社

団法人大田CP21、東京商工会議所大田支部

7 参加者

(学校) 29名

小学校3名、中学校15名、高等学校10名、
高等専門学校1名

(団体) 11名

一般社団法人大田工業連合会2名、一般社団
法人大田CP21 4名、東京商工会議所大
田支部1名

東京都産業教育振興会4名

(行政) 11名

大田区役所1名、大田区教育委員会6名、東
京都教育委員会4名

(計) 51名

8 内容(敬称略)

(1) 開会挨拶

東京都産業教育振興会会長 西澤宏繁

(2) 来賓挨拶

大田区教育委員会教育長 小黒仁史

大田区産業経済部長 青木 毅

(3) 来賓紹介

大田区教育委員会教育長 小黒仁史

大田区産業経済部長 青木 毅

大田区教育委員会教育総務部長 今井健太郎

一般社団法人大田工業連合会会長 広瀬安宏

一般社団法人大田工業連合会

青年部連絡協議会委員長 奥山隆行

一般社団法人大田CP21副代表 浅尾博之

東京商工会議所大田支部事務局長 中井宏好

(4) 参加者紹介

(5) 趣旨説明

東京都産業教育振興会事務局 花野耕一

(6) 発表

①「大田区の産業支援施策について」

大田区産業経済部長 青木 毅

②「大田区におけるものづくり教育・キャリア教育について」

大田区教育委員会事務局指導主事 奥野暢基

③「大田 CP21 の取組について」

一般社団法人大田 CP21 副代表 浅尾博之

④「本校におけるキャリア教育について」

大田区立大森第三小学校長 井上光広

⑤「本校におけるキャリア教育について」

大田区立大森第七中学校長 佐藤圭一

⑥「本校におけるキャリア教育について」

都立大田桜台高等学校長 小川 孝

⑦「本校におけるキャリア教育について」

都立大森高等学校長 池田美穂

⑧「本校におけるキャリア教育について」

大森学園高等学校長 石川和弘

(7) 意見交換

「大田区の産業を担う人材を育成するキャリア教育」

(8) まとめ(感想)

大田区教育委員会統括指導主事 折田和宙
東京都教育庁指導部義務教育指導課指導主事 安田 芳

(9) 閉会挨拶

東京都産業教育振興会理事 河野敏弘
(東京都教育庁指導部主任指導主事)

(10) 事務連絡

8 アンケートから

(1) アンケートの実施：懇談会終了後回収 24部

(2) アンケート結果

①「本日の産業教育懇談会は、いかがでしたか？」

A とても良かった 11名(46%)

B 良かった 9名(38%)

C 普通 4名(17%)

D あまりよくなかった 0名(0%)

②「本日の産業教育懇談会について、感想等をお書きください。」(一部抜粋)

・大田区の取り組みをあらためて確認することができ、教育委員会、小学校、中学校、高等学校における具体的な取り組みを知ることができて、大変勉強になりました。来年もぜひ参加したいと思います。

・小学校、中学校、高等学校におけるキャリア教育の取り組みを共有することで、12年間を見通したキャリア教育を実施していかれるようになると思いました。

・小・中・高の連携は社会人育成にとっても大切であると思う。

・テーマが明確で、議論の方向性がまとまっていて理解し易かった。

・小学校、中学校、高等学校それぞれのキャリア教育について理解することができた。大田区の将来を担う人材の育成のための有意義な会であると思った。

・産業と教育分野が強く結びつくことはとても重要であり、このような場は子どものために続けてもらいたい。

・大田区の特徴がわかり学校での取組の参考となった。

・異校種でのキャリア教育が参考になりました。特に高等学校につなぐために中学校での指導が大切であると感じた。

・大田CP21との連携も視野にいれたい。

③「意見交換のテーマ『大田区の産業を担う人材を育成するキャリア教育』に関して御意見をお聞かせください。」

・大田区に対する関心・興味・知識等の向上を目的とする資料・カリキュラム編成を更に推進して下さい。

・相互理解、相互交流が大事であると思う。

④「その他、事務局に対する御意見、御要望、御提案等がありましたら、お書きください。」

・他地区にもこのような取り組みを行なっている地区があることを、紹介していただけたらと思います。

9 おわりに

小学校の参加校が1校から3校に、中学校の参加校が1校から15校に増え、懇談会の輪が広がった。各学校及び各団体の発表から、相互理解が深まったと思われる。次回からは相互連携の事例発表を中心に情報交換・意見交換をしていきたい。また、小学校の参加校を増やしたい。



令和7年度「教員海外産業教育事情研修」報告 —スペイン（バルセロナ）における産学連携—

岩倉高等学校教頭 志賀 保美

1 はじめに

今年度の「教員海外産業教育事情研修」は、スペイン王国（以下スペインと表記）のバルセロナ訪問となり、令和7年11月16日～11月22日までの7日間で実施された。この研修の目的は、全国の専門教育学科を置く高等学校の教諭が、海外の専門教育に関する教育関係施設等を視察し、その文化や社会生活に触れることにより、産業教育の充実・振興・国際交流等に寄与することを目的としている。今年度は、全国の農業、工業、商業・情報、家庭科を専門とする15名の教員で訪問した。

スペインは面積50.6万平方Km、人口約4,781万人、首都はマドリードで、主要産業は自動車、食料品、化学品、農業、観光業である。

地中海と大西洋に面していて、バルセロナは「地中海性気候」に属している。

文化面では、古代ローマ、イスラム、キリスト教文化が融合し、ピカソやダリなど世界的にも有名な芸術家を多く輩出している。さらに世界遺産の登録件数もトップクラスであり、有名な歴史的建造物が多く存在している。

今回は地中海に面した北東部地方カタルーニャ州の州都バルセロナ市における職業訓練校、大学、高等専門学校、企業等を視察し、スペインの教育制度と各企業・産業界と各種学校との関りおよびその年代の職業観を中心に報告する。

2 主な研修日程と概要

◆11月16日（日）10時15分 成田国際空港発
トルコのイスタンブール経由スペインバルセロナ（エル・プラット国際空港）

◆11月17日（月）

(1) (CETT) バルセロナ観光・ホスピタリティ・ガストロノミースクール（専門学校・大学）視察
バルセロナの観光・ホスピタリティ教育機関である。大学と連携し国際資格を取得でき、73カ国から学生が集まる。併設ホテルやレストランを活用した実践中心の教育が特徴で、インターンは年間500時間以上実施。調理やソムリエ教育も研究設備が充実し、即戦力育成が徹底されている点が印象的であった。

(2) バルセロナ市の歴史的建造物の視察



世界遺産（サグラダ・ファミリア）

◆11月18日（火）

(1) Aigües de Barcelona（バルセロナ水道局）

1955年創業、バルセロナ300万人分の浄水場である。企業と市の共同経営。カタルーニャ工科大学の教授も加わり、高等専門学校の生徒達が午前中に、年間1000時間の作業に加わり最低賃金の60%以上の報酬がある研修を実施している。2015年から学校と企業で生徒を育て、この水道局では30名のうち80%の生徒が就職する。産学連携での人材育成プログラムとなっている

(2) バルセロナ市「Mans al verd (Get Green)」プログラム

バルセロナ市が進める市民参加型の都市緑化・都市農業事業である。自然回復を軸に、市営菜園や未利用地活用、街路樹根元の緑化、公共緑地の共同管理、教育研修などを通じ、環境改善と生活の質(QOL)の向上、地域コミュニティの活性化を図る総合プログラムである。

◆ 11月19日(水)

(1) バルセロナ職業学校《電気、機械、都市建築》

1868年にバルセロナ市立職業学校として創設され、約3,000人が学ぶスペイン最大級の公立職業学校である。商業・工業を中心に10コースを設置し、中等専門学校から高等専門学校、大学まで複数の教育機関を併設。実習やインターンシップを重視し、学生の能力や意欲に応じて学びを柔軟に設計している。大学連携や社会人の学び直し、工業分野における女性活躍、国際交流にも積極的で、歴史的校舎と最新設備が共存する、バルセロナ市の教育中枢を担う学校である。

(2) ESIC ビジネス & マーケティングスクール 《商業》

商業分野に特化し、社会で即戦力として活躍できる人材育成を目的とした教育機関である。高等専門学校では金融マネジメント、国際商業、マーケティングの3分野を設け、授業と長期インターンを組み合わせた実践的教育を実施。企業講師による最新実務の学習や語学教育にも力を入れ、学び直しにも対応した柔軟な教育体制が特徴である。

◆ 11月20日(木)

(1) Pier-01 Tech Barcelona

(デジタル&テクノロジー開発企業) 視察

研修最終日は、非営利団体 Tech Barcelona が運営するシェアオフィス PIER-01 を視察した。ベンチャー企業と行政が協働し、情報共有と相互支援によるエコシステムを構築する拠点で、約100社が入居。低コストで利用でき、企業同士の連携から成長企業を生み出す仕組みが印象的であった。



5階展望デッキにて記念撮影

◆ 11月21日(金)

(1) 早朝スペインのバルセロナを出国

トルコのイスタンブールを経由し、帰国

◆ 11月22日(土)

(1) 成田国際空港到着、入国、解団式

3 成果と課題

スペインの教育制度は、6歳～16歳(小学校6年間、中学校4年間)合計10年間が義務教育である。その後は、2年間の高等学校または中等専門学校へ進み、高等学校に進んだ生徒の多くは大学へ進学し、中等専門学校の2年間を修了した者は、就職または高等専門学校へ進学する。進学したとしても企業と学校が連携し、研修制度などもシステム化されている。キャリア教育については、ユーロ導入後より本格的にスタートし、2015年から学校と企業で生徒を育て、社会で働くことへの自信を育て、社会に出る前に仕事について考えられるシステムが本格的に導入された。ユーロという大きな流れの中で、国内の若手人材育成が大きな課題となり、企業と各種学校との実習研修制度が整えられたと考えられる。スペインでの研修を通じて、本当の意味でのキャリア教育の本質に触れたように感じた。それを実現するためには、教育という分野だけで考えるのではなく、社会全体(行政や企業を含めて)で、共通認識を持ち、社会全体で取り組む必要性があると感じられた。



令和6年度キャリア教育優良学校 文部科学大臣表彰を受賞して

東京都立葛飾商業高等学校長 岩崎 豊

1 はじめに

本校は、昭和37年（1962年）に東京都立金町高等学校に全日制課程商業科が新設され、校名を東京都立葛飾商業高等学校と変更して開校した。平成30年に東京都の施策で、商業科・情報処理科をビジネス科に学科改編し、ビジネスに関する実学を中心とした様々な教育活動を通して、コミュニケーション能力の育成に努め、思考力・判断力・表現力を磨き、グローバル社会で求められる様々な能力を身に付ける教育を推進してきた。

平成30年に告示された新学習指導要領の実施については、知識及び技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力、人間性等をバランスよく育成することが示されており、本校ではその実現に向け、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善に取り組んでいる。

2 指定校としての取組

令和6年度から2年間、「東京都東部学校経営支援センター特別指定校」に指定され、学校全体で言語活動と探究活動を中心に取り組んでいる。深い学びを実現させるため、鍵となるのは見方・考え方であり、これを習得・活用し、探究という学びの過程の中で働かせていくことにより質の高い学びへと繋げている。このことは、先行きが不透明で予測困難な社会に向けて適切に対応していくため、周囲に興味を持ち、自ら課題を見つけ、自ら学び、考え、判断し、主体的に問題を解決する探究活動の体験が必要不可欠である。

3 地域と連携した探究型ビジネス教育

本校では、従来の資格取得はもちろんのこと、ビジネスに関する実学を中心とした様々な教育活動を推進し、思考力・判断力・表現力を磨いてい

る。また、自身で課題や問いを設定し、探究的な見方・考え方を働かせて学習を進めている。「地域から学び、地域とつながる」地域と連携した探究型ビジネス教育を推進している。東京商工会議所葛飾支部、東京税理士会葛飾支部、その他、葛飾区内の多くの企業や団体と連携し、地域課題の解決、ビジネス企画の提案、商品開発に取り組む実践的な学習を行っている。

4 キャリア教育の取組

次に、本校の特色あるキャリア教育の取組についてであるが、ビジネス教育として、令和6年度、「民間OB等活用事業指定校」として、産業界や葛飾区内の企業や団体と連携し、ビジネスを実学として学び、社会で活躍できる人材の育成に取り組んできた。東京都の施策により、商業科がビジネス科に改編されたことで、1学年「東京のビジネス」、2学年「ビジネスアイデア」、3学年「課題研究」において予測困難な社会に向けた課題解決型の学習と実学に基づいたビジネス教育も実践している。これらの実践が評価され、令和6年2月に「文部科学大臣賞」を受賞することができた。

(1) 「ビジネス基礎」での取組

本校では、毎年1学年の生徒全員を対象に、インターンシップを実施している。多くの企業の協力を得て、社会に出る前に仕事の場について、実際の実務を近い体験を行い、社会人としての働き方や自身の適性、仕事の大変さや楽しさ、働くことの大切さなどを知る機会となった。その他、葛飾区のプロサッカークラブである「南葛SC」と連携し、また、都内のプロバスケットボールクラブである「東京ユナイテッドバスケットボールクラブ」との連携授業を行った。イベントの企画や若年層のファンを増やすためのアイデアを出し、

校内のアイデア発表会にて発表を行った。

(2) 「ビジネスアイデア」での取組

本校は、「めざせ！葛商ブランドの確立」というキャッチフレーズのもと、地域と連携した地元密着型のビジネス教育を推進してきた。商品開発（葛飾区内の農家で栽培した小松菜を練り込んだ煎餅や羊羹）、葛飾区亀有の「吉田パン」と連携した商品開発（コッペパン）、JA 葛飾と連携した「葛飾元気野菜」の販売、都立足立特別支援学校との連携を推進し、ビジネスに関する協働学習等に積極的に取り組んだ。また、授業やボランティア活動について、地域連携（地元イベントでのボランティア活動）などの実践的な学習によりビジネス教育を大いに推進させた。

(3) 課題研究での取組

さまざまな課題研究の授業で、積極的に企業連携を行い、ビジネス科にふさわしい生きた知識・コミュニケーション能力を磨いている。「地域に学び、地域に貢献する」という視点で、葛飾区内の企業が中心となった経済団体の一つである「かつしか異業種交流会」の会計処理を生徒が担当し、当該団体の定期総会の会計報告も行っている。簿記の授業で習った専門知識を実際の企業団体の会計処理を実践することで、実践的な会計業務を建研できる。また、「新しいことを学び、チャレンジ精神を養う」という目的から、商業高校ならではの充実した施設を活用しながら、メタバース協議会、株式会社 Cyber Lounge の協力を得ながら、AI（人工知能）、メタバース、アプリケーションの開発に関する最新のな実践も行っている。また、Microsoft 本社で行われている「ハッカソン」に参加している。「ハッカソン」とは、特定のテーマに対してそれぞれが意見やアイデアを出し合い、決められた期間内でアプリケーションやサービスを開発し、その成果を競い合うイベントである。

また、「課題研究」の授業では、「地域デザイン」として、玉川大学と連携し、玉川大学観光学部の教授による講演と実習を実施した。調査研究の方法やマーケティングの技法なども、専門の大学教授から学ぶことで、新たな気付きになった。実際

にフィールドワークも行い、活動の振り返りを行うこともできた。

(4) 学校設定科目「教養社会」での取組

社会科の本校学校設定科目「教養社会」で、地元企業の経営者から講演を実施した。「社会とは」「社会貢献とは」「働くとは」「人はなぜ勉強するのか」「今何をすべきか」「社会人になるにあたっての心構え」など演習方式で実施した。

(5) 進路指導の取組

葛飾区内の企業の経営者に依頼し、「働く意義」「働くことへの心構え」「企業が求めている人材」についてのご講演を実施した。実際に個人面接練習、集団面接練習を行った。企業の経営者の皆様からの多くのアドバイスを得ることによって、生徒にとっても、有意義な実りのある内容となった。教員が行う面接練習とは異なった別の角度から、自己分析が進み、より自分自身を振り返ることができるようになった。さらに、外部講師を招き、履歴書の志望理由書の書き方、大学入試に向けた小論文の書き方など、数回にわたり実施した。

5 おわりに

今後も地元、葛飾区という地で「地域と連携した地元密着型のビジネス教育の推進」を核とした教育活動を通し多彩な学びを重ねながら、多様化した社会の中で、将来の国際社会を担う人材として、必要な知識と技術、勤労観・職業観、道徳心、社会性、コミュニケーション能力など、生徒の柔軟な力を総合的に高め、これまで以上に地域や企業に必要とされる専門高校となれるよう、特色あるキャリア教育を系統的に展開する予定である。





令和7年度全国高等学校長協会家庭部会関東地区
家庭学科・コース（系）設置高等学校長連絡協議会
＜東京大会＞報告

東京都立南多摩中等教育学校長 富川 麗子

1 はじめに

全国高等学校長協会家庭部会は、高等学校の家庭科教育の振興を目的とし、調査研究、研究会、協議会、講習会、要望及び陳情、名簿、会報発行など、多岐にわたる活動を行っております。これらの活動は、家庭科教育の発展に大きく寄与しているところです。

その中で、関東地区連絡協議会は、全国高等学校長協会家庭部会の設置趣旨に基づき、関東地区における家庭に関する学科・コース（系）の現状と課題を共有し、今後の教育の在り方や教育課程、教育活動等について研究・協議を行う場として設けられております。この協議会を通じて、家庭に関する学科等の一層の充実と発展を図ることを大きな目的としております。

家庭科は男女必修となつてからすでに31年が経過し、現在40歳代後半以降の多くの方々が家庭科教育の恩恵を受けて育ってきました。その影響は社会の様々な場面で見受けられ、生活の質の向上や豊かな人間関係の形成に寄与していると感じております。

家庭科で培われたコミュニケーション能力や生活基礎力は、職場でのチームワーク向上だけでなく、問題解決力の育成にも大きく寄与しています。ホームプロジェクトや探究的学習を通じて、生徒は課題発見から計画・実践・振り返りまで主体的に取り組む力を身に付けることが出来、こうした経験が、社会に出てからも多様な価値観を尊重しつつチームで課題解決にあたる力となっていることが示されています。家庭科教育は、生活技能を超えた社会人基礎力の育成に欠かせない学びであると改めて感じております。

今年度は、東京都が主幹校として実施いたしました。ここに、今年度の内容を報告いたします。

2 令和7年度 全国高等学校長協会家庭部会 関東地区家庭学科・コース（系）設置高等学校長 連絡協議会＜東京大会＞

(1) 日時

令和7年9月4日（木）

| | |
|------------|-------------|
| 受付 | 9:30～10:00 |
| 開会 | 10:00～10:20 |
| 研究協議Ⅰ | 10:20～12:00 |
| 講話 | 12:50～13:40 |
| 実践報告・研究協議Ⅱ | 13:50～15:20 |
| 指導講評 | 15:35～16:05 |
| 諸連絡・閉会 | 16:05～16:15 |

(2) 会場

アルカディア市ヶ谷（私学会館）阿蘇（6階）

(3) 目的

- ①家庭に関する学科・コース（系）の現状と課題を把握
- ②家庭学科・コース（系）の今後の教育の在り方、教育課程、教育内容、教育活動等に関して研究協議を行う
- ③家庭に関する学科等の充実・発展を図る

(4) テーマ

「家庭科教育の充実と今後の在り方」

(5) 主催者および主幹校

主催者：全国高等学校長協会家庭部会関東地区
家庭学科・コース（系）設置高等学校
長連絡協議会

主幹校：東京都立南多摩中等教育学校

(6) 参加者 43名

- ①本協議会会員
- ②家庭学科・コース（系）設置高等学校長
- ③家庭科専門の校長 ④各都県代表理事
- ⑤各都県家庭科担当指導主事
- ⑥各都県代表理事が認める者
- ⑦来賓 ⑧家庭部会事務局長

3 内容

(1) 開会

司会 東京都立赤羽北桜高等学校長

金 澤 正 美

①理事長あいさつ

全国高等学校長協会家庭部会理事長

高 木 伸 一

②開催県代表あいさつ

東京都立南多摩中等教育学校長

富 川 麗 子

③来賓あいさつ

文部科学省初等中等教育局教育課程課

教科調査官 田邊 暁子 様

東京都教育庁指導部

高等学校教育指導課長 小林 靖 様

(2) 研究協議Ⅰ

①本部事務局報告

②各都県の状況報告等

(3) 講話

「学習指導要領のよりよい実施を目指して」

～質の高い家庭科教育に向けて～

文部科学省初等中等教育局教育課程課

教科調査官 田邊 暁子 様

(4) 実践報告・研究協議Ⅱ

①実践報告

実践報告1 「忍岡高校生活科学科の実践」

東京都立忍岡高等学校長 紺野 智恵子

実践報告2 「地域や社会の持続的な発展

を担う産業人材育成のための家庭科教育

の実践」

神奈川県立吉田島高等学校長 岩崎秀太

②研究協議Ⅱ

ア 家庭科教育に関する充実・発展について

イ 令和10年度 秋季研究協議会について

ウ 研究協議会（秋季）「研究協議」関東ブロッ

ク提案校（令和8・10年度）について

(5) 指導講評

(6) 次期開催県あいさつ

神奈川県立秦野高等学校長 大江 雅美

(7) 諸連絡・閉会

4 参加者の感想（一部抜粋）

○ここ数年の中で、最も充実していた大会であり、多くの示唆を得られた。

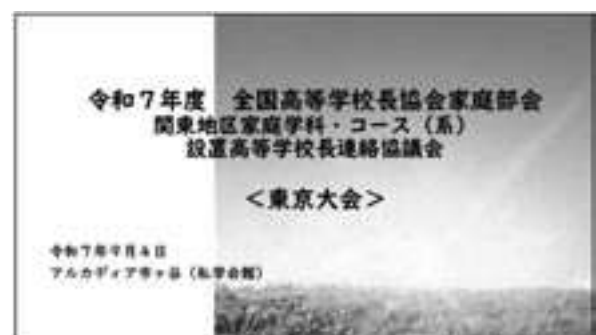
○実践報告が具体的で参考になり、今後の教育活動に生かせそうだ。

○文部科学省からの講話が大変分かりやすく、質の高い家庭科教育の方向性を再確認できた。

○多様な視点から意見交換でき、有意義な一日となった。

5 おわりに

本大会では、多様な実践報告や文部科学省からの講話を通じて、家庭科教育の意義や今後の方向性を改めて確認するとともに、各校の工夫や課題が共有されました。参加者同士の意見交換から得られた知見は、教育課程の充実や探究的学習の深化に向けた大きな力となることが期待できます。今後も、地域・学校・行政が一体となり、生徒の主体的・協働的な学びを支える教育環境の整備と質の向上に努めてまいります。引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



報 告

令和7年度東京都産業教育振興会創立70周年記念総会・講演会報告

令和7年度は東京都産業教育振興会の創立70周年に当たることから「創立70周年記念総会・講演会」として、6月19日（火）に会場参加（全商会館）とオンライン参加を併用して開催しました。

参加者は総会が会場参加48名、オンライン参加6名、計54名、講演会が会場参加44名、オンライン参加9名、計53名でした。

【創立70周年記念総会】

開会にあたり、西澤宏繁会長、坂本雅彦理事長（東京都教育委員会教育長）から挨拶がありました。



続いて、来賓の公益財団法人産業教育振興中央会専務理事岩井宏様、東京都公立高等学校長協会会長の加藤瑞樹様（東京都立稔ヶ丘高等学校長）、東京都中学校長会会長の佐藤敏数様（武蔵野市立第二中学校校長）からご挨拶を頂きました。

【報告・議案】

西澤宏繁会長を議長として議事に入り、会員各位の御審議の結果、報告事項及び議案は全て原案通り承認されました。

- ・報告事項(1) 令和7年度 会長、副会長の選任結果について

- ・報告事項(2) 令和7年度 教育庁内の東京都産業教育振興会役員について
- ・報告事項(3) 令和7年度 産業界会員功労者永年会員)の表彰について
- ・第1号議案 令和6年度事業報告(案)
- ・第2号議案 令和6年度決算書(案)
- ・第3号議案 令和6年度監査報告
- ・第4号議案 令和7年度東京都産業教育振興会役員(案)
- ・第5号議案 令和7年度事業計画(案)
- ・第6号議案 令和7年度予算書(案)

【講話】

長谷克己教育庁都立学校教育部ものづくり教育推進担当課長の講話「産業教育の歩み」がありました。

【感謝状贈呈】

50年以上会員となって支援して頂いた産業界会員6社に対し西澤会長より感謝状を贈呈しました。

株式会社小薬印刷所、三和電気計器株式会社、実教出版株式会社、鉄道機器株式会社、東京ガス株式会社、東京書籍株式会社

【表彰状贈呈】

10年以上会員となって支援して頂いた産業界会員に対し西澤会長より表彰状を贈呈しました。

公益社団法人東京都専修学校各種学校協会、ベストワールド株式会社

【創立70周年記念講演会】

総会終了後、創立70周年記念講演会を開催しました。

演題：「AIによって産業はどう変わるか そのために教育はどう変わるべきか」

講師：京都橘大学教授 松原 仁 氏

(講演要旨は83ページから97ページに記載)

開会の挨拶

東京都産業教育振興会

会長 西澤 宏繁



皆様、この暑い時に、こんなに沢山、お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。今回の総会は、創立70周年でもございますので、70周年記念総会と銘打ち開催させていただきました。講演会の方も時代に相応しいいい講師をお願いすることができたと考えております。

70周年ということで、少し過去のことに遡って、もう1回見直してみようと思いいろいろと調べてみました。

この産業教育という言葉が我々は言うておりますけれども、こういう概念は日本で一般化し、よく使われるようになったのは、そんなに昔からではございません。そもそも、こういう実業に関する学びが大事ということは、幾多の先人は早くから自覚していた訳でありました。具体的には、渋沢栄一、一万円札の表紙になった方、日本の商工会議所を作る等、日本の産業近代化の先駆けをなさった方ではありますが、こういう方が欧米の視察旅行を終えて帰ってきて、実学という言葉を使って、実学をしっかりとやらないと、欧米に伍して日本はやっていけないのだから、実学を充実することが極めて大事であるということを出された。この辺が産業教育のきっかけと言ってもいいのかなという感じがいたします。

昭和9年の実業教育50周年を契機に「実業教育講話会」が発足いたしました。これが「産振中央会」という会のきっかけになりました。そして昭和11年に「実業教育振興中央会」という形になりまして、それが昭和26年に産業教育振興法という法律ができたことによって、「産業教育振興会中央会」というふうに名称を変更しました。それまでは実業教育という言葉を使っておりましたが、産業教育という言葉が1つの独立した概念としてしっかりと定着していったかなというふうに私は理解しました。

産業教育振興中央会が作られたのを機に、全国の各都道府県でそういう産業教育を振興するための組織というのが作られるようになりまして、その相互の連絡をするための組織として、全国産業教育振興連絡協議会というものが作られました。その理事長を東京都の産業教育振興会会長が務めることになりまして、私は全国の皆さんとも連携して、いろいろな問題に対処するという形になってきているということでございます。

そういうことで産業教育という概念そのものは比較的新しい訳でございますけれども、この産業教育というものを日本の中で大事にしていかななくてはならないということであるにもかかわらず、実は、2006年に教育基本法が60年ぶりに改正されたということでございますけれども、この新しい教育基本法はいろんな意味で皆さんの注目をひき、国民の期待を集めた法律でございます。しかし、この教育基本法の中には、産業教育という言葉は出てきません。そういう概念も提示されておられません。これは極めて残念なことだったと私は思っております。ただ、中に生活とか職業というものをしっかり考えるというプロセスもありますので、そういうことであれば、そういうことを踏まえて我々は考えればいいな、ということになったのでございます。従って、産業教育というものを一つの概念として、一つの分野としてしっかり認識して、いろんなことをやっていくというのがとても大事なことはないかなというふうに私は思っております。

教育基本法の大きな変更のもう一つが、教育というのは全体主義ではなくて、各地域、地域の個性を踏まえた教育というものが大事だという認識のもとに、国と地方公共団体が協力して、緊密に連絡し合って、対等な関係で教育という行政をやっていくということです。そういうことで、東京都は東京都教育委員会が中心になって教育方針を作っていくということになっており、我々東京都産業教育振興会は、東京都の産業教育振興に関わるということになる訳でございます。

そういうことで、いろいろやることは沢山あるのでございますけれども、この産業教育をスムーズに進めていくための一番大事なことは何かといいますと、結局、東京は中小企業が沢山集合している地域でございまして、こういうところで働いていく人たちは、皆さんが日頃お世話いただいている工業高校、商業高校、農業高校その他の高校、あるいは専修学校の人たちです。こういうところの活性化というのが東京の場合、とりわけ重要であるということで、東京の産業教育というのはやっぱりそういう現場の先生方と、東京の教育委員会等々が協力してしっかりやっていくというのが、とっても大事なことだということになる訳でして、ひとしお産業教育振興の重要性というのが高い地域というふうに考えられるところでございます。

最近の大きなテーマはやっぱり少子化に伴う学生の減少と労働人口の減少といったところで、各学校の現場ではご苦労さされている訳でありまして、いろいろ沢山問題がある中でも、この問題に対してどう対応するかというのは、とっても大事なことでございます。

そこで、東京都産業教育振興会では、産学懇談会という学校見学会がございまして、これは年に1回しかやっていなかったのを、今は3回やっております。学校現場の先生方と産業界の方たちにご出席いただいて、学校現場を拝見して、いろいろディスカッションしていただき、いろいろ提言をするといったようなことをやっております。

また、教育懇談会というものを西多摩地域、葛飾区、大田区でここ3・4年開催しており、これが徐々に軌道に乗ってきています。葛飾区では葛飾商業高校を始めとする3校で極めて効果的な形で成果を上げつつあります。区長さんを始め、区を挙げてこの産学共同の事業に加わっていらっしゃるという事も影響してるのではないかと、いうふうに言われておりますが、こういう形で少しずつではあるけれども効果が上がっていくことは、とっても素晴らしい、この葛飾方式が段々いろんなところに広がっていけば良いなというふうに考えております。

また、大田区では小・中・高等学校と産業界が連携して教育懇談会を開催し、小中学校の先生方や産業界の方に専門高校の良さというものをよくわかっていただいて、スムーズな職場への移行ができるようなコミュニケーションを取るといふ会を開催しております。さらに、西多摩地域では都立高校と西多摩地域の商工会、商工会議所が連携し、西多摩の産業を担う人材の育成に取り組んでいます。このように、各地域単位での取り組みを応援していくということも大事なんじゃないかなというふうに考えております。

東京都産業教育振興会というのは、大上段に構えて、大きな制度変更とかいうのをやっていくような組織ではございません。学校現場と特に中小企業の現場との間をしっかりとつないで日本の産業の最も大事なところの人材育成といったことに役立つような小さなことの積み重ねを少しずつやっていくような活動を地道に引き続きやっていきたいと思っております。

70周年いろいろあったりした中で、着実に我々のこの地道な努力を積み重ねて行っている成果がそれなりに少しずつ上がってきている面はあるかと思っております。皆様の地道なご努力、ご尽力、我々の会に対するお力添えも本当に感謝をしております。引き続きよろしくお願ひしたいと思います。以上で開会のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

東京都産業教育振興会

理事長

東京都教育長 坂本 雅彦



皆さん、こんにちは。東京都産業教育振興会の理事長、そして東京都教育長という立場から一言冒頭ご挨拶を差し上げたいと思います。

今回は70周年の記念の総会ということで、非常に70年の長きにわたり、この振興会を支えてこられた関係者、皆様方のご労苦に改めて感謝を申し上げますと共に、我々はそれを引き継いで更にこの振興会を未来に向けて、より一層発展させていかなければならない、そういった意味では改めて決意したところであります。

今、西澤会長の方から様々な過去の来歴についてのお話もあったのですが、この東京都の産業教育振興会について申し上げますと、昭和30年に設立をされてこの70年間ということですね。昭和30年というと、ちょうど神武景気、ちょっと生きていたかのように言ってしまうと恐縮なんですけれども、私の生まれる大体10年くらい前ですかね。

そういう時代に、ちょうど朝鮮半島で戦争が始まって、アメリカ軍からいわゆる生産拠点としての日本の立ち位置、そこで工業が非常に伸びていく2年間の神武景気、その真ただ中に作られたというのが、この会のある意味では非常に特徴的などころにもなるのではないのかなと思います。その後、日本は高度経済成長に入る訳ですけれども、東京都でも工業高校というものが一か年で5校を超えるような数、作られている時代もありました。

いわゆる第一次産業から第二次産業へのシフト

が急速に進んで、農林水産をやっていた皆様方や、更にはそのご家族が都心部の工業地帯に出てきて、様々な産業振興に当たるといような、そういう時代が続いていって、更にはそれに伴う形で、サービス業を中心とするいわゆる第三次産業も伸びてゆく。

そういった中で、かつては世界第2の経済大国、そしてその中心であるところの東京都、そういったところで産業が伸びていき、更にそれに人材を供給するための教育、こういったものが行われるという必然の過程であったと思っております。

それを長年の70年にわたって、ある意味では牽引をしてきた部分があるのがこの振興会ではないかというふうに思っています。ただ、そういうような一連の流れというものが、未来永続続くというふうに我々は決して思っていないというふうに思っております。

今、日本の経済の地位が世界第2位から、もうどんどんドイツにも抜かれてしまうような状態になっていると。しかも、ものづくり、これが基幹であることは間違いはないです。関税交渉でも、今アメリカと激しくやり合っているのは、自動車という製造業のものづくりの分野は日本として、いかに支え続けていくかということであることには間違いはないと思います。ただ、そういう中でも例えば米の問題が出てくれば、これは農業産業という、この農業という産業がどうなっていくのかと。更にはスタートアップのような業態がどんどん出ていく。これは非常にサービス業を中心に広がっている訳です。そうすると、そこで担い手となる人材をどのように教育していくべきなのかということは、これ改めて教育業界、教育界としてもしっかりと考え直さないといけなくなっているのではないかというふうに思っている次第です。

その中で、今日ちょっと一つだけ申し上げておきたいということが、我々が今どういう立ち位置にいるかということ、まさしく時代の転換点なんですけれども、転換の有り様というものが問われた時に、簡潔な言い方と言うと、不易流行というそういう地点に我々は立っているんじゃないかなと思います。

不易流行ということは、結局、流行は新しい時

代の流れ、こういったものをしっかりと受け止めながら、不易、これは変えてはならない。コアの部分は決して変えることなく、次世代に引き継いで教育をしっかりとやらなければいけない。こういう地点が、まさしく今我々の置かれてる場所であろうというふうに思います。

では、一体何が変わろうとしているのかということなんですけれども、いろいろあります。ただ一つ大きな流れとして、産業界にも教育界にも言えることは、デジタル化の進展だと思えます。

デジタル化ということは、各分野で必ず言われています。工業界では物を作るにしても、職人芸で作っていたネジの精度がデジタル計測によって全く同じレベルの物、もしくは場合によってはそれを超えるような物が作られている。こういう場合に、どこまで職人芸で我々がものづくりに取り組むべきか、これ大きく問われていると思います。

更には農業の分野で行くと、デジタルを使って非常に微細な物を計測しながら、新たなバイオ技術というものをどうやって磨きあげていくのか。そのバイオ技術の基幹となるところは、これは農業というところになると思います。そうなっていくと、農業の教育というものは田植えのやり方、稲作、肥料のやり方、それだけで良いのかということになります。

今、温室栽培をやる時に温度、湿度、そしてCO₂の組み合わせは全部デジタル技術のAIまで使って行われるような時代になっています。そういう技術を全く学ぶことなく、社会に出て行って良いのかというような、そういう農業的な要請というものがあって然るべきです。

そして商業の分野で言った場合に、こここそ、まさしくコンピューターライズが進んでいます。デジライズも進んでいます。昔はちゃんと貸方と借方を仕分けしながら書けるように、作れるようにということを、いわゆる銀行に勤めるというような部分も想定しながら、しっかりと基礎から手仕事で学ぶということが商業教育の基礎だったと思えますが、今そのプロセスはほとんどパソコン、コンピューター、これに置き換えられようとしています。かと言って、貸方と借方の概念がわからなくて良い、バランスシートが読めなくて良

いということには絶対なりません。バランスシートが読めなくて、企業の経営もできない訳です。

今申し上げた、一連のことを申し上げるとどうということかと言うと、結局、不易流行といったところで、言っているところの一つは、デジタル化というこの流行の新しい流れに対して、不易とって皆さん方が長年にわたって積み上げてきたものを、本質的にどうやって守り続けていくか、そしてそれぞれが相反する方向に向かうのではなくて、この両者をどうやって一つの物として融合させていくのかと、ここが非常に重要なポイントになる訳です。

そういう中で東京都の教育委員会では今、デジタルとリアル融合こそが重要である、新たな教育のスタイルというものを展開するというふうに舵切りを始めました。これをある一定のモデル期間を置いた上で、本格的に都立高校で展開をしていきたいと思えます。この流れは義務教育の世界にも確実に広がっていくものというふうに、私は確信をしております。

こういう不易流行の、デジタルとそして今まで積み上げてきたリアルをいかに融合させて次世代の産業を支える教育というものを進行していくのかというものが、今まさしく我々に問われていることに他ならない、というふうに私は思っております。こういう展開について、皆様方から幅広くご理解をいただいて、実際に現場で何をやっていったら良いのか、これは真摯に向き合って考えていくというのが、今回の非常に重要なテーマに、これからなっていくのだというふうに思っております。

なかなか言うは易く、実際にやるのは難しいということは、私は重々承知しておりますけれども、ただ難しいからといって手をこまねてはいけないことも、これは確かであります。

皆様方がこういう理念に少しでも賛同していただけて、物事を少しでも未来志向で前へ進めていただけてをお願いし、更には本会への様々な経営や、業務運営に対して貴重なご意見、これを賜ることができますよう、お願いを申し上げて私のご挨拶に代えさせていただきます。

ありがとうございました。よろしく願いいたします。

祝 辞

公益財団法人産業教育振興中央会

専務理事 岩井 宏 様



ご紹介いただきました公益財団法人産業教育振興中央会 専務理事の岩井でございます。

本日は、東京都産業教育振興会創立 70 周年記念総会という歴史ある節目の場にお招きいただき、一言ご挨拶申し上げます。

まずは、西澤会長、金子副会長をはじめ、貴会の発展に多大なるご尽力をいただいております関係者の皆様に、深く敬意を表します。また、長年にわたり、専門高校をはじめとする産業教育の充実と人材育成に取り組まれてきた、本日、感謝状の贈呈や永年会員表彰されます企業の方々をはじめ、関係の皆様方のご尽力に、心より感謝申し上げます。

さて、東京都産業教育振興会は、昭和 29 年(1954 年)、わが国の産業教育が創始から 70 周年を迎えたことを一つの節目として、その意義を振り返る中で、東京都における産業教育の一層の振興と支援を目的とした組織設立の機運が高まりました。これを受けて、翌昭和 30 年(1955 年) 5 月 26 日、関係者のご尽力により「東京都産業教育振興会」

が正式に設立され、本年、創立 70 周年という大きな節目を迎えられました。以来 70 年にわたり、貴会は一貫して、東京都内における産業教育の振興と、地域社会に根ざした専門高校の充実・発展に大きく寄与してこられました。

70 年という長きにわたり、社会構造の変化が今なお進行する中で、情報化、グローバル化、少子高齢化といったさまざまな課題に直面しながらも、貴会は常に時代の先を見据え、産業教育の重要性を社会に訴え続けてこられたことに、改めて敬意を表する次第です。

現在、生成 AI やロボティクスといった先端技術が日常の中に浸透し、私たちの生活や働き方、学び方が大きく変わろうとしています。一方で、国際社会では武力衝突や資源の不安定化、国内では少子化と人口減少の進行といった課題が山積しています。このような時代だからこそ、課題を自ら見つけ出し、他者と協働して答えを導く力を育む教育の重要性が、これまで以上に増していると感じております。

専門高校における実践的・体験的な学びは、まさにそのような力を育てる場であり、そこで学ぶ生徒たちの姿は、未来の日本を支える大きな希望でもあります。そして、そうした若者の可能性を伸ばすための環境整備と支援に、今後も貴会が大きな役割を果たされることを期待しております。

本日の創立 70 周年記念総会では、新たな時代にふさわしい事業計画が議論されると伺っております。貴会のさらなる飛躍と、全国の産業教育振興の先導役としての役割に、今後も大いにご期待申し上げます。

結びに、東京都産業教育振興会の 70 周年を心よりお祝い申し上げますとともに、貴会のさらなる発展と、皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

東京都公立高等学校長協会会長
東京都立稔ヶ丘高等学校

統括校長 加藤 瑞樹 様



令和7年度東京都産業教育振興会創立70周年記念総会の開催、誠におめでとうございます。

はじめに、東京都産業教育振興会が、「産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡・協調し、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校などの産業教育の改善・進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与すること」を目的として、昭和30年に設立されて以来、70年の長きに亘り、東京都の産業教育の振興に大きく貢献してこられたことに敬意を表します。

特に、本会の事業である教育功労者表彰、研究団体助成、作文コンクール、優良卒業生選奨は、高等学校の生徒、教職員にとって大きな励みに

なっており、高等学校を代表して御礼を申し上げます。

さて、近年のグローバル化や情報化、生成AIの進歩に象徴される技術革新などが急速に進む社会において、子供たちに求められる資質や能力も変化してきております。この加速度的な社会の変化に対応するために、学校教育においては、主体的に関わり、豊かな創造性や感性、しなやかな知性といった、新たな知を生み出す力を養い、協力して課題を解決していくことが求められています。

これからの社会において、活躍できる産業人の育成は極めて重要なことであります。そのためには、高等学校は、地域社会や高等教育機関、企業等の関係機関と連携・協働することがより一層求められてきます。また、中学校と高等学校の連携、高等学校と高等専門学校、専修学校、大学との連携も必要となります。

東京都産業教育振興会は、学校・産業界・行政をつなぐ要として、大きな役割を担ってこられました。これからも、学校が開かれた教育活動を行い、社会とつながる多様な学びを実現できるよう、これまで以上に御尽力いただきたいと願っております。

結びに、東京都産業教育振興会のますますの御発展と会員の皆様の御活躍を祈念いたしまして御挨拶とさせていただきます。

東京都中学校長会会長
武蔵野市立第二中学校

校長 佐藤 敏数 様



ただいまご紹介をいただきました、東京都中学校長会会長の武蔵野市立第二中学校 佐藤 敏数 様です。

本日は、令和七年度東京都産業教育振興会創立七十周年記念総会の開催、誠におめでとうございます。

日頃から、産業教育の改善・進歩を図り、産業経済の自立発展に寄与してくださっていることに敬意を表すところです。

また、東京都産業教育振興会が、「産業界・教育界・行政の三者が一体となり、相互に連携を深め、協力し合って、有為な職業人の育成を図る」ことを目的として、昭和三十年五月に設立され、長きにわたり産業教育に御支援をいただき心よりお礼申し上げます。

特に、本会が実施されている優良卒業生表彰、作文コンクールなど、生徒が職業教育に対する理解を深め学習意欲を高める取組や、教育功労者表彰などそれを支える教員の士気を高める取組は、中学校での職業教育の理解、振興を支えるものとなっています。この場をお借りいたしまして深く御礼申し上げます。

さて、コロナ禍以降、学校における学習環境も、GIGAスクール構想の進展により、生徒1人1台のタブレット端末の配布と活用が始まり、教育

のICT化は、急速に進んでいます。今の中学生や高校生が社会人として活躍する十年、二十年後の未来社会は、人工頭脳(AI)、ビッグデータ等の先端技術が高度化し、雇用や就業形態の多様化・流動化など産業構造の劇的な変化だけでなく、人間の生活やあり方までもが大きく変化するとも言われています。

こうした中、昨年十二月には学習指導要領の改訂に向けて文部科学大臣から中央教育審議会に対し諮問が行われました。この諮問の検討にあたって子供たちにとって重要なこととして、自らの人生をかじ取りする力を身に付けること、持続可能な社会の創り手になること、豊かな可能性を開花できることが挙げられ、これから迎えるであろう時代を乗り越える力の育成が求められています。

各中学校では、これまでもキャリア教育の一環として、地域の企業・事業所等の御協力をいただき、「職業調べ」、「職場訪問」、「職業講話」、「職場体験学習」など体験を重視して、勤労観や職業観の育成に力を注いでまいりました。生徒が職業に就いていらっしゃる方々の生の声を聞くことや、仕事を体験することは、時代の変化に柔軟に対応し、逞しく生き抜く力を身に付ける貴重な機会だと考えております。これからのキャリア教育は、いわゆる上級学校への進学指導のみならず、生徒が幅広い視野に立ち、自らのキャリア形成を考える場面を一層重視していかなければなりません。

東京都中学校長会といたしましても、東京都産業教育振興会の皆様方と、さらに連携し、教育活動の充実を図ってまいり所存でございます。今後とも、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

結びに、東京都産業教育振興会のますますの発展と本日の総会・講演会が実り多いものになることを祈念いたしまして御挨拶とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。

創立 70 周年記念講演会・講演要旨

演題 「AI によって産業はどう変わるか そのために教育はどう変わるべきか」

講師 京都橘大学教授 松原 仁 氏



皆さんこんにちは、松原です。こういう機会をいただいております。今、世の中、お騒がせしているというか、十数年前くらいから、ブームにもなっている AI について説明をさせていただきます。

AI は日本語で人工知能なんですけれども、もともとアーティフィシャルインテリジェンスという英語です。以前は日本では人工知能ということが多かったんですけれども、今は新聞でも雑誌でも、ネットでも、本の題名でも、AI という言葉が多くなったと思います。AI の方が二文字で短いのもあると思いますけれども、AI という言葉になりつつあります。

こういうお話をするとき、最初にお断りしておくのが、AI というのは具体的に何を指すのか、ということについて実は専門家の間でも、コンセンサスがないというか、そういう領域です。学問分野では数学とか物理学とかは何を扱う分野かというのは多分、コンセンサスがあると思うんですけれども、AI はありません。私が大学院で AI を学んだときにも、定義がないと言われ、今も定義がない。我々 AI 研究者がさぼっているというよりは、知能という言葉、対象に理由があります。

そこに書いてありますように、AI の目的はほぼ世界中の AI 研究者が共有しています。大きく二つあって、一つは知能を持った人工物を作る。具体的には人工物と言ってもコンピュータ、あるいはロボット。ロボットというのは要するに、コンピュータが搭載されている機械ということですが、そういうのを作ろうとするという工学的な目的。人間のようなという形容詞がついているのは、知能をコンピュータに持たせようと思ったときに、目標というのが欲しい訳ですが、ご存知の通り、我々が知っている一番知能程度が高い存在は我々人間なので、目標は人間ということになります。もちろん人間より上の目標、人間を超えた先というものを指すというのも最近はあるんですけれども、とりあえず人間を目指すと。もう一つは、今の目的に付随しますが、コンピュータ、ロボットを道具として、知能とは何かみたいなことを科学的に探究するという、認知科学と言われる分野がこれに当たります。大きく分けてこの二つの目的があります。いずれにしろ、知能というのを扱っていて、これがよくわからない。もちろん辞書には知能とは何かと書いてありますけれども、わかったような、わからないような。例えば、今私は日本語をしゃべって、皆さんは日本語を聞いて理解されているのですが、言葉をしゃべったり、それを聞いて理解したりする。これは AI では、自然言語処理という研究領域です。自然言語処理という言葉自体はあまり見慣れないと思いますが、何で自然がついているのかというと、プログラミング言語、Java とか C とか今だと Python とかいろんな言語があるのですが、あれは人間向きではなくて、コンピュータに人間の意図を伝え

るための言語、人工言語なのです。我々が使っている日本語とか英語とかこういうのを、我々の業界では自然言語と言います。言語学者は自然言語という言い方は絶対にしません。言語と言えは言語だ、人間のものなので、別に自然なんてつけなくていいというのですけれども、自然言語処理です。これはもちろん知能の非常に大事なところで、人間と他の動物を分けて、人間がこれだけ知能程度が高いのは、我々人間だけが、それだけ複雑な言葉、音声などによって情報を交換するからです。情報を交換する動物は他にもいますけれども、人間ほど複雑な情報を伝えられる言語を持っているのはないです。これは明らかに、人間の知能としてすごく大事な訳です。また、目で見たものを理解する。今、このスライドとか、お手元の紙とかの文字を見て、理解されていると思いますけれども、これはAIでは画像認識とか、画像理解と言い、目で見たものがなんだか分かるのです。こういうのがあるとペットボトルが分かる。これも、もちろん知能の非常に大事なところで、よく言われているように、人間は9割以上の情報は視覚によって得ているということで、知能にとって非常に大事な要素です。また、今、私の話を耳から聞いていただいています、耳から聞いた話だけではなく、音を聞いて、それは何の音かというのを認識する。これはAIでは音声認識、音声理解と言いますが、もちろんこれも知能です。今言っただけでも、自然言語処理、画像認識、音声認識と三つあります。三つは知能に入っていますが、もっとたくさんある訳です。人とコミュニケーションをとるという能力も知能ですし、ゲームでいい手を見出す、探す、見つけるというのももちろん知能ですし、おいしい料理を作るというのも知能でしょう。数え切れないぐらいの能力をみんな知能と呼ぶ。一言で知能と呼んでいるので、人間のような知能をコンピュータやロボットに持たせるといったときに、何ができたら持たせたことになるのかというのが、今のところ分からない。どこまでやったら人間ぐらいになるのかというの



が分からないということで、知能という言葉が未定義なのです。従ってAIという言葉も未定義になったということになります。

個人的には鉄腕アトムを作りたいと思いました。日本のAI研究者、ロボット研究者で、ある世代はみんな鉄腕アトムと言うのですけれども、私も幼稚園のときに鉄腕アトムを、あれは日本初のアニメでしたが、あれに憧れて、ああいうのを作るような仕事、もちろんそうするとロボット研究者になる人もいるけれども、鉄腕アトムの頭脳部分というと、今で言うAIなので、こうしてAIの研究者になったのです。確か今、大阪万博のパソナ館で鉄腕アトムが案内してくれます。鉄腕アトムは手塚治虫さんが明らかに人間並みの知能を持った存在として描いていますので、知能もある。だからまだできていませんけれども、将来誰が見てもこのロボットは人間と遜色のない知能を持っているというのができた暁には、その能力が知能。総合的に見て知能だと言えるのではないかと思います。知能を定義することが人工知能の目標と書いたのはそういう意味です。人工知能の研究は、まだ人間にできてAIにできていないことがいろいろあるので、それを少しずつ潰していっているという感覚なんですけれども、もし潰し終わったら、そのとき初めて、知能というのがなんだか分かるのではないかと思います。今、我々は思っています。

AIの定義というのがはっきりしないということですが、時代によってAIの意味は変わってきます。今は大体、ディープラーニングという機械

学習を使った手法というのをAIと言っているということが多いと思います。30年前ぐらいにAIのブームがありました。そのときは、例えばかな漢字変換。かな漢字変換というのは皆さんワープロで日本語を書くとき、あとはLINEとかネットでメールとか書くときに、ローマ字で入れて変換と押すと、漢字と平仮名が混じった日本語になるというものです。あれはできたときは結構画期的で、皆さんご存知のようにキーボードはアルファベットでできていますので、欧米系から来たシステムです。日本語を入力するというのがすごく難しかったのです。日本語は、漢字なんかをたくさんこころへんに置いておいて、それを拾うというのが一時的にあったのです。漢字は1,000も2,000もあるので、どこにあるか分からないと、難しかった訳ですけれども、ローマ字から変換するという画期的な入力法というのができて、我々日本人もコンピュータに入力できるようになったという次第です。あれが出てきたときにはAIと言われたのです。知的だと言って。今、誰も言ってくれないです。かな漢字変換なんか、できて当たり前前の技術だということで。だからそうやって今もてはやされていても、将来においてはもうそんなことはできて当たり前というふうになる可能性はあるのです。それは先ほど画像認識とか自然言語処理とかありましたけれど、AIで扱っていることは全てとは言いませんけれど、多くは我々人間が無意識のうちに普通にできていることが多いのです。例えば日本語が母国語であれば、日本語を普通に読んで分かるし、しゃべれる。別に特別なことをしているつもりはない訳です。なぜ自分は日本語が分かるのかと言われても困りますよね。分かるから分かるのだみたいなことです。外国語はなかなか分からなくて難しい訳ですけれども、例えば耳から聞いたのがなんで分かっているか。これを見たときにペットボトルと分かるのはなぜかと言われてたら、そんなことは普通考えもしない訳ですが、コンピュータにやらせようとするとうごく大変です。今はもちろんできますが、今のAI

はこれを見てペットボトルと言えますが、これがペットボトルと分かるまでにはAIはすごく長い歴史がありました。だから無意識に人間がごく自然にやっていることというのも、コンピュータにやらせようということは多いのです。もちろん将棋で名人に勝つというのは、普通の人はそんなにいい手を見つけられないので、特殊といえば特殊ですけれども、無意識にやっていることが多いという。そういうポイントがあります。



先ほど言った歴史ですけれども、AIはコンピュータやロボットに知能を持たせるということで、AIが始まったのはコンピュータの発明以降になります。コンピュータの発明といえばどの機械が世界初のコンピュータだという裁判がアメリカとかで長々とやっていたのですけれども、はっきりした結論は出ずに1940年代の前半にイギリスとかアメリカで作られたのが原型という話になったんです。この時期は第二次世界大戦のまだ後半です。戦争目的というのが大きかったと思われま

す。最初のコンピュータというのはこの言葉が示すように、数、数値を速く正確に計算する機械として生まれました。コンピュータ、計算するで、コンピュータです。それが戦争の目的。1つに言われている話としては、飛んでいるミサイルを撃ち落とすミサイル。今でもありますけれども、以前は人間の勘で当てようとしていたらしいですが、それは当然誰が考えても分かるように、なかなか当たらないので、飛んでいる方向とか速さというのを入力するとすぐに計算して、どう撃てばそこ

で当てられるかとかいうのを速く正確に計算するという、そういう目的があったのですけれども、大きな戦争は終わりました。

もちろん数値計算、今で言う電卓ですけれども、それは便利なのですけれども、それだけだともったいない、他にも使い道があるのではないかと。コンピュータは数値だけじゃなくて記号。記号というのは我々の日本語とか、英語とか、あと概念と言われています。そういうものもコンピュータは扱います。我々人間はどうやって考えているかということ、頭の中でそれこそ概念みたいに単語みたいなものが頭の中に出ては消える。そういうことで考えている。だから人間も記号で考えている。だからコンピュータも記号が使えるのだったら、人間のように考えられるのではないかということ、できるかどうか分からないけれど、そういうのをやってみよう。

コンピュータを人間のように賢くさせようと言い出した人がいて、主にアメリカ、欧米、当時ソ連なんかもやっていたけれど、1950年頃にスタートします。日本は昭和25年ですので、戦後の復興期で、その日食べるのが大変だった時代なので、AIというのは先を見据える研究分野ですから、言葉は入ってきたけれども、研究開発としてはほとんど入ってきませんでした。

こういう若い学問なので、誰がAIという名前を付けたかというのがわかっていて、マッカーシーという人ですけれども、当時若手で、今で言うAIの研究をやっていた人が集まった時に、それまで自分たちのやっていることに名前が付いていないので、何かかいい名前がないかということになり、マッカーシーがアーティフィシャルインテリジェンスという名前を提唱しました。それで50年ぐらいから60年代半ばまでは一回目のブーム。AIというのはブームがあって、ブームがしぼんで、我々は冬の時代と呼んでいますけれども、そういうのを何回も繰り返している。ジェットコースターみたいに持ち上げられて下がるというそういう分野なのですけれど、



ど、一回目のこのブームがあります。それはコンピュータが発明されてからまだ間もないし、研究分野ができたばかりで、できたらすごいぞと。コンピュータが人間のように賢くなったら、我々はあまり働かなくても代わりにコンピュータやロボットが働いてくれて、夢のような世界が来るのではないかと、すぐにでも来るのではないかと。今から思うと、当時のコンピュータの能力というのは、今皆さんがお持ちのスマートフォンよりも遥かに低レベルというか、能力が低いので、冷静に考えればそんな能力の低いコンピュータに賢いことができる訳がないと今から言えば簡単なことですけれども、当時はどれぐらいの能力があれば、高度な知能が持てるか分かりませんでした。ブームというのは具体的には研究予算も大量に導入されて、研究者もすごい。だからさっき言った自然言語処理とか、画像認識とか、音声認識でとか、AIの今の研究分野というのは、全部この頃スタートはしているのです。でも、先ほど申し上げたように、コンピュータの能力が貧弱だということと、人間はペットボトルはすぐペットボトルとわかるのにコンピュータにわからせることの難しさがよくわかってなかったのです。コンピュータにこれをペットボトルとわからせるのが、やろうとしたらすごく難しい。なかなかわかってくれないということにだんだん気がついてくる訳です。そうすると全然人間に追いつかないので、冬の時代。65年ぐらいから80年ぐらいまでは冬の時代で、こんな不毛な研究領域に研究予算なんかつけてもしょうがなくなり、研究費が大幅にカットされま

した。そうすると人もいなくなって、少数しか残らなくなりました。私も実は70年代の後半に大学でAIを勉強したいと思ったのですが、当時の多くの先生からそんな不毛な分野に進むんじゃないと説教されました。ほとんどの先生がやめろと言いましたが、私はあまのじゃくだったということもあり、やめずに始めたのですが、先生も親心で冬の時代なので不毛であると言うのです。

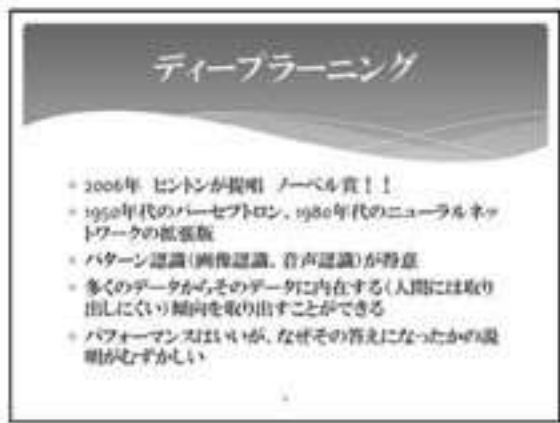
それで80年代になって、二回目のブームが来ます。日本にAIが入ってきたのはこの頃で、大手電機メーカーにも人工知能を担当する分野ができました。そのきっかけはエキスパートシステムというエキスパート専門家、マイシンというアメリカの研究者が作った医療診断システムが一番有名ですが、ある内科の特定の病気で患者のデータを入れるとそのシステムは想像される病気の名前とどの薬を飲んだらいいかを出力し、内科なので薬で治す。そういうシステムを作ったら、その成績がかなりいい。かなりいいというのは微妙で、その病気の専門家のベテランのお医者さんよりは出来は悪いけれども、お医者さんになって数年とかいう若手よりはいい。若手とはいえお医者さんなので実際に治療している訳ですから、その人たちよりいいというのはかなりのことなので、大騒ぎになり、それが上手いけば、医者代わりにAIが医者の代わりになるのではないかということで、他の病気のエキスパートシステム、医療だけでなく金融、それから製造業とかいろんな分野のエキスパートシステムが世界中で作られます。この頃は、日本が経済的に景気が良かったこともあって、日本が世界を主導していた。アメリカが不景気だったということもあってです。しかし、当初はやはりベテランの先生に近づくのはなかなか難しく、中途半端な能力だと信頼して任せられない訳です。特に医療診断は命かかっているの、人間の代わりにはならないということになりました。金融など今は、例えば、AIによ



て株価の予測というのをやっていて、AIがこの株を買いなさいとか売りなさいとか言うのを売りにしている証券会社がありますけど、今は比較的それが正確になりましたが、当時もあったことはあったのですが、結構変なことを言って大損させたりするということがあって、これじゃダメだってことになり、また冬の時代になります。

2010年代は三回目のブームで、これが実は今まで続いている訳ですが、ディープラーニングという、お聞きになったことあるかもしれません。日本語では、深層学習、深い層の学習という訳語が最初の頃にもできたのですが、あまりそう呼んでももらえないで、カタカナでディープラーニングと呼ばれることが多いです。すごい能力が高いというので、いろんな事ができるようになりました。それで、ブームも10年ぐらい続いて、そろそろ落ち着くのかなと思っていたら、2022年、もう3年前になりますけれども、ChatGPTという生成AIが出てきて、すごくなにかまともに文章を書くようになったというのでまたブームが再燃して今に至っています。

ディープラーニングということなのですが、2006年にヒントンというカナダの大学の先生、ヒントン先生の研究グループが提唱しました。AI業界ではメチャクチャ有名な人ですが、それ以外では無名だったのですが、去年ノーベル物理学賞を取ったので、テレビとか新聞に写真が出ましたので、皆さんもご覧になったかと思います。ちなみに、AIというのは、直接はノーベル賞の大賞にないので、AIでどんなにいい研究をして



もノーベル賞は縁がないと世界中みんな思っていたのですけれど、取っちゃいました。

ヒントンはディープラーニングというすごいのを開発したので、ノーベル賞を取って相応しいといえば相応しいのですけれど、物理かどうかはちょっと怪しいというのがあります。一応そのシステムのベースが物理学に基づいているということでもあります。このヒントンのディープラーニングというのは、彼がゼロから開発したのではなく、原形はAIが始まった1950年代からありました。

ディープラーニングというのはどういうことかということ、AIというのは人間のようにコンピュータに知能を持たせる。人間の知能の物理的な仕組みはどうなっているかということ、脳であって、脳は沢山の神経細胞が線で複雑にネットワークになっている神経回路網っていうのが頭の中にある。それで、我々は知能を持っている。だったらコンピュータに知能を持たせるためには、そういう神経回路網のシミュレーションをコンピュータの中で作れば、コンピュータも賢くなるだろう。この発想は、別に特別なものではなくて、自然です。ごく自然なので、コンピュータを知的にしようと始めた1950年位から、そういう方向の方がいい、有力だと思った人たちは沢山いて、パーセプトロンというのが1950年代にあったんですけれども、ディープラーニングと方向性は一緒だったのです。当時は、先程述べたように、コンピュータの能力が非常に貧弱だったので、ネットワークというのは非常に単

純なネットワークしかコンピュータの中に作れなくて、人間の神経回路網とは比較にならないくらい単純でした。だったら当たり前ですけど、そんな単純なネットワークで賢いことが出来るはずはないので、能力が期待外れだったのです。80年代にちょっと複雑にしたニューラルネットワーク、それこそ神経回路網のもともとの英語ですけど、そういうものができて、パーセプトロンよりもちょっと賢くなったのですけれど、やっぱりまだ人間に比べると全然でした。ディープラーニングは、このパーセプトロンニューラルネットワークの路線を拡張して、すごく複雑なネットワークをコンピュータの中に作るのに成功しました。ここで、ディープというのは、深いということですけども、何が深いのかというと、パーセプトロンニューラルネットワークは単純であった、そういう意味ではイレギュラーが少なかったのですけれど、すごく深い複雑なネットワークを作りましたというのでディープという「深い」という言葉を使っています。2006年に発表されて、業界では話題になったのですけれども、一気に広まったのは2012年です。画像認識、何度も言っている通り、これを見てペットボトルとわかるような画像認識の研究分野で、毎年コンテストみたいなものがあって、2012年にこのディープラーニングを使ったシステムが初登場して、それまでのシステムをはるかに上回る高性能で優勝しました。みんな大騒ぎになり、これはすごいというので、一気に世界中に広まりました。もともとは画像認識が得意、あと、音声認識、例えば、AIスピーカーとか、喋ったことを認識してくれるという、音声認識も得意です。音声認識と画像認識をまとめてパターン認識という言い方をするのですが、そういうのが出来る。それで今、生成AIになって、自然言語処理というか、言葉も出来るようになりました。

ディープラーニングは何をやっているのかということですが、沢山のデータをコンピュータに入力すると、そのデータのある性質、統計的

な性質みたいなものを学習する、一言で言うとうそいうシステムです。人間はそんなに沢山のデータを見ていると、なかなか気づかないけれども、コンピュータは気が付くということです。沢山のデータが必要というのは、一つポイントです。これは長所と短所という意味では、短所だと思えますが。ディープラーニングの成功例で、10年近く前に、囲碁で中国とか韓国の名人に勝ったというのが世の中を騒がせたのを皆さん覚えていらっしゃるかもしれませんが、アルファ碁 (AlphaGo) という名前のシステム、あれは Google の子会社が開発したのですけれども、その時点では囲碁は強いプログラムと言っても人間のプロよりもはるかに弱かったので、人間の強い人の棋譜から沢山データとして入力したのですけれども、3,000万局面入れたと書いてあります。囲碁を打たれる方は3,000万局面は絶対に並べられないです。それだけすごく大量にネットに棋譜があったということですから、大量のデータが必要だということは、これはディープラーニングを産業に応用しようとする時に、一種のちょっと短所というか、ネックになっていて、データが少ないとディープラーニングが上手く使えないという問題があります。これは問題だということで、少数のデータからちゃんと学習するような手法を考えようというのをずっとやっていて、それなりにあるのですけれども、やっぱりディープラーニングは圧倒的なパフォーマンスがあります。

もう一つこちらは明らかに欠点ですけれども、パフォーマンスはいいのだけれども、なぜその答えになったかということ人間に分かるように直接説明する能力がディープラーニングにはない。囲碁でいうと名人も見つけられないようないい手を打つのですけれども、人間だとなんでそこに打ちましたと聞くと、プロなんかはこういう形成判断でこら辺が大事だからとか言ってくれる訳ですが、そういう事を全然言えない。もちろん、なにかの評価で、そこに置くのが一番点数が高いというのは見れば分かるのですけれども、なぜその点



数が高いかということの説明ができない。これは、碁とか将棋であれば、理由がわからなくてもいい手を見つけてくれればいいという話ではありますけれども、例えば医療で「あなたはなんとか病でこの手術をなささい」と言った時に、「なぜそう分かった?」と聞いたときに、しーん、とされても困る訳です。特に、今のお医者さんはすごく丁寧に説明して、「データからこうです。でも、この手術にはこれぐらいのリスクがあります。どうしますか。」と聞きます。だから、そうして欲しい訳ですが、ディープラーニングそのものにはそういう機能がないというのが大きな欠点で、これは明らかに問題なので、ディープラーニングが開始してからもうずっと世界中の AI 研究者がこの問題に取り組んでいます。説明可能 AI、エクस्पラインナブル (explainable) AI です。要するに、AIが出した答えを AI がちゃんと説明するというものです。最近だいぶ説明能力が上がってきて、色んな分野で、今の医療 AI もそれなりにちゃんと説明します。ディープラーニング本体とは別に説明をするための AI が横にいて、そのディープラーニングの出した結論を人間に分かるように説明するというのがあったりもします。それで、最近の AI はずいぶん進んできて、例えば、個人認証というのは人の顔の認識です。今は、外国に行く時に、多くの国、日本もそうですけれども、人がパスポートをコンピュータに見えるように置いて、あとは自分の顔がコンピュータのところを見て、AI がパスポートの写真とコンピュータに映っ

た人が同一かどうかチェックして、問題がある時だけ、たぶん人が出てきます。私は幸い呼ばれたことはないですが、ちょっと怪しいぞ、となるとAIが人に通知して、人がチェックします。だから、普通の人よりも人の顔の認識能力が高くなっています。人間も100%知っている人でも100%認識するのは難しく、95、6%とされているのですけれども、AIは98、9%、微妙は微妙ですけど、コンピュータの方が能力が高い。そういうことになりつつあります。

あと、会議の記録というのは要するに、速記とか、喋っている会議の言葉を文字起こしをするということですが、これも最近非常に優秀になっていて、100パーではないですけども、かなりの精度で文字起こしをしてくれます。例えばオンラインで会議していて誰かがしゃべると、あるソフトを導入すると下にしゃべったことが、文字ではぼリアルタイムで出てきます。最近のものはもっとすごい。さらにそれに翻訳機能を入れると、日本語の分からない人が会議にいても、私が日本語でしゃべるとここに英語で出てきます。向こうの人が英語でしゃべると、日本語で出てくる。100%ではないのだけれども、そこそこ、言っていることは分かります。だから要は、通訳みたいになっていて、かなりいろいろと分かっています。

自動運転はよくAIの文脈で出てくるのですが、日本も盛んに実験していますが、日本は慎重な国なので、運転席に誰もいないという実験はなかなかできません。一部田舎でやったりはしていますが、アメリカとか中国はそういうところはちょっと大胆なのか、もう既にタクシーで無人タクシーがお金取って走っています。ロサンゼルスとかサンフランシスコとか上海とか。残念ながら私は乗ったことないのですが、知り合いに言わせると快適であると。ちょっと怖いのはAIの見切りと普通の人間の見切りが違うのです。人間はちょっとでも危ないのは避けたいというのがあるので、必要以上に距離を取ったり

しますが、AIはぶつからないと計算したらもうそのまま行くので、その距離がちょっと狭くて怖いということがあるらしいです。あと事故は0ではないのです。自動運転も0ではないのですけれど、人間よりは遥かに事故率は低いということになっているので、近い将来日本でもなってくると思います。

将棋も囲碁と同じ頃に名人に勝って、今や遥かに強いです。私自身も将棋が好きなので、将棋のAIでやってきて感服していますけど。将棋ファンに将棋のAIの方が今の藤井さんよりも強いと言うと、嫌な顔をされるんですけど、事実は事実として受け入れて言わなきゃいけません。藤井さん自身は自分よりAIの方が強いというのをよく知っています。ちょっと余談ですけど今、プロ棋士はAIで勉強しているのです。AIの強いソフトで、この局面だとAIはどの手を一番と言うかというのをいろいろ研究して、その研究結果を覚えて対局に臨んでいる。藤井さんはどうも他のプロ棋士より高級なコンピュータを使っているので、分析も藤井さんが一番。一番強い人が分析能力も一番だと差が開くばかりで、ちょっと悲しいです。

先ほども申し上げたように株も今AIがやっています。創薬っていうのが今AIのアプリケーションで結構メジャーとなっています。薬を作るというのはいろんな材料を組ませて薬効というのをやるのですが、すごくコストがかかります。沢山の組み合わせをシミュレーションして効きそうなのを探すというのは、さっきのチェスとか将棋とか囲碁とかの探索に近いところがあるので、そういう応用として創薬でやっています。今、製薬会社はAIでシミュレーションしてこれは効きそうだとすると本当に薬を調合して、本当に効くかどうかを確かめるということをやっています。

それに関係しますが化学で、アルファフォルドというシステムが、タンパク質の立体構造という、これも専門家がタンパク質の立体構造

を予測するというか想像するのですけれども、すごく高度なことで難しいらしいんです。このアルファフォールドというのは人間の専門家並に、もしくは超える能力でできるという。これは創薬に似て、タンパク質の立体構造というのは薬の薬効にすごく効く。

去年ノーベル化学賞をアルファフォールドの開発者が取りました。これも画期的です。アルファフォールドを開発した人たちは、実はアルファ碁を開発した囲碁のグループで、囲碁は名人に勝ったので、囲碁が終わって転身したのです。囲碁は技術水準を示すには役に立ったと思いますけれど、ビジネスには直結しないので、ビジネスとして創薬に向かったのです。それでアルファという同じ名前が付いています。

AI が得意なこと、苦手なことというのは、今の AI というのはほとんどさっき言ったディープラーニングなので、たくさんのデータを必要とします。定型なことというのはデータが多いので、学習しやすいから AI も数値に特化します。でも例外は少ないので、例外の処理は AI には非常に難しいのです。これは研究テーマとしては例外をいかにうまく扱うかというのが盛んに研究されていますが、一般には苦手です。これは人間も苦手だといえば苦手ですけど、やっぱり人間のトップレベルの専門家は例外でもそれなりにうまく対応できるというのが専門家のすごいところです。あと意味は理解できていないということです。意味とは何かと言い始めると哲学的な話になりますが、普通使う意味です。例えば生成 AI の最先端では、あたかもこっちの言ったことの意味が分かったように答えていますけれども、分かってはいないのです。意味が分かって答えているわけじゃない。意味が分からずにもっともらしいことを書いているのがすごいのです。

あとはルールは明確です。ゲームとかはルールが明確、範囲が限定しています。将棋とか囲碁とかチェスが他の分野に比べて AI が先んじたというのは、こういう性質を持っているからです。実

世界のことというのはルールが不明確だったり、範囲が非限定だったりすることが多くて、そういう問題はやっぱり AI は一般的にはまだ苦手です。あとは理性的なことは得意だけど、感性的なことはまだ、そこそこ、できるようになりつつありますが苦手です。



生成 AI の話をこれから少ししたいと思います。生成 AI は画像生成 AI、言語の生成 AI と大きく二つあります。どちらもプラウントと言われる。日本語でも英語でも良いのですが、我々の文章を書くときとそれに対応する。言語の場合は言葉で答え、画像の場合は画像を出して答えます。実は画像生成 AI もすごく進んでいて、ジブリ風というのが話題になったかもしれませんが、ある写真を AI に見せて、これをジブリ風にデフォルメして、と言うと、いかにもジブリ風の画像を出してくれます。トランプのジブリ風とか有名人のジブリ風、自分のジブリ風も。それはジブリに全く許可取ってない。これで良いのかということです。どうも法律的には、実はセーフらしいのですけれども、人間としてどうかという問題があったりします。やはり画像生成 AI は、結構、有名なキャラクターに似たものを出しやすいです。言葉の場合はまるっきり同じというのは、村上春樹の小説を入力しても、村上春樹と同じ一節が出てくることはほぼ無いので、そういう意味ではそう無い。画像の場合は見た瞬間にそっくりというのが結構出てきてしまいます。

ChatGPT というのが最初に出ました。Open AI というアメリカの会社があって、chat というの

はおしゃべりするという意味で、その GPT が技術の名前です。Generative Pretrained Transformer。Generative が「生成」で、Pretrain というのは「訓練する、学習する」ですから Pretrained で「事前学習」という。AI に言葉を使う前に学習させている。技術の名前は Transformer。これはディープラーニングの一種で Transformer というのは変形するというような言葉ですけれども、良い訳が無いので日本でもトランスフォーマーと言うことが多いです。これは 45 テラバイト、体で言ってもどれぐらいの大きさかよくわからないくらいでかい。要するにインターネット上に公開されている文章が、アメリカの会社ですからほぼ英語でした。どのデータを学習したかは公開されてないです。だから、想像しますに大手新聞社のネット記事とかネット配信とか、あとは著作権が切れて公開されている小説、有名な小説とか。個人のブログもそれなりに拾ったようですから、それが悪さをしたりするのは後で出てきますが。それをさっきの Transformer というディープラーニングのシステムで学習しました。要するに ChatGPT というのはディープラーニングですから、コンピュータの中にネットワークができる。

ChatGPT の実体としては、約 1750 億個のパラメータを有しています。ネットワークというのは神経細胞が沢山あり、その間に線が沢山結ばれています。その線の数が 1750 億本くらいある馬鹿でかいネットワークがコンピュータの中にあります。このパラメータが大きくなればなるほど、生成 AI は性能が良くなるという経験則があります。ChatGPT は 3 年前なので、今は 1 兆とか、次は 10 兆とかいう話があります。大きいことは良いことですけれども、それだと開発するのにすごくお金と時間がかかるのが今問題になっていて、丸暗記しているのではないという意味で、もっと小さいコンパクト型ができないかという話になりそうです。そういう意味では人間とほぼ同じ。人間も一部の文章だけは丸暗記している部分かあると思いますが、生まれてきてこの方、読んだ文章を

全部丸暗記している人は絶対にいないので、何らかの形で頭の中にそれこそ神経回路網に読んだ文章が何らかの形で入っていると思われる訳ですから、そういう意味では ChatGPT は人間と同じです。

それで ChatGPT の仕組みですが、これは Transformer というアルゴリズムを使っています。今、AI を勉強する学生はこ Transformer の論文を読まないといけません。2017 年に出た論文ですけれども、仕組みは実は簡単で、基本的な仕組みは次の単語の出力を予想するというものです。もっと正確に言うと、文章があって、その文章は単語の並びでできています。その中の単語 1 個を取って、空欄にしてここにどの単語が来る可能性が高いですか、何が入りますかというのに対して答えるというのが Transfoemr で、ChatGPT もそれを使っています。その仕組みを書きかけの文章のおしりに適用していくと、一個一個単語を付け加えていくということになって、文章が完成します。今、生成 AI は文章を書いています、そういう仕組みで書いています。

ChatGPT は本来は英語で動いているのですが、ここは説明のために日本語で「日本の総理大臣は」という作りかけの文章があるとします。さっきの 1750 億個のネットワークに、「日本の総理大臣」というキーワードで探しに行くと「石破茂」というのは一番ひっかかりやすいというか、ああ日本の総理大臣は石破茂だ、という意味の文章を沢山学習しているはずなんです。その新聞記事とかが沢山あるので、石破茂を見つける。ほとんどの確率で石破茂を見つけ、石破茂と判断。正解です。けれども、これは統計的にやっているのだから稀に日本の総理大臣は岸田さん、一代前は岸田さんでそれも学習していた可能性もある訳です。要するに。今のだけではないので。過去何年間分とかとなると、生成 AI によりますけれども、長い時代を学習して、稀に岸田さんを拾ってしまって、岸田文雄と書いてしまうことがあります。生成 AI が時々間違えると言われているのは、理由がいくつかあ

るのですけれど、一番大きな理由はこれです。統計的に答える。石破さんが正解だって AI が判断して、石破と書いている訳じゃないです。でも、ディープラーニングというのは、そもそも統計に基づいて答えを出すというシステムなので。それまでの AI は論理に基づいて答えを出そうとしていたので、なかなかうまくいかなかったのですが、ディープラーニングにしたら劇的に性能が良くなったという流れなんです。

あと変なことを書かないように学習させるというのは、個人のブログから学習していたので、個人のブログってというのは必ずしも正しいことばかり書いていない訳です。個人的な意見を結構書いていて、特に差別的なものとかかわいせつなことを書いているのも一部拾っている訳です。そうすると統計的に非常に確立は低いけれども、それを拾ってしまうと生成 AI が差別的なこととかかわいせつなことを入力する可能性が 0 ではなくなります。それはとてもまずいので、事前にいろんなプロットを人間に入れさせて、答えさせて、許容できるものだけを出すように再度学習させているようです。だから変なことを書かないのはそういう理由です。だから生成 AI は優等生的だという批判があるのです。当たり前の答えで、なにかつまらないぞという。それは仕方ないのです。優等生というような答えをするように学習させている。だから細部のプロセスということで、危ないことをときどき言う生成 AI が出るのですが、それは生成 AI の会社としてはまずいのでやっていないということです。

去年ヒントンという人とホップフィールドという人がノーベル物理学賞を取りました。ホップフィールドはディープラーニングの研究で、ホップフィールドモデルというのを 1980 年代に提唱しました。

ChatGPT を始めとする生成 AI のことは書いてないんですけど、お使いになっている方がいるかもしれない。一番単純なのは無料です。アカウントとパスワード登録すればだれでも使える。

Open AI は今無料版と、月に 20 ドル版、5000 円ぐらいがあります。最近、月に 200 ドルという強気なもの。月に 200 ドルというと日本円で言うと 3 万円ぐらいです。やっぱり分かりやすく、その分性能が良くなっています。でも無料版でもかなりいいです。だからテストするのは無料版でいいと思いますが、生成 AI を使って商売をしているような会社は、結構、200 ドルを使っているところも多いと思います。

僕がこれまでしていたことの内容ですけども、統計的に答えを出しています。合っている、合っていない、の判断はしていません。そして日本語で言ったら日本語で対応します。けど欧米圏の生成 AI は英語なので、ChatGPT とか Gemini という Google のものがよく挙げられますが、その辺はいわば母国語は英語なので、我々が日本語で質問すると英語に翻訳して、ChatGPT が文章を作って、それを最後は日本語でもう一度翻訳して、我々に答えています。だから英語が達人な人に言わせると、英語で聞いて英語で答えてもらった方が、やや性能がいいという言い方をします。あと欧米圏のデータなので、日本のことにちょっと疎かたりします。特に ChatGPT の最初の頃は、日本の情報に疎かたりしました。今はどうも日本のデータをたくさん入れているみたいで、日本のことを聞いてもそれなりに正しく答えます。

あとプログラムを書けるというのは結構話題で、ある入力に対するある出力を出すようなプログラムを書いてくれと言うと、出します。ソフト会社がお金をもらって、開発しているプログラムほどではないのですけれども、レベルとしてはこれぐらいです。私は、情報系の大学の教員なので、情報系の 1 年生にプログラミング練習でこういう出力をするプログラムを 2 週間後まで書いてこみたいな課題を毎週出していますが、大学のそういう課題に出るようなプログラムは今の生成 AI はさくっと書きます。だから教員は困っています。そうやってさぼると本当に困るのは学生だと思うのですけれど、一応そういうレベルまで生成 AI

はできます。だからソフト会社も、0から人間が書くよりはまず生成AIにプログラムの原型を書かせて、それを加筆修正した方が、開発コストがすごく下がるので、そうなりつつあります。それに使えるぐらいには生成AIはちゃんとプログラムを書きます。

ときどき嘘を言うというのは、よく言われる間違いです。それは最初のChatGPTが結構嘘を言ったり、幻想と言われたりしたので、全然関係ないです。例えば人の名前を入れると、どこから作ったのだ、このプロフィールのように、スポーツ選手になったり、俳優にさせられたり、いろいろなものを勝手に作ってきます。別に生成AIに悪意があったのではなくて、統計的にないところから拾ってくるので、拾ったものを書く訳です。今それはだいぶましになって、間違いは減っています。

あと分からないと言います。最近の生成AIは賢くなりました。分かりませんと言います。最初は優等生的に分かりませんと言えずに、間違っているのですけれども何でも答える。間違えるよりは分かりませんと言ってくれた方がこちらがいいので、だいぶ進歩はしていますが0にはならないのです。これはディープラーニングを使っているからです。でも間違いがある程度少なくなれば、人間だって100%正解をいつも答える人はいないので、そういう意味では十分使えると思います。

あとで出てきますが、複数の生成AIを使うというのは実は高難易度です。同じ質問を3つの生成AIにして、3つとも大体同じ答えをしてくれるのであったら多分、その答えは正しいです。しかし違うことを言っていればもう一度よく考えます。人間社会でも3人に相談して、同じ答えだったら多分そうだろう、そうした方がいいだろうし、3人とも言うことが違っていればもう一度よく考え直すと思います。だから生成AIもそういう使い方をします。

あと基本的な使い方としてよいのは要約です。100ページぐらいまでのコードを500字にしてとか言ったりすると、さくっとしてくれます。これ

が結構間違いが少なくて便利です。あと翻訳もしてくれます。翻訳も今のAIの英語力はTOEICで960~970点。あれは990点満点ですから、ほぼ満点です。日本人は平均が確か600点ぐらいなので、ほとんどの日本人よりはAIの方が英語力は上です。私も学者ですから最近外国人の研究者とメールのやりとりが結構あるのですけれども、ちょっと複雑なことは日本語で書いて、生成AIに翻訳してもらいます。間違えることもあるので、最後ちょっとチェックはしますが、そしたら仲のいいアメリカ人の同業者が「仁の英語がここ2年とっても良くなって」と。向こうもジョークで言っているのでこっちも怒りませんけれども、生成AIのおかげだねって言います。だから道具としてはそこまで便利だということです。あともう少し言うと、例えば我々は英語の論文、最先端の論文を読んでチェックするというのも仕事の1つなのですが、結構多くの日本人は生成AIに投げています。20ページぐらいの論文を1ページの日本語に「ぱんぱんぱん」と訳すので、論文が40あったら、それをさーっと日本語だから斜め読みして、大事だと思ったら論文を読むみたいな使い方をして、ずいぶん便利になっています。これはAIの研究者だけではなく、お医者さんもそういうことをしているそうです。

皆もう優秀で、ChatGPTの改良版でGPT-4があるのですけれども、それは20ドルぐらいのやつで、アメリカの司法試験医師国家試験の合格点を取っています。ネットに司法試験の問題に対する答えみたいのをちゃんと解説している文章がたくさんあって、それを学習しているということなのです。どうも日本の医師国家試験も受かったようです。医者というのは、ほぼ世界共通だと思うので、アメリカの医療の知識で日本の医師国家試験に受かったと思っています。日本の司法試験がないのは、法律制度というのは国によって全然違うので、欧米の生成AIは、日本の法律制度に詳しくないので、合格点がないと思います。今、日本で日本製の生成AIが盛んに作られているので、

どこかが司法試験の合格点を取ったら、大喜びで宣伝に使うと思うのですが、まだそれを見たことがないのでできていないのかもしれないです。

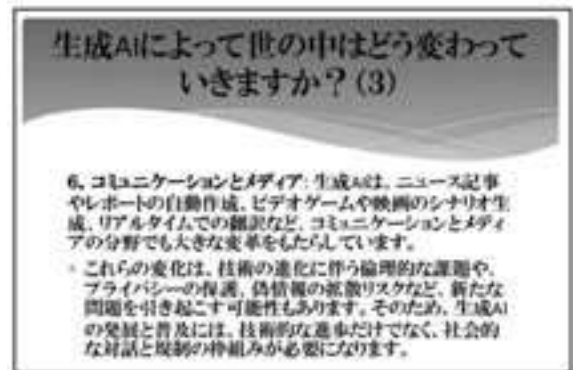
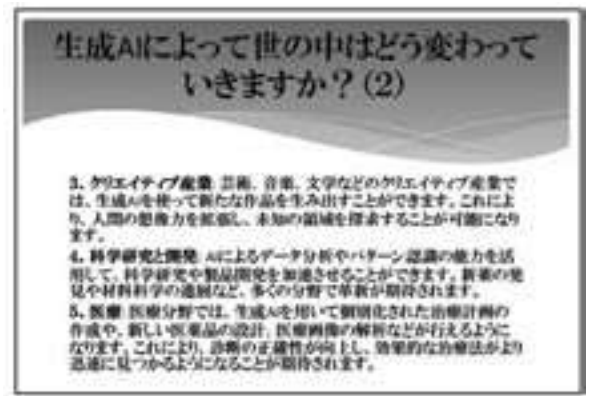
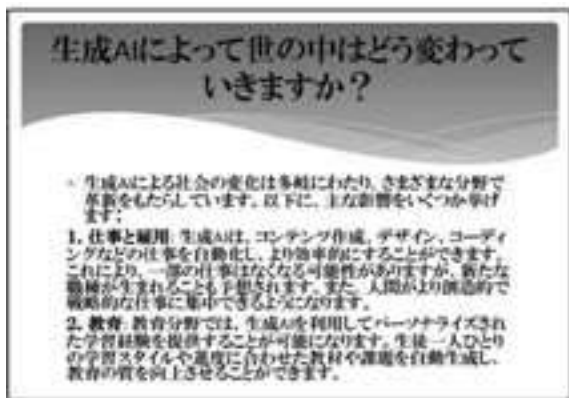
あと、今年3月ぐらいに話題になったのは、今年の東大の入試の二次試験を ChatGPT o1 という ChatGPT の 200 ドルの最新で一番いいやつに解かせたら、合格点を取った。理Ⅲも通った。理Ⅲというのは、東大医学部で日本の受験の最高峰と言われているので、その合格点を取ったということは、恐らくすべての大学にも受かるのだろうと。日本の生成 AI はすごいです。要するに、ネットに書いてあるようなことは、生成 AI は得意なので、いくら問題自体が新しくても、人間だってそうですけれど、過去の知識から新しい問題を解いている訳なので、生成 AI もそうなのです。ちょっと面白いのは、例えば生成 AI は、数学の満点とはいかないけど結構解けるんですけど、解けるときは1分、解けない時はエンドレスに時間があっても解けないということです。だからそれが人間とちょっと解き方が違います。人間はあーでもない、こうでもないと言っているときに思いついて解けるようになったりするので、試験時間が長い訳ですが、AI はわかったときは一瞬の内に答えが出て、わからないときには、もうそれはわからないという、ちょっと人間とは違います。

生成 AI をどう捉えるかというのは、私は自動車の発明みたいなものと思っています。ChatGPT が T 型フォードです。T 型フォードというのは最初の自動車です。それまでみんな馬車で走って移動していたのが、自動車と言われるものができて、みんな便利だということで、寄ってたかって自動車会社ができ、進んできました。我々は自動車の社会で生きていますので、最初は免許制度も制限速度も何もなかったのですけれど、社会システムでそういうのを作って、我々は自動車を使っています。でも死亡事故は残念ながら今でもあって、ある程度デメリットとメリットを考えると、メリットの方が圧倒的に多くあります。

生成 AI にも間違いに引きずられるとか、悪意を持った人が生成 AI で悪意を持った文章を作りやすくなる訳です。デマ文章とか、フェイクニュースとか、そういうものが世の中を騒がせるみたいなデメリットはもちろんあるのですけれども、やはり圧倒的に便利なのです。だから、今はルールはない。要するに T 型フォードができてすぐの段階なので、法律的な制度とか、社会慣習上の制度とかルールとかもいろいろ議論されていますけれども、それを整備しながら使っていくということです。学校で授業の過程で使わないという選択肢もあります。小学生で計算をするときに、電卓を使ったら、計算は全然できないので、その時は電卓使わないのと同様に、文章を書く能力を育てるときに、生成 AI に介入させてはいけないというのはその通りで合っていると思いますが、適切な段階では生成 AI はうまく使いこなすという話にもなってくると思います。

さっき言ったようにでかい生成 AI を作ろうと思うと、今は特化型、要するに、医療なら医療の生成 AI、教育なら教育の生成 AI になります。そうするとデータもちゃんと信頼性の置けるデータを入力すれば、生成 AI は明らかに間違いが減ります。だから、ちゃんといいデータを入力します。あと、著作権的にもちゃんと払うようにしてデータを入れます。今、生成 AI はそういうのを払ってない状態になっていて問題になっているので。そうすると安く、信頼性が高い、間違いが少ない生成 AI ができます。今世界的にそういう生成 AI、オープン AI は拡大路線で頑張っていますけれど、ああいうことができる会社は世界で限られているので、多くの会社は安易に拡大はできない。生成 AI は、言葉だけだったのですけれど、o1 とか、ChatGPT の改良版ですけれど、画像入力もできるようになりました。言葉だけじゃなくて、プロンプトに画像を入れてもいい。静止画でも動画でもいい、あと音声を入れてもいい。となるとすごい。だから出力も言葉だけ、文章だけではなくて、しゃべってくれたりします。

いちいち一つ一つの産業は申し上げませんが、事務処理というのが一番簡単ですけれども、生成 AI によって大きく変わるというふうに思われます。これは仕事を奪うというよりは、人間の仕事の役割が変わるということが正しいと思います。生成 AI は 100% ではないし、何でも答えられる訳ではないので、その点は依然として重要だとは思いますが、生成 AI は基本的なことはやってくれるということです。



「生成 AI によって世の中はどう変わっていきますか?」と私が生成 AI に聞きました。これは o1 かな。生成 AI の答え方はなんとなく決まっているのです。

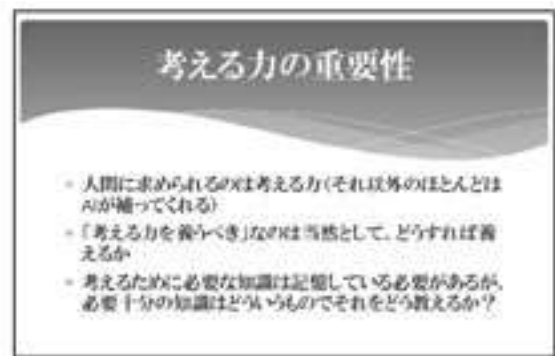
最初数行、全般的な話をします。そのあと箇条書きで大体説明します。それは多分アメリカなんかで、典型的なレポートがこういう書き方をしている、それがネット上にたくさんあるので、それを学習しているので、こういう書き方が得意になった訳です。

日本人の書き方は、1. 仕事と雇用、2. 教育、3. クリエイティブ産業、4. 科学研究と開発、5. 医療、6. コミュニケーションとメディア、それで最後にこうやってまとめたいなことを言う。これは典型的な生成 AI の優等生的回答です。こういう質問は強いのです。多分レポートだと合格点だとは思うものの、ちょっともう少し変わった視点も入れて欲しいとは思っています。

変わった視点は人間が入ればいいという意味で言うと、「生成 AI によって世の中はどう変わっていきますか?」は、情報系で教授が学生に課す

レポート課題としてありがちな訳ですが、生成 AI で書いては欲しくないけれども、せいぜい書くとしたらまずこうやって書かせて、それを読んで、加筆・修正する。学生にはそのまま出すな。加筆・修正して、文責はお前だから。生成 AI が嘘書いている、それをそのまま出したらお前が悪い。それで×付けられたらそれはお前が悪いので、ちゃんと読んで、そこをいいと思ったら採用して、悪いと思ったらそこは書き換えるという、多分これから社会はそうなるので、そういう使い方と思っています。

教育ということなのですが、思考にやっぱり影響が大きいだらうと思っています。なかなかそう言うのは簡単ですけど、考える力、たくさん情報あるから生成 AI が答えてくれるというのはあるのですけれど、それを元に人間はさっき言ったように、どうすべきかを最終的に考えるのは人間なので、考える力というのをどうつけるかというのが喫緊の課題です。それが教育関係者が盛んに議論されている事だと思いますし、大学で先生とよく話題になりますけれども、考える力というのはどうすればいいのかはそう簡単ではない訳



です。知識はAIが持っているので、考える力があればいいという言い方をするのですけれど、考えるためには考えるための材料が必要なので、最低限それを持っていないと考えられません。どれぐらいのことを知っていることが考えるために必要なのかというのが、はっきりとなかなか言えないので、そこら辺がちょっと難しいところではあります。だから、私の個人的な意見としては、生成AIはある段階まで生成AIを使わないようにということです。初等教育なんかで使っても、大学くらいまでになると生成AIを使っていいけれども、使ったら使ったことを明記しなさい。それで生成AIのものと自分のレポートというのをできれば両方出す。改良したのも両方出してねという感じで、少なくとも自分の責任で、内容には自分の責任を取りなさい。そういうことを期待します。

あと適切な倫理観というのは、生成AIが出したものを、あたかも自分が考えたように出すとかいう、倫理に関することですが、そういうのを子供の頃から身に付けさせないといけないだろうなと思うところです。

あと著作権の問題です。人から借りてもいいのだけれども借りたことをちゃんと言いなさい。それから貸してくれた人にそれなりの金銭を払うなり、承諾を得るなどいろいろあると思いますけども、そういうのはちゃんとやりなさいみたいなことを、今でももちろん大事ですが、AI社会になるとさらに大事だなというふうに思っています。

というわけで、まだいろいろとあるのですけれども時間がございますので、とりあえずこれで私の話は終わらせていただきます。どうもご清聴ありがとうございました。

○松原 仁 氏 プロフィール

1959年東京生まれ。1981年東京大学理学部情報科学科卒業。1986年同大学院工学系研究科情報工学専攻博士課程修了。工学博士。同年通商産業省工業技術院電子技術総合研究所（現国立研究開発法人産業技術総合研究所）入所。2000年公立はこだて未来大学システム情報科学科教授。2020年東京大学次世代知能科学研究センター教授。2024年京都橘大学工学部情報工学科教授。元人工知能学会会長。前情報処理学会副会長。
著書に「鉄腕アトムは実現できるか」、「先を読む頭脳」、「AIに心は宿るのか」など。

令和 7 年度 東京都産業教育振興会後援事業

令和 7 年度は、下記の事業に対して、後援を行いました。

| 番号 | 事業の名称 | 開催期間 | 主催 | 開催場所 |
|----|---|--|---|----------------------------|
| 1 | 令和 7 年度東日本高等学校土木教育研究会関東地区総会並びに研究協議会 | 令和 7 年 6 月 6 日 | 東日本高等学校土木教育研究会 関東地区 | 公益社団法人 全国工業高等学校長協会「工業教育会館」 |
| 2 | 第 41 回葛飾区産業フェア | 令和 7 年 10 月 17 ～ 19 日 工業展・商業展・観光展 令和 7 年 10 月 24 ～ 26 日 農業展・伝統産業展 | 葛飾区 | テクノプラザかつしか |
| 3 | 令和 7 年度全国高等学校長協会家庭部会 関東地区家庭学科・コース(系)設置高等学校長連絡協議会(東京大会) | 令和 7 年 9 月 4 日 | 全国高等学校長協会家庭部会 全国高等学校長協会家庭部会関東地区家庭学科・コース(系)設置高等学校長連絡協議会 | アルカディア市ヶ谷(私学会館) |
| 4 | 第 32 回東京都高等学校工業科生徒研究成果発表大会 | 令和 7 年 11 月 15 日 | 東京都立工業高等学校長会 | 都立工芸高等学校 |
| 5 | 第 13 回東京都立総合学科高等学校教育活動成果発表会 | 令和 7 年 12 月 13 日 | 東京都高等学校総合学科教育研究会 | 東京都教職員研修センター |
| 6 | 第 22 回中学生創造ものづくりフェア in Tokyo | 令和 7 年 11 月 8 日 | 東京都中学校技術・家庭科研究会 | 板橋区立加賀中学校 女子栄養大学 |
| 7 | 第 25 回全国中学生創造ものづくり教育フェア | 令和 8 年 1 月 25 日 令和 8 年 1 月 30 日～31 日 | 全日本中学校技術・家庭科研究会 | 都立六郷工科高等学校 |

令和7年度 東京都産業教育振興会 教育功労者表彰

令和7年度公益財団法人産業教育振興中央会実施の「御下賜金記念産業教育功労者」3名及び本会実施の「中学校技術・家庭科教育功労者」5名に対する表彰式を令和7年11月11日（火）に全商会館3階中会議室で挙行了しました。

表彰式では、本会西澤宏繁会長から功労者に表彰状と記念品が手渡されました。



西澤会長の祝辞に続いて、東京都教育委員会を代表して河野敏弘教育庁指導部主任指導主事（産業教育担当）が祝辞を述べました。続いて御来賓の公益財団法人産業教育振興中央会専務理事岩井宏様、東京都立高等学校長協会会長加藤瑞樹様、東京都中学校長会会長佐藤敏数様から御祝辞をいただきました。祝辞を受け、受賞者を代表して羽村市立羽村第一中学校三浦利信校長が謝辞を述べました。

なお、専修学校・短期大学産業教育功労者の受賞者はありませんでした。

今回の受賞者は次の方々です（順不同・敬称略）

I 御下賜金記念産業教育功労者（3名）

| | | | |
|----------------|------|----|----|
| 東京都立中野工科高等学校 | 主任教諭 | 高木 | 昭美 |
| 東京都立第五商業高等学校 | 教諭 | 中嶋 | 孝浩 |
| 東京都立産業技術高等専門学校 | 教授 | 中西 | 泰雄 |

II 中学校技術・家庭科教育功労者（5名）

| | | | |
|-------------|-------|----|----|
| 羽村市立羽村第一中学校 | 校長 | 三浦 | 利信 |
| 中央区立佃中学校校 | 校長 | 志村 | 昌孝 |
| 日の出町立大久野中学校 | 校長 | 高橋 | 正充 |
| 北区立堀船中学校 | 校長 | 鈴木 | 格也 |
| 北区立堀船中学校 | 非常勤教員 | 山口 | 孝子 |

III 専修学校・短期大学産業教育功労者（0名）

謝 辞

本日の教育功労者表彰式にあたり、受賞者を代表しまして、御礼を申し上げます。

本日は私ども8名のために、東京都産業教育振興会会長西澤宏繁様はじめ、御来賓の方々や本会役員の皆様のご臨席の中、教育功労者として表彰していただき、厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

私ども8名は、それぞれの立場において、産業教育の指導を通して生徒一人一人に生きる力を育み、社会に貢献すべく有為な人材の育成に努めて参りました。

私個人としましては、中学校技術科の教員として、生徒が将来にわたって生活の役に立つ技術の習得を指導の中心に置きながらも、生徒の意欲を喚起できるような題材や指導方法を心がけ、授業を進めて参りました。



また、指導主事等として教育行政に関わっていた時期には、若手教員を中心に、技術科教員の資質・能力の向上を目指して、日々の実践に基づいた指導・支援を進めました。

さらには、校長としての8年間は、全日本中学校技術・家庭科研究会の役員として、東京都はもとより、全国の技術・家庭科教育の振興に関わらせていただきました。

令和6年12月25日に文部科学大臣から中央教育審議会に諮問された「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」では、少子化・高齢化、グローバル情勢の混迷、生成AI等デジタル技術の発展等により、不確実性が高まり、激しい変化が止まることがない時代を生きる子供たちが、社会で活躍する2040年代を展望するとき、これまでのよい部分を継承し、課題を乗り越え、新たな時代にふさわしい在り方を構築する必要があるとされています。

このような状況を踏まえると、産業教育に求められる役割は一層重要になると感じております。

このことを含め、我々8名は今後、在職中に培った知識・技術・経験を若手教職員や生徒に可能な限り伝えていく所存です。

結びに、東京都産業教育振興会のますますの充実と発展、並びに本日ご臨席の皆様の御健勝と御多幸を祈念しまして、受賞者代表の謝辞といたします。

令和7年11月11日

羽村市立羽村第一中学校 校長 三浦利信



令和7年度 産学懇談会（第1回）

令和7年7月11日（金）14:00～17:00
東京都立工芸高等学校

7月11日（金）、都立工芸高等学校を会場に、
産学懇談会（第1回）を開催しました。

【学校の概要】

都立工芸高等学校は1907年に創立され、今年で118年を迎えます。2007年に発行された「都立工芸100年の歩み」では「工芸高校設立委員会の委員長は、実業家で工業教育奨励の旗を振っていた渋沢栄一であった」と巻頭のページで紹介されています。

現在、工芸高校の全日制課程には、「アートクラフト科」、「マシクラフト科」、「インテリア科」、「グラフィックアーツ科」、「デザイン科」の5学科が、夜間定時制課程には「デザイン科」を除く4学科が設置されています。

2万人を超える卒業生は、工芸作家・デザイナー・アートディレクター・エンジニアをはじめとして、広く社会で活躍しています。

【内容】

1 開会の挨拶

○東京都産業教育振興会挨拶



西澤宏繁会長

○東京都教育委員会挨拶



田中智弘指導部高等学校教育指導課指導主事

○会場校挨拶



深澤栄次東京都立工芸高等学校統括校長

2 施設見学

工芸高校の先生方の案内にて校内見学（施設・設備等）を行いました。



3 懇談会

(1) 学校概要と特色ある取組の紹介（説明：深澤栄次 統括校長）



(2) 施設見学・学校説明に対する質問・感想・意見交換



(3) 工芸高校の現状と課題、工芸高校の教育活動への期待

4 謝辞 西澤宏繁会長

5 参加者 29名

6 アンケート結果：回答者 20名

(1) 本日の懇談会は、いかがでしたか？

- | | |
|-------------|-------------|
| A とても良かった | 18人 (90.0%) |
| B 良かった | 1人 (5.0%) |
| C 普通 | 0人 (0%) |
| D あまり良くなかった | 0人 (0%) |
| E 無回答 | 1人 (5.0%) |

(2) 今回の産学懇談会について、感想等をお書きください。

- ・生徒は皆、目的を持って学習していたので、生徒一人一人の目が輝いて見えた。素晴らしい学校である感じた。
- ・工業高校の人気の秘密の一端が見えた感があった。

- ・ものづくりの原点を見学させていただき、とても勉強になった。
- ・生徒作品を多く見ることができ良かった。また、生徒から話を聞くこともできたので良かった。



- ・生徒作品のクオリティーの高さに驚いた。また、生徒本人の思考力のもとより、それを指導している先生方の指導力の高さを感じた。
- ・専門的な教育施設を見学できて参考になった。
- ・とても良かった。生徒一人一人が生き生きとしていた。
- ・説明される先生方、作業されている生徒さんたちが、皆、楽しそうで良かった。施設設備も充実しており、年期も入っていて感心した。
- ・個性を大切にした教育は大変感銘を受けた。
- ・どの生徒も輝いている。東京都は人口も産業も最多。同じレベルの学校があと2つあってもよいと思う。
- ・現場観察の意味は大きい。実学教育は現場がキーであることが良くわかった。
- ・生徒の皆さんが真剣に専門的な活動に取り組まれていることを理解することができた。工芸に取り組む環境、指導体制が整っていることに感心した。



○都立工芸高等学校の皆様には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。(事務局)

令和7年度 産学懇談会（第2回）

令和7年9月25日（金）14:00～16:30
東京都立瑞穂農芸高等学校

令和7年度産学懇談会（第2回）は、東京都立瑞穂農芸高等学校を会場に、令和7年9月25日（木）午後2時から午後4時30分まで対面参加で開催しました。

参加者は、会場校教員、当会の役員、企画推進委員、企業会員、学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等合わせて27名でした。



■開会

はじめに、開会の挨拶を西澤宏繁会長、続いて東京都教育委員会を代表して安藤紗季都立学校教育部高等学校教育課課長代理（計画担当）、会場校の大畑哲也校長より御挨拶をいただきました。

その後、校内見学（施設・設備等）を行いました。



西澤宏繁会長 安藤紗季課長代理 大畑哲也校長

■施設・授業見学

大畑校長の案内により校内の施設・授業見学をさせていただきました。



■懇談会

○はじめに、大畑校長から学校概要と特色ある教育活動の取組について説明していただきました。



懇談会の様子

1 都立瑞穂農芸高等学校の概要

都立瑞穂農芸高校は、1949年に東京都立農林高校定時制課程瑞穂分校として開校し、今年度で創立76年目を迎えました。この瑞穂町に開校以来、多くの卒業生を輩出し、官公庁をはじめ西多摩地域の企業で活躍されています。

都立瑞穂農芸高校は、東京都西多摩郡瑞穂町に位置する公立高校で、「生命に学び、夢を叶える」を教育理念に掲げる特色ある学校です。

現在、都立瑞穂農芸高校には、全日制・夜間定時制課程があり、全日制課程には、畜産科学科（酪農・養豚・小動物など幅広い動物分野を学び、生命と環境について深く理解する。）、園芸科学科（植物栽培やバイオテクノロジーを取り入れた実習中心の学び。）、食品科（「食」と「農業」の関係を学び、食品開発・製造・流通までを体験。）、生活デザイン科（服飾・調理・保育・福祉など家庭生活に関する分野を学び、豊かな生活を創造する力を育成。）の4学科が設置されています。

一方、夜間定時制は、普通科でも農業を学べる「併合科」が設置され、少人数制で落ち着いた学習環境、不登校経験者や再チャレンジを目指す生徒への支援、3年修了制度（単位取得で早期卒業可能）などの特色ある教育活動がなされています。

2 特色ある取組

都立瑞穂農芸高校の教育の柱に「生命（いのち）に学ぶ学校」とあります。そして、教育目標には、「生命（いのち）に学ぶ夢をかなえる」と示され、以下の4点が挙げられています。

- ① 普通科教育を基礎として、農業や家庭の専門教育の指導を通じて、職・生命・環境に関わるスペシャリストを育成する学校
- ② すべての教育活動を通じて、生徒が輝き活躍できるとともに個性を伸ばし、希望の進路を実現できる学校
- ③ 学校行事や部活動等の特別活動を通じて、社会の一員としての自覚をもたせ、人格の完成を目指す学校
- ④ 学校の教育財産を活用して、地域への貢献活動を積極的に行う信頼される学校

大畑校長は、学校ホームページの校長挨拶の中で「校訓の「至誠」「勤勉」「創造」に基づき、「生命（いのち）に学び夢を叶える」としての特徴を発揮し、農業科教科教育を通して、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし、豊かな心をもつ自立した社会人を育成する学校を目指しています。」と述べられています。

3 意見交換

参加いただいた高校、専修学校、企業、団体、教育委員会の皆様から、通学範囲の状況や中学校時代に不登校であった生徒の入学後の状況などの質問に対し、大畑校長先生が丁寧に答えていただき、とても有意義な機会となりました。

学校の説明の後、参加者から質問や意見が出されました。

○参加者のアンケートから

- ・東京都内ではなかなか体験できない経験で大変勉強になりました。
- ・生徒の皆さんの顔が生き生きされていて感心いたしました、都内の中でこの学びができるということは素晴らしいと思いました。
- ・「生命（いのち）に学ぶ学校」というコンセプトに感服いたしました。
- ・都立高校の現場を見ることができ、非常に参考になりました。
- ・企業の皆様から農業高校に対する感想等を聞くことができ、大変勉強になりました。
- ・現場で将来の世代を育てている様子を見ることができ、とても良かった。
- ・生徒が全員、笑顔で挨拶している姿にすばらしいと思いました。
- ・貴校の教育は、「生命に学ぶ学校」幸せの原点と思う。
- ・一人の人間性を育むためには、子供の頃の自然・命との体験の有無により大人になってから人間力に差が出できるのではないかと。
- ・産業界や専修学校の会員が多く参加し、意見交換ができて良かったと思う。
- ・交通不便な学校にもかかわらず、生徒が元気で通学する瑞穂農芸高校の魅力を直に知ることができた。

■閉会

開会の挨拶（謝辞）を西澤宏繁会長よりいただきました。

○都立瑞穂農芸高等学校の皆様には大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。（事務局）

令和7年度 産学懇談会（第3回）

令和7年12月2日（火）14:00～16:30
学校法人川口学園早稲田速記医療福祉専門学校



12月2日（火）学校法人川口学園早稲田速記医療福祉専門学校にて、産学懇談会（第3回）を開催しました。

参加者は、会場校教職員、当会の役員、企画推進委員、企業会員、学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等合わせて27名でした。

■開会

はじめに、開会の挨拶を西澤宏繁会長、続いて東京都教育委員会を代表して安藤紗季都立学校教育部高等学校教育課課長代理（計画担当）、会場校の川口拓也校長より御挨拶をいただきました。



西澤宏繁会長



安藤紗季課長代理



川口拓也校長

■施設・授業見学

川口校長及び職員の方々の案内により校内の施設・授業見学をさせていただきました。





■懇談会



○はじめに、川口拓也校長から学校概要について次のように説明していただきました。

○早稲田速記医療福祉専門学校は、速記の普及を目的に1935年に設立されました。医療秘書教育において日本で一番歴史のある専門学校です。その後時代の変化に対応し、1972年に日本初の医療秘書科を開設しました。

現在は、医療秘書科、医療事務IT科、診療情報管理科、くすり・調剤事務科、介護福祉科、看護科の6学科を開設し、医療と福祉の分野で「専門事務職」と「専門技術職」のスペシャリストの育成を行っています。

日本で就職を目指す留学生のために来年4月にビジネスコミュニケーション科を新設します。

○続いて、参加いただいた高校、専修学校、企業、団体、教育委員会の皆様から、施設見学・学校説明に対する質問・感想・意見交換がなされ、川口校長先生や教職員の方から丁寧に答えていただきました。

○その後、懇談会に移り、参加者から施設見学・学校説明に対する質問・感想が述べられました。また、専門学校現状と課題、教育活動への期待について意見交換を行い、有意義な機会となりました。

■閉会

閉会の挨拶（謝辞）を江原美規子東京都産業教育振興会企画推進委員（マリールイズ美容専門学校顧問）より頂き、閉会となりました。

■アンケート結果：回答者15名

(1) 本日の懇談会は、いかがでしたか？

- A とても良かった 12人 (80%)
- B 良かった 3人 (20%)
- C 普通 0人
- D あまり良くなかった 0人

(2) 今回の産学懇談会について、感想等をお書きください。(一部抜粋)

- ・専門学校の特色と先生方の熱意が伝わり大変良い機会でした。
- ・質の高い専門教育が行われていると感じた。
- ・学校の対応がとてもよかった。
- ・教育の場を実際に見学したことで、学校の雰囲気や先生方の学生を育てる思いが伝わり良かった。
- ・普段向う機会のない専門学校の様子を見学させていただき、勉強になりました。
- ・実践に即した環境で、情熱溢れる先生と真面目な学生ばかりで、現場に出てすぐに活躍できる産業人材の育成をされていることを拝見できました。
- ・様々な学科の授業を参観でき、知見が広がりました。

○早稲田速記医療福祉専門学校の皆様には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。(事務局)

令和7年度 第36回東京都産業教育振興会作文コンクール

(1) 入選者一覧

令和7年度も東京商工会議所様の御後援を賜り、作文コンクールを実施いたしました。今年度の応募作品数は、「中学校の部」が25校172作品、「高等学校・専修学校等の部」で高等学校が23校160作品、専修学校が3校14作品で、全体では51校346作品であり、過去最多となりました。また、高等学校の部では農業・工業・商業・家庭・総合学科と、幅広い学科からの応募をいただき、作文コンクールの裾野が広がっていることを嬉しく感じています。

それぞれの部の選考委員による第一次選考及び第二次選考を経て、「中学校の部」では26作品（最優秀賞1、優秀賞5、佳作20）、「高等学校・専修学校等の部」では高等学校が24作品（最優秀賞1、優秀賞2、佳作21）、専修学校が2作品（最優秀賞1、優秀賞1）、合計で52作品を入選作品として決定しました。なお、「イラストの部」には中学校から1作品の応募があり、その作品を入選作品として決定しました。

令和7年度の入選作品は、以下のとおりです。

中学校の部

| | | | | | |
|-------|-------------------|-----------------|----|-----|-----|
| 最優秀賞 | 私の宝物 | 北区立明桜中学校 | 2年 | 島 本 | 結 |
| 優 秀 賞 | 地域の人と子育て | 世田谷区立三宿中学校 | 3年 | 室 井 | 奏 |
| 優 秀 賞 | 大切なこと | 杉並区立泉南中学校 | 2年 | 稲 川 | 絢 音 |
| 優 秀 賞 | 社会を支える裏方 | 杉並区立泉南中学校 | 2年 | 高 橋 | 美 来 |
| 優 秀 賞 | 小さな笑顔から学んだ大きなこと | 北区立明桜中学校 | 3年 | 橋 蘭 | 一 星 |
| 優 秀 賞 | 当たり前のこと | 練馬区立豊溪中学校 | 2年 | 鈴 木 | 理 人 |
| 佳 作 | 未来に生きる授業 | 中央区立晴海中学校 | 3年 | 樗 木 | 碧 |
| 佳 作 | 感謝で繋がる世の中 | 墨田区立両国中学校 | 2年 | 崔 | 禎 |
| 佳 作 | お花畑と岩の間の少女 | 品川区立大崎中学校 | 3年 | 山 崎 | 史 織 |
| 佳 作 | 将来に向けての第一歩 | 世田谷区立瀬田中学校 | 2年 | 重 弘 | 結 瑞 |
| 佳 作 | 測定と制御～現代を支える技術～ | 世田谷区立尾山台中学校 | 3年 | 佐 藤 | レオン |
| 佳 作 | 笑顔の力 | 世田谷区立三宿中学校 | 3年 | 石 井 | 環 太 |
| 佳 作 | 「見えない努力」に気づいて | 世田谷区立三宿中学校 | 3年 | 岩 佐 | 虎 徹 |
| 佳 作 | ここに生きる私たち | 世田谷区立三宿中学校 | 3年 | 小 松 | ゆ り |
| 佳 作 | 家庭科が与えてくれたもの | 世田谷区立三宿中学校 | 3年 | 寺 嶋 | 郁 乃 |
| 佳 作 | 未来を育てる裏方 | 世田谷区立三宿中学校 | 3年 | 野 津 | 歩 花 |
| 佳 作 | 職場体験で学んだ大切なこと | 杉並区立泉南中学校 | 2年 | 柳 田 | よつば |
| 佳 作 | 家庭菜園の楽しみと喜び | 北区立稲付中学校 | 3年 | 松 本 | 諒 |
| 佳 作 | 職業体験で学び得たこと | 北区立明桜中学校 | 3年 | 日名子 | 恵 実 |
| 佳 作 | 職場体験で学んだ「働くことの喜び」 | 足立区立第十二中学校 | 2年 | 村 山 | 明花莉 |
| 佳 作 | 職場体験を通して | 江戸川区立小松川第二中学校 | 3年 | 勇 田 | 果 穂 |
| 佳 作 | 気づいた夢 | 江戸川区立小松川第二中学校 | 3年 | 坂 口 | 真 央 |
| 佳 作 | 私の将来の夢 | 江戸川区立小松川第二中学校 | 3年 | 庄 司 | 桜 子 |
| 佳 作 | 心を繋ぐ | 江戸川区立小松川第二中学校 | 3年 | 末 吉 | 明 莉 |
| 佳 作 | みんなが輝ける社会へ | 国分寺市立第四中学校 | 3年 | 望 月 | こころ |
| 佳 作 | 社会を変えたい | 東京都立大泉高等学校附属中学校 | 3年 | 内 山 | 紗 桜 |

高等学校の部

| | | | | | |
|------|--------------------|--------------|----|-----|-----|
| 最優秀賞 | 馬糞で拓く新たな魅力 | 東京都立農芸高等学校 | 3年 | 山田 | 弥彦 |
| 優秀賞 | 私の今昔の物語～学ぶことが生きがい～ | 東京都立橘高等学校 | 4年 | 染谷 | 豊一 |
| 優秀賞 | 将来の夢 | 愛国高等学校 | 1年 | 小久保 | 杏栞 |
| 佳作 | 様々な環境に触れて | 東京都立園芸高等学校 | 2年 | 高久 | 心暖 |
| 佳作 | 喜び | 東京都立園芸高等学校 | 2年 | 坂本 | ひなた |
| 佳作 | 食品ロスを減らす未来の飲食店 | 東京都立農芸高等学校 | 2年 | 関根 | 縁 |
| 佳作 | 援農ボランティアで紡ぐ地域と農業 | 東京都立農芸高等学校 | 2年 | 長瀬 | 海音 |
| 佳作 | 服づくりに込める思い | 東京都立農業高等学校 | 2年 | 石原 | もあ |
| 佳作 | 農業高校と出会って | 東京都立農業高等学校 | 2年 | 一之瀬 | 結衣 |
| 佳作 | 三宅島に生まれて | 東京都立三宅高等学校 | 2年 | 沖山 | 海璃 |
| 佳作 | 道 | 東京都立八丈高等学校 | 1年 | 佐藤 | 瑠海 |
| 佳作 | 電気に対する意識 | 東京都立蔵前工科高等学校 | 1年 | 谷中 | 宗司 |
| 佳作 | つくることの楽しさ | 東京都立墨田工科高等学校 | 2年 | 澤 | 蒼介 |
| 佳作 | 夢は公認会計士 | 東京都立葛飾商業高等学校 | 3年 | 在原 | 杏美 |
| 佳作 | 数字から見える企業の実像 | 東京都立葛飾商業高等学校 | 3年 | 篠原 | 暖乃 |
| 佳作 | 夢は子どもと家族の笑顔を支えること | 東京都立葛飾商業高等学校 | 3年 | 仲野 | 優衣 |
| 佳作 | 挑戦が私を強くする | 東京都立葛飾商業高等学校 | 3年 | 森田 | 有紗 |
| 佳作 | 私の夢 | 東京都立忍岡高等学校 | 3年 | 石井 | 唯 |
| 佳作 | 人と向き合う大切さ | 東京都立忍岡高等学校 | 3年 | 井出 | なな実 |
| 佳作 | 食を通して気づいた協力と挑戦の大切さ | 東京都立忍岡高等学校 | 3年 | 木下 | 綾華 |
| 佳作 | インターンシップで得た大切なもの | 東京都立赤羽北桜高等学校 | 2年 | 清原 | 千姫 |
| 佳作 | 将来の夢と特別な体験 | 東京都立赤羽北桜高等学校 | 2年 | 倉地 | 勇吾 |
| 佳作 | ゼロから始める料理の世界 | 東京都立赤羽北桜高等学校 | 2年 | 古関 | 龍介 |
| 佳作 | 働く背中を見て | 岩倉高等学校 | 2年 | 杓名 | 政幸 |

専修学校の部

| | | | | | |
|------|------------|--------------|----|----|----|
| 最優秀賞 | 病気と共に描く未来 | ハリウッド美容専門大学校 | 1年 | 小島 | 彩佳 |
| 優秀賞 | この腕の中の現場から | 青山製図専門学校 | 1年 | 李 | 然 |

イラストの部

| | | | | | |
|-------|--|------------|----|----|----|
| イラスト賞 | | 世田谷区立用賀中学校 | 2年 | 山口 | なな |
|-------|--|------------|----|----|----|

AIの進化により情報の収集が容易になる中、自らの体験を踏まえて思考することの大切さが増しています。生徒や学生の皆さんが作文を通して自ら学ぶ意義を考え、将来の夢を実現するきっかけの場となるよう、来年度も作文コンクールを実施します。生徒及び学生の皆さんからたくさんの応募があることを期待しています。

(2) 最優秀作文

中学校の部 最優秀賞

私の宝物

北区立明桜中学校 2年 島 本 結

私は小さい頃から手芸が好きだ。図書館や本屋に並んでいる手芸についての本を読み、作り方を見ながら丁寧に作っていくのが好きだった。小学校低学年の頃には自分でお守りやコースターなどをフェルトで作り、友達や家族にプレゼントしていた。一色だったフェルトが、私が組み合わせたり他のフェルトと縫い合わせたりすることで色とりどりの小物になっていくのが楽しかった。

小学校中学年になると手芸クラブに入り、布を並縫いしたり、ときにはミシンを使ったりして手提げや巾着などの作り方が少し難しいものにも挑戦できるようになっていた。お店に並んでいた布やひもを私が縫い合わせることによって日常使いできるものに変身するのが嬉しかった。そしてそれがそばにあると私が一生懸命作ったときのことを思い出し、なんとなく心が落ち着いた。

しかし、高学年になるにつれて私の興味が違うものに移り変わったことで、ほとんど手芸をしなくなっていた。また、委員会の仕事が増えたりレポートを作るなど課題の難易度が上がったりしたことで忙しくなり、手芸をしていないことを気にもとめなくなっていた。そして手芸をしない日々が当たり前になったとき、私はある店で機械で作られたであろうコースターを見つけた。

中学1年生のとき、私は友達の誕生日プレゼントを買うためにいろいろなお店を回っていた。そこでキャラクターがプリントされたコースターを見つけたのだ。そのコースターのキャラクターは友達が好きと言っていたものであり、フェルトで作ったものよりも厚みがあってコップを置くのに最適だと思った。私はそのコースターを買い、友達にプレゼントした。渡した時友達が喜んでくれて、私も嬉しかった。しかしなぜか私が作ったコースターをプレゼントしたときよりも高揚感は感じられなかった。そのコースターは私がいろいろな候補から悩みに悩んで決めたものだったので、もちろん喜んでもらえて嬉しかった。しかし、どうしてもあの時と同じようには喜ぶことができなかった。その時私は手作りのコースターをプレゼントしたときのことを思い出した。渡す前に「喜んでもらえるか」という不安や緊張を抱えていたけれど、渡した後の友達の「ありがとう」という一言でそれを上回る大きな喜びになったのだ。また、私のコースターを「綺麗にできている」と友達が褒めてくれたことで自信につながり、これからは手芸を続けてもっと綺麗に仕上げられるようになりたいと思ったのだ。そこで私は初めて「つくることの喜び」について理解できた。

それから私は、また手芸に熱中している。以前ほどの頻度ではないが、刺しゅうのキットを買って刺しゅう作りを楽しんでいる。確かに機械でつくるものには、実用性があったり手作りではできないデザイン性があったりして、手作りより優れているというものもあるだろう。実際私が友達に贈ったコースターは、昔フェルトで作ったコースターよりはるかに使い勝手が良さそうだった。しかし私は機械でできる優れた性能よりも、人の手で作ることでしか得られない喜びを大切にしていきたい。時間がかかって完成した時の達成感も、誰かにプレゼントするときの高揚感も、もう一度作りたいと思う意欲も、私が作ったものがそばにあるという安心感も、全てが私にとって宝物である。これは機械でつくったものでは得られない喜びであり、自分で作ったときにこそ感じられる。だから私は今まで手芸と離れていた時間を埋めるように、もう一度手芸がそばにある生活を送っていきたい。そしてこれからは機械と性能を比べるのではなく、手芸をすることでしか得られないたくさんの喜びを感じていきたい。

馬糞で拓く新たな魅力

東京都立農芸高等学校 3年 山田 弥彦

東京都立農芸高校には、都立高校で唯一、馬術部がある。ある日、私は馬術部の先生が「馬術部の馬から出る馬糞は全部焼却処分しているんだよね。」とお話しているのをお聞きした。先生に詳しく聞いてみると、一年間で排出される馬糞は約九千百kgにもなるという。

そこで、馬糞を焼却処分せず、有効活用できる方法はないか考えてみた。その時、「農業と環境」という授業で学んだ、家畜の糞を堆肥にして有効活用できるということをヒントに、馬糞を堆肥化することにチャレンジしてみることを決意した。ただ堆肥化しても利用できなければ意味がない。そこで、馬糞堆肥を調べてみると、土壌改良剤として用いることができること、馬糞堆肥がマッシュルーム用菌床として用いられることを知った。

馬糞堆肥を作らなければ何も始まらない。そう考えた私は、さっそく文献や、授業で学んだ知識をもとに混合する米ぬか、もみがらくん炭などの副資材を選定し堆肥化を行った。

しかし、製造した堆肥は文献に書いてある50～60℃の堆肥熱が発生することはなく本当に堆肥になっているのか？そもそも選んだ副資材は本当に正しいものなのか？方法はあったのか？など、疑問だらけになってしまった。

専門の方からの意見が欲しい。そこで私は、堆肥の製造、また今後実施するマッシュルーム栽培について研究を行っている大学・博物館などの研究機関を見学した。さらに、東京都三鷹市にて馬糞堆肥を製造、使用して農業を行っている農家にお話を伺った。植物残渣、生ごみを副資材として混合するという新たな視点や現状の改善点、攪拌のペースなど堆肥化のコツを沢山教えていただいた。農家さんに今行っている活動についてお話しすると、「それはもったいないね。その馬糞、俺が欲しいかも。」とおっしゃられた。このままでは研究材料がとられてしまう。悔しい、という思いが私のやる気に火をつけた。学校に帰ると、堆肥製造装置を改良、また作物の栽培の授業で発生するナスやキュウリなどの植物残渣を砕いたものを副資材として加え、堆肥化を行った。結果、堆肥熱は農家さんや文献の結果を超える65℃を記録。その後の観察で腐熟も十分進んでいることを確認できた。

次に私は、マッシュルーム栽培に取り掛かった。農家さんの助言を受ける前と受けた後に製造した馬糞堆肥、対象区として市販の馬糞堆肥を使ってマッシュルーム栽培を行った。改良前の馬糞堆肥ではマッシュルームの菌糸の伸長が悪く、失敗したが、市販の馬糞堆肥と改良後の馬糞堆肥では、菌糸が全体を覆い成功を収めた。この実験によって、製造した馬糞堆肥にはマッシュルームを育てられる能力があることが分かった。しかし、実験は本来のマッシュルーム栽培と比べ小規模かつ栽培環境が大きく異なっている。そのため、私はこれから、マッシュルーム栽培を行っている企業や農家さんを訪問して、マッシュルーム栽培についてさらに詳しく学んでいきたい。

私は、これまでの成果をTOKYOサイエンスフェアで発表した。発表を通じて、研究結果に対する新たな視点、今後の展望に対する助言、「面白い活動をしているね」、「頑張ってる」など激励をいただくことができた。

プロジェクトは始まったばかりで、マッシュルームの栽培など達成できていない目標が多々ある。そして、馬糞堆肥の製造量を増やす、マッシュルーム栽培の大規模化を行う、生産される馬糞堆肥やマッシュルームの活用など、私にはこの活動で挑戦したいことはたくさんある。この研究活動をさらに進め、馬の飼育で出た糞をゴミではなく、農業の力で資源として活用し、持続的な取り組みに繋げていきたい。

この活動から、環境に配慮した農業をやりたいという想いは高まり、卒業後は、大学に進学して、さらに研究を行いたいと考えている。

(3) 応募校一覧

< 中学校の部 >

| 番号 | 区分 | 学校名 | 応募者数 | 入選者数 |
|--------|------|-------------|------|------|
| 1 | 中央区 | 晴海中学校 | 10 | 1 |
| 2 | 墨田区 | 両国中学校 | 10 | 1 |
| 3 | 品川区 | 大崎中学校 | 2 | 1 |
| 4 | 目黒区 | 目黒南中学校 | 2 | |
| 5 | 世田谷区 | 八幡中学校 | 8 | |
| 6 | | 瀬田中学校 | 10 | 1 |
| 7 | | 尾山台中学校 | 6 | 1 |
| 8 | | 上祖師谷中学校 | 10 | |
| 9 | | 三宿中学校 | 10 | 6 |
| 10 | 杉並区 | 松溪中学校 | 1 | |
| 11 | | 泉南中学校 | 10 | 3 |
| 12 | 北区 | 稲付中学校 | 7 | 1 |
| 13 | | 明桜中学校 | 10 | 3 |
| 14 | | 赤羽岩淵中学校 | 2 | |
| 15 | 荒川区 | 諏訪台中学校 | 3 | |
| 16 | 練馬区 | 豊溪中学校 | 10 | 1 |
| 17 | 足立区 | 第十二中学校 | 9 | 1 |
| 18 | | 第十四中学校 | 9 | |
| 19 | | 江南中学校 | 1 | |
| 20 | 葛飾区 | 葛美中学校 | 7 | |
| 21 | 江戸川区 | 小松川第二中学校 | 10 | 4 |
| 22 | 調布市 | 第八中学校 | 9 | |
| 23 | 国分寺市 | 第四中学校 | 10 | 1 |
| 24 | 東京都立 | 大泉高等学校附属中学校 | 4 | 1 |
| 25 | 私立 | 愛国中学校 | 2 | |
| 中学校 小計 | | | 172 | 26 |

< イラストの部 >

| 番号 | 学校名 | 応募者数 | 入選者数 |
|----|------------|------|------|
| 1 | 世田谷区立用賀中学校 | 1 | 1 |
| 合計 | | 1 | 1 |

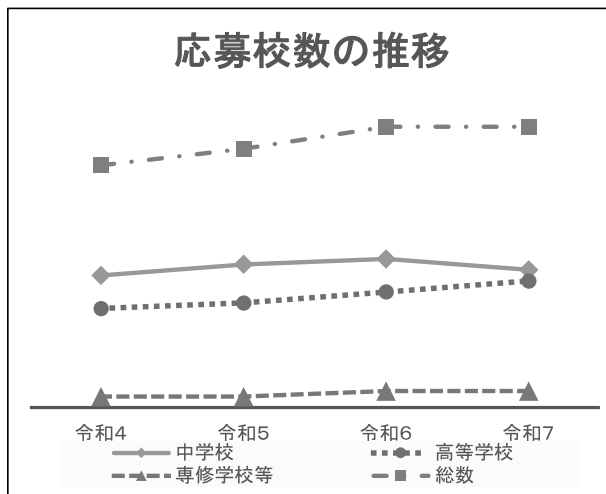
< 高等学校・専修学校等の部 >

| 番号 | 学校名 | 応募者数 | 入選者数 |
|---------|----------------|------|------|
| 1 | 東京都立園芸高等学校 全日制 | 10 | 1 |
| 2 | 東京都立園芸高等学校 定時制 | 10 | 1 |
| 3 | 東京都立農芸高等学校 | 4 | 3 |
| 4 | 東京都立農産高等学校 | 1 | |
| 5 | 東京都立農業高等学校 | 10 | 2 |
| 6 | 東京都立瑞穂農芸高等学校 | 9 | |
| 7 | 東京都立大島高等学校 | 7 | |
| 8 | 東京都立三宅高等学校 | 1 | 1 |
| 9 | 東京都立八丈高等学校 | 7 | 1 |
| 10 | 東京都立蔵前工科高等学校 | 6 | 1 |
| 11 | 東京都立墨田工科高等学校 | 10 | 1 |
| 12 | 東京都立第三商業高等学校 | 10 | |
| 13 | 東京都立第四商業高等学校 | 9 | |
| 14 | 東京都立葛飾商業高等学校 | 10 | 4 |
| 15 | 東京都立忍岡高等学校 | 10 | 3 |
| 16 | 東京都立赤羽北桜高等学校 | 10 | 3 |
| 17 | 東京都立橋高等学校 | 1 | 1 |
| 18 | 東京都立つばさ総合高等学校 | 1 | |
| 19 | 東京都立王子総合高等学校 | 4 | |
| 20 | 愛国高等学校 | 6 | 1 |
| 21 | 岩倉高等学校 | 4 | 1 |
| 22 | 京華商業高等学校 | 10 | |
| 23 | 国際共立学園高等専修学校 | 10 | |
| 高等学校 小計 | | 160 | 24 |
| 1 | 青山製図専門学校 | 9 | 1 |
| 2 | 中央工学校 | 1 | |
| 3 | ハリウッド美容専門学校 | 4 | 1 |
| 専修学校 小計 | | 14 | 2 |
| 合計 | | 346 | 52 |

(4) 応募校数・応募者数・入選者数の推移

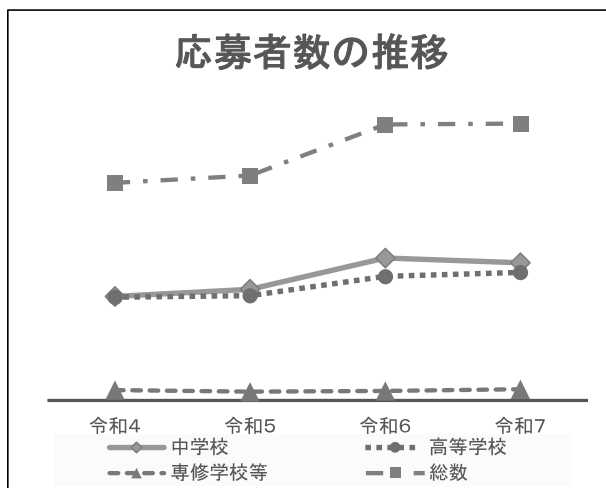
① 応募校数の推移

| 校種 | 令和4 | 令和5 | 令和6 | 令和7 | 平均 |
|-------|-----|-----|-----|-----|----|
| 中学校 | 24 | 26 | 27 | 25 | 26 |
| 高等学校 | 18 | 19 | 21 | 23 | 20 |
| 専修学校等 | 2 | 2 | 3 | 3 | 3 |
| 合計 | 44 | 47 | 51 | 51 | 48 |



② 応募者数の推移

| 校種 | 令和4 | 令和5 | 令和6 | 令和7 | 平均 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 中学校 | 130 | 139 | 178 | 172 | 155 |
| 高等学校 | 129 | 131 | 155 | 160 | 144 |
| 専修学校等 | 13 | 11 | 12 | 14 | 13 |
| 合計 | 272 | 281 | 345 | 346 | 311 |



③ 入選者数の推移

| 校種 | 令和4(2022)年度 | | | 令和5(2023)年度 | | | 令和6(2024)年度 | | | 令和7(2025)年度 | | | 平均% |
|-------|-------------|------|----|-------------|------|----|-------------|------|----|-------------|------|----|-----|
| | 応募者数 | 入選者数 | % | 応募者数 | 入選者数 | % | 応募者数 | 入選者数 | % | 応募者数 | 入選者数 | % | |
| 中学校 | 130 | 20 | 15 | 139 | 22 | 16 | 178 | 27 | 15 | 172 | 26 | 15 | 15 |
| 高等学校 | 129 | 20 | 16 | 131 | 20 | 15 | 155 | 23 | 15 | 160 | 24 | 15 | 15 |
| 専修学校等 | 13 | 2 | 15 | 11 | 2 | 18 | 12 | 2 | 17 | 14 | 2 | 14 | 16 |
| 合計 | 272 | 42 | 15 | 281 | 44 | 16 | 345 | 52 | 15 | 346 | 52 | 15 | 15 |

(5) 作文のテーマ別応募者数一覧

①作文の内容

次に示す学習を通して体験したことを踏まえて、そこから得た人生観・職業観、自己の将来に対する考え方・心構え等について述べたもの。

- 中学校における技術・家庭科の学習
- 高等学校、専修学校、高等専門学校又は短期大学における専門教科の学習
- 勤労に関わる体験的な学習

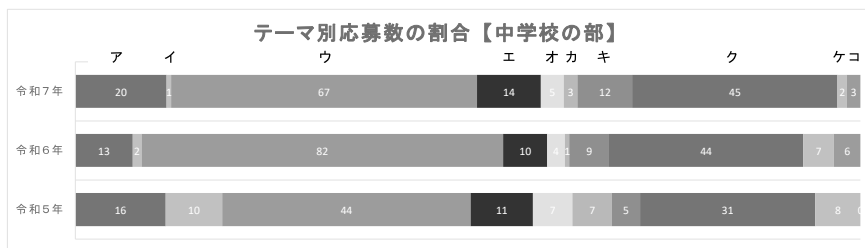
②テーマ

作文の内容について、次のテーマ番号（ア～コ）から関係するものを選択し記述する。

- ア 授業等を通して学び得たこと
- イ インターンシップや現場実習等によって学び得たこと
- ウ 職場体験やボランティア活動等によって学び得たこと
- エ つくることの喜び、ものづくりの喜び
- オ 働くことの喜び
- カ 学習に対する心構え
- キ 私の生きがい
- ク 私の進路、将来の夢
- ケ 私の職業観
- コ その他（産業教育に関わる内容のもの）

③テーマ別応募数とその割合

| テーマ 記号 | 中学校の部 | | | | | | 高等学校の部 | | | | | | 専修学校等の部 | | | | | |
|-----------|-------|--------|------|--------|------|--------|--------|--------|------|--------|------|--------|---------|--------|------|--------|------|--------|
| | 令和5年 | | 令和6年 | | 令和7年 | | 令和5年 | | 令和6年 | | 令和7年 | | 令和5年 | | 令和6年 | | 令和7年 | |
| | 応募数 | (割合) | 応募数 | (割合) | 応募数 | (割合) | 応募数 | (割合) | 応募数 | (割合) | 応募数 | (割合) | 応募数 | (割合) | 応募数 | (割合) | 応募数 | (割合) |
| ア | 16 | (12%) | 13 | (7%) | 20 | (12%) | 31 | (24%) | 42 | (27%) | 36 | (23%) | 4 | (36%) | 3 | (25%) | 4 | (29%) |
| イ | 10 | (7%) | 2 | (1%) | 1 | (1%) | 21 | (16%) | 14 | (9%) | 22 | (14%) | 0 | (0%) | 0 | (0%) | 0 | (0%) |
| ウ | 44 | (32%) | 82 | (46%) | 67 | (39%) | 8 | (6%) | 5 | (3%) | 6 | (4%) | 0 | (0%) | 0 | (0%) | 0 | (0%) |
| エ | 11 | (8%) | 10 | (6%) | 14 | (8%) | 7 | (5%) | 8 | (5%) | 7 | (4%) | 0 | (0%) | 0 | (0%) | 1 | (7%) |
| オ | 7 | (5%) | 4 | (2%) | 5 | (3%) | 4 | (3%) | 3 | (2%) | 8 | (5%) | 0 | (0%) | 0 | (0%) | 0 | (0%) |
| カ | 7 | (5%) | 1 | (1%) | 3 | (2%) | 5 | (4%) | 5 | (3%) | 4 | (3%) | 1 | (9%) | 2 | (17%) | 3 | (21%) |
| キ | 5 | (4%) | 9 | (5%) | 12 | (7%) | 8 | (6%) | 7 | (5%) | 14 | (9%) | 0 | (0%) | 0 | (0%) | 1 | (7%) |
| ク | 31 | (22%) | 44 | (25%) | 45 | (26%) | 44 | (34%) | 62 | (40%) | 54 | (34%) | 4 | (36%) | 4 | (33%) | 4 | (29%) |
| ケ | 8 | (6%) | 7 | (4%) | 2 | (1%) | 3 | (2%) | 6 | (4%) | 5 | (3%) | 2 | (18%) | 2 | (17%) | 1 | (7%) |
| コ | 0 | (0%) | 6 | (3%) | 3 | (2%) | 0 | (0%) | 3 | (2%) | 4 | (3%) | 0 | (0%) | 1 | (8%) | 0 | (0%) |
| 計 | 139 | (100%) | 178 | (100%) | 172 | (100%) | 131 | (100%) | 155 | (100%) | 160 | (100%) | 11 | (100%) | 12 | (100%) | 14 | (100%) |



本会の概要

令和7年度 事業経過報告

(令和8年2月20日現在)

1 会計監査

4月15日(火)午前10時～12時及び4月18日(金)午後14時30分～16時30分、都庁第二本庁舎15階3部共用会議室①を会場として、常任監事及び監事2名による各種帳簿類等の監査を実施した(本会事務局長立合い)。

2 理事会

5月16日(金)14時～16時 全商会館2階205会議室で対面開催
*出席者16名、委任状18名

3 総会・講演会

6月19日(木)14時～16時30分 創立70周年記念総会・講演会として会場参加(全商会館)とオンライン参加を併用したハイブリッド開催

- ・総会 会場参加者48名、オンライン参加者6名、計54名
 - ・講演会 会場参加者43名、オンライン参加者8名、計51名
- (総会・講演会の報告は会報第168号、会誌第63号に掲載)

4 委員会

- (1) 企画推進委員会(第1回)7月4日(金)15時～17時 教育委員会室
企画推進委員会(第2回)11月21日(金)15時～17時 教育委員会室
企画推進委員会(第3回)1月16日(金)15時～17時 教育委員会室
- (2) 中学校技術・家庭科教育功労者選考委員会 8月29日(金)都庁第二本庁舎会議室
- (3) 作文選考委員会
全体会 5月23日(金)都庁第二本庁舎会議室
分科会(中学校の部) 10月23日(木)都庁第二本庁舎会議室
分科会(高等学校・専修学校の部) 10月24日(金)都庁第二本庁舎会議室

5 振興奨励事業

- (1) 教育功労者表彰:11月11日(火)午後3時から全商会館3階中会議室において、御下賜金記念産業教育功労者3名、中学校技術・家庭科教育功労者5名の表彰式を挙行了。本会より表彰状の授与と記念品の贈呈を行った。
- (2) 感謝状の贈呈:6月19日(木)の総会時に50年以上企業会員となって支援いただいた企業6社を表彰した。
- (3) 永年功労者表彰:6月19日(木)の総会時に10年以上企業会員となって支援いただいた企業2社を表彰した。
- (4) 研究団体助成:産業教育関係の教育研究団体に対する奨励助成として、農業、工業、家庭、総合学科、定時制・通信制、中学校技術・家庭科の6研究会に対し、研究資料作成など事業活動費の一部を助成した。
- (5) 作文コンクール:中学生、高校生、高専生、専修学校生、短大生に対する作文募集を行い、応募総数は346点であった。その中から最優秀賞3名(中学校1名、高校1名、専修学校1名)、優秀賞8名(中学校5名、高校2名、専修学校1名)、佳作41名(中学校20名、高校21名)計52名の入選者を選定した。
表彰式は12月19日(金)に東京商工会議所で開催し、入選者及び「明日に生きる 第36号—作文コンクール入選作品集—」の表紙デザイン作成者に賞状と賞品を授与した。また、作文応募者全員及び表紙デザイン応募者全員に記念品を贈呈した。
入選作品は「明日に生きる 第36号—作文コンクール入選作品集—」として令和8年3月上旬に発行予定。
- (6) 優良卒業生選奨:優良卒業生に対し、各学校の校長・学長を通じ、本会会長及び公益財団法人産業教育振興中央会会長の表彰状の交付及び授与を行った。

- 東京都産業教育振興会会長表彰
 - 中学校 933 名 中等教育学校（前期課程） 13 名
 - 高等学校 190 名 専修学校 101 名
 - 高専・短大 15 名 計 1,252 名
- 公益財団法人産業教育振興中央会会長の表彰
 - 高等学校及び高等専門学校 計 108 名

6 産学連携事業

- (1) 第 4 回葛飾区産業教育懇談会の開催
 - 日 時 5 月 12 日（月）15 時～17 時
 - 場 所 テクノプラザかつしか
 - 内 容 「葛飾区の産業人材を育成するにはどうすればよいか」をテーマに全体会Ⅰ・分科会・全体会Ⅱを開催
 - 参加者 企業 21 名、高校 8 名、専修学校 1 名、中学校 14 名、行政 8 名、団体 13 名 計 65 名
- (2) 第 1 回西多摩地域産業教育懇談会の開催
 - 日 時 8 月 21 日（木）15 時～17 時
 - 場 所 福生市商工会扶桑会館
 - 内 容 「西多摩地域を愛し、西多摩地域で働き、西多摩地域を活性化させていく人材の育成」をテーマに全体会を開催
 - 参加者 高校 8 名、商工会 9 名、東京都産業教育振興会 4 名 計 21 名
- (3) 第 2 回大田区産業教育懇談会の開催
 - 日 時 12 月 8 日（月）14 時 45 分～16 時 45 分
 - 場 所 池上会館
 - 内 容 「大田区の産業を担う人材を育成するキャリア教育」をテーマに全体会を開催
 - 参加者 小学校 3 名、中学校 15 名、高校 10 名、高等専門学校 1 名、大田区行政 7 名、大田区団体 7 名、東京都行政 4 名、東京都産業教育振興会 4 名 計 51 名

7 産学交流事業

- (1) 産学懇談会（第 1 回）の実施
 - 7 月 11 日（金）14 時～17 時 都立工芸高等学校 参加者 29 名
- (2) 産学懇談会（第 2 回）の実施
 - 9 月 25 日（木）14 時～17 時 都立瑞穂農芸高等学校 参加者 27 名
- (3) 産学懇談会（第 3 回）の実施
 - 12 月 2 日（木）14 時～17 時 早稲田速記医療福祉専門学校 参加者 27 名

8 情報連絡事業

- (1) 第 35 回全国産業教育フェア福島大会 10 月 25 日（土）～10 月 26 日（日）
西澤会長、事務局長、事務局員参加
- (2) 第 67 回全国産業教育振興大会（福島大会）10 月 25 日（土）15：30-17：00
西澤会長、事務局員参加

9 広報活動

- (1) 会報「東京の産業と教育」の発行
 - 第 168 号を 7 月 30 日に発行
 - 第 169 号を 12 月 22 日に発行
- (2) 会報「東京の産業と教育」電子版の発行
 - 59 号（5 月 27 日）、60 号（7 月 22 日）、61 号（8 月 29 日）、62 号（10 月 10 日）、63 号（12 月 26 日）、64 号（3 月予定）
- (3) 会誌「東京の産業教育」の発行
 - 第 63 号を 3 月上旬に発行予定
- (4) 「明日に生きる 第 36 号 - 作文コンクール入選作品集 -」の発行

3月上旬に発行予定。

(5) ホームページの更新

ホームページの更新を原則として毎月1回行った。

10 広報活動の推進

○会員数

産業界会員 55社、学校会員 563校、個人会員 16人 計 634 (2月20日現在)

○入退会

| | | |
|----|-------------|--------|
| 退会 | NHK学園高等学校 | 4月8日 |
| 退会 | 倉持俊義氏 | 4月18日 |
| 入会 | 町田市立町田第三中学校 | 4月28日 |
| 入会 | 町田市立忠生中学校 | 5月2日 |
| 退会 | 有限会社飯吉製作所 | 5月7日 |
| 退会 | 昭和第一学園高等学校 | 6月3日 |
| 退会 | 羽田国際高等学校 | 6月26日 |
| 入会 | 町田市立つくし野中学校 | 9月5日 |
| 入会 | 東京都商工会連合会 | 10月14日 |

11 創立70周年記念事業

(1) 創立70周年記念総会

日時：令和7年6月19日(木)午後1時30分から2時50分まで

会場：全商会館

(2) 感謝状の贈呈

当会に入会后50年を経過した企業6社に創立70周年記念総会で感謝状を贈呈した。

贈呈企業(アイウエオ順)：株式会社小葉印刷所、三和電気計器株式会社、実教出版株式会社、鉄道機器株式会社、東京ガス株式会社、東京書籍株式会社

(3) 創立70周年記念講演会

日時：令和7年6月19日(木)午後3時から4時30分まで

会場：全商会館

講師：松原仁氏 京都橘大学教授

演題：「AIによって産業はどう変わるか そのために教育はどう変わるべきか」

(4) 記念誌の発行

会誌「東京の産業教育」第63号を創立70周年記念特別号として、令和8年3月に発行予定。

(5) 座談会の開催

日時：令和7年9月19日(金)14時から16時まで

会場：都庁第二本庁舎15階15A会議室

趣旨：産業教育に関わる農業、工業、商業、家庭の各学科・学校における現状と課題、今後の展望についてお話しいただく。

座談会のテーマ：専門高校の現状と、これから目指すこと

出席者：並川直人都立農業高等学校長、釘持利治都立六郷工科高等学校長、山田和人都立芝商業高等学校長、金澤正美都立赤羽北桜高等学校長、河野敏弘教育庁指導部主任指導主事(産業教育担当)、西澤宏繁会長、小林治彦副会長

(6) 会旗の作成

創立70周年記念総会に合わせ、東京都産業教育振興会の会旗を作成し、会場に掲揚した。

(7) 会誌「東京の産業教育」の表紙デザイン・イラストコンクールの実施

会員校の高等学校、高等専門学校、専修学校の生徒・学生から会誌「東京の産業教育」の表紙デザイン・イラストを募集した。

8校から36作品の応募があり、厳正なる審査の結果、最優秀賞1作品、優秀賞4作品を選出した。

入選者5名を令和7年12月19日(金)開催の「作文コンクール表彰式」において表彰し、賞状と記念品を贈呈した。

令和6年度 決算

総収入額 ¥4,333,667
 総支出額 ¥2,350,940
 差引額 ¥1,982,727

[収入の部]

(単位:円)

| 科 目 | 予算額 | 決算額 | 差額 | 摘 要 | |
|-------|-----------|-----------|----------|--|-----------|
| 会 費 | 2,413,000 | 2,366,000 | △ 47,000 | 1 学校関係 | 1,637,000 |
| | | | | ① 国公立中学校 | 884,000 |
| | | | | ② 都立高校 | 312,000 |
| | | | | 全 定 | 93,000 |
| | | | | ③ 国私立高校 | 84,000 |
| | | | | 全 通 | 6,000 |
| | | | | ④ 短大・高専 | 21,000 |
| | | | | ⑤ 専修学校 | 237,000 |
| | | | | 2 産業界関係 | 729,000 |
| | | | | ① 企 業 | 695,000 |
| ② 個 人 | 34,000 | | | | |
| 会誌広告料 | 320,000 | 345,000 | 25,000 | 「東京の産業教育」第61号広告料2社(校)、第62号広告料24/26社(校) | |
| 雑収入 | 197 | 864 | 667 | 銀行利子 | |
| 繰越金 | 1,621,803 | 1,621,803 | 0 | 前年度繰越 | |
| 合 計 | 4,355,000 | 4,333,667 | △ 21,333 | | |

[支出の部]

(単位:円)

| 科 目 | 予算額 | 決算額 | 差額 | 摘 要 | | |
|------------|------------|-----------|-----------|--------------------|-----------------------|---------|
| 事務費 | 770,000 | 413,172 | 356,828 | | | |
| 項 目 | 需用費 | 20,000 | 1,000 | 19,000 | 総会資料印刷、消耗品費等、資料管理費 | |
| | 役務費 | 700,000 | 412,172 | 287,828 | 配送費、郵便振込手数料、郵券等、連絡通信費 | |
| | 旅 費 | 50,000 | 0 | 50,000 | 全国産業教育フェア(栃木大会) | |
| 会議費 | 150,000 | 62,488 | 87,512 | 理事会、総会、講演会、各種委員会 | | |
| 事業費 | 2,420,000 | 1,810,280 | 609,720 | | | |
| 項 目 | 振 興 奨励費 | 980,000 | 713,302 | 266,698 | ①教育功労者表彰 | 153,179 |
| | | | | | ②研究奨励助成 | 152,000 |
| | | | | | ③作文表彰等 | 271,833 |
| | | | | | ④永年会員表彰 | 0 |
| | | | | | ⑤表彰状印刷等 | 122,870 |
| | | | | | ⑥表彰状筆耕料 | 13,420 |
| | | | | | ⑦ロゴマーク登録(2031年度に必要) | 0 |
| 情 報 連絡費 | 1,420,000 | 1,090,656 | 329,344 | ①会報発行(166号、167号発行) | 65,800 | |
| | | | | ②会誌第62号発行 | 451,825 | |
| | | | | ③作文集第35号発行 | 359,755 | |
| | | | | ④HP更新費 | 210,276 | |
| | | | | ⑤全産協参加費(栃木大会) | 3,000 | |
| | | | | ⑥中央会図書費 | 0 | |
| | | | | ⑦作文集・会誌合本費 | 0 | |
| 産学交流費 | 20,000 | 6,322 | 13,678 | 産学懇談会 | | |
| 分担金 | 65,000 | 65,000 | 0 | 全国産業教育振興会連絡協議会 | | |
| 予備費 | 950,000 | 0 | 950,000 | 創立70周年事業準備、緊急対応 | | |
| 合 計 | 4,355,000 | 2,350,940 | 2,004,060 | | | |

(注) 科目間の流用は、会長承認によって行うことができる。

令和7年度 予算

総収入額 ¥5,135,000
 総支出額 ¥5,135,000
 差引額 ¥0

[収入の部]

(単位：円)

| 科 目 | 本年度 予算額(A) | 前年度 予算額(B) | 増△減 (A-B) | 摘 要 |
|-----------------------------------|---------------|---------------|--------------|-------------------------------|
| 会 費 | 2,831,000 | 2,413,000 | 418,000 | 1 学校関係 会費 校数・口数 1,639,000 |
| | | | | ① 国公私立中学校 2,000 440 校 880,000 |
| | | | | ② 都立高校 全 6,000 52 校 312,000 |
| | | | | 定 3,000 32 校 96,000 |
| | | | | ③ 私立・国立高校 全 6,000 14 校 84,000 |
| | | | | 通 3,000 1 校 3,000 |
| ④ 短大・高専 4 校 6,000 4 校 24,000 | | | | |
| ⑤ 専修学校 38 校 6,000 40 口 240,000 | | | | |
| 2 産業界関係 会費 口数 1,192,000 | | | | |
| ① 企 業 54 社 10,000 116 口 1,160,000 | | | | |
| ② 個 人 16 名 2,000 16 口 32,000 | | | | |
| 会誌広告料 | 320,000 | 320,000 | 0 | 「東京の産業教育」第63号広告費 |
| 雑収入 | 1,273 | 197 | 1,076 | 預金利息等 |
| 繰越金 | 1,982,727 | 1,621,803 | 360,924 | 前年度繰越 |
| 合 計 | 5,135,000 | 4,355,000 | 780,000 | |

[支出の部]

(単位：円)

| 科 目 | 本年度 予算額 (A) | 前年度 予算額 (B) | 増△減 (A-B) | 摘 要 | |
|------------|----------------|----------------|--------------|--------------------------|-----------------------|
| 事務費 | 870,000 | 770,000 | 100,000 | | |
| 項 目 | 需用費 | 120,000 | 20,000 | 100,000 | 消耗品費等、資料管理費 |
| | 役務費 | 700,000 | 700,000 | 0 | 配送費、郵便振込手数料、郵券等、連絡通信費 |
| | 旅 費 | 50,000 | 50,000 | 0 | 全国産業教育フェア（福島大会） |
| 会議費 | 250,000 | 150,000 | 100,000 | 理事会、総会、講演会、各種委員会 | |
| 事業費 | 3,250,000 | 2,420,000 | 830,000 | | |
| 項 目 | 振 興 奨励費 | 1,660,000 | 980,000 | 680,000 | ①教育功労者表彰 300,000 |
| | | | | ②研究奨励助成 160,000 | |
| | | | | ③作文表彰等 800,000 | |
| | | | | ④永年会員表彰 100,000 | |
| | | | | ⑤表彰状印刷 250,000 | |
| | | | | ⑥表彰状筆耕料 50,000 | |
| | | | | ⑦ロゴマーク登録(2031年度に必要) 0 | |
| 情 報 連絡費 | 1,570,000 | 1,420,000 | 150,000 | ①会報第168号・第169号発行 100,000 | |
| | | | | ②会誌第63号発行 750,000 | |
| | | | | ③作文集第36号発行 500,000 | |
| | | | | ④ホームページ更新費 215,000 | |
| | | | | ⑤全産協参加費 3,000 | |
| | | | | ⑥中央会図書費 2,000 | |
| | | | | ⑦作文集・会誌合本費 0 | |
| 産学交流費 | 20,000 | 20,000 | 0 | 産学懇談会 | |
| 分担金 | 65,000 | 65,000 | 0 | 全国産業教育振興会連絡協議会 | |
| 予備費 | 700,000 | 950,000 | △ 250,000 | 緊急対応 | |
| 合 計 | 5,135,000 | 4,355,000 | 780,000 | | |

(注) 科目間の流用は、会長承認によって行うことができる。

令和7年度 東京都産業教育振興会 役員 (敬称略・順不同)

(☆印：新任)

| | | |
|---------|--|-----------|
| 会 長 | ForeVision 株式会社 取締役 監査等委員会委員長 (元・株式会社企業再生支援機構 代表取締役社長、元・株式会社東京都民銀行 頭取) | 西 澤 宏 繁 |
| 副 会 長 | 株式会社カナック企画相談役 | 金 子 昌 男 |
| 〃 | 東京商工会議所常務理事 | 小 林 治 彦 |
| 〃 | ☆ 東京都立農業高等学校長 | 並 川 直 人 |
| 理 事 長 | 東京都教育委員会教育長 | 坂 本 雅 彦 |
| 常 任 理 事 | ☆ 東京都教育庁都立学校教育部長 | 佐 藤 直 樹 |
| 〃 | ☆ 東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長 | 小 板 橋 美 穂 |
| 〃 | 東京都教育庁都立学校教育部ものづくり教育推進担当課長 | 長 谷 克 己 |
| 理 事 | 公益社団法人経済同友会事務局長・代表理事 | 齋 藤 弘 憲 |
| 〃 | ☆ 一般社団法人東京経営者協会総務部長 | 神 尚 武 |
| 〃 | 株式会社日刊工業新聞社相談役 | 井 水 治 博 |
| 〃 | 株式会社昭和製作所取締役会長 | 舟久保 利 明 |
| 〃 | ☆ 株式会社ハチオウ相談役 | 森 裕 子 |
| 〃 | 新宿区教育委員会教育長 | 針 谷 弘 志 |
| 〃 | ☆ 荒川区教育委員会教育長 | 阿 部 忠 資 |
| 〃 | ☆ 武蔵野市教育委員会教育長 | 吉 原 健 |
| 〃 | ☆ 練馬区教育委員会事務局学務課長 | 竹 内 康 雄 |
| 〃 | ☆ 江戸川区教育委員会事務局学務課長 | 木 村 美由紀 |
| 〃 | 東京誠心調理師専門学校理事長 | 廣 瀬 道 |
| 〃 | 学校法人小山学園理事長 | 山 本 匡 |
| 〃 | 岩倉高等学校長 | 森 田 勉 |
| 〃 | 安部学院高等学校長 | 安 部 元 彦 |
| 〃 | 東京都立農業高等学校長 (副会長兼任) | 並 川 直 人 |
| 〃 | ☆ 東京都立六郷工科高等学校長 | 釵 持 利 治 |
| 〃 | 東京都立芝商業高等学校長 | 山 田 和 人 |
| 〃 | 東京都立赤羽北桜高等学校長 | 金 澤 正 美 |
| 〃 | 東京都立青梅総合高等学校長 | 川 口 元 三 |
| 〃 | 羽村市立羽村第一中学校長 | 三 浦 利 信 |
| 〃 | 目黒区立目黒西中学校長 | 田 井 俊 行 |
| 〃 | 東京都教育庁指導部長 | 山 田 道 人 |
| 〃 | ☆ 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課長 | 小 林 靖 |
| 〃 | ☆ 東京都教育庁指導部主任指導主事 (産業教育担当) | 河 野 敏 弘 |
| 理事・事務局長 | ☆ 東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理 (計画担当) | 安 藤 紗 季 |
| 常 任 監 事 | ☆ 東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課統括課長代理 (管理担当) | 椿 三 枝 |
| 監 事 | 株式会社ツバサ・翼学院グループ代表取締役 学院長 | 芦 澤 唯 志 |
| 〃 | 世田谷区立砧南中学校長 | 奥 平 雄 二 |

令和7年度 東京都産業教育振興会各委員会委員 (敬称略・順不同)

企画推進委員会

| | |
|------------------------|-------|
| 東京都立農業高等学校長 | 並川直人 |
| 東京都立葛西工科高等学校長 | 鈴木邦夫 |
| 東京都立葛飾商業高等学校長 | 岩崎豊 |
| 東京都立南多摩中等教育学校 | 富川麗子 |
| 東京都立世田谷総合高等学校長 | 田川健太 |
| 東京実業高等学校長 | 田中清江 |
| 安部学院高等学校長 | 安部元彦 |
| マリールイズ美容専門学校顧問 | 江原美規子 |
| ハリウッド美容専門学校学務部長 | 佐藤和彦 |
| 東京都立産業技術高等専門学校副校長 | 柴崎年彦 |
| 東村山市立東村山第七中学校長 | 阿久津健一 |
| 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事 | 田中智弘 |
| 東京都教育庁指導部義務教育指導課統括指導主事 | 宮西真 |

作文選考委員会

| | |
|------------------------|--------|
| 東京都立農芸高等学校長 | 吉野剛文 |
| 東京都立墨田工科高等学校長 | 三好康弘 |
| 東京都立江東商業高等学校長 | 星幸典 |
| 東京都立忍岡高等学校長 | 紺野智恵子 |
| 東京都立王子総合高等学校長 | 阿久津恵理子 |
| 東京実業高等学校教諭 | 寒竹きみか |
| 京華商業高等学校教頭 | 小口浩史 |
| ハリウッド美容専門学校学務部長 | 佐藤和彦 |
| 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事 | 中嶋郁絵 |
| 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課課長代理 | 青木嘉正 |
| 台東区立駒形中学校長 | 渡邊和彦 |
| 大田区立大森第八中学校長 | 大山剛史 |
| 世田谷区立八幡中学校長 | 白田治夫 |
| 世田谷区立深沢中学校長 | 山村恵子 |
| 世田谷区立深沢中学校指導教諭 | 黒飛武志 |
| 世田谷区立用賀中学校長 | 毛利慎治 |
| 世田谷区立三宿中学校長 | 濱川一彦 |
| 荒川区立諏訪台中学校長 | 出井玲子 |
| 足立区立第十二中学校長 | 千葉千登勢 |
| 多摩市立聖ヶ丘中学校長 | 矢野尚子 |
| 西東京市立田無第三中学校長 | 大久保順子 |
| 東京都教育庁指導部義務教育指導課指導主事 | 福住貴夫 |
| 東京都教育庁指導部義務教育指導課指導主事 | 安田芳 |

会員一覧

(会員数 634)

産業界会員 (55社)

50音順

| | | | |
|----|-----------------------|----|-------------------|
| 1 | (株) 明石スクールユニフォームカンパニー | 29 | (株) 第一成和事務所 |
| 2 | (株) 秋月電子通商 | 30 | ダイヤユーキ (株) |
| 3 | あきる野商工会 | 31 | (有) 高橋木箱製作所 |
| 4 | (株) エイコー | 32 | (株) 竹尾 |
| 5 | 青梅商工会議所 | 33 | (株) チバダイス |
| 6 | (株) 開倫塾 | 34 | (株) ツバサ・翼学院グループ |
| 7 | 学校運営リーガルサポートセンター | 35 | 鉄道機器 (株) |
| 8 | (株) カナック企画 | 36 | 東京ガス (株) |
| 9 | 亀有信用金庫 | 37 | 東京商工会議所 |
| 10 | (株) 川邑研究所 | 38 | 東京書籍 (株) |
| 11 | (株) キクチ | 39 | 東京都商工会連合会 |
| 12 | (株) きらぼし銀行 | 40 | (公) 東京都専修学校各種学校協会 |
| 13 | (有) 光永ビルサービス | 41 | (有) 東京プリンテック |
| 14 | (株) 興銀不動産開発 | 42 | ドリームガーデンズ (株) |
| 15 | (株) 小薬印刷所 | 43 | (株) 日刊工業新聞社 |
| 16 | 国光施設工業 (株) | 44 | 日本広告 (株) |
| 17 | (株) 坂井電気 | 45 | 日本自動ドア (株) |
| 18 | 三和電気計器 (株) | 46 | 信川化学工業 (株) |
| 19 | 三和テクノロジーズ (株) | 47 | (株) 箸勝本店 |
| 20 | 実教出版 (株) | 48 | (株) ハチオウ |
| 21 | (株) 昭和製作所 | 49 | 日野自動車 (株) |
| 22 | (株) スカイウェーブ | 50 | (株) 日之出製作所 |
| 23 | (株) 杉野ゴム化学工業所 | 51 | ベストワールド (株) |
| 24 | (株) 鈴木塗装工務店 | 52 | 松川電気 (株) |
| 25 | (株) セイブ東京本店 | 53 | ミクニ化学工業 (株) |
| 26 | 青和信用組合 | 54 | 山崎教育システム (株) |
| 27 | (株) 関口製作所 | 55 | 読売新聞社 |
| 28 | 第一科学 (株) | | |

私立高等学校 (13校)

50音順

| | | | |
|---|------------|----|------------------------|
| 1 | 愛国高等学校 | 8 | 大成高等学校 |
| 2 | 安部学院高等学校 | 9 | 中央学院大学中央高等学校 |
| 3 | 岩倉高等学校 | 10 | 東京実業高等学校 |
| 4 | 大森学園高等学校 | 11 | 日本工業大学駒場高等学校 |
| 5 | 科学技術学園高等学校 | 12 | 日野工業高等学園 [日野自動車 (株)] |
| 6 | 京華商業高等学校 | 13 | 広尾学園小石川高等学校 |
| 7 | 昭和鉄道高等学校 | | |

都立高等学校 (64校) 全日制 52 課程・定時制 32 課程

農業に関する学科 (5校)

| | | | |
|---|----------------|---|------------------|
| 1 | 都立園芸高等学校 (全・定) | 4 | 都立農産高等学校 (全・定) |
| 2 | 都立農業高等学校 (全・定) | 5 | 都立瑞穂農芸高等学校 (全・定) |
| 3 | 都立農芸高等学校 (全・定) | | |

工業に関する学科（18校）

| | |
|--------------------|--------------------|
| 1 都立足立工科高等学校（全） | 10 都立総合工科高等学校（全・定） |
| 2 都立荒川工科高等学校（全・定） | 11 都立田無工科高等学校（全） |
| 3 都立葛西工科高等学校（全） | 12 都立多摩工科高等学校（全） |
| 4 都立北豊島工科高等学校（全・定） | 13 都立中野工科高等学校（全・定） |
| 5 都立蔵前工科高等学校（全・定） | 14 都立練馬工科高等学校（全） |
| 6 都立工芸高等学校（全・定） | 15 都立府中工科高等学校（全） |
| 7 都立小金井工科高等学校（定） | 16 都立本所工科高等学校（定） |
| 8 都立杉並工科高等学校（全） | 17 都立町田工科高等学校（全） |
| 9 都立墨田工科高等学校（全・定） | 18 都立六郷工科高等学校（全・定） |

科学技術科（2校）

| | |
|-----------------|-------------------|
| 1 都立科学技術高等学校（全） | 2 都立多摩科学技術高等学校（全） |
|-----------------|-------------------|

商業に関する学科（8校）

| | |
|-------------------|-------------------|
| 1 都立足立高等学校（定） | 5 都立第一商業高等学校（全） |
| 2 都立葛飾商業高等学校（全・定） | 6 都立第三商業高等学校（全・定） |
| 3 都立江東商業高等学校（全） | 7 都立第四商業高等学校（全） |
| 4 都立芝商業高等学校（全） | 8 都立第五商業高等学校（全・定） |

ビジネスコミュニケーション科（2校）

| | |
|-----------------|---------------|
| 1 都立大田桜台高等学校（全） | 2 都立千早高等学校（全） |
|-----------------|---------------|

家庭・福祉に関する学科（3校）

| | |
|-----------------|----------------|
| 1 都立赤羽北桜高等学校（全） | 3 都立野津田高等学校（全） |
| 2 都立忍岡高等学校（全） | |

水産に関する学科（1校）

| |
|-------------------|
| 1 都立大島海洋国際高等学校（全） |
|-------------------|

併合科（3校）

| | |
|---------------|---------------|
| 1 都立大島高等学校（全） | 3 都立八丈高等学校（全） |
| 2 都立三宅高等学校（全） | |

産業科（2校）

| | |
|----------------|------------------|
| 1 都立橋高等学校（全・定） | 2 都立八王子桑志高等学校（全） |
|----------------|------------------|

情報科（1校）

| |
|-----------------|
| 1 都立新宿山吹高等学校（定） |
|-----------------|

総合学科（10校）

| | |
|-------------------|---------------------|
| 1 都立王子総合高等学校（全） | 6 都立つばさ総合高等学校（全） |
| 2 都立青梅総合高等学校（全・定） | 7 都立晴海総合高等学校（全） |
| 3 都立葛飾総合高等学校（全） | 8 都立東久留米総合高等学校（全・定） |
| 4 都立杉並総合高等学校（全） | 9 都立町田総合高等学校（全） |
| 5 都立世田谷総合高等学校（全） | 10 都立若葉総合高等学校（全） |

総合学科：チャレンジスクール（7校）

| | |
|-----------------|----------------|
| 1 都立大江戸高等学校（定） | 5 都立立川緑高等学校（定） |
| 2 都立小台橋高等学校（定） | 6 都立稔ヶ丘高等学校（定） |
| 3 都立桐ヶ丘高等学校（定） | 7 都立六本木高等学校（定） |
| 4 都立世田谷泉高等学校（定） | |

普通教育を主とする学科 (2校)

| | |
|----------------|-------------------|
| 1 都立浅草高等学校 (定) | 2 都立五日市高等学校 (全・定) |
|----------------|-------------------|

国立高等学校 (1校)

| |
|--------------------|
| 1 東京科学大学附属科学技術高等学校 |
|--------------------|

高等専門学校 (1校)

| |
|------------------|
| 1 東京都立産業技術高等専門学校 |
|------------------|

専修学校 (38校)

50音順

| | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1 愛国学園保育専門学校 | 20 東京デザインテクノロジーセンター専門学校 |
| 2 青山製図専門学校 | 21 東京美容専門学校 |
| 3 アルファ医療福祉専門学校 | 22 東京法律公務員専門学校 |
| 4 御茶の水美術専門学校 | 23 東京YMC A医療福祉専門学校 |
| 5 香川調理製菓専門学校 | 24 日本工学院専門学校 |
| 6 吉祥寺二葉栄養調理専門職学校 | 25 日本工学院八王子専門学校 |
| 7 窪田理容美容専門学校 | 26 専門学校日本鉄道&スポーツビジネスカレッジ |
| 8 国際共立学園高等専修学校 | 27 日本電子専門学校 |
| 9 国際鍼灸専門学校 | 28 日本動物専門学校 |
| 10 国際理容美容専門学校 | 29 日本美容専門学校 |
| 11 新東京歯科技工士学校 | 30 専門学校日本ホテルスクール |
| 12 中央工学校 | 31 ハリウッド美容専門大学校 |
| 13 東京ITプログラミング&会計専門学校 | 32 町田デザイン&建築専門学校 |
| 14 東京エアトラベル・ホテル専門学校 | 33 マリエルイズ美容専門学校 |
| 15 東京工学院専門学校 | 34 武蔵野栄養専門学校 |
| 16 専門学校東京工科自動車大学校 | 35 武蔵野東高等専修学校 |
| 17 専門学校東京自動車大学校 | 36 専門学校読売自動車大学校 |
| 18 東京誠心調理師専門学校 | 37 読売理工医療福祉専門学校 |
| 19 専門学校東京テクニカルカレッジ | 38 早稲田速記医療福祉専門学校 |

短期大学 (3校)

50音順

| | |
|------------|---------------|
| 1 愛国学園短期大学 | 3 東京家政大学短期大学部 |
| 2 白梅学園短期大学 | |

区市町村立中学校・中等教育学校・義務教育学校 (426校)**千代田区教育委員会 (3校)**

| | | |
|---------|-----------|------------|
| 1 麴町中学校 | 2 神田一橋中学校 | 3 九段中等教育学校 |
|---------|-----------|------------|

中央区教育委員会 (5校)

| | | |
|----------|---------|----------|
| 1 晴海中学校 | 3 銀座中学校 | 5 晴海西中学校 |
| 2 日本橋中学校 | 4 佃中学校 | |

港区教育委員会 (10校)

| | | |
|-----------|---------|----------|
| 1 御成門中学校 | 5 高陵中学校 | 9 六本木中学校 |
| 2 白金の丘中学校 | 6 赤坂中学校 | 10 三田中学校 |
| 3 高松中学校 | 7 青山中学校 | |
| 4 港南中学校 | 8 港陽中学校 | |

新宿区教育委員会 (10校)

| | | |
|-----------|-----------|-------------|
| 1 牛込第一中学校 | 5 落合第二中学校 | 9 新宿中学校 |
| 2 牛込第二中学校 | 6 西新宿中学校 | 10 新宿西戸山中学校 |
| 3 牛込第三中学校 | 7 四谷中学校 | |
| 4 落合中学校 | 8 西早稲田中学校 | |

文京区教育委員会（10校）

| | | | | | |
|---|-------|---|-------|----|--------|
| 1 | 第一中学校 | 5 | 第九中学校 | 9 | 本郷台中学校 |
| 2 | 第三中学校 | 6 | 第十中学校 | 10 | 音羽中学校 |
| 3 | 第六中学校 | 7 | 文林中学校 | | |
| 4 | 第八中学校 | 8 | 茗台中学校 | | |

台東区教育委員会（7校）

| | | | | | |
|---|-------|---|----------|---|-------|
| 1 | 上野中学校 | 4 | 浅草中学校 | 7 | 桜橋中学校 |
| 2 | 忍岡中学校 | 5 | 御徒町台東中学校 | | |
| 3 | 駒形中学校 | 6 | 柏葉中学校 | | |

墨田区教育委員会（10校）

| | | | | | |
|---|-------|---|---------|----|---------|
| 1 | 墨田中学校 | 5 | 錦糸中学校 | 9 | 桜堤中学校 |
| 2 | 本所中学校 | 6 | 吾孺第二中学校 | 10 | 吾孺立花中学校 |
| 3 | 両国中学校 | 7 | 寺島中学校 | | |
| 4 | 竪川中学校 | 8 | 文花中学校 | | |

江東区教育委員会（24校）

| | | | | | |
|---|---------|----|---------|----|---------|
| 1 | 深川第一中学校 | 9 | 亀戸中学校 | 17 | 第四砂町中学校 |
| 2 | 深川第二中学校 | 10 | 第二亀戸中学校 | 18 | 辰巳中学校 |
| 3 | 深川第三中学校 | 11 | 第三亀戸中学校 | 19 | 南砂中学校 |
| 4 | 深川第四中学校 | 12 | 大島中学校 | 20 | 第二南砂中学校 |
| 5 | 深川第五中学校 | 13 | 第二大島中学校 | 21 | 東陽中学校 |
| 6 | 深川第六中学校 | 14 | 砂町中学校 | 22 | 大島西中学校 |
| 7 | 深川第七中学校 | 15 | 第二砂町中学校 | 23 | 有明中学校 |
| 8 | 深川第八中学校 | 16 | 第三砂町中学校 | 24 | 有明西学園 |

品川区教育委員会（15校）

| | | | | | |
|---|---------|----|---------|----|--------|
| 1 | 東海中学校 | 6 | 荏原第一中学校 | 11 | 伊藤学園 |
| 2 | 大崎中学校 | 7 | 荏原第五中学校 | 12 | 八潮学園 |
| 3 | 浜川中学校 | 8 | 荏原第六中学校 | 13 | 荏原平塚学園 |
| 4 | 鈴ヶ森中学校 | 9 | 戸越台中学校 | 14 | 品川学園 |
| 5 | 富士見台中学校 | 10 | 日野学園 | 15 | 豊葉の杜学園 |

目黒区教育委員会（7校）

| | | | | | |
|---|-------|---|---------|---|--------|
| 1 | 第一中学校 | 4 | 目黒中央中学校 | 7 | 目黒西中学校 |
| 2 | 第十中学校 | 5 | 大鳥中学校 | | |
| 3 | 東山中学校 | 6 | 目黒南中学校 | | |

大田区教育委員会（28校）

| | | | | | |
|----|---------|----|---------|----|--------|
| 1 | 大森第一中学校 | 11 | 大森第七中学校 | 21 | 南六郷中学校 |
| 2 | 大森第二中学校 | 12 | 雪谷中学校 | 22 | 矢口中学校 |
| 3 | 大森第八中学校 | 13 | 大森第十中学校 | 23 | 御園中学校 |
| 4 | 馬込中学校 | 14 | 大森第六中学校 | 24 | 蓮沼中学校 |
| 5 | 馬込東中学校 | 15 | 石川台中学校 | 25 | 安方中学校 |
| 6 | 貝塚中学校 | 16 | 羽田中学校 | 26 | 東蒲中学校 |
| 7 | 大森第四中学校 | 17 | 糎谷中学校 | 27 | 蒲田中学校 |
| 8 | 大森第三中学校 | 18 | 出雲中学校 | 28 | 大森東中学校 |
| 9 | 東調布中学校 | 19 | 六郷中学校 | | |
| 10 | 田園調布中学校 | 20 | 志茂田中学校 | | |

世田谷区教育委員会 (29校)

| | | | | | |
|----|--------|----|--------|----|---------|
| 1 | 太子堂中学校 | 11 | 弦巻中学校 | 21 | 烏山中学校 |
| 2 | 桜丘中学校 | 12 | 奥沢中学校 | 22 | 千歳中学校 |
| 3 | 松沢中学校 | 13 | 八幡中学校 | 23 | 芦花中学校 |
| 4 | 駒沢中学校 | 14 | 玉川中学校 | 24 | 上祖師谷中学校 |
| 5 | 北沢中学校 | 15 | 瀬田中学校 | 25 | 砧南中学校 |
| 6 | 緑丘中学校 | 16 | 深沢中学校 | 26 | 喜多見中学校 |
| 7 | 駒留中学校 | 17 | 尾山台中学校 | 27 | 三宿中学校 |
| 8 | 梅丘中学校 | 18 | 用賀中学校 | 28 | 世田谷中学校 |
| 9 | 桜木中学校 | 19 | 東深沢中学校 | 29 | 船橋希望中学校 |
| 10 | 富士中学校 | 20 | 砧中学校 | | |

渋谷区教育委員会 (8校)

| | | | | | |
|---|-------|---|--------|---|-----------|
| 1 | 広尾中学校 | 4 | 代々木中学校 | 7 | 渋谷本町学園中学校 |
| 2 | 鉢山中学校 | 5 | 笹塚中学校 | 8 | 原宿外苑中学校 |
| 3 | 上原中学校 | 6 | 松濤中学校 | | |

中野区教育委員会 (9校)

| | | | | | |
|---|-------|---|--------|---|--------|
| 1 | 第二中学校 | 4 | 北中野中学校 | 7 | 中野中学校 |
| 2 | 第五中学校 | 5 | 緑野中学校 | 8 | 中野東中学校 |
| 3 | 第七中学校 | 6 | 南中野中学校 | 9 | 明和中学校 |

杉並区教育委員会 (23校)

| | | | | | |
|---|---------|----|---------|----|--------|
| 1 | 高南中学校 | 9 | 井荻中学校 | 17 | 松ノ木中学校 |
| 2 | 杉森中学校 | 10 | 井草中学校 | 18 | 大宮中学校 |
| 3 | 阿佐ヶ谷中学校 | 11 | 荻窪中学校 | 19 | 泉南中学校 |
| 4 | 東田中学校 | 12 | 神明中学校 | 20 | 和田中学校 |
| 5 | 松溪中学校 | 13 | 宮前中学校 | 21 | 西宮中学校 |
| 6 | 天沼中学校 | 14 | 富士見丘中学校 | 22 | 和泉中学校 |
| 7 | 東原中学校 | 15 | 高井戸中学校 | 23 | 高円寺中学校 |
| 8 | 中瀬中学校 | 16 | 向陽中学校 | | |

豊島区教育委員会 (8校)

| | | | | | |
|---|--------|---|---------|---|--------|
| 1 | 駒込中学校 | 4 | 千川中学校 | 7 | 明豊中学校 |
| 2 | 西巢鴨中学校 | 5 | 千登世橋中学校 | 8 | 西池袋中学校 |
| 3 | 池袋中学校 | 6 | 巢鴨北中学校 | | |

北区教育委員会 (12校)

| | | | | | |
|---|-------|---|----------|----|----------|
| 1 | 堀船中学校 | 5 | 王子桜中学校 | 9 | 田端中学校 |
| 2 | 稲付中学校 | 6 | 桐ヶ丘中学校 | 10 | 滝野川紅葉中学校 |
| 3 | 浮間中学校 | 7 | 明桜中学校 | 11 | 赤羽岩淵中学校 |
| 4 | 飛鳥中学校 | 8 | 十条富士見中学校 | 12 | 都の北学園 |

荒川区教育委員会 (10校)

| | | | | | |
|---|-------|---|----------|----|--------|
| 1 | 第一中学校 | 5 | 第七中学校 | 9 | 原中学校 |
| 2 | 第三中学校 | 6 | 第九中学校 | 10 | 諏訪台中学校 |
| 3 | 第四中学校 | 7 | 尾久八幡中学校 | | |
| 4 | 第五中学校 | 8 | 南千住第二中学校 | | |

板橋区立中学校 (1校)

| | | | | | |
|---|-------|--|--|--|--|
| 1 | 桜川中学校 | | | | |
|---|-------|--|--|--|--|

練馬区教育委員会（33校）

| | | | | | |
|----|---------|----|---------|----|----------|
| 1 | 旭丘中学校 | 12 | 田柄中学校 | 23 | 練馬東中学校 |
| 2 | 豊玉中学校 | 13 | 豊溪中学校 | 24 | 大泉西中学校 |
| 3 | 豊玉第二中学校 | 14 | 石神井中学校 | 25 | 関中学校 |
| 4 | 中村中学校 | 15 | 石神井南中学校 | 26 | 谷原中学校 |
| 5 | 開進第一中学校 | 16 | 石神井東中学校 | 27 | 三原台中学校 |
| 6 | 開進第二中学校 | 17 | 石神井西中学校 | 28 | 大泉北中学校 |
| 7 | 開進第三中学校 | 18 | 上石神井中学校 | 29 | 南が丘中学校 |
| 8 | 開進第四中学校 | 19 | 大泉中学校 | 30 | 大泉学園桜中学校 |
| 9 | 北町中学校 | 20 | 大泉学園中学校 | 31 | 光が丘第一中学校 |
| 10 | 練馬中学校 | 21 | 大泉第二中学校 | 32 | 光が丘第二中学校 |
| 11 | 貫井中学校 | 22 | 八坂中学校 | 33 | 光が丘第三中学校 |

足立区教育委員会（35校）

| | | | | | |
|----|--------|----|--------|----|----------|
| 1 | 第一中学校 | 13 | 新田中学校 | 25 | 谷中中学校 |
| 2 | 第四中学校 | 14 | 東島根中学校 | 26 | 花保中学校 |
| 3 | 第五中学校 | 15 | 浏江中学校 | 27 | 栗島中学校 |
| 4 | 第六中学校 | 16 | 竹の塚中学校 | 28 | 扇中学校 |
| 5 | 第七中学校 | 17 | 東綾瀬中学校 | 29 | 加賀中学校 |
| 6 | 第九中学校 | 18 | 花畑中学校 | 30 | 入谷南中学校 |
| 7 | 第十中学校 | 19 | 蒲原中学校 | 31 | 六月中学校 |
| 8 | 第十一中学校 | 20 | 青井中学校 | 32 | 千寿青葉中学校 |
| 9 | 第十二中学校 | 21 | 西新井中学校 | 33 | 千寿桜堤中学校 |
| 10 | 第十三中学校 | 22 | 入谷中学校 | 34 | 鹿浜菜の花中学校 |
| 11 | 第十四中学校 | 23 | 伊興中学校 | 35 | 江北桜中学校 |
| 12 | 江南中学校 | 24 | 花畑北中学校 | | |

葛飾区教育委員会（24校）

| | | | | | |
|---|--------|----|--------|----|--------|
| 1 | 本田中学校 | 9 | 桜道中学校 | 17 | 常盤中学校 |
| 2 | 金町中学校 | 10 | 堀切中学校 | 18 | 一之台中学校 |
| 3 | 水元中学校 | 11 | 双葉中学校 | 19 | 青戸中学校 |
| 4 | 新宿中学校 | 12 | 大道中学校 | 20 | 青葉中学校 |
| 5 | 奥戸中学校 | 13 | 四ッ木中学校 | 21 | 高砂中学校 |
| 6 | 綾瀬中学校 | 14 | 小松中学校 | 22 | 東金町中学校 |
| 7 | 上平井中学校 | 15 | 亀有中学校 | 23 | 葛美中学校 |
| 8 | 中川中学校 | 16 | 立石中学校 | 24 | 新小岩中学校 |

江戸川区教育委員会（32校）

| | | | | | |
|----|----------|----|---------|----|----------|
| 1 | 小松川第二中学校 | 12 | 篠崎中学校 | 23 | 春江中学校 |
| 2 | 松江第一中学校 | 13 | 小岩第一中学校 | 24 | 二之江中学校 |
| 3 | 松江第二中学校 | 14 | 小岩第二中学校 | 25 | 鹿骨中学校 |
| 4 | 松江第三中学校 | 15 | 小岩第三中学校 | 26 | 南葛西中学校 |
| 5 | 松江第四中学校 | 16 | 小岩第四中学校 | 27 | 西葛西中学校 |
| 6 | 松江第五中学校 | 17 | 小岩第五中学校 | 28 | 東葛西中学校 |
| 7 | 葛西中学校 | 18 | 上一色中学校 | 29 | 清新第一中学校 |
| 8 | 葛西第二中学校 | 19 | 瑞江第三中学校 | 30 | 南葛西第二中学校 |
| 9 | 瑞江中学校 | 20 | 葛西第三中学校 | 31 | 清新第二中学校 |
| 10 | 瑞江第二中学校 | 21 | 松江第六中学校 | 32 | 小松川中学校 |
| 11 | 鹿本中学校 | 22 | 篠崎第二中学校 | | |

武蔵野市教育委員会 (6校)

| | | | | | |
|---|-------|---|-------|---|-------|
| 1 | 第一中学校 | 3 | 第三中学校 | 5 | 第五中学校 |
| 2 | 第二中学校 | 4 | 第四中学校 | 6 | 第六中学校 |

青梅市立中学校 (10校)

| | | | | | |
|---|-------|---|-------|----|-------|
| 1 | 第一中学校 | 5 | 第六中学校 | 9 | 新町中学校 |
| 2 | 第二中学校 | 6 | 第七中学校 | 10 | 泉中学校 |
| 3 | 第三中学校 | 7 | 霞台中学校 | | |
| 4 | 西中学校 | 8 | 吹上中学校 | | |

府中市教育委員会 (11校)

| | | | | | |
|---|---------|---|---------|----|---------|
| 1 | 府中第一中学校 | 5 | 府中第五中学校 | 9 | 府中第九中学校 |
| 2 | 府中第二中学校 | 6 | 府中第六中学校 | 10 | 府中第十中学校 |
| 3 | 府中第三中学校 | 7 | 府中第七中学校 | 11 | 浅間中学校 |
| 4 | 府中第四中学校 | 8 | 府中第八中学校 | | |

調布市教育委員会 (8校)

| | | | | | |
|---|-------|---|-------|---|-------|
| 1 | 調布中学校 | 4 | 第四中学校 | 7 | 第七中学校 |
| 2 | 神代中学校 | 5 | 第五中学校 | 8 | 第八中学校 |
| 3 | 第三中学校 | 6 | 第六中学校 | | |

町田市立中学校 (5校)

| | | | | | |
|---|---------|---|---------|---|--------|
| 1 | 町田第三中学校 | 3 | つくし野中学校 | 5 | 南成瀬中学校 |
| 2 | 忠生中学校 | 4 | 真光寺中学校 | | |

国分寺市教育委員会 (5校)

| | | | | | |
|---|-------|---|-------|---|-------|
| 1 | 第一中学校 | 3 | 第三中学校 | 5 | 第五中学校 |
| 2 | 第二中学校 | 4 | 第四中学校 | | |

狛江市教育委員会 (4校)

| | | | | | |
|---|---------|---|---------|--|--|
| 1 | 狛江第一中学校 | 3 | 狛江第三中学校 | | |
| 2 | 狛江第二中学校 | 4 | 狛江第四中学校 | | |

東大和市立中学校 (5校)

| | | | | | |
|---|-------|---|-------|---|-------|
| 1 | 第一中学校 | 3 | 第三中学校 | 5 | 第五中学校 |
| 2 | 第二中学校 | 4 | 第四中学校 | | |

多摩市教育委員会 (9校)

| | | | | | |
|---|--------|---|--------|---|---------|
| 1 | 多摩中学校 | 4 | 諏訪中学校 | 7 | 多摩永山中学校 |
| 2 | 東愛宕中学校 | 5 | 聖ヶ丘中学校 | 8 | 落合中学校 |
| 3 | 和田中学校 | 6 | 鶴牧中学校 | 9 | 青陵中学校 |

羽村市教育委員会 (3校)

| | | | | | |
|---|---------|---|---------|---|---------|
| 1 | 羽村第一中学校 | 2 | 羽村第二中学校 | 3 | 羽村第三中学校 |
|---|---------|---|---------|---|---------|

あきる野市立中学校 (1校)

| | | | | | |
|---|------|--|--|--|--|
| 1 | 東中学校 | | | | |
|---|------|--|--|--|--|

大島町立中学校 (2校)

| | | | | | |
|---|-------|---|-------|--|--|
| 1 | 第一中学校 | 2 | 第二中学校 | | |
|---|-------|---|-------|--|--|

新島村教育委員会 (2校)

| | | | | | |
|---|-------|---|--------|--|--|
| 1 | 新島中学校 | 2 | 式根島中学校 | | |
|---|-------|---|--------|--|--|

神津島村教育委員会（1校）

| | |
|---|-------|
| 1 | 神津中学校 |
|---|-------|

三宅村教育委員会（1校）

| | |
|---|-------|
| 1 | 三宅中学校 |
|---|-------|

青ヶ島村教育委員会（1校）

| | |
|---|---------|
| 1 | 青ヶ島小中学校 |
|---|---------|

都立中学校・中等教育学校（10校）

| | | | |
|---|---------------|----|--------------|
| 1 | 都立大泉高等学校附属中学校 | 6 | 都立桜修館中等教育学校 |
| 2 | 都立白鷗高等学校附属中学校 | 7 | 都立小石川中等教育学校 |
| 3 | 都立富士高等学校附属中学校 | 8 | 都立立川国際中等教育学校 |
| 4 | 都立武蔵高等学校附属中学校 | 9 | 都立三鷹中等教育学校 |
| 5 | 都立両国高等学校附属中学校 | 10 | 都立南多摩中等教育学校 |

国立中学校（2校）

| | | | |
|---|-----------|---|----------------|
| 1 | 筑波大学附属中学校 | 2 | 東京学芸大学附属小金井中学校 |
|---|-----------|---|----------------|

私立中学校（4校）

| | | | |
|---|--------------|---|----------|
| 1 | 愛国中学校 | 3 | 恵泉女学園中学校 |
| 2 | 鷗友学園女子中学高等学校 | 4 | 武蔵野東中学校 |

個人会員（16人）

| | | | | | | | |
|---|-------|----|--------|----|-------|----|------|
| 1 | 堀居 英治 | 6 | 富岡 逸郎 | 11 | 大塚 健一 | 16 | 並木 修 |
| 2 | 梶谷 正義 | 7 | 松井 章朗 | 12 | 高石 公一 | | |
| 3 | 内川 武雄 | 8 | 福島 正幸 | 13 | 関藤 緑 | | |
| 4 | 森 健 | 9 | 佐々木 健一 | 14 | 片柳 荘志 | | |
| 5 | 花野 耕一 | 10 | 手打 和明 | 15 | 鈴木 光俊 | | |

東京都産業教育振興会会則

第 1 章 総 則

第 1 条 この会は、東京都産業教育振興会といふ事務所を東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課（東京都新宿区西新宿 2-8-1）内におく。

第 2 条 この会は、産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校などの産業教育の改善進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

第 3 条 この会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 産業教育振興運動の推進に関すること。
- (2) 産業教育の調査研究に関すること。
- (3) 産業教育の普及理解に関すること。
- (4) 産業教育、就職問題などに関する懇談会、講演会、研究会などの開催並びにこれらについての資料の頒布、情報の連絡に関すること。
- (5) 産業教育振興に関し関係機関への建議に関すること。
- (6) 関係行政機関の施策に協力すること。
- (7) 産業教育に関する教職員の研究奨励に関すること。
- (8) 産業教育に関する生徒の就学並びに学習の奨励に関すること。
- (9) その他本会の目的を達成するのに必要なこと。

第 2 章 会 員

第 4 条 本会は次の会員をもって組織する。

- (1) 団体会員 会社、工場、本都内における学校およびこれが振興を目的とした団体を代表するもので本会の趣旨に賛同したもの。
- (2) 個人会員 本会の趣旨に賛同したもの。
- (3) 名誉会員 産業教育又は本会に功績があった者で会長が理事会の議を経て推薦したもの。

第 3 章 役員及び職員

第 5 条 この会に会長 1 名、副会長 3 名、理事 25 名以上 35 名以内及び監事 3 名をおく。

第 6 条 会長、副会長は理事会で選出する。会長は会務を総理し、本会を代表する。

2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代る。

第 7 条 理事は東京都教育委員会教育長、東京都教育庁都立学校教育部長、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長の職にある者のほか、総会で選出する。

2. 理事長は東京都教育委員会教育長の、常任理事は東京都教育庁都立学校教育部長、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長及び東京都教育庁都立学校教育部ものづくり教育推進担当課長の職にある理事をもって充てる。

3. 理事長は会務を掌理するとともに理事会を代表し、常任理事は日常の会務を執行する。

4. 理事は理事会を組織する。

5. 理事会は理事長が招集し重要な会務を処理する。

第 8 条 監事は東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理（管理担当）の職にある者のほか、総会で選出する。

2. 監事のうち 1 名は常任監事とし、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理（管理担当）の職にある監事をもって充てる。

3. 監事は会計を監査し、総会に報告する。

第9条 この会の役員任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

第10条 この会に顧問・参与をおくことができる。

2. 顧問は会長の諮問に応じ、参与は理事会、総会に出席して意見をのべることができる。

第11条 この会の事務を処理するために事務局をおく。事務局には事務局長、書記その他の必要な職員をおくことができる。

2. 事務局の職員は理事長が任免する。

3. 事務局長は日常の事務を総括処理し、書記その他の職員は日常の事務を処理する。

4. 職員は有給とすることができる。

第4章 総 会

第12条 総会は年1回会長が招集する。ただし、会長が必要と認めるときは臨時招集することができる。

2. 総会は会長を議長とし、事業方針、予算決算その他重要な会務を審議する。

第13条 総会の決議は出席者の過半数によって定める。

第5章 部会分会

第14条 この会には部会又は分会をおくことができる。部会又は分会に関する規定は理事会の議を経て会長が定める。

第6章 会 計

第15条 この会の事業執行に要する費用は会費、寄付金及びその他の収入をもってあてる。

第16条 会費は次の通りとする。

(1) 団体会員

ア 産業界会員 1口 年額1万円

イ 学校会員

○高等学校全日制 1口 年額6千円

○高等専門学校 同

○短期大学 同

○専修学校 同

○高等学校定時制・通信制 1口 年額3千円

○中学校 1口 年額2千円

(2) 個人会員 1口 年額2千円

ただし、総会の決議により臨時会費を徴収することができる。

第17条 本会の会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

第7章 支 部

第18条 この会に支部をおくことができる。

第8章 会則の変更及び解散

第19条 この会の会則の変更及び解散は総会の決議を経なければならない。

第9章 付 則

第20条 本会則実施に必要な細則は会長が理事会の議を経て定める。

昭和30年5月20日制定

以下の総会で一部改正

昭和46年度、52年度、58年度、平成18年度、20年度、22年度、27年度、28年度、令和4年度

入会の御案内

本会は、「産業界、教育界および教育行政当局が連携し相互に連絡協調して、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校などの産業教育の改善をはかり、産業経済の発展に寄与すること」を目的としています。

産業教育に関心のある企業・学校・個人で入会希望の方または新会員を御紹介いただける方は、本会事務局まで御連絡ください。

(連絡先) 〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1 都庁第二本庁舎 15階北側
東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課内
東京都産業教育振興会事務局
TEL 03(5320)6729

編集後記

東京都産業教育振興会は令和7年度に創立70周年を迎えました。

そこで、会誌「東京の産業教育」第63号は「創立70周年記念特別号」として2本の特集を組みました。特集Ⅰでは、「東京都産業教育 この10年の歩み、そして提言」をテーマに各学校・学科の代表の方に御執筆していただきました。また、特集Ⅱでは、「専門高校の現状と、これから目指すこと」をテーマにした座談会を掲載いたしました。特集Ⅰ、特集Ⅱから、この10年間では、新型コロナウイルスが蔓延し、産業教育は大きな影響を受けたこと、そして、ようやくコロナ前の状態に戻り、新たな産業教育に向けて歩み始めたことが明らかになりました。

また、創立70周年記念講演会（「AIによって産業はどう変わるか そのために教育はどう変わるべきか」京都橋大学松原仁教授）の講演要旨を掲載いたしました。生成AI（人工知能）が急速に社会に普及する中、産業教育の新たな10年に向けて知見を深めることができました。

社会が大きく変化する中、産業界と教育界、教育行政が連携して産業を担う人材を育成していくことは、今後ますます重要となります。産業教育の充実・発展のために本誌が幾許かの参考になればと願っております。

御多用にも拘わらず、原稿を御執筆いただきました皆様に感謝申し上げますとともに、今後も本会への更なる御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

ホームページアドレス <https://www.tosanshin.org/>

表紙デザイン（令和7年度会誌「東京の産業教育」表紙イラスト・デザインコンクール最優秀作品） 製作者 仲野佳奈さん（東京都立八王子桑志高等学校 産業科2年）

ロゴマークデザイン（令和元年度東京都産業振興会ロゴマークコンクール最優秀作品）
製作者 黒岩風花さん（東京都立葛飾商業高等学校3年：当時）

東京の産業教育 第63号

発行 令和8年（2026年）3月1日 発行

東京都産業教育振興会

〒163-8001

東京都新宿区西新宿2-8-1 都庁第二本庁舎15階北側

東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課内

TEL 03(5320)6729

印刷 株式会社小薬印刷所